別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ジッセンジョシガクエン 学校法人　実践女子学園	
フリガナ 大学の名称	ジッセンジョシダイガク 実践女子大学	
大学本部の位置	東京都日野市大坂上４丁目１番地の１	
大学の目的	本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを実践し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	環境デザイン学部では、生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解し、実際の社会課題などに応用することができる力を身につけた人材の育成を目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人			年　月 第　年次	
環境デザイン学部 環境デザイン学科	4	81	－	324	学士（環境デザイン学）	家政関係	令和7年4月 第1年次	東京都日野市大坂上４丁目１番地の１
計		81	－	324				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	生活科学部 生活環境学科（廃止）　（△80） （3年次編入学定員）　（△2） ※令和7年4月学生募集停止 （3年次編入学令和9年4月学生募集停止）

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
環境デザイン学部 環境デザイン学科	176　科目	100　科目	37　科目	318　科目	130　単位

学部等の名称		基幹教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		人	人	人	人	人	人	人	
新設分	環境デザイン学部　環境デザイン学科	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	8 (8)	205 (163)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
	計	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	8 (8)	－ (－)	
既設分	文学部　国文学科	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	2 (2)	211 (211)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			

	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (12)			
英文学科		8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	2 (2)	205 (205)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
美学美術史学科		6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	2 (2)	215 (215)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
生活科学部　食生活科学科		12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	19 (19)	199 (199)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)			
生活文化学科		5 (5)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	4 (4)	212 (212)	
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	5 (5)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

	計（a～d）	5 (5)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	14 (14)			
現代生活学科		4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	2 (2)	198 (198)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	(0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
人間社会学部　人間社会学科		7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	2 (2)	219 (219)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	(0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)			
ビジネス社会学科		5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	2 (2)	221 (221)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
社会デザイン学科		5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	1 (1)	201 (188)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
国際学部　国際学科		6 (7)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (11)	2 (2)	181 (174)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (11)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の

設

	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			四分の三の数　8人
	小計（ａ～ｂ）	6 (7)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (11)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (7)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (11)			
教職センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	31 (31)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
図書館学課程		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
香雪記念資料館		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
言語文化教育研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			

	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	大学教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	文芸資料研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	下田歌子記念女性総合研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ａ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｂ．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（ａ～ｂ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｃ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	ｄ．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（ａ～ｄ）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
分	計	68 (69)	34 (34)	13 (12)	0 (0)	115 (115)	41 (41)	－ (－)
	合　　計	75 (76)	37 (37)	13 (12)	0 (0)	125 (125)	49 (49)	－ (－)

職　　種	専　　属	その他	計
事　務　職　員	55　人 (57)	43　人 (43)	98　人 (100)
技　術　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図　書　館　職　員	5 (5)	5 (5)	10 (10)
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	6 (6)	6 (6)
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	60 (62)	54 (54)	114 (116)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	70,401 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	70,401 ㎡	
	その他	550 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	550 ㎡	
	合計	70,951 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	70,951 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	56,251 ㎡ (56,251 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	56,251 ㎡ (56,251 ㎡)	

教室・教員研究室	教室	188 室	教員研究室	156 室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕 冊	電子図書〔うち外国書〕	学術雑誌〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	環境デザイン学部 環境デザイン学科	700,000〔100,000〕 (677,861〔98,942〕)	4,000〔10〕 (2,013〔1〕)	69,600〔61,150〕 (87,226〔78,773〕)	60,000〔60,000〕 (77,588〔77,584〕)	100 (89)	1 (1)	図書、学術雑誌は学部単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	700,000〔100,000〕 (677,861〔98,942〕)	4,000〔10〕 (2,013〔1〕)	69,600〔61,150〕 (87,226〔78,773〕)	60,000〔60,000〕 (77,588〔77,584〕)	100 (89)	1 (1)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	3,315 ㎡	0 ㎡	3,180.17 ㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
経費の見積り	教員１人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	3,000千円	3,000千円	－千円	－千円
	図書購入費	0千円	1,156千円	2,235千円	3,246千円	4,327千円	－千円	－千円
	設備購入費	7,000千円	5,000千円	6,000千円	8,000千円	10,000千円	－千円	－千円
学生１人当り納付金			第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
			1,390千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	－千円	－千円
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、雑収入　等					

既設大学等の状況

大学等の名称：実践女子大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
文学部		310		1280		1.10		東京都渋谷区東	
国文学科	4	110	3年次 9	458	学士（文学）	1.12	昭和40年度	１丁目１番４９号	
英文学科	4	110	3年次 9	458	学士（文学）	1.04	昭和40年度	同　上	
美学美術史学科	4	90	3年次 2	364	学士（文学）	1.14	昭和60年度	同　上	
生活科学部		410		1648		1.04		東京都日野市大坂上	
食生活科学科		185		740		1.02		４丁目１番地の１	
管理栄養士専攻	4	70	－	280	学士（生活科学）	1.06	昭和41年度	同　上	
食物科学専攻	4	75	－	300	学士（生活科学）	0.99	昭和41年度	同　上	
健康栄養専攻	4	40	－	160	学士（生活科学）	0.99	平成25年度	同　上	
生活環境学科	4	80	3年次 2	324	学士（生活科学）	1.08	昭和40年度	同　上	令和7年4月より学生募集停止
生活文化学科		85		344		1.03			
生活心理専攻	4	40	3年次 2	164	学士（生活科学）	1.07	平成19年度	同　上	
幼児保育専攻	4	45	－	180	学士（生活科学）	0.98	平成19年度	同　上	
現代生活学科	4	60	－	240	学士（生活科学）	1.04	平成26年度	同　上	
人間社会学部		260		860		1.15		東京都渋谷区東	
人間社会学科	4	100	－	400	学士（人間社会学）	1.18	平成16年度	１丁目１番４９号	
ビジネス社会学科	4	80	－	380	学士（人間社会学）	1.11	平成23年度	同　上	令和6年度入学定員減(20人)
社会デザイン学科	4	80	－	80	学士（人間社会学）	1.21	令和6年度	同　上	
国際学部		120		120		1.18		東京都渋谷区東	
国際学科	4	120	－	120	学士（国際学）	1.18	令和6年度	１丁目１番４９号	
文学研究科								東京都渋谷区東	
博士後期課程								１丁目１番４９号	
国文学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	0.00	昭和44年度	同　上	
美術史学専攻	3	2	－	6	博士（文学）	0.50	平成23年度	同　上	
博士前期課程									
国文学専攻	2	10	－	20	修士（文学）	0.25	昭和41年度	同　上	
美術史学専攻	2	6	－	12	修士（文学）	1.00	平成4年度	同　上	
修士課程									
英文学専攻	2	6	－	12	修士（文学）	0.00	昭和41年度	同　上	

	生活科学研究科 博士後期課程 食物栄養学専攻 博士前期課程 食物栄養学専攻 修士課程 生活環境学専攻 人間社会研究科 修士課程 人間社会専攻	 3 2 2 2	 2 6 6 7	 － － － －	 6 12 12 14	 博士（食物栄養学） 修士（食物栄養学） 修士（生活科学） 修士（人間社会）	 0.16 0.16 0.00 0.14	 平成17年度 昭和41年度 平成元年度 平成22年度	東京都日野市大坂上 ４丁目１番地の１ 同　上 同　上 同　上 東京都渋谷区東 １丁目１番４９号 同　上	
	大学等の名称	実践女子大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	日本語コミュニケーション学科	2	－	－	－	短期大学士 （日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	－	昭和27年度	東京都渋谷区東 １丁目１番４９号	令和6年4月より 学生募集停止
	英語コミュニケーション学科	2	－	－	－	短期大学士 （英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）	－	昭和27年度	東京都渋谷区東 １丁目１番４９号	令和6年4月より 学生募集停止
	附属施設の概要	該当なし								

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
共通教育科目	実践スタンダード科目	実践入門セミナー	1前	○	2				○		4						
		実践キャリアプランニング	2前		2			○								1	
		Integrated English a	1後		1				○							2	
		Integrated English b	1前		1				○							4	
		データサイエンス入門	1後		1			○								1	メディア
		情報リテラシー基礎	1前		1				○							3	
		小計（6科目）	－	－	8	0	0	－			4	0	0	0	0	9	
	実践アドバンスト科目 キャリア教育科目	キャリアデザイン	3前			2		○								2	
		グローバル・キャリアデザイン	3後			2			○							2	
		短期インターンシップ	3休			1				○						1	標準外
		長期インターンシップ	3休			2				○						1	標準外
		キャリア開発実践論	3通			2			○							1	標準外
		ビジネスのスキルとマナー	3後			2		○								1	
		国際理解とキャリア形成	2前			2		○								1	
		女性とキャリア形成	2前・後			2		○								3	
		キャリア・ショーケース	2前			2		○								1	
		ライフデザイン	3前・後			2		○								2	
		実践企業分析論	2前			2		○								1	
		実践企業分析論演習	2前			2			○							1	標準外
	外国語教育科目	Effective Writing	1前・後			1			○							3	
		Effective Speaking	1前・後			1			○							2	
		Active Reading	1前・後			1			○							2	
		Active Listening	1前・後			1			○							3	
		CEFR B1	1前・後			1			○							1	
		Global Studies a	1前・後			2		○								1	
		Global Studies b	1前・後			2		○								1	
		Global Studies c	1前・後			2		○								2	
		Global Studies d	1前・後			2		○								3	オムニバス、共同（一部）
		Global Studies e	1前			2		○								2	
		Global Studies f	1前・後			2		○								1	
		Global Studies g	1前・後			2		○								1	
		Global Studies h	1前・後			2		○								2	
		Global Studies i	1前			2		○								1	
		Global Studies j	1後			2		○								1	
		フランス語１ａ	1前			1			○							2	
		フランス語１ｂ	1後			1			○							2	
		ドイツ語１ａ	1前			1			○							2	
		ドイツ語１ｂ	1後			1			○							2	
		中国語１ａ	1前			1			○							2	
		中国語１ｂ	1後			1			○							2	
		コリア語１ａ	1前			1			○							2	
		コリア語１ｂ	1後			1			○							2	
		スペイン語１ａ	1前			1			○							1	
		スペイン語１ｂ	1後			1			○							1	
		フランス語２ａ	2前			1			○							1	
		フランス語２ｂ	2後			1			○							1	
		ドイツ語２ａ	2前			1			○							2	
		ドイツ語２ｂ	2後			1			○							2	
		中国語２ａ	2前			1			○							2	
		中国語２ｂ	2後			1			○							2	
		コリア語２ａ	2前			1			○							2	

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
			コリア語２ｂ	2後			1			○							2	
			スペイン語２ａ	2前			1			○							1	
			スペイン語２ｂ	2後			1			○							1	
			海外語学研修ａ	1休			2				○						1	標準外
			海外語学研修ｂ	1休			2				○						1	標準外
			海外語学研修ｃ	1休			2				○						1	標準外
			海外語学研修ｄ	1休			2				○						1	標準外
			海外語学研修ｅ	1休			1				○						1	標準外/ﾒﾃﾞｨｱ
			海外語学研修ｆ	1休			1				○						1	標準外/ﾒﾃﾞｨｱ
			海外語学研修ｇ	1休			1				○						1	標準外/ﾒﾃﾞｨｱ
			海外語学研修ｈ	1休			1				○						1	標準外/ﾒﾃﾞｨｱ
			海外短期インターンシップ	1休			1				○						1	標準外
			海外長期インターンシップ	1休			2				○						1	標準外
		情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎	1前・後			1			○							10	
			情報リテラシー応用ａ	1前・後			2			○							2	
			情報リテラシー応用ｂ	1前・後			2			○							4	
			情報リテラシー応用ｃ	1前・後			2			○							5	メディア
			情報リテラシー応用ｄ	1前・後			2			○							1	メディア
			情報リテラシー応用ｅ	1前・後			2			○							2	
			小計（63科目）	－		0	94	0	－			0	0	0	0	0	52	
	実践プロジェクト科目		実践プロジェクトａ	1前			2			○							2	
			実践プロジェクトｂ	2前			2			○							2	
			実践プロジェクトｃ	2休･前･後			2			○			1				3	標準外
			ボランティアプロジェクトａ	1休			1			○							1	標準外
			ボランティアプロジェクトｂ	1休			1			○							1	標準外
			小計（5科目）	－		0	8	0	－			0	1	0	0	0	7	
	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門	1前・後			2		○								2	
			女性の歴史	1後			2		○								1	
			女性の健康	1前・後			2		○								1	
			文学とジェンダー	1前			2		○								1	
			国際社会とジェンダー	1前			2		○								1	
			女性教育とジェンダー	1前・後			2		○								2	オムニバス
			ジェンダーと心理	1前・後			2		○								1	
		人間を究める	哲学入門	1前・後			2		○								1	
			現代の思想	1前・後			2		○								2	
			言語学入門	1前・後			2		○								2	
			倫理学入門	1前			2		○								1	
			生命と環境の倫理	1後			2		○								1	
			社会思想入門	1後			2		○								2	
			東洋思想入門	1後			2		○								1	
			世界の宗教	1前・後			2		○								1	
			日本の古典文学	1前・後			2		○								2	
			日本の近現代文学	1前・後			2		○								1	
			西洋の文学	1前・後			2		○								1	
			児童文学入門	1前・後			2		○								2	
			文化人類学入門	1後			2		○								1	
			美術の世界	1前・後			2		○								1	
			音楽の世界	1前・後			2		○								1	
			映像文化論	1前・後			2		○								2	
			日本の伝統文化	1前・後			2		○								1	
			心理学入門	1前・後			2		○								3	
			人間関係の心理学	1前・後			2		○								2	
			心の健康	1前・後			2		○								2	

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
	日本のポップカルチャー	1後			2		○								1	
	ファッションの世界	1前			2		○								1	
	世界のファンタジー	1前			2		○								1	
社会を捉える	地域研究ａ	1前・後			2		○								2	
	地域研究ｂ	1前			2		○								1	
	食文化論	1前・後			2		○								1	
	衣文化論	1前・後			2		○			1					1	
	生活とデザイン	1前・後			2		○								2	
	社会とデザイン	1前・後			2		○								1	
	メディア論	1前・後			2		○								3	
	サブカルチャー論	1前・後			2		○								2	
	教育学	1前			2		○								2	
	日本国憲法	1前・後			2		○								2	
	法学入門	1後			2		○								2	
	日本の政治	1前			2		○								1	
	国際政治の基礎	1後			2		○								1	
	日本の経済	1前			2		○								2	
	国際経済の基礎	1後			2		○								2	
	日本史	1前			2		○								1	
	西洋史	1前			2		○								1	
	東洋史	1前・後			2		○								1	
	地理学	1前・後			2		○								1	
	社会学入門	1前			2		○								1	
	社会保障論	1前			2		○								1	
	日常生活と法	1前・後			2		○								1	
	金融リテラシー入門	1後			2		○								1	
自然と環境を探る	数学的思考	1後			2		○								4	オムニバス
	統計的思考	1前・後			2		○								2	
	くらしの化学	1前・後			2		○				1				3	オムニバス
	くらしの人間工学	1前・後			2		○			1						
	生活環境の科学	1前・後			2		○			7	3				2	オムニバス
	生命の科学	1前・後			2		○								2	
	身体の科学	1前			2		○								1	
	宇宙の科学	1前			2		○								2	
	地球と環境の科学	1前・後			2		○								2	
	科学技術と人間	1前・後			2		○								1	
	農業と食料	1後			2		○								1	
	バイオの世界	1前・後			2		○								1	
	防災の科学	1前・後			2		○								1	
健康な体を創る	身体運動の科学ａ	1前			2		○			1					2	
	身体運動の科学ｂ	1後			2		○			1					2	
	スポーツ文化論	1前・後			2		○								1	
	健康運動実習ａ	1前・後			1				○						4	
	健康運動実習ｂ	1前・後			1				○						2	
	基礎スポーツ実習ａ	1前・後			1				○						5	
	基礎スポーツ実習ｂ	1前・後			1				○						2	
	基礎スポーツ実習ｃ	1前・後			1				○						1	
	基礎スポーツ実習ｄ	1前・後			1				○						1	
	健康体力科学演習	1前・後			1			○							1	
	ヘルスプロモーション実践実習ａ	1前			1				○						1	
	ヘルスプロモーション実践実習ｂ	1後			1				○						1	
	アダプテッドスポーツ	1前・後			1				○						1	
	スポーツ応用科学実習	1前・後			1				○	1						

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	知を拓く	実践教養講座 a	2前・後			2			○							1	
		実践教養講座 b	1休			2			○		1					2	標準外/共同
		実践教養講座 c	1後			2			○		1	1				5	オムニバス
		実践教養講座 d	1前			2			○							5	オムニバス
		実践教養講座 e	1後			2			○							1	
		実践教養講座 f	1前			2			○							1	
		実践教養講座 g	1前			2			○		1						
		実践教養講座 h	1後			2			○							5	オムニバス
		実践教養講座 i	1後			2			○							9	オムニバス
		オープン講座 a	1前			2		○								2	オムニバス、共同（一部）
		オープン講座 b	1前・後			2		○								1	
		オープン講座 c	1前・後			2		○								1	
		クォーターオープン講座 a	1前・後			1		○								1	
		クォーターオープン講座 b	1前・後			1		○								1	
		クォーターオープン講座 c	1後			1		○								1	
		小計（95科目）	－		0	176	0	－			7	3	0	0	0	121	
専門教育科目	学科共通科目群	環境デザイン学入門	1前	○	2			○			7	3					オムニバス
		環境デザイン学演習	2後	○	2				○		7	3					共同
		環境デザイン学セミナー	3通	○	2				○		7	3					
		卒業研究	4通	○	6				○		7	3					
		基礎演習a	1前			2			○			1					
		基礎演習b	1前			2			○		1						
		基礎演習c	1後			2			○		1						
		統計の基礎	1後			2		○				1					
		デザイン基礎演習a	1前			2			○		1						
		デザイン基礎演習b	1前			2			○		1						
		色彩学	1後			2		○			1						メディア
		色彩設計演習 a	2後			2			○		1						
		色彩設計演習 b	2後			2			○		1						
		デザイン史	3前			2		○								1	
		デザイン思考	2後			2		○								1	
		マテリアル・デザイン	1前			2		○				1					
		生活材料学	3後			2		○								1	
		人体生理学	1後			2		○			1						
		人体生理学実験	2後			2				○	1						隔年
		人間工学	2前			2		○			1						
		人間工学実験	2後			2				○	1						隔年
		環境心理学	2前			2		○			1						メディア
		小計（22科目）	－	－	12	36	0	－			7	3	0	0	0	3	
	アパレル・ファッション科目群	繊維高分子材料学	1後			2		○				1					
		繊維高分子材料実験	2前			2				○		1					
		テキスタイル材料学	2後			2		○				1					
		テキスタイル材料実験	3前			2				○		1					
		機能材料学	3後			2		○				1					
		テキスタイル管理学	2前			2		○			1						
		テキスタイル管理実験	2後			2				○	1						
		染色加工学	3前			2		○			1						
		生活環境科学	3後			2		○			1						
		被服衛生学	4前			2		○								1	
		衣料管理実習	3後			1				○	1						標準外
		アパレル製作基礎演習	1後			2			○			1					
		アパレル製作基礎	2前			2		○				1					
		アパレル製作実習	2前	○		2				○		1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
アパレル・ファッション科目群	ファッションデザイン論	1前	○		2		○				1					
	ファッションドローイング	1後	○		2			○			1					
	ファッションデザイン演習1	3前			2			○							1	
	ファッションデザイン演習2	3後	○		2			○			1					
	立体裁断	2後			2		○								1	
	アパレルＣＡＤ a	2後			2			○							1	
	アパレルＣＡＤ b	3前			2			○							1	
	伝統衣服実習	3前			2				○						1	
	ファッションビジネスの世界	1後			2		○			1						
	ファッションビジネス論	2前			2		○			1						
	ファッションビジネス演習	4前			2			○		1						
	ファッション文化論	3前			2		○								1	メディア
	アパレル生産	2後			2		○			1						
	消費生活学	2前			2		○			1						
	マーケティング論	3後			2		○			1						
	マーケティングリサーチ	3後			2			○		1						
	ファッション企画論	3後			2		○								2	オムニバス
	消費科学	4前			2		○			1						
	小計（32科目）	－	－	0	63	0	－			3	2	0	0	0	7	
プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン概論	1前	○		2		○			1						
	基礎造形論	1後			2		○			1						
	材料加工演習	1後			2			○							1	
	プロダクトデザイン論	2前	○		2		○			1						
	プロダクトデザイン演習a	2後	○		2			○		1						
	プロダクトデザイン演習b	3後	○		2			○		1						
	デザインマネジメントa	3前			2		○			1						
	デザインマネジメントb	4前			2		○			1						
	プロダクトＣＡＤ	3前			2			○							1	
	ユニバーサルデザイン論	3後			2		○			1						
	ビジュアルデザインa	2前			2			○		1						
	ビジュアルデザインb	3前			2			○							1	
	情報デザイン論	1前			2		○			1						
	情報デザイン演習	2後			2			○							1	
	感性科学	3前			2		○			1						
	ユーザーエクスペリエンス	3後			2		○								1	
	インテリアデザイン論	2前			2		○								1	メディア
	インテリアデザイン演習	2後			2			○							1	
	インテリアコーディネート論	3前			2		○								1	
	インテリアコーディネート演習	3後			2			○							1	
	光環境デザイン	3前			2			○		1						
	小計（21科目）	－	－	0	42	0	－			3	0	0	0	0	4	
建築・住環境デザイン科目群	建築概論	1前	○		2		○			1						
	住居学	1前			2		○			1						
	住居デザイン論	1後			2		○			1						メディア
	住環境デザイン論	2前			2		○			1						
	福祉住環境論	2後			2		○			1						
	生活空間計画	3前			2		○			1						
	建築デザイン論	3後			2		○			1						
	設計製図基礎	1後	○		2			○		1						
	空間造形基礎	2前			2			○			1					
	生活空間設計製図１	2後	○		2			○		1						
	生活空間設計製図２	3前	○		2			○		1					1	
	生活空間設計製図３	3後			2			○			1					

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
	建築・住環境デザイン科目群	建築ＣＡＤ	2後			2			○							1	
		建築構造	1後			2		○			1						
		建築・インテリア構法	2前			2		○			1						
		建築施工	2後			2		○								1	メディア
		構法・構造演習	3前			2			○		1						
		材料力学	3前			2		○								1	メディア
		生活環境工学	1前			2		○			1						
		住環境・設備学	3後			2		○								1	
		建築法規	4前			2		○			1						
		小計（21科目）	－	－	0	42	0	－			3	1	0	0	0	3	
	総合デザイン科目群	コミュニティデザイン論a	2後	○		2		○				1					
		コミュニティデザイン論b	3後			2		○				1					
		環境デザインプロジェクトa	2前	○		2			○		2						共同
		環境デザインプロジェクトb	2前	○		2			○		1	1					共同
		ワークショップ演習	1後			2			○			1					
		コミュニティデザイン演習	3前	○		2			○			1					
		総合設計演習	4前			2			○		2						共同
		小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			5	1	0	0	0	0	
	オープン科目	環境デザイン特論a	1前			2		○			1						
		環境デザイン特論b	1後			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	
	関連科目群	調理学及び実習	3後			2				○						1	
		栄養学	1後			2		○								1	
		食物学	3前			2		○								1	
		衣料学	2後			2		○								1	
		衣料学演習	2後			2			○							1	
		被服実習a	2前			2				○						1	
		被服実習b	2前			2				○						1	
		被服実習c	2後			2				○						1	
		家庭経営学	1後			2		○								1	メディア
		生活経済学	1前			2		○								1	メディア
		家族関係学	2前			2		○								1	
		保育学	3前・後			2		○								1	
		育児学	3後			2		○								1	
		看護学	2後			2		○								1	
		小計（14科目）	－	－	0	28	0	－			0	0	0	0	0	11	
	教職に関する専門科目	教職入門	1後				2	○								1	
		教育原理	1後				2	○								2	
		発達・学習理論	2前				2	○								1	
		教育制度	2前				2	○								1	
		教育課程論	2前				1	○								1	メディア
		特別支援教育論	2後				1	○								1	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	3後				2	○								1	
		家庭科教育法（１）	2前				2	○								1	
		家庭科教育法（２）	2後				2	○								1	
		家庭科教育法（３）	3前				2	○								1	
		家庭科教育法（４）	3後				2	○								1	
		道徳教育指導論	3前				2	○								1	
		教育方法・技術論（ＩＣＴ活用含む）	2後				2	○								1	
		生徒・進路指導論	3前				2	○								1	
		教育相談	3後				2	○								1	
		教育実習Ａ	4前				5			○						1	基準外

教　育　課　程　等　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教育実習Ｂ	4前				3			○						1	基準外
	教職実践演習（中・高）	4後				2		○							1	
	介護支援基礎論	2後				1	○								1	
	介護等体験	3通				1			○						1	基準外
	教職研究ａ	2前				2		○							1	
	教職研究ｂ	2前				2		○							1	
	教職研究ｃ	2後				2		○							1	
	教職研究ｄ	2後				2		○							1	
	教職研究ｅ	3後				2		○							1	
	小計（25科目）	－	－	0	0	50	－			0	0	0	0	0	13	
合計（313科目）		－	－	20	507	50	－			7	3	0	0	0	205	

学位又は称号	学士（環境デザイン学）	学位又は学科の分野	家政関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①共通教育科目：　必修科目8単位、選択必修科目8単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各2単位以上、「情報リテラシー教育科目」から2単位以上）、合計28単位 ②専門教育科目：　必修科目12単位、選択必修科目30単位以上、合計82単位 ③その他：　①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計20単位以上 ①、②、③の要件を満たし、合計130単位以上 （履修登録単位数の制限：各学期（セメスター）22単位）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践スタンダード科目	実践入門セミナー	○	学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業である。積極的に授業に参加し、自分の学習目標、将来計画等を視野に入れながら授業に取り組むこと。実践女子大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えることを目的としている。特に、生涯にわたり知を探求して学び続ける自己研鑽力、現状を正しく把握して課題を発見する行動力、他者と互いに役割を理解して協力できる協働力の育成を目指す。	主要授業科目
共通教育科目	実践スタンダード科目	実践キャリアプランニング		人生100年時代と言われる超高齢化社会にあって、どのように人生を設計し、キャリアを築き、生活していくかが問われる時代となっている。特に女性の生き方の選択肢は様々であり、単純に方向性を指し示せるものではない。 本科目ではこれまでの社会を形成してきた、女性を取り巻く環境の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、これからの時代における仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていく。 大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの大きなライフイベントにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければならない。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていく。　さらには社会でいま求められている「新社会人基礎力」を学び、そのための疑似ビジネス体験のワークを行う。	
共通教育科目	実践スタンダード科目	Integrated English a		The theme of this course is enhancing students' English speaking and reading skills in meaningful and practical ways. この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す（発表）」「読む」能力を向上させることをテーマにしている。This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking, and reading skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content. この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す（発表）」「読む」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。	
共通教育科目	実践スタンダード科目	Integrated English b		The theme of this course is enhancing students' English speaking and listening skills in meaningful and practical ways. この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」能力を向上させることをテーマにしている。 This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking (interaction) and listening skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content. この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す（やりとり）」および「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践スタンダード科目		データサイエンス入門		数理・データサイエンス・ＡＩに関する知識並びにデータ活用の方法などを得ることを目的とする。具体的には、数理・データサイエンス・ＡＩが社会の変化や自らの生活に密接に結びついていること、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになること、新たな価値を創出すること、情報セキュリティや個人情報保護など利活用する上での留意事項などについて、様々な現場におけるデータ利活用の事例などを含めて、講義する。	
共通教育科目	実践スタンダード科目		情報リテラシー基礎		本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学ぶ。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことである。　本学における情報環境を理解し、学内・学外を問わずコンピュータ、インターネットを活用し、レポート作成においてWord、Excel、PowerPointなどのソフトを活用するために必要な基本スキルを身につけることを目標とする。 それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	キャリアデザイン		目まぐるしく変化する社会情勢にあって、就職活動戦線を勝ち抜き、社会で輝き続ける女性となるために必要な「人間力」とは、知識･スキルとは何か、また、社会は今、何を求めているかなどを深く考える。 「自ら選択し、考え、行動し、やりきる」ための主体性を育み、そしてチームでディスカッションを重ね、多様性が重視される現代社会で活躍するための、自らの可能性の発見とコミュニケーション力を身につける。常に産業界の動向に注視し、社会が求める人材について深く学ぶとともに、実際の社会人からの講話なども通じ、できる限りリアリティの感じられる授業内容を通じ、社会人基礎力について修得する。 学部学科を横断した学生が、幅広い社会や企業について講義や実際の課題解決のワークショップを経験することで、多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を身につけることなどでディプロマ・ポリシーの達成を目指す。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	グローバル・キャリアデザイン		この科目では、「キャリアデザイン」を発展させ、グローバル化が一層加速する21世紀の日本社会で、実践女子大学の卒業生らしく働くための具体的なヒントを提示するとともに、国際社会で必要とされる「主体性」について共に学んで行くことをテーマとする。就職活動のテクニックやスキルを身につけるための講義ではなく、学生総合支援センターとも連携して、就職活動に活きる内容を構築する。この授業科目を終えたときには、働くことにワクワク感を覚え、21世紀の社会を生き抜くための強さとしなやかさ、そして知性がさらに磨かれていることを目標とする。主体的な学生の受講を期待している。産業界で求められている人材像を意識し、とりわけ加速度的にニーズの高まる女性として必要なキャリア意識を身につけると共に、数々の社会人のレクチャーから多様な働き方を理解し、社会人として活躍できる素養を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	短期インターンシップ		前半は、組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」を修得する。 後半は企業、地方公共団体等における就業体験を通じて、課題を発見する力を修得する。インターンシップは以下、実習とする。 Ⅰ.実習期間及び時間数 大学が許可した受入先で５日間以上、各日７時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。原則として夏期休暇中の日程を設定し、実習のための欠席は公欠扱いにはならない。 Ⅱ.実習内容 実業務に近い就業体験を行う。具体的な内容は、企業よりインターンシップ受入計画書を提出してもらう。実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。 Ⅲ.教員の役割と分担 授業全体の管理及び一部講義を教員が担うが、前期の講義及び実習の運営はキャリアサポート部が行う。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	長期インターンシップ		前半授業は、組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」を修得する。 後半は企業、地方公共団体等における就業体験を通じて、社会人として働くために必要なジェネリックスキル全般を身に付ける。インターンシップは以下、実習とする。 Ⅰ.実習期間及び時間数 大学が許可した受入先で14日間以上、各日７時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。実習のための欠席は公欠扱いにはならない。 Ⅱ.実習内容 実業務に近い就業体験を行う。具体的な内容は、企業よりインターンシップ受入計画書を提出してもらう。実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。 Ⅲ.教員の役割と分担 授業全体の管理及び一部講義を教員が担うが、前期の講義及び実習の運営はキャリアサポート部が行う。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	キャリア開発実践論		社会が求める力とは何か、企業研修レベルの内容で、社会人基礎力の中でも、とりわけ今、社会が求めている～「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶ、また今の社会を知る（ダイバーシティとインクルージョンについて学ぶ）ことを軸に、夏期休業期間中に2泊3日で外部研修施設を利用しての集中講義形式で実施する授業である。4年生の参加も歓迎する。企業研修レベルの内容で、「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶことで、今、社会で必要とされる力、とりわけ企業のリーダーレベルの内容を身に付けることが出来る。また、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせた時、研鑽力、行動力、協働力の3つの能力が磨かれることを到達目標とする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	ビジネスのスキルとマナー		社会では、みなさんがどんなに「やる気」や「能力」を持っていても、それをアピールするコミュニケーション能力やマナー（態度等）を知らなければ、みなさんの想いを伝えることができず、仕事で成果を十分に発揮することはできない。 この講義では、入社後、即戦力として活躍してもらうために、そして自分らしく幸せなキャリアを築くために、社会に出た際に必要な常識・情報・知識・スキルを学ぶ。 ① 会社・組織・役割について理解する ② 社会人として評価されるビジネスマナーを学ぶ ③ 働く人のための労働法規のポイントを理解する 以上により、社会で必要な「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	国際理解とキャリア形成		IT社会の急速な発展や深刻化する人口減少・高齢化社会への突入で社会・経済のみならず私たちの日常生活においても今後益々国際的なつながりが求められる。 こうしたなか国際感覚溢れる人材を目指し、よき日本人としてまずは改めて日本のことをよく知り、そして世界主要諸国の歴史や直近の動静を学ぶ。 またリアルに国際感覚を感じるために外部スピーカーを招聘し、自らの国際ビジネス体験などを語ってもらう。 本科目は本年より、「EXPO 2025」を題材に取り上げ、実践力アップのためのアクティブラーニング型の授業を行っている。本年についてもより発信力のある内容にて実施する。グローバル業務経験者を招き、自らの国際経験を語ってもらう。今後のグローバル社会でどう自分を活かしていくかを考える。（国際的視野・研鑽力・協働力）	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	女性とキャリア形成		「人生100年時代」をどう生きるか、大学でいかに学び、社会でいかに活躍をするか。「大学の価値は、卒業生が決める」とも言われているように、学生の皆さん一人ひとりのキャリアこそが実践女子大学の価値を決める。激動の社会の中で、トップとして活躍されている方をお招きし、ご自身のキャリアや、考える視点、これから社会人となる大学生にとって必要なことは何なのか、広い視座、高い視点からの講演を通して、語りかけてもらう。企業の第一線で活躍されているトップの講演を通して、多様性を受容し、多角的な視点を以ってグローバル社会に挑む態度を身に付けることを目指す。講演の前後に行われる、インプット&アウトプットの時間を通じ学ぶ楽しみを知るとともに、スピーカーが伝えたかったことを探求することで、物事の本質を見抜く力を修得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	キャリア・ショーケース		「人生100年時代」をどう生きるか、大学でいかに学び、社会でいかに活躍をするか。「大学の価値は、卒業生が決める」とも言われているように、学生の皆さん一人ひとりのキャリアこそが実践女子大学の価値を決める。激動の社会の中で、トップとして活躍されている方をお招きし、ご自身のキャリアや、考える視点、これから社会人となる大学生にとって必要なことは何なのか、広い視座、高い視点からの講演を通して、語りかけてもらう。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	ライフデザイン		あなたは大学を卒業してからどんな人生を歩むのだろうか？もし不安があるとしたらそれはどんなことだろうか？就職すると今までの生活とどう変わるのか？　結婚したら仕事はどうなるのだろか、出産したらどうなるのか？　仕事を辞めて専業主婦になるとどうなるのだろうか？ずっと働き続けたらどうなるのだろうか？様々な人生の岐路に立った時にあなたはどのように判断するのか？最終的にあなたが自分の人生で大事なことを決める時に判断材料にする経済の知識と金融に関する知識、そしてそのベースとなる制度を理解しているかどうかは重要なポイントである。この授業を通して経済のしくみ、基本的な金融に関する知識を学び、あなたがあなた独自の人生をデザインするための基盤の一つを得ることを期待している。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	実践企業分析論		情報化社会において大量に流通する情報の中から、情報の種類を概念として理解、整理しその信頼度を測りながら対象を多角的に分析する力 は、ビジネスパーソンとして活躍するために、重要な能力である。また多くの大学生にとってキャリアのファーストステップとなる新卒時の就職 において、対象企業を多様な角度から分析、理解する事は自分が働く企業を決める上で大きな判断要素となる。 本授業では有価証券報告書を軸に様々な情報を追加収集し、その分析を行う事で、情報を種類に応じて使いこなし、自らの考えや説明に論理的根拠を持たせる力を高める。またプレゼンテーションとディスカッションを通じて、自分の考えを言語化し 第三者を納得させるための実践的なトレーニングを行う。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	実践企業分析論演習		企業分析論講義を通じて得た 有価証券報告書を軸に様々な情報を収集し、その分析を具体的に行う事で情報収集力 、分析力とプレゼンスキルの実践を通じたさらなる向上を目指す。授業における到達目標は、「企業分析論の基本的 知識を前提に、自身で企業分析を行える。」「自分の分析の結果を他 者 にわかりやすく伝える事ができる。」「他者の分析に対して、自分なりの見解から指摘、質疑を行う事ができる。」である。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Effective Writing		日常生活からアカデミックな場面で最低限必要な「書くこと」に関する知識および技能の習得を目的として、英文ライティングの基本構造を学び、正確で一貫性があり、かつある程度の量の英文を書けるようになることをねらいとする。具体的には、パラグラフ・ライティング、エッセイ、基本的なリサーチペーパー等の書き方に加えて、英語による、メール、履歴書、あるいは報告書等の基本的な書き方に関する知識および技能を習得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Effective Speaking		The goal of speaking another language is communicating with others. Students will practice， activate their own English， while also improving their vocabulary、confidence、 response、 and reaction speed.In-class students will speak and practice using English weekly through role-plays and discussions. Important in this class is that students create and maintain an atmosphere where everyone feels comfortable to freely share their opinions on weekly topics.　外国語を話す最終目標は相手とのコミュニケーションである。反復練習し、自信の英語を活性化する。また語彙、自信、対応、そしてリアクションスピードを向上する。授業では週ごとにロールプレイやディスカッションを通して英語を使いながら会話し学修する。この授業で大切なことは、毎週のトピックでそれぞれの意見を自由に共有できるような雰囲気を作り、維持することである。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Active Reading		読解に関する基本的な技能とストラテジーを習得することを目的とする。具体的には、多読・速読・精読等による基本的な読解能力を向上させるトレーニングに加えて、 アカデミック・ペーパー、ニュース記事等を取り上げて、効果的な読み方の技能やストラテジーを習得することを目的とする。さらに、学生自身が読んだ内容について発表させる機会を設けることで、習得した技能やストラテジーを実践的な場面で利用する機会を設ける。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Active Listening		社会生活において最低限必要なレベルの英語を聞き、そこから必要な情報を得ることとできるよう、聴解に関する基本的な技能とストラテジーを習得することを目的とする。具体的には、聴解能力を向上させるトレーニングに加えて、英語の講義やスピーチ、会議等での効果的なメモの取り方や質問の方法等、より実践的な場面で必要な技能やストラテジーを習得することで英語コミュニケーション能力の向上を目的とする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	CEFR B1		CEFR B１レベルを目指した資格試験対策を通じて、５技能（「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」、「話すこと（発表）」、「話すこと（やりとり）をバランスよく向上させることを目的とする。具体的には、TOEIC ® L&Rに加えて、TOEIC® S&W、 TOEFL、 TEAP、あるいは英検等幅広い資格試験に対応できる授業を開講する。なお、この科目は、資格認定科目としても開講する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies a		【Psychology 】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【心理学】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies b		【 Intercultural Competence】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【異文化理解能力】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies c		【World Culture / Sociolinguistics】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【世界文化/社会言語学】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies d		＜オムニバス方式クラス＞ 【Japanese Culture / Nutrition】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content (Omnibus method・Partially joint/Total 14times) (17 Oho Yuko・45 Yamazaki Takeshi/6times(joint)) Foods in the world - introductory. Foods in the world - the diversity. Foods in the world - Italian and mediterranean diet. Foods in the world - Gastronomic meal of the French. (45 Yamazaki Takeshi/4times) Vocabularies to describe Japanese foods. Manners and tips in Japanese foods. (17 Oho Yuko/4times) Japanese dishes good for Health and Bento. 【日本文化/栄養学】 （概要） 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。 (オムニバス方式・一部共同／14回) (17 於保祐子・45 山﨑壮／6回（共同）) 世界の食べ物 - 入門、多様性、イタリア料理・地中海料理、フランス人の美食 (45 山﨑壮／4回)　日本食を説明する語彙・日本食のマナーとコツ (17 於保　祐子／4回)　健康によい日本食・お弁当	オムニバス方式・共同（一部）

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
					【Japanese Culture and society】 ＜通常クラス：46 Michael Anthony Edwards／14回＞ This course will focus on the reviewing, understanding, and presenting aspects of Japanese culture and society to a native English speaking audience. 【日本の文化と社会】 本科目では、復習と理解に焦点をあてる。日本の文化や社会について英語を母国語とする人々が理解できるように紹介発表することに重点を置く。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies e		【Media / Education】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【メディア/教育】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies f		【World Heritage】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【世界遺産】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies g		【Travel Industry】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【旅行業】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies h		【Fashion and Cosmetics】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【ファッションとコスメティック】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies i		【Global Business Communication / Preparation for Internship】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically、 be creative、 communicate and collaborate about the course content 【グローバルビジネスコミュニケーション/インターンシップ準備】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	Global Studies j		【Career Design】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【キャリアデザイン】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。　学生は授業内容について批評的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	フランス語１ａ		フランス語の最も初歩的な表現や文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付ける。 　フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていく。フランス語の簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通じてフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に付けることを目標とする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	フランス語１ｂ		「フランス語1a」からの継続授業である。「フランス語1a」の内容を踏まえ、より内容豊かな口語表現と文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス語圏の人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付ける。 　フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていく。簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通してフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に着けることを目標とする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	ドイツ語１ａ		The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.This course aims to help students through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content.The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.この授業のテーマは有意義、実践的な方法で日常会話の基礎ドイツ語の学修である。目標はCEFR A1レベルのスピーキング、リスニング、リーディング　ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	ドイツ語１ｂ		The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. This course is a continuation of ドイツ語１a.This course aims to help students、 through active learning methodology、 advance their German speaking、 listening、 reading、 writing skills to a CEFR A1 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.この授業のテーマは有意義、実践的な方法で日常会話の基礎ドイツ語の学修である。ドイツ語1aから引き続いていく。目標はCEFR A1レベルのスピーキング、リスニング、リーディング　ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	中国語１ａ		基礎発音を習得した上、簡単な会話勉強を通じて基礎的な文法を勉強する。毎回、文法ポイントの語彙や慣用句をしっかり勉強し、会話練習をするほか、短文の読み書きなどの練習もする。それを通じて、中国語の日常的な表現を覚え、中国語の基礎力を身につける。　この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	中国語１ｂ		中国語1aで習った中国語の基礎知識を踏まえて、日常会話と短文の読み書きなどの練習をしながら、引き続き基礎文法を勉強する。それを通じて中国語の日常的な表現を覚え、中国の基礎力を高める。　この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につけるようにする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	コリア語１ａ		韓国語を初めて学ぶ人を対象に、文字と発音、あいさつ言葉と簡単な文型とともに、韓国語の文法を学ぶ。ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えることができる。また、自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができるようになる。 学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	コリア語１ｂ		コリア語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高める。ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べることができるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	スペイン語１ａ		This course aims to help students through active learning methodology、 advance their Spanish speaking、 listening、 reading、 writing skills to a CEFR A1 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A1レベルまで向上させる事を目的としている。それにより国際的視野を広げ授業内容をより深く洞察できる問題解決スキルを積極的に応用する能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	スペイン語１ｂ		This course continues to help students、 through active learning methodology、 advance their Spanish speaking、 listening、 reading、 writing skills to a CEFR A1 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A1まで向上させることを継続していく。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	フランス語２ａ		すでに学んだフランス語の基本的な表現をもとに、さらなるフランス語力の習得を目指す。 簡単な読み物、料理のレシピなどを通して総合的な語学能力を身につけましょう。さまざまな文法事項を整理し、より複雑なフランス語の文を理解できるようになる。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とする。 フランス語とフランス文化の学習を通して、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけ、国際的視野を養う。また、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を修得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	フランス語２ｂ		すでに学んだ基本をもとに、さらなるフランス語力の習得を目指す。文法だけではなく、読み物を通してある程度の長さの文章を理解し、総合的な語学力を身につける。条件法などを学び、より複雑な文章を理解できるようになる。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とする。 フランス語とフランス文化の学習を通して、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけ、国際的視野を養う。また、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を修得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	ドイツ語２ａ		The aim of this course is to introduce students to intermediate German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways.The course aims to help students、 through active learning methodology、 advance their German speaking、 listening、 reading、 and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and Japanese on occasion.この授業の目標は有意義、実践的な方法で日常会話を目指す中級ドイツ語の学修である。目標はCEFR A2レベルのスピーキング、リスニング、リーディング　ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	ドイツ語２ｂ		The theme of this course to introduce students to intermediate-level German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. This course is a continuation of ドイツ語２a.The course aims to help students、 through active learning methodology、 advance their low-intermediate German speaking、 listening、 reading、 and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion.この授業の目標は有意義、実践的な方法で日常会話を目指す中級ドイツ語の学修である。ドイツ語2aから引き続いている。目標はCEFR A2レベルのスピーキング、リスニング、リーディング　ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	中国語２ａ		この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。 　中国語能力においては次のことを目指す。簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つ。初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを習得した段階で検定試験４級以上の語学力を身につける。また、ＣＥＦＲのレベルA2を目標とする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	中国語２ｂ		この授業では、今まで習得した中国語の基礎を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。　この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につけるようにする。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	コリア語２ａ		コリア語1a・bで既習した文法知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、コリア語a・bに比べて会話の練習と韓国文化の理解に重点を置く。日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える。 韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、1、000語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになる。 学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	コリア語２ｂ		コリア2aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高める。そして韓国の文化への理解をもさらに深めてく。日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える。韓国語能力試験（TOPIK）初級語彙のうち、2、300語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになる。 学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	スペイン語２ａ		The course aims to help students、 through active learning methodology、 advance their low-intermediate Spanish speaking、 listening、 reading、 and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通して中級以下のスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A2まで向上させることを目的とする。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	スペイン語２ｂ		The course continues to help students、 through active learning methodology、 advance Spanish speaking、 listening、 reading、 and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so、 students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A2まで向上させることを継続していく。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ａ		この研修は、４技能と文法をコアとする学習に加え、日常表現や正式な表現を学ぶ。授業は各国からの学生と共に受講する。様々なアクティビティーも用意されている。滞在はホームステイを予定しており、日常の生活の中からも文化や言語を習得できる環境である。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と 「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｂ		オーストラリアに4つのキャンパスをもつディーキン大学の付属英語学校は、1998年から留学生向けの英語集中プログラムを提供している。実際の生活や大学の授業で役立つ実践的な英語のプログラムが初心者レベルから上級者レベルまで用意され、自分に合ったレベルのクラスに参加する。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力を CEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｃ		この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講義である。研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれる。授業以外には、中国文化講義や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられている。この研修は、中国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的である。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｄ		この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムである。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・Ｋ－ＰＯＰダンス、テコンドー等）を体験する。この研修は、韓国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的である。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｅ		アメリカの名門 ワシントン大学が実施するこのプログラムは、通常の語学留学のコンテンツを「そのまま」オンラインで行うユニークな研修である。アメリカ文化と生活に関する身近なテーマについてSpeaking & Listening アクティビティーを通じて、ボキャブラリーと様々な場面での表現方法を学ぶ。ワシントン大学の学生との会話、ゲストスピーカーによるレクチャー、シアトル周辺のバーチャルツアーやグループワークとプレゼンテーションを行い、楽しみながら実践的な英語を学べる。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力を CEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｆ		オーストラリアに4つのキャンパスをもつディーキン大学の付属英語学校は、1998年から留学生向けの英語集中プログラムを提供している。実際の生活や大学の授業で役立つ実践的な英語のプログラムが初心者レベルから上級者レベルまで用意され、自分に合ったレベルのクラスに参加できる。日本にいながらにして、リアルタイムで世界各国からのクラスメイトと一緒に授業が受けられることが最大の魅力である。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2 あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｇ		この研修は、ドイツ語運用能力向上とドイツの歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、フライブルク大学主催のオンライン集中講義である。授業は、一クラス20名弱の小人数で行われる。この研修は、ドイツ語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、ドイツの歴史・文化への理解を深めることが目的である。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外語学研修ｈ		この研修は、フランス語運用能力向上とフランスに興味をもつことを目的とした、西部カトリック大学付属語学センター主催のオンライン集中講義である。授業は、一クラス最大15名の小人数で行われる。この研修は、フランス語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外短期インターンシップ		急速な社会のグローバル化に伴い、海外企業等においてダイバーシティ環境の中での就業経験等を有するチャレンジ精神のある材が求められている。この科目では、大学があらかじめ認めた海外インターンシップのうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。海外インターンシップを通じて、多言語環境下での異文化コミュニケーションや業務遂行に際して、自ら主体的に学ぶことで、「国際的視野」、「協働力」、「行動力」、「チャレンジ精神」を養う。海外の企業等において、45時間以上～90時間未満の就業を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出する。それにより、単位を認定する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	外国語教育科目	海外長期インターンシップ		急速な社会のグローバル化に伴い、海外企業等においてダイバーシティ環境の中での就業経験等を有するチャレンジ精神のある材が求められている。この科目では、大学があらかじめ認めた海外インターンシップのうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。海外インターンシップを通じて、多言語環境下での異文化コミュニケーションや業務遂行に際して、自ら主体的に学ぶことで、「国際的視野」、「協働力」、「行動力」、「チャレンジ精神」を養う。 海外の企業等において、90時間以上の就業を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出する。それにより、単位を認定する。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎		本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学ぶ。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことである。とくに、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・ＡＩの基本的な活用法に関して、社会での実例も題材にして、実際にデータや課題を用いた演習を行う。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用ａ		本科目では、「デジタル画像の編集技術」をテーマに学習する。実習には、世界標準の画像加工ソフトのAdobe社のPhotoshopを使用する。このソフトによる「画像編集」スキルの習得は、「資料やレポート作成」、「趣味や学習」、「企業の広報部門や雑誌編集などメディアの仕事」に役立つ。 制作課題1では、身近な「ポストカード」を制作する。印刷用原稿の制作には、同じAdobe社のIllustratorを使用する。制作課題2では「ブックカバー」を制作する。こちらは、A4サイズの文庫本用のオリジナルブックカバーをデザインし、質感のある用紙に印刷することでアナログのもつ温かみも実感することができる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用ｂ		Officeスィート（Word、Excel、PowerPoint）を統合的に使い、効率の良い文書作成技能を身につけると共に、企業で必要とされるデータ処理スキルやプロジェクトの進捗状況報告などに必要なプレゼンテーションスキルを修得することを目標とする。 MOS（マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト）の準備にもなる。 Officeスイートのいろいろな機能を理解することにより、適切なツールを選び、活用することができるようになる。 グローバルスタンダードのOfficeスイートを統合的に使い、社会で必要なドキュメントを効率的に作成する技能が身につく。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用ｃ		データベースは、大量の情報（データ）を蓄積・管理し、その中から目的のデータを簡単に検索・分析できるしくみである。現在の社会では、あらゆるところにデータベースが活用されており、私たちが意識しなくとも日常的にデータベースを利用しているはずである。身近なところでは、インターネットの検索システムや、ネットショップなどでの商品購入システムがあげらる。 他にも大量のデータを扱う場面ではほぼデータベースが活用されている。この授業では、データベースの仕組みから、データベースの基本的な操作、さらにはデータベースを活用したシステムの構築までを学んでいく。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用ｄ		代表的なオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用い、プログラミングの考え方、プログラミングの方法および実行にかかわるコンピュータの使用法を、講義と演習により修得し、コンピュータシステムについての理解を深める。Java言語を用いて基本的なプログラムが自分で作成できるようになることを目的とする（行動力）。条件分岐や繰り返しなどのプログラミング言語としての国際的に基本とされる構造を理解する（ 国際的視野・研鑽力）。クラス、オブジェクトを作成し、利用できる。	
共通教育科目	実践アドバンスト科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用ｅ		変動的で多様性のある社会環境において課題解決をし活躍をするためには、人々の共通認識である「情報」を表現し共有活用していく力が重要になる。 本授業では「可視化」を通し、共創や創造を高めるコミュニケーションのデザインを学ぶ。本授業における「可視化」とは、非言語を含め情報を表現し人と伝え合うことである。 目的に応じた情報を戦略的に可視化する技術を習得するために、前半では非言語ビジュアル表現の基礎を学び、後半ではグラフィックレコーディングやビジュアルファシリテーション、インフォグラフィックスなどの応用技術を実践する。 スケッチなどの絵画表現の得意不得意は不問。授業はワークショップスタイルで実施する。	
共通教育科目	実践プロジェクト科目		実践プロジェクトａ		企業からの課題やテーマに対し、学生がグループ内で議論を重ね、企画策定したｱｲﾃﾞｱを企業に対してプレゼンテーションし、その内容を企業が評価するPBL（Project Based Learning）形式の授業を通して、ビジネス・社会で重視され必要とされる能力である「主体性・チームワーク・論理思考」を習得することを目的とする。 １年次に課題解決型の授業を履修することにより、２年次以降の大学の学び方を学び社会人としての基礎力を身に付けることを目標とする。	
共通教育科目	実践プロジェクト科目		実践プロジェクトｂ		企業・地域と連携したプロジェクトを進めていく中で、情報科目で学んだ文書作成・データ分析・プレゼンテーションやメディアの取り扱いなどのスキルをより高度に、実践的なものとして身に付けることを目指す。 またグループワークやプロジェクトにおいて重要視されているリーダーシップやファシリテーション、リフレクションなどの技法・スキルについても学ぶ。 ①企業・地域からの課題に対し、グループで問題を抽出・分析した上で、課題解決への方策を効果的にプレゼンテーションできるようになる。 ②グループワークの意味・個人の強みを理解した上で、グループワークにおいて「権限なきリーダーシップ」を発揮できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践プロジェクト科目		実践プロジェクトｃ		グローバル社会では、様々な文化をもつ人々と理解しあい、協働できるコミュニケーション力や多角的な視野が大切になってくる。そのようなスキルを、知識だけではなく、体験することによって学ぶ授業である。 SDGsを通してグローバルな課題について考え、実際に異文化理解を深めるプロジェクトに参加して、国際的な視野を広げる。 グローバルプロジェクトとして、アイアーン(iEARN) の Holiday Card Exchange プロジェクトの企画運営を体験し、体験を通し、学生のコミュニケーション力、行動力や協働力も向上することをめざす。	
共通教育科目	実践プロジェクト科目		ボランティアプロジェクトa		大学があらかじめ認めた学内外でのボランティア活動や研修のうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。ボランティア活動や研修を通して、自ら主体的に学ぶことで、協働力、行動力、国際的視野を養う。 学内外において、45時間以上のボランティア活動を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出することで、単位を認定する。 なお、「単位認定願」の申請時期は、年2回（4月・9月）を予定しており、ボランティア活動時間が45時間未満の場合、また、指定の申請期間を過ぎた場合は、単位認定を認めない。単位認定の申請は、当年度に参加したボランティアのみとする。 1回目の申請時をボランティアプロジェクトaとする。	
共通教育科目	実践プロジェクト科目		ボランティアプロジェクトb		大学があらかじめ認めた学内外でのボランティア活動や研修のうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。ボランティア活動や研修を通して、自ら主体的に学ぶことで、協働力、行動力、国際的視野を養う。 学内外において、45時間以上のボランティア活動を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出することで、単位を認定する。 なお、「単位認定願」の申請時期は、年2回（4月・9月）を予定しており、ボランティア活動時間が45時間未満の場合、また、指定の申請期間を過ぎた場合は、単位認定を認めない。単位認定の申請は、当年度に参加したボランティアのみとする。 2回目の申請時をボランティアプロジェクトbとする。	
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門		「ジェンダー」は、社会のなかで見られる男女差が生物学に根差す自然なものではなく、力関係の中で意味づけられるものだという見方をする。本授業は女性の抑圧、生きづらさを可視化し、異議申し立てをしてきたフェミニズムの歴史を整理し、彼女たちによって見出されたジェンダー概念を解説する。授業の主題は、1）ジェンダーの権力関係を可視化してきたフェミニズムが果たした貢献を考察する。2）男性学の知見を検討しその可能性を考察する。3）現代社会における「男／女」という区別のもつ課題を考察する。三つの主題をとおしてジェンダーが「女性の問題」「男女の二項対立」にとどまらないことを理解し、性を巡る差異と政治の問題として論考できることが目標である。	
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	女性の歴史		女性の歴史を学ぶことを通じて、自身の生き方を考える。 かつて女性たちは、どう生きていたのか。第2次世界大戦後の新憲法や民法改正は、女性の生き方をどう変えたのか。江戸から明治期、戦後の、女性の生き方を振り返ることで過去の女性の前に立ちはだかった壁、それを女性がどう乗り越えたのかを学ぶ。具体的な個人の生き方にもフォーカス。 男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法が成立した過程や背景を学び、現状や課題を考える。女性と労働、女性と家庭、女性と教育などのテーマに沿って歴史をたどることで、今に至る道筋が見えてくる。まだ残された課題もある。それを知ることは、現代に生きる私たちがどう生きるべきかの、ヒントを与えてくれるはずだ。日本にとどまらず、世界の女性の置かれた状況や国際的な女性の活動、歴史を知ることで。広い視野も培う。最新の新聞記事も紹介。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	女性の健康		女性の身体と心に対して、「やせてきれいに」や「女子力を高めよう」などと、あるべき像が押し付けられ、それらを実現するために「するべきこと」や「おすすめ」が、根拠や効果、意義があいまいなものも含めて、ネットやSNS、テレビなどに大量に溢れてる。一方で、女性の性と生殖の健康（リプロダクティブ・ヘルス）に関する社会の注目が高まり、この健康についての様々な問題を見聞きする機会が増えた。この授業では、女性のリプロダクティブ・ヘルスを中心に、女性の身体と健康について押し付けられてくる身の回りの情報や言説、出来事を手がかりに、ジェンダー視点からの理論と広い知識の習得を目指す。途上国の女性たちのリプロダクティブ・ヘルスについても学び、考える。そして、現在と将来にわたり、女性の健康に関する「するべきこと」や「した方がいいと言われること」を自分自身で見直していける態度を身に付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	文学とジェンダー		近年、フェミニスト・ディストピアというジャンルが、特に#MeToo運動と共鳴する形で英語圏、そして日本でも注目されている。 この授業ではコロナ禍というディストピア的な現在を、特にフェミニスト、そしてクィアな視点から批判的に分析し、同時に「ニュー・ノーマル」への想像力を養うことを目指す。また、「誰にとって、どのようにディストピア的なのか？」という社会的想像力におけるポジショナリティ（立ち位置）の問題を探っていく。	
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	国際社会とジェンダー		私たちはこれからの国際社会において、どのように生き、どのように振る舞い、どのように活躍することが可能なのか。また、女性の活動を制約したり促進したりする要因にはどのようなものがあるのか。さまざまな地域の具体的な事例を扱いながら、政治的、経済的、社会的、文化的、宗教的、歴史的な要因、さらに人、ひとりひとりのライフステージの中に織り込まれたジェンダーを紐解いていく。　国際機関や各国政府、NGOsによる「ジェンダー平等」を目指すための取り組みの経緯と内容について理解する。 　我が国における「ジェンダー平等」の達成状況と克服すべき課題について理解する。 　さまざまな地域におけるさまざまな立場の女性の活動について知り、私たちの身近な女性の活動事例と比較して相対化できるようになる。自分自身の生き方について、今日の国際社会の状況を鑑みて考えられるような見識を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	女性教育とジェンダー		（概要） 女性はこれまで何のために何をどのように学んできたのか。あるいはどのような教育を受けてきたのか。この授業の前半では、古代から近代にいたるまでの女性の学びについて概観するとともに、本学を始めとした近代女子教育が、女性の社会的地位の向上にどのような役割を果たしてきたのかについて考察する。 　後半では、戦後の男女共学化、女子大学と女子短大の発足、女性の高等教育進学率の推移、男女の進学格差などについて取り上げる。また、世界の女子大学の動向や国連のSDGsの取組みを概観する中で、今後の日本の女子大学のありかたについて考察する。 （オムニバス方式／全14回） （前・後期：58 久保貴子（７回）） ①日本語表記と女性が書くということ ②女房と漢籍 ③宮廷女子教育の実態 ④行動する女性の誕生 ⑤江戸時代の女子教育 ⑥文明開化と下田歌子 ⑦本学開学と新しい女たち　まとめ （前・後期：31 清田夏代（7回）） ⑧戦後史証言「男女共同参画社会―女性たちは平等をめざす」 ⑨戦後教育改革と男女共学 ⑩戦後新制大学の発足と進学率の上昇 ⑪日本の高等教育のジェンダー格差 ⑫性の多様性と女子大学 ⑬SDGｓ：ジェンダー平等と教育の平等　目標と実践 ⑭ジェンダーと教育の平等を実現するためには　まとめ	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダーと心理		一般に、男女には様々な違いがあると言われているが、その中には生物的な、遺伝子に由来する差だけでなく、文化・社会的な後天的に形成される差（ジェンダー）も含まれている．この講義では、生物的な差と文化・社会的な差とを区別し、男女にはどのような性差があると認識されてきたか、なぜそのような性差があると認識されているのか、また文化や社会と関わるなかで自身の性別をどのように取り込んで発達していくかなど、ジェンダーを心理学の視点からとらえて考察する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	哲学入門		西洋で生まれた哲学という学問のなりたちを知ることで、ヨーロッパという文明の総体的な特質を理解する。古代ギリシアで生まれた哲学といういとなみは、もともとは自然すなわち世界全体のしくみを理解しようとする壮大な試みのはじまりであった。その展開過程を知ることは、なんであれ学的いとなみとはどのようなものであり、またなにをめざしているのかの理解に通じると考えられる。 だから哲学を知ることは、ある程度の国際的視野をもってものごとを見る鍛錬になるばかりでなく、学問のみならず文化や芸術といった広く人間的いとなみの多様性について学びしることにもつながってゆくことだろう。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	現代の思想		本科目では、19世紀から21世紀にかけての哲学的な立場を概観し、現代社会について考えるひとつの視座として、現在の状況をもたらした起源、哲学的な思想について考察する。現代社会では、国際的な政治状況の不安定さ、宗教における対立、経済の予測困難さ、AI技術の急激な発展、気候の大幅な変動などが複雑に絡み合って、わたしたちの日常生活に覆いかぶさっている。現代に通じる哲学の基本的立場を理解し、自分なりの批判点や観点をもてるようにする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	言語学入門		皆さんは、「おなかすいた」と誰かに言われれば、きっと発言者が「私はおなかがすきました」という事を伝えたいのだとすぐに理解出来るはずである。「夏目漱石を読んでる」という発言も、「夏目漱石の作品を読んでいる」と瞬時に理解するであろう。だが、実はこれらの何と言う事のない日常行われる発言の背景には、言語学的な問題が横たわっている。本科目では、我々の日常生活の中で自然に用いていることばや表現をヒントとし、その中に潜む様々な言語学的な事象を取り上げながら、言語学の基本的な考え方や知識、言語学という学問分野が内包する種々の学問的な観点を紹介していく。我々が何とはなしに使っている「言語」の背景にある様々な問題について、理解を深め、概観を得る事を目標とする。本科目では、ことばについて言語学的な観点から捉え、分析する力の習得と、言語学の基礎的な知識と基本的な考え方の理解を目指す。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	倫理学入門		こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本科目のねらいは、そうした価値について考察しそれを自らの行動に活かすこと、つまり損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことである。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的である。授業では過去の代表的思想を解説し、最後に再び現代の問題（正義論）を考え、格差社会と公正な社会について考察する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	生命と環境の倫理		こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本科目のねらいは、損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことである。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的である。中心テーマは他者をどのように見、扱うべきか、ということである。生命倫理では自己決定がまだできない生命の始まりの段階や終わりの段階では、社会は何を認め、何を認めるべきでないのか、環境倫理では人間以外の種・未来世代・第三世界の権利をどのように尊重するべきか、こうしたことについてを概説する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	社会思想入門		現代社会の変化は、じつにめまぐるしいものがある。しかし人間の社会を根本となるのは、ほかならぬ人間の思想と行動である。本科目では、現代社会を築くうえで礎となった思想の変遷、さまざまな思想的な立場について紹介する。こうして、わたしたちの社会がどこからきてどこへとむかうのかについての手がかりを得てみたい。 ①時代ごとの人間観、社会観を理解して説明できるようにする。 ②思想の変遷を踏まえて現代社会について考察する。 全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」や「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を身に付けることがこの科目の目標になる。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	東洋思想入門		この授業では、中国先秦時代の諸子百家から清代までの代表的な思想を概観するとともに、インドから伝来した仏教や、中国で生まれた道教などの宗教思想を学ぶ。また、日本における中国の思想や文化の受容についても学習していく。 【美の探究】中国思想に関する基礎的な知識を身に付け、自分の言葉で説明できる。 【国際的視野】中国・インド・日本の思想文化交流の歴史を理解し、国際的な視野を涵養する。 【研鑽力】意欲的に授業に参加し、自律的に予習と復習を行うことで、自ら学修を継続する力を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	世界の宗教		宗教学的な視点から、「世界宗教」と言われているキリスト教、イスラム教、仏教を理解し、これらの宗教が現代社会においてどのように現れているかを考察する。現代社会で生活する上での宗教学的な視点を身につけ、キリスト教、イスラム教、仏教といった「宗教」を背景にもつさまざまな文化現象・社会現象を理解し、考えるため各宗教の成り立ち、歴史、伝播や世界宗教としての多様性などの基礎的な知識を習得する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	日本の古典文学		古典文学を毎週１作品ずつ取り上げて、パワーポイントを用いて解説していくので、皆さんは毎回講師の出す「お題」に基づいて、簡単なレポートをmanabaに提出してもらう。 大学生の教養として、これくらいは是非知っておいて欲しいと思われる作品を取り上げる。作品の時代背景を探りながら内容を分析し、世界の古典文学と比較して、日本古典文学の底流に流れる特質について、皆さんと一緒に考えていく。 ①古典文学を楽しむこと ②文学史を理解し、作品と時代背景の関連性を理解できるようになること ③日本の古典文学について、またそこに垣間見られる私たち日本人の特質について、自分の意見を述べられるようになること ④授業の最後では、海外の人に向かって、あなたが一押しの古典文学について、語ってもらうことにする	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	日本の近現代文学		「近現代文学」ということばから想像されるものは何だろうか。夏目漱石・芥川龍之介・三島由紀夫・安部公房・村上春樹―、この想像は正しいものである。しかし、それだけでだろうか。「文学」ということば、その概念はもっと広いもの、より多くのものを指し示すことが出来るのではないだろうか。国語科の教科書には載っていなかった小説、載せられることのなかったジャンル、妙な先入観を押しつけられてしまっている作品。この、いわゆる「文学」からはこぼれ落ちてしまったものもやはり文学作品、日本の近現代文学を支える重要なものである。そういった作品を扱う上で四つのジャンルを設定し、それぞれを丁寧に読んでいく。それによってジャンルの特性、その表現でなければならなかった必然を見つけ出する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	西洋の文学		西洋の文学作品をとおして、欧米の人間観、世界観、自然観、普遍的価値意識の表現を学ぶ。　前半はシェイクスピアの作品群、後半は時代を代表する作家の作品を読解していく。 具体的な人間の直接経験の世界、忘れ去られ、消し去られてしまう〈生の世界〉の愛と悲しみと情熱と喜びを結晶化させている文学作品に照明をあてる。　文学作品の構造、人物像の表現、異なる視点の置き方、社会の持つ勢力と個人の夢想、歴史に深く根ざした人間のありよう、出来事とものの見方の多様性、人間関係、内面に生起する感情、意識の流れ、心理描写、決断や行為に介入してくる非合理的なもの、過去と現在の捉えがたい瞬間、時代の深層にある集合無意識、理性と感性の言葉、メタファー、イメージ、価値観の相剋、未来から投影されるもの、状況の罠にはまった人間の姿、不条理、異化、カタルシス、パロディ、幻影、ユーモア、意味の転換リアリティーの描き方など、文学の中で試みられてきた思考実験のプロセスと語りの技法を辿り、西洋の文学が見出してきた表現形式を読み解いていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	児童文学入門		「昔ばなし」「おとぎ話」「童話」をキーワードに、日本児童文学の始まりを概観する。 初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」の特徴を学び、子どもの物語受容について考察する。次に、日本で初めて子どもに向けて物語が創作された時に注目し、子どもと文学の関係について考察する。 現代の児童文学を考察するために必要な知識や考え方を得ることが目的である。口承文芸である昔ばなしの基礎知識を修得する。 日本児童文学黎明期についての基礎知識を修得する。 これらを修得することにより、児童文学を学ぶ愉しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。 児童文学作品や、児童文学に関する資料を読むことを通じ、人文・社会・自然の中に価値を見いだし、感受性を深める機会となる。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	文化人類学入門		文化人類学とは、世界各地の生活様式・言語・習慣・ものの考え方など文化の比較研究を通して、人間文化の多様性と共通性を理解しようとする学問である。この授業では、文化人類学を学ぶことにより、多文化共生時代を生きるうえで不可欠な、自文化を相対化し異文化を理解する力を身につけることを目指す。 授業では、いくつかのトピックを取り上げ、文化人類学の方法論や世界中の多様な文化について紹介する。学期末にはこれまで学んだテーマのなかから一つを選んで、自ら観察し分析した内容についてレポートにまとめる。これらを通じて、文化人類学的に考察・議論する訓練を行う。 （1）文化人類学の方法論を知る （2）自分たちの「あたりまえ」を相対化する力を修得する （3）異文化を理解し想像する力を修得する （4）文化人類学の考え方を社会にどういかせるのか考える	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	美術の世界		西洋の絵画や彫刻をみて、わからないと思ったことはないだろうか？本授業は、西洋美術史を初めて学ぶ方を対象にした、入門の講義である。西欧の美術は、東洋や日本とは異なる文化基盤や前提から制作されている。そのため、この前提を知らないとわからない、遠い存在になってしまう。しかし、ほんの少しの「ルール」を知るだけで、全く知らない外国語をよく知った言語に翻訳するかのように楽しい身近なものへと変化するはずである。 古代ギリシア美術から20世紀まで時間を追いながら、絵画や彫刻、建築等の代表的作品、時代の特徴を学んでいく。 西洋美術をより深く知るため、ギリシア・ローマ神話や聖書についても学ぶ。神話や聖書は、西洋美術において多く扱われるテーマやエピソードの源泉であるからである。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	音楽の世界		一見、とらえどころのないようなクラシック音楽の世界だが、様々な切り口でアプローチしてみると、それぞれの音楽作品の成立事情が浮かび上がっている。長い歴史の中で、音楽の場やあり方、そして音楽家の役割は、社会の変遷とともに多様化している。クラシック音楽の社会性を理解することは、ヨーロッパの歴史や文化、精神性を学ぶことにもつながっている。 こうした背景をもとに、この授業では、社会と音楽との関わりについて、各回、録音資料で作品を観賞しながら紐解いていく。作品は、時代、国、ジャンルとも、広い範囲を扱うので、クラシック音楽の多彩さを体験できるはずである。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	映像文化論		現在私たちの身の回りにあふれ、当たり前になっている映像を「写真」、「映画」、「現代社会の映像」の３つの観点から考察する。「写真」、「映画」のセクションでは発明から出発し、その様々な発展形式を追う。実際の映像だけでなく、ヴァルター・ベンヤミン、アンドレ・バザン、クリスチャン・メッツ、ロラン・バルト、ロザリンド・クラウス、アンドレ・マルローらによる美術理論を取り入れながら、人間の手によるデッサンや絵画しか存在しなかった時代と比較し、写真、映画が望まれた理由、それらがもたらした知覚の変化について考える。「現代社会の映像」のセクションでは現在に普及する映像を取り上げ、私たちがどのように向き合うべきかについても考察する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	日本の伝統文化		能楽、歌舞伎、文楽などの日本の伝統芸能、および茶道・和食などの生活文化に関する基礎知識や歴史を学ぶ。それぞれの芸能・文化についての概略的な講義とともに、実際の映像などを視聴しそれらを疑似的に体感することを通して、日本の伝統芸能や生活文化に関する基礎的な知識を身につける。授業では、能、狂言、文楽、歌舞伎、落語のそれぞれの歴史と作品、鑑賞方法について学ぶとともに、日本料理の歴史についても学修する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	心理学入門		各種マスメディアの悪影響により心理学を誤解している人がとても多い。心理学は決して読心術ではははなく、またカウンセリングや心理検査ばかりが心理学ではない。この授業では、心理学の各領域において得られている幅広い研究成果を分かりやすく解説し、心理学を学ぶことの意義やその活用方法についての理解を深める。それにより、心理学の基礎的知識が幅広く身につく、人間相互の心の共通性と異質性が理解できるようになる、心を科学的に探求することの面白さ、奥深さ、美しさを知る。、心理学を日常生活に活用することができるようになる。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	人間関係の心理学		私たちは、他者との関わりの中で生きている。たとえば、自分がいかなる人物であるかを認識する作業も、他者との関わりの中で行われる。「人間関係の心理学」では、人間の相互関係や、人間と組織の関係について、実際の社会における事象を取り上げながら解説し、理解を深める。単に心理学の知識を習得するだけではなく、心理学的な視点を理解することを目標とする。 人間関係についての理解を深めることにより、身近な人のみならず、自分と異なった背景や価値観を持つ人との関係を理解・構築する能力の獲得を目指す。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	心の健康		ストレス社会と呼ばれる現代では、心の不調は誰にとっても無縁なものではない。こうした問題から身を守るためには、メンタルヘルスの知識や不調への対処法、必要に応じて受けることのできるケアについて知っておくことが重要といえる。本科目では、臨床心理学の枠組みからストレスをはじめとした心の問題について理解を深め、セルフマネジメントに役立てられるようになることを目指す。ストレスや代表的な精神病理に関する基礎知識、各発達段階で起こりうる心の問題について学ぶ。加えて、いくつかの心理技法を実際に体験し、具体的なストレス・不安・抑うつなどへの対処法を習得していくことも目指す。本科目を通して、自分自身の心の状態を適切に把握して問題に対処する能力、また周囲の他者に対しても必要に応じたケアを行えるような能力を身につけることを目標とする。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	日本のポップカルチャー		日本のポップカルチャーは、映画、演劇、音楽、漫画、アニメ、ゲームなど多岐にわたり、海外からの関心も高く、ポップカルチャーを通じて日本語や日本文化に興味を持ち、日本に対する理解や信頼を深めるための重要なツールのひとつになっている。この科目では、日本のポップカルチャーの多様性を知り、グローバルに展開した日本の大衆文化のありようと国内外における評価について考察する。また、これらの文化を生み出した時代(主に昭和、平成、令和)についての理解を深める。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	ファッションの世界		ファッションとアイデンティティは密接に関わっている。この科目では、絵画やポスター、雑誌、映画・舞台衣装など視覚文化の中のファッションを読み解いていく方法で進める。それぞれの装いを時代背景、地域や社会情勢、芸術の潮流、ジェンダー、年齢、社会階層、宗教などとの関連性と共に説明することによって、ファッションが担う豊かな表現性と多義性について考察し、ファッションが持つ多面性を理解する。	
共通教育科目	教養教育科目	人間を究める	世界のファンタジー		ファンタジーとは、空想や想像力によって作りだされる物語などの創作物を指し、ファンタジーのジャンルは、文学、美術、映画、アニメ、ゲームなどと幅広い。この科目では、世界各国の多彩なファンタジー作品の分析を通して、作品に登場する「異世界」を作品が作られた時代、地域、思想などを考慮に入れながら、批判的に解釈していく。さらに、物語がもつ社会的問題や価値観などと現代社会での問題について考察する。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	地域研究ａ		本科目では、私たちの属している社会とは異なる文化をもった地域社会との比較研究を通して、「地域」と「文化」に迫る。本科目では、主にメコン河流域諸国（タイ・ラオス・ミャンマー・中国雲南省）、東南アジア（インドネシア）と東アジア地域などの諸社会に注目する。本科目では、地域社会の写真・映像・新聞などの様々な資料を使用して、各社会の家族・言語・婚姻・観光など具体的な事例から、「世界観」や「社会生活」の多様性を考察する。これらの作業を通して、世界を複眼的に捉える視点を養うことを目的とする。 １）【態度：国際的視野を養う】世界には多様な価値観や文化が存在していることを知る ２）【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探究】多角的な視野をもって地域社会を捉え、理解する ３）【能力：研鑽力／協働力】文化を相対的に見る視点を養うことで自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける ４）【能力：研鑽力／協働力】課題に対して深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	地域研究ｂ		それぞれの地域の文化や社会は、その地域の自然環境や地理条件、民族などで大きく異なり、そしてこれらは様々な要因によって歴史的に形成されてきた。この授業では、インドについての文化・歴史・社会・地理・民族等を学ぶことを通して、相対的にものごとを考えることを学び、国際的な視野を養う。 　現在、インドは大きく変動している。経済成長は著しく、特に中間層の急激な成長により都市文化は劇的な変化を遂げている。このように目覚ましい発展を続けるインドであるが、一方で社会経済問題が深刻化していることも事実である。この授業では、まず地域研究の重要性について考え、そして、インドの基礎的知識（地理、宗教、言語、周辺地域とのつながり）について学ぶ。これらは歴史的資料や映像資料、音楽など様々な資料を使い、多様で複雑なインドへの理解を深めてもらう。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	食文化論		2013年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、国内外で日本の食べ物・食文化に対する関心が高まっている。 和食の成り立ちは、日本文化の成り立ちと歩を同じくしている。その特色は、外来文化の受容と変容によって形成されてきたことであり、そのような食文化を理解するには、歴史的なアプローチが必須である。 本授業は、教科書を使用し、社会背景、異文化接触の影響に触れながら、時代別に特色ある食文化について概説する。国際化社会の一員として、食を通じた異文化に理解を深め、異文化コミュニケーション力をつける。また、日本の食文化の成り立ちと特徴を知り、自国を理解する助けにする。そして、日本の食文化を他者に伝えられるように、自分で「感じて」「考えて」「伝える」能力を高める。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	衣文化論		「衣＝ファッション」について、フランスや日本を中心に、その歴史を踏まえて、それぞれの時代に表出してきたファッションの社会的・文化的背景について学ぶ。各時代を追いながら、世界各国のファッションの形成過程の特徴や、現代ファッションを捉える上での様々な視点についても学ぶ。 1. フランスを中心とする、各時代のファッションの社会との関連性を理解し、国際的視野を持つことができるようになる。 2. ファッション史上、重要なデザイナー達の活動を通して、歴史に残る製品について学び、ファッションに対する研鑽力を高める。 3. 各時代の様々な事象を通して、知を求め、心の美を育む態度、そして、美を探究する力を付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	生活とデザイン		私たちは生活をおくるうえで情報の多くを視覚から得ている。その情報を整理し、視覚情報に変換し整えるのがグラフィックおよびビジュアルデザインの役割である。現在まで、伝える内容や目的にかなった手法が先人たちにより検討され、あらたな視覚表現として定着してきた。 そのために、情報の発信者は人々の興味を引き、正しく伝え、記憶に残るビジュアルの制作につとめている。そして、流行やコミュニティーの慣習を取り入れるなど様々な工夫をし、円滑なビジュアルコミュニケーションを成立させている。この授業では日常成果活におけるこうした視覚伝達を目的としたデザイン表現を中心に、国内外の事例を通して、視覚を通したデザインに対する理解を深める。事例を通じ、ビジュアルコミュニケーションの手法が理解できるようになる。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	社会とデザイン		デザインは、色や形など見た目を考えることだけではない。様々な物事をどのように認識させたいか、機能させたいかなどを計画・設計することこそが本来のデザインである。現代では社会やビジネスもデザインの対象となっており、モノやコトに新たな意味や価値を見出し、組織や社会をより良い方向に導くための手段として重要視されている。本科目では、何が、どのような意図で、どのようにデザインされているのか、様々な物事や出来事のデザインについて考察し、社会におけるデザインの役割について理解を深める。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	メディア論		本科目は、メディア社会への理解を深めるために、伝統的なメディアの発達史を系譜的に抑えつつ、それらがネットによってどのように変化しつつあるかについて、理論的／実証的に講義をおこなう。 とりわけ、メディア産業論の観点から「新聞」「放送」「雑誌」「映画」「音楽」などの伝統的なメディア作用と、「ネットメディア」への展開や再組織化について理解を深めることが本授業の目的である。既存のメディアがどのように今日の社会観や人間観、そしてライフスタイルを成立させ、さらに伝統メディアやネットメディアを再構成してきたのかが重要なテーマである。これらに基づいて「メディアを系譜的かつ実践的に理解する」ことが本授業の到達目標である。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	サブカルチャー論		1980年代から「サブカルチャー」ということばが一般化する。日本では「サブカル」と省略され、アニメやアイドルなどに代表される「オタク文化」と同一視されるようになる。さらに、それは音楽やファッションなどの他分野にも広がる。 けれど、日本と海外とでは、「サブカルチャー」の意味合いが大きく異なる。この授業では、多様な事例・素材に触れながら、グローバルな視点から学んでいく。 そうして、今日の社会と文化のあり方に気づくとともに、そこに生きる「わたしたち自身」を理解する手がかりを求めていく。　一見「くだらない」とされるものも、人々の営みの所産であり価値あるものだということを理解できるようにする。そうして、欧米と日本との比較を中心に、さまざまな時代のさまざまな「くだらないモノゴト」の事例を知ることで、国際的な視野と多面的な学びのための研鑽力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	教育学		授業の概要は「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。授業では、教育原理、教育の意義、現代の教育問題など広範囲に渡って概説する。 本授業の目的は、教育の起源、発達と教育、幼児教育、偉大な教育学者などを主要なテーマとする。また海外の教育の事例やエピソードなどをふまえ、国際的な視点を習熟し、「モンスターペアレント」「いじめ問題」など現代の教育問題について講義する。そのため、教育に関する知識を深め、将来の社会人、保護者として求められる教育について理解することとする。また教職に就きたい学生、教職に就くか検討している学生、今まで自分が受けてきた教育を振り返りたい学生など、何らかの形で教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	日本国憲法		日本国憲法が保障する基本原理（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）とはどのようなものか。本科目では、とりわけ、基本的人権（法の下の平等、幸福権、表現の自由、職業選択の自由、生存権などの社会権、人身の自由など）を中心に学んでいきたい。また、関連するビデオを鑑賞して憲法について考えてもらう。基本的人権について理解し、さまざま社会問題を人権規定から考察し課題を発見する力を修得する。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	法学入門		本科目では、「法」の特質・目的・形式・効力・解釈・運用などについて学び、わたしたち国民の生活を規律する「法」について理解できるようにする。 授業においては、法と道徳の違いや関わり、法の安定性、成文法と不文法、法の効力の範囲と根拠、法の解釈という「法」の基本概念を学ぶ。そのうえで、具体的な事例として、相続問題を取り上げ、相続という事象と現在の法がどのように定められており、どのように適用されるのかを事例をもとに考える。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	日本の政治		概要：日本の政治の仕組み、とくに、日本国憲法が定める政治制度（国会、内閣、司法、財政など）について学ぶ。 目的：日本の政治の仕組み（政治制度）をまなぶことにより、政治に関する基本的な知識と思考方法を身につける。 到達目標：日本の政治の仕組みに関する基本的知識と思考方法を理解できるようになる。　ディプロマポリシーとの関連：学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	国際政治の基礎		本科目では国際政治学の基礎知識を学び、実際の国際社会で起きている国際政治の主要な問題を理解することを目的とする。流動的で複雑化した現在の国際社会をより深く理解するためには、体系的に国際政治学を理解する必要がある。講義を通して現代社会においては国家間関係のみで国際社会が成り立っているのではなく、その他様々な行為主体が存在していることを理解していく。そのためにはまず国際政治理論を通して国際政治の基礎概念を学ぶ。次にその基礎概念を基に国際社会の現状を歴史・地域・新たな問題群（グローバル・イシュー）を通して考えていく。講義の際には現在起きている国際政治上の出来事を新聞やメディアを通して理解することも取り入れていきたい。そして最終的に本科目を通して国際政治は決して私たちから遠くはなれた場所で行われているのではなく、日々の私たちの生活も国際社会から影響を受けまた逆もありうるのだということを理解してもらいたい。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	日本の経済		日常の家庭生活から世界経済に拡がる「経済の諸問題」を考えていく。特に、コロナ禍の経済、社会問題を扱うことによって、経済学や日本経済史も学ぶ。可能な限り、動画や新聞記事などを活用する。 内容は、コロナ下の財政や社会はどうなっていくのか、急速に変化する環境問題、グローバル化・税制・企業の在り方・労働・生命倫理・社会保障・企業倫理、ジェンダーなどである。そこから日本経済の現状と在り方を考えていく。 キーワードは、持続可能性、稀少性、限定合理性、効率、正義、幸福、エージェンシー（行為主体性）などである。(1)経済社会問題に内包する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。 (2)社会経済問題に対して、経済学的側面のほか人文社会諸科学を基盤とした概念の習得と手順を踏んだ問題解決ができる。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	国際経済の基礎		私たちを取りまく経済活動は、様々な国や地域とのやりとりの中で成り立っている。国際的なやりとりの中で日本はどのような状況におかれているのだろうか。また、様々な資源を輸入する企業、製品を輸出する企業はどのような課題に直面しているのだろうか。TPPやフェアトレード、環境問題など、いくつかのトピックスを扱いながら、国際経済について考えいく。 本科目の前半では、簡単なグラフを使って経済や貿易のしくみを説明する。また、交換のメリットを考えるために、経済実験（グループワーク）をする。そして、後半は現代の国際経済が直面している様々な状況を説明し、課題や解決策について考える。講義を通して、国際経済の基礎知識や考え方を身につけることが目標である。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	日本史		本科目では日本の文化や社会について通史的に扱い、過去の人々が取り巻かれていた社会環境を具体的に把握し、さらにはその中で彼ら（彼女）たちがどのように主体的に行動し、新たな文化を模索していたのかを考察する。授業では、縄文・弥生・古墳時代、平安京建設、鎌倉時代、室町将軍の朝貢と唐物、応仁の乱から戦国時代、江戸時代（人と動物、在村文化）、明治期の衣装改革、大正・昭和期の生活を日本史を通史で見極めながら、当該時代の生活・文化を現代文化と比較しつつ考察する。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	西洋史		現在の社会や文化は、過去の社会や文化、人間や自然の活動と切り離せるものではなく、過去の蓄積の上に成り立っている。この科目では欧米を中心とした西洋諸国の文化や社会について通史的に扱い、世界を歴史的な視点から捉えるための基礎的な知識と考え方を学ぶ。多様な価値観を持つ人々と共生し、相互理解を深めるために、国際社会で活躍する際に必要な歴史の知識を修得し、国際的視野を培い、行動する力を身につける。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	東洋史		アジアの歴史について、さまざまな時代・地域・分野の問題をとりあげる。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事などの日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史とその歴史を通じて形成されてきた多様な文化への理解を深め視野をひろげること、史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるように、講義をしていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	地理学		本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解に基づく行動力をつけること」である。グローバル化が進む現代社会において、人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず地域の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地域の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、地域の課題解決のために主体的に行動する力を養う。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	社会学入門		社会とは、言葉を通じ人々やモノが相互に関わり合い、分離する軌跡が織りなす場である。 現在わたしたちが直面しているコロナ禍という危機は、その変化ゆえに、かえって当たり前とされていた、社会の有様を浮き彫りにした。 コロナ禍において生じた社会現象を素材に、社会学の基本的な発想法の講義を通じ、現代社会を理解することを目指す。　社会学の基本的発想（複眼的思考、情報の視覚化スキルなど）を身につけることで、以下の態度および力の修得を目指す。 「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。「美の探究」のうち、情報を他者に分かりやすく伝えるための視覚化スキルを修得できる。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	社会保障論		私たちの気がつかないところで、社会保障制度は機能している。病気になって受診する場合、皆さんは保険証を持って病院に行く。医療保険制度は、いちばん身近な社会保障制度である。また、選挙時には例外なく、社会保障の充実が公約に取り上げられる。他昨今話題の年金制度、雇用保険、労災保険や介護保険等の社会保険制度は、私たちの日常生活維持にも深く関わっている。講義ではこれらわが国の社会保障制度を取り上げるとともに、生命保険、損害保険等の民間保険分野との関連性も含め、民主主義社会の根幹をなす制度の一つである社会保障制度を概観していくこととする。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	日常生活と法		本科目では、私たちの生活に法がどのようにかかわり、どのように法で守られているのかを公法、私法、社会法の観点から学び知識を習得する。 まず、契約社会の仕組みと法的な観点からの注意点を学ぶ。また、アルバイトを含めて気持ち良く働き続けるための基礎知識を労働法を通じて学ぶ。 つぎに、結婚について、婚姻に伴う法的なルールを学ぶ。さらに、健康と高齢化について社会保障法を通じて学ぶ。加えて、生活設計と生活上のトラブルを、犯罪という観点から法的に学ぶ。 折に触れ、テーマごとに、他国の法的状況についても学ぶ。	
共通教育科目	教養教育科目	社会を捉える	金融リテラシー入門		金融リテラシーとは、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要なお金に関する知識や判断力のことである。20代前半は、クレジットカードの利用、奨学金の活用、国民年金の加入、確定拠出年金の選択など、生涯にわたるオカネとの付き合いのすべてが一斉に始まる時期である。オカネの管理、預貯金、運用や借入など幅広く大学生の金融リテラシーを育成し、ライフステージの場面場面で適切な判断を行えるようにする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	数学的思考		＜オムニバス方式クラス＞ （概要） 社会人になると「判断」や「交渉」はつきものである。仕事での交渉や判断は、直感や感性といった主観に頼るのではなく、筋道を立てて物事を考えた客観的・説得的なものが求められる。これは天賦の才能、ではなく、スキルskillである。そのため、ある程度、トレーニングによって誰でも習得できる。それをこの授業で実施する。数字に対してアレルギーが少ない態度は、就職活動で大きなポイントになるはずである。本科目を受講することで、理解を深めて、数学的センスを磨いていく。 （オムニバス方式／14回） （32 高橋桂子／5回） ウオーミングアップを担当する。具体的には基礎的な計算力、図形問題に始まり、パズル問題や図表の読み取り。SPIの問題ではPPTを使ったフラッシュカードによる作問課題である。PPTのskillも一緒に磨く。 （169 畑農鋭矢／4回） 統計学の基礎、データ分析入門（種類・入手方法、利用上の注意）、関係性（相関・散布図・単回帰、対数・弾力性）、データの加工（時系列・パネルデータ、ダミー変数）＋小テスト （19 角本伸晃／5回） 整数問題、図形問題、価格の持つマジック（行動経済学の紹介） ＜通常クラス：49　渡辺敏／14回＞ 本科目のテーマは数学的思考である、「割合の見方」、「関数の見方」「平面図形、立体図形の見方（空間認知）」、「図を用いた思考法」等の見方や考え方を数や図形の具体的な活動を通して身に付ける。この講義ではこのような見方考え方を「物差し」と呼び、自分の中に新たなものの見方、考え方としての「物差し」が身につくことをねらう。そして、日常的に求められる意思決定や判断に対して直観や感性に頼ることなく、より論理的・客観的・総合的な判断を考えることができるようになることを目標とする。このような思考方法を身に付けることにより、自分の判断に自信が持て、積極的に社会の問題に関わろうとすることができるようになる。	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	統計的思考		AIやIoTがますます社会に普及し、データを活用する力が社会として必要とされている。このことは、産業界はもちろんのこと、これまでの学校教育でも毎学年で学ぶほど、重要視されている。本科目ではこれまでの学び直しも含めながら、数式をなるべくさけ、実際に体験しながら、統計概念の理解を目指す。特にだまされないための雑誌や新聞記事、論文等の社会学的な統計図表（グラフ等）を読み解く力を身に付け、統計的なデータに基づいた意思決定を目指す。社会人としてデータに基づく意思決定を行う際のデータを読み取る力などの【研鑽力】、データを用いた情報発信力などの【行動力】、統計的リテラシーの修得を目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	くらしの化学		（概要） 私たちの生活の中の身近な現象、物質、科学技術にかかわる化学物質をとりあげて、物質の分子構造や化学的特性が物質の機能性や生体影響（有効性、毒性）などの現象、さらには、環境問題、社会問題、経済活動に密接に関係していることを学ぶ。また、日常製品を購入・使用するときの商品選択の基礎知識になることも取り上げる。食品、金属、プラスチック、繊維などのテーマを歴史的な視点も交えながら扱う。 （オムニバス方式／全14回） （9 加藤木秀章／6回） 化学繊維の概説、衣服の染色、衣服の洗浄と界面活性剤 日常生活で使われるプラスチックの種類、身近な生活用品 (金属・プラスチック製品) （45 山﨑壮／8回） 食の化学、環境の化学、 ライフサイエンスの化学、工業製品の化学 （オムニバス方式／全14回） （9 加藤木秀章／3回） 化学繊維の概説、化学繊維で作られた衣服、衣服の染色 （45 山﨑壮／5回） 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品、身近な医薬品の適切な選び方・使い方と医薬品が働くしくみ、食物アレルギー発症メカニズムを分子レベルで考える、皮膚の科学とスキンケア化粧品、メーク化粧品の技術開発とマーケティング （36 中村彰男／3回） 儲かる水商売の秘密、鉱物結晶と宝石の世界、天然毒の上手な使い方 （30 杉山靖正／3回） 食べ物の色の化学、食べ物の味の科学、食べ物の機能の科学	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	くらしの人間工学		日常生活の中で、私たちは、モノを使っている。モノには、手袋や被服のように日本人向けに作られたサイズがあるものから、自動車やスマートホンの様に世界中で使われるものまである。モノづくりに関わる技術や人間行動を理解することで、私たちの暮らしがより安全で快適であることを理解していく。さらに、わかりやすいデザインや仕組みは、世界標準ではない場合もあある。それぞれのライフスタイルにあった、くらしを支えるデザインや人間行動について考えることで、広く人間生活をとらえることを目標とする。自動車や家電製品なども例にあげて、電子レンジや洗濯機のスイッチ等の位置関係や色などでのインターフェースの構成についても具体的に学ぶ。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	生活環境の科学		＜オムニバス方式クラス＞ （概要） 　れわれの日常生活が生活環境と共存することで成立していることを、自然科学と社会科学の観点から多面的・複合的に捉える。環境デザイン学科の専任教員が、それぞれのバックグランドを反映した授業内容で講義を行う。学修を通じて、広い視野と深い洞察力を身につける。また、多様性を受容し、多角的な視点から世界を眺める態度を身につける。 （オムニバス方式／14回） （3 佐藤健／2回）オリエンテーション・マナバの利用方法、まとめ （9 加藤木秀章／1回）デジタルと材料 （4 塩原みゆき／1回）循環型社会をめざす （10 滝澤愛／1回）ファッションデザインとトレンド （2 大川知子／2回）アパレル製品の生産の現状、ファッションと環境問題 （63 小川ゆか／1回）ファッションを通じたコミュニケーション （1 安齋利典／2回）デザインがデザインになった時、デザインと創造的思考 （8 一色ヒロタカ／1回）デザインで社会へアプローチする （5 橘弘志 ／1回）都市の計画と環境　～新たな街のつくりかた （7 槙究／1回）より良い生活空間を目指して　環境心理的なアプローチ （6 内藤将俊 ／1回）そこで生まれる行為から考える生活空間 〈通常クラス：82 市川薫／14回　〉 　生きものや生態系の理解には複数の回答があることが当たり前と考えられている。主に渋谷キャンパスで学ぶ文系の皆さんにも、自然や生きものの多様な視点や発想を理解してもらいたいと願って授業を進める。映像を中心にしながら、身の周りの自然を守る考え方や努力の実例について考え、我々でもできる取組みについて具体的に考えていく。文系でも理解できるように、少しでも自然環境や生きものの生活を理解して下さることを目指して展開していく。なお映像の殆どは私が撮影したもので、借用の場合はその旨を断ってから使用する。　数学や化学では解答が一つになることが基本だが、生物学や生態学では正解は決して一つではないという多様な視点で物事を見ていく必要がある。受講生の皆さんにも多面的な見方ができるように、また自己の研鑽力を身に付け、柔軟な発想力を持てるようになるのがこの科目の目標である。	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	生命の科学		「生命とは何か」という問いは、古くから人類が問い続けてきたテーマである。現代では、遺伝子や細胞を構成する分子の理解が進み、生命現象も物理学や化学の原理で成り立っていることや、多数の構成要素がシステムとして振る舞うことで生命のしくみが築かれていることが解き明かされてきた。生命科学を学ぶことは、健康長寿、再生医療、食料生産、エネルギー資源、地球環境、などの諸問題を理解し、地球市民として豊かな生活や持続可能な社会を支えていくために大切であり、人類の未来を考える上で切り離せない。 １．生命の成り立ちを学び、生物の特性を理解する。 ２．生命の最小単位である細胞の構造と機能、増殖のしくみを理解する。 ３．生物進化のしくみと生物多様性について理解する。 ４．バイオテクノロジーと生命倫理に関する問題を認識する。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	身体の科学		私たちの体や心の活動は、どのように営まれているのだろうか？身体の構造と機能やその調節の仕方、更にはそれらが不調になった状態を学ぶ事で、私たち自身の身体について理解を深め健康で安全な生活を送れるようにする。 ①身体について、興味を持つ。 ②生命の維持に働く仕組みを、理解する。 ③生命を維持する仕組みが作り出す、普遍的機能美に気づく。 ④生命維持機能の一つの例について、自分の言葉で説明できる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	宇宙の科学		宇宙を知るために、宇宙物理学、天文学の知識が必要であり、物理学と天文学を中心に学ぶ。物理学と聞くと、日常生活や自分の成り立ちとは無関係なものと思いがちである。しかし、それは早計である。物理学は、私たちが住んでいる世界を理解するために必須なものである。 天文学は最古の学問と呼ばれ、また私たちの住む世界を取扱い、宇宙観を醸成する学問である。天文学の知見から、物理学も誕生し育ってきた。この授業では、天文学のさまざまなトピックスに触れ、天文学がどのように進歩してきたか、私たちはどのような世界に住んでいるかを概観する。宇宙や天体で起きていることを知り、物理的に理解する。学んだ内容を基に、自分の世界観・宇宙観を構築する。天文学に関して、自分の考えを文章などを通じて表現する。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	地球と環境の科学		持続可能な社会に関する科学の基礎として、気候変動、生物多様性、ゴミ・廃棄物、水・大気汚染といった主たる環境問題について概説をする。　社会を持続可能なものにするための科学の基礎について、“自分の言葉”で他人に説明できる様にするための自然科学の基礎概念と考え方を体得するとともに、現在起こっている環境問題について正確に把握し、その解決に向けて必要な方策を主体的に検討・抽出できる様な能力を養成する。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	科学技術と人間		科学技術は普段の生活の向上と人類全体の福祉に貢献する一方、時にその存在価値と相反するように社会的問題を引き起こす。この授業では、科学と技術、人間社会との関わりの有り様を歴史的に辿り、それから現代社会やわれわれの生活と密接に結びついた科学技術にまつわる問題をテーマ別に取り上げる。ひいては未来社会における科学技術と人間とのより良い関係を探究する。・科学と社会の相互関係の変遷を辿ることを通して、過去から今日に至るまでの人間社会の発展の足跡を学ぶ。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	農業と食料		食料は人間の生存に不可欠であり、その多くを生産する産業が農業である。さらに農業は自然に働きかける営みであり、持続的な食料生産・生活の維持の観点で私たちが快適に暮らす基礎となる水や土地などの環境や資源とも深く結びついている。 本授業では、これら「食料・農業・環境」と、人間・社会とのかかわりあいの一端にアプローチする。食料・農業の歴史的変遷と国際的差異ならびに現代の農業が直面する問題の背景と枠組みを総合的に理解することを目的とする。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	バイオの世界		生命科学の新知見はすぐに技術として社会に応用され、日常生活に結びつくようになった。本科目ではヒトの生命科学、遺伝子発現、遺伝子操作技術の基礎知識を概観するとともに、バイオテクノロジーの産業利用や生命科学技術の医療への応用、それらが社会に与える影響と生命倫理問題などに関するトピックスをとりあげ、そうした技術の社会的影響について考察する。日常生活のいろいろなところで利用されるバイオテクノロジー技術を科学的に理解し、恩恵とリスクを判断する姿勢を身につける。	
共通教育科目	教養教育科目	自然と環境を探る	防災の科学		現在、日本国内で発生（又は発生が予想されている）地震、津波、火山噴火、台風、集中豪雨、洪水、土砂崩れ、大雪など、さまざまな自然災害が大きな社会問題になっている。これらの自然災害を科学的に理解するとともに、それらの災害から人命を守り、災害に強い社会を実現するための防災・減災への取り組みから復旧・復興のあり方などを、自然科学、社会科学、行政や社会制度の観点から、多面的・複合的に捉える。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	身体運動の科学ａ		利便性・省力化の進む現代社会の中で、「健康」について心身両面からの理解を深め、運動に対する生体の応答や適応システムといった自らの身体を具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。さらに、身体活動や運動を生活の中に取り入れ、実践できる能力を培うことを目的として、本授業を通じて継続的な運動習慣の獲得に繋げられることを期待する。 ・基本的な身体の構造や運動にかかわる基礎的知識を修得する。 ・身体と運動の関係を理解することにより、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための「研鑽力」を身に付ける ・学習した内容を日常生活に活かし、体現することで「行動力」を身に付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	身体運動の科学ｂ		日本は世界で1、2位を争う長寿国ではあるものの、現代社会の利便性や身体活動量の減少傾向は健康の維持・増進を妨げる要因の一つとなっている。そこで、本授業では身体活動と健康との関係について正しく理解し、各ライフステージにおける身体活動・運動の意味について考えることを目的とする。発育・発達と運動能力の関係や女性と運動の関係について理解を深め、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための実践力を培うとともに、家族や他者への働きかけといった行動力の獲得を目指す。 ・各ライフステージにおける運動とからだの関係について正しく理解する。 ・身体活動の充実を目標とした生活習慣の獲得に繋げられるように「研鑽力」を身に付けるとともに、学習した内容を日常生活に活かし、体現することで「行動力」「実践力」を身に付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	スポーツ文化論		本科目では、スポーツという文化現象を、哲学的、政治的、経済的、歴史・社会史的視点から広範に考察し、スポーツ文化について「考える」ことで、スポーツをなんとなく「良いもの」として受け入れてしまう態度を一旦停止する。その上で、スポーツのあるべき姿はどのようなものかを模索し、その文化的発展に寄与しうる批判能力を養うことを目標として授業を行う。スポーツという文化の独自の価値を知り、日本のスポーツ界の現状を学ぶことで、これからのスポーツのあり方を模索し、私たちひとりひとりが東京オリンピック・パリランピックを通じて社会にどのようなメッセージを伝えていくべきなのか創造的に取り組む態度を養う。 また、自然科学、社会科学、人文科学、それぞれの視点から総合的にスポーツを分析する洞察力を身につける。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	健康運動実習ａ		ヨーガ初心者のためのクラスである。４千年にわたるヨーガに関する基礎的な歴史・哲学と、生理学・解剖学的な知識を獲得する。心の三原色をコントロールするための腹式呼吸を実践し、１２の基礎的なポーズを連動させながら、身体各部の緊張と弛緩を繰り返し、意識的に身体感覚を見つめる。それによって、完全にリラックスしたポジティブな心の状態へと導き、学力向上のための集中力の強化を目指す。ヨーガの本質を学び、からだの構造を知り、各体位法を実践することによって、自分の体調を管理し、美しく生きることを掘り下げる自主的な態度を養う。瞑想を通じてマインドフルネスの技術を獲得し、環境に左右されずに信念をもって選択し行動する態度を養う。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	健康運動実習ｂ		本授業では、生涯健康に過ごすための身体作りをテーマに、運動の特性や効果について学び、運動を実施することによる健康・体力の向上を体験的に学ぶとともに、各種の測定技術の習得と測定結果の分析といった運動処方の基礎を学ぶ。 具体的には体力測定を行い、測定方法や測定結果の分析を行う。また姿勢の測定やトレーニングについても学び、自分にあったトレーニングメニュー作りを行い、実践する。体力測定を通して自分自身の体力・運動能力をきちんと把握し、今後健康な身体で生活していくための計画を立て、行動する。また健康を維持していくための運動にはどのようなものが必要なのかを知り、トレーニングについての理論を学び、自分自身にあったトレーニング計画を立案し、実行することが出来るようになる。また、様々な種類の運動実践方法を体験する。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	基礎スポーツ実習ａ		本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習する。数種類のスポーツを取り上げ、仲間とともに運動することの楽しさを通してコミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身に着けることを目標とする。さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自己や他者の役割を理解し、互いに協力しあうコミュニケーション力や「協働力」の修得を目指す。また、生涯スポーツとして継続できるよう、ライフステージに合わせたスポーツ活動への応用などを考えることにより、「研鑽力」を身に付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	基礎スポーツ実習ｂ		本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習する。屋外・屋内のスポーツを通して、コミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身につけることを目標とする。さまざまなスポーツの実践を通して、各自のライフステージに合わせたスポーツ活動の継続に向けた応用力を高めることで、「研鑽力」の修得を目指す。また、各種目の基本的な技術を身に付け、自己や他者の役割を理解し、互いに協力し合うことで「協働力」やコミュニケーション力を身に付ける。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	基礎スポーツ実習ｃ		いろいろなダンス・エクササイズの実践を通して、からだを動かす楽しさを感じ、美しい姿勢や人間の多様な動きについて考え、基本動作の体得・習熟に努めるとともに、非言語コミュニケーション能力を高め、生涯を健康で豊かに過ごすための有用な知識と実践力を身につけることを本授業の主題とする。 ①自分のからだに気づき、こころとからだの調整ができ、仲間との交流ができる。 ②健康で豊かに過ごすための有用な知識と実践力を身につけることができる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	基礎スポーツ実習ｄ		実践女子大学に於けるなぎなたの歴史と全日本なぎなた連盟の歴史的背景を考慮し、なぎなたの特性を学び、正確な基本技を修得する。最終授業にて審査を受けることができ、合格者は全日本なぎなた連盟の「級位」を取得することができる。 日本の伝統文化「武道」を通して礼儀作法を学び、心・技・体を鍛えることができる。 ①態度…日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度を習得できる。 ②能力…自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	健康体力科学演習		健康的な生活を維持するために、身体活動は必要であると考えるが、「運動・スポーツ」が苦手であったり経験が少なく習慣化されていない人もいるのが現状である。 本授業では、実施する運動の運動強度や運動量についての理解を深めるとともに、各自が設定した目標に向けて継続的に運動を実施し、その成果の分析を通して運動処方の基礎を学習する。体力や日常の活動状況について分析し、各自の目的に合わせた身体づくり（運動不足対策、健康的なダイエット、体力アップなど）、日常生活における運動習慣づくりを目指す。毎時間の活動状況を記録することにより、自分の健康や体力の現状を正しく把握し、各自の目的や状況にあった運動プログラムを作成し、実践する「行動力」の修得を目指す。	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	ヘルスプロモーション実践実習ａ		自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理できるようにすることを主題とする。 ①基本の動きを習得することができる ②目標を設定し、計画を立案・実行できる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	ヘルスプロモーション実践実習ｂ		自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、その運動効果についても他者と共有できる程度のヘルスリテラシーを身につけられるようにする。大学時代は健康管理の自立が促される時期である。健康への知識を深め、実用性に富んだ健康運動の実施方法を身につけ、仲間や家族、社会にも目を向けながら生涯にわたり自分で健康管理できるようにすることを主題とする。 ①健康に関する情報を精査し、自らの健康やその決定要因をコントロール、改善できる実践力を身につけることができる ②目標を設定し、計画を立案・実行できる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる	
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	アダプテッドスポーツ		障がいを持つ人は全国に約936万人、国民の7%以上が何らかの障がいを抱えているという現代社会において、障がいがあるもしくは支援を必要とする人が身近な存在であるにもかかわらず、社会の理解はいまだ十分であるとは言えない状況である。2020年東京パラリンピックをきっかけに、どのような「障がい」があっても、その人に合ったスポーツ活動を展開することで、さまざまなチャレンジが可能となり、社会や他者との交流へと発展させることができると思われる。そのための「アダプテッド」な視点を理解し、体験することで障害などがある人やその人を取り巻く環境の理解を深めるとともに、自らの体力や運動能力に合わせた運動実施を通じて健康増進に繋げることを目標とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	健康な体を創る	スポーツ応用科学実習		出来る限り、競技能力の向上を目指す。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でもが簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。そんなことから、本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座ａ		代表的な伝統文化の講義を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事を目標に学習する。 （１）伝統文化と精神を理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。 （２）伝統文化の体験を通じて、物事の真理を探究する態度を深め、他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め、国内外の人々との交流を通じ世界に発進する力をつける。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座ｂ		日本の芸術から、文学・仏像・建築という３つの分野を取り上げ、それらが成立した文化的背景や特色、魅力等について学び、語れるようになることを目標とする。３名の講師が講義するほか、縁のある土地に出向き、その芸術・文化に触れる旅に参加することで、経験による深い理解をめざす。 ・日本の文学とその文化的背景について語れるようになる。 ・日本における仏像の時代ごとの特色と歴史的変遷について語れるようになる。 ・日本の建築・庭園・都市の特色を西欧の建築との対比で位置づけると共に、歴史的変遷について語れるようになる。 ・それぞれの芸術に魅力を見い出し、自身の言葉で語れるようになる。 以上の目標を達成することにより、国際的視野と研鑽力および美を探究する力を身に付ける。	共同
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座ｃ		（概要） 開発と発展により暮らしが便利になる一方、世界と地球は貧困、飢餓、気候変動、エネルギー、健康、福祉、教育、産業、陸と海の豊かさ、ジェンダーなど様々な問題を抱えている。これらを解決する目標であるSDGsについて学び、国や地域、自治体、企業での取り組みと、現状、そして私たち一人ひとりに何ができ、何をしなければいけないかを考える。 （オムニバス方式／全１４回） （29 白尾美佳／2回）　世界の食料生産と栄養 （21 佐々木渓円／2回）　COVID-19だけが重要な感染症ではありません （3 佐藤健／2回）　プラスチックと人体、100歳までウォーキング （9 加藤木秀章／2回）　生活における材料と数値、繊維と環境 （25 塩川宏郷／2回）　東ティモールの女性と子ども （47 大澤朋子／1回）　女性の貧困と人権 （49 倉持一／3回）　クリーンなエネルギーをみんなに－カーボンニュートラルの実現に向けた世界の動きと企業の取組み－、企業の行動変容を促すための生活者の役割、気候変動に具体的な対策を－世界と企業の新たな動き－	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座ｄ		120年余りの歴史を持つ実践女子学園は、いつどのように設立され、どのように発展してきたか。また、これからどのように新たな時代を切り開いていくべきか。この授業では、①創立者下田歌子の歩みと本学の歴史をたどるとともに、②本学が果たしてきた役割とこれからのミッションについて考える。そしてそれを通して、③学生自身が大学生活と卒業後のキャリアについて考える授業にする。 （オムニバス方式／全14回） （39　難波雅紀／1回） 大学でいかに学ぶか （58 久保貴子／5回） 実践の歴史－下田歌子の時代 （41 広井多鶴子／6回） 実践の歴史－女子大学の構想と戦後教育改革、男女共同参画時代の女子大学 実践での学び－女性の社会進出と女子大学 実践のミッション－卒業生が築いてきたもの （62 柳田亮吾／1回） 実践での学び－ことばについて学ぶことの意義 （35 武内一良／1回） 実践での学び－グローバル時代の女性に求められもの	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座ｅ		コンピュータやネットワークを用いたデータサイエンス作業を体験する科目である。コンピュータのやネットワーク（特に、インターネット）の仕組みを理解し、そのうえで、具体例として、①Webサイトの作成、②Webアンケート収集、③その結果の分析、④結果のプレゼンテーション、の一連の作業を個々の学生が行う。その後、結果の分析手法として、どのような統計手法、機械学習手法が適切であったかを全員で議論し、必要に応じて適切な手法で再分析してみる。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座f		コロナ禍を体験している今、「生きにくさ」を抱えている人は、決して少なくない。特に、若年者の生きにくさは、深刻ではないだろうか。それはしばしばその人個人の不器用さなど、個人的な責任とされがちだが、実は、大きな構造の中で起きていると私は考えている。コロナ禍の中で、そのことが前面に出てきている印象がある。 　これまでルポライターとして書いてきた著書や取材活動などをもとに、なぜ、私がそのように考えるように至ったのかを伝えるとともに、学生のみなさんにも、自身の日常の中にある現代社会の「生きにくさ」について考えていく。 現代社会の「生きにくさ」に関する様々な現象や事例について、具体的な事例を通じて考えることによって、社会を理解し、分析し、評価する力を身につけることができるようになる。さらに、自分自身を客観的に見る力を得て、過剰に「生きにくさ」とらわれずに生きる力を養う。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座g		将来社会に出て自立・自営していくためには、社会の状況を理解し、その状況に対して流されずに判断できる意見をもつことが大事である。この授業では、社会の中で起きている、話題となっているさまざまなトピックを取り上げ、現代の社会で何が起きているのか、その意味や背景について考えていく。自分でそのような出来事について調べ、討論を通して、そこから自分なりの視点を見出していくことを目指す。・授業で取り上げたトピック（時事問題）の内容について理解できるようになる。 ・それぞれのトピックの背景にある現代の社会的状況について、興味と批判的視点をもって探求するようになる。 ・議論を通してさまざまな考え方に触れるとともに、自分なりの視点を確立できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座h		（概要） 映画は一つの作品であり、そこには映画を作る側の意図や思想が組み込まれているが、同時に作られた時代や社会も色濃く反映している。この授業では、専門分野の異なる５人の教員がそれぞれ関心のある映画を取り上げ、それを題材にして映画に描かれた文学作品や時代、社会を読み解いていく。 （オムニバス方式／全14回） （59 神山静香／2回） 映画で考える社会・ビジネスと法 （24 椎原伸博／3回） パリ映画という視点 （44 ﾌﾞﾙﾅ,ﾙｶｰｼｭ/3回） ジャポニズムと映画 （15 稲垣伸一／3回） 映画の中の19世紀アメリカ （22 佐々木真理／3回） 映画の中のアメリカ	オムニバス方式
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	実践教養講座i		（概要） 食に関連して広い視野と多角的な視点をもって知識と教養を深める科目である。 食と健康について、食のおいしさ、楽しさ、健康に必要な栄養、食の安全と安心、特種な食品や成分の機能と健康性、食にまつわる問題や社会的な課題など、最新のまた身近なテーマを中心にトピックスを学修する。　食と健康についての様々な情報があるなか、「学術的に正しい解釈」をし、真偽を見極めるとともに、身の回りの事象について適切な判断をして対応できる能力、また、第三者に対しても正しい情報を伝えることができる能力を養う。 ディプロマポリシーの中の、①美の探究：物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。②研鑽力：広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。食に関する幅広い知識を修得する。 （オムニバス方式／全14回） （36 中村彰男／2回） がんは食事で予防できるのか？ ゲノム編集食品の裏側に潜むデザイナーベビー問題 （45 山﨑壮／2回） お菓子作りに欠かせない卵パワーを科学する 健康食品は効くのか、その利用のしかたを考える （30 杉山靖正／2回） 体によい食品成分とは （38 奈良一寛／2回） 農産物の生理学「貯蔵すると食品成分はどうなるの？」 （17 於保祐子／2回） 栄養と子供の成長・発達 蛋白質・ミネラル・ビタミンと強い骨 （23 佐藤幸子／1回） 美味しさの科学：「美味しい料理とは！」 （21 佐々木渓円／1回） 小児の食物アレルギー （51 奈良典子／1回） アスリートの食事から学ぶ～丈夫な身体を作る栄養･食事 （29 白尾美佳／1回） SDGsと食料安全保障	オムニバス方式

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	オープン講座 a		（概要） 絵本読み聞かせボランティアとして読書お楽しみ会を企画・実施するためのスキルや知識を学ぶ。実際に小学校の放課後クラブに出向き、ボランティア活動を行う。 前半では、絵本読み聞かせに必要な朗読スキルや絵本に関する知識を学ぶ。受講生全員が読み聞かせの発表を行い相互評価することで、実践的な力の習得を目指す。 後半では、アニマシオンという読書プログラムを組み込んだ読書お楽しみ会を企画・実施する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全14回） （55 鹿島千穂・52 橘詰秋子／2回）（共同） ボランディア活動指導 （55 鹿島千穂／6回） アニマシオン作戦の考察、お楽しみ会の立案 （52 橘詰秋子／6回） 読み聞かせの方法、アニマシオン作戦の実施	オムニバス方式・共同（一部）
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	オープン講座 b		人間は自然環境、生活空間の中で、人間の身体・五感に基づく独特の距離感覚、尺度感覚を持って暮らしている。私たちは、生活空間や生活道具に対して、人間の肉体、生理、心理、行動などが程よい距離感覚や尺度感覚に適応し、その環境下で快適な生活を過ごすことができるように「人間尺度」の規格化を試みている。 その一方で、国際会議において「アクセシブルデザイン」と名称を統一するようになったが、日本の「共用品」のアイディアは、「だれかの不便さをみんなの使いやすさにかえる」ために、＜モノ・ひと・サービス＞のあり方を探求し、具現化してきた。そこで、この授業では、「人間尺度」や「共用品」の取り組みを踏まえて、グローバル化し、少子高齢化する社会における配慮点に照らして「デザイン」の役割について理解を深めることをめざしている。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	オープン講座 c		我が国における「布の絵本」の先駆者である「ふきのとう文庫」（北海道札幌市）や「むつき会」（東京都品川区）は1970年代に活動を創始して「さわる絵本」の世界を築いた。2003年には国際児童図書評議会障害児図書資料センターが選本する本の巡回展が開始し、この活動は今日まで継続される。そこで、この授業では、布による手づくりの絵本・エプロンシアター・タペストリーなどに着目して「さわる絵本の世界」の意味や意義を探る。また、いわゆる「バリアフリー絵本の世界」と呼ばれる諸活動も併せて紹介する。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	クォーターオープン講座 a		小学生のヤフー検索第１位は「ルイ・ブライユ」が連続していた記録がある。ルイ・ブライユが考案した「六点点字」は、1890年に石川倉次によって翻案された。「指で読む日本語」である点字は、私たちの身の周りのいろいろなモノにも表記されている。そこで、この授業では「指で読む日本語」である「点字のしくみ」を学び、点字を読むための基礎知識を身につけることをめざす。 なお、点字本に関連する活動にも着目し、点字図書館や点字出版所などについても紹介する。	
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	クォーターオープン講座 b		小学生のヤフー検索第１位は「ルイ・ブライユ」が連続していた記録がある。ルイ・ブライユが考案した「六点点字」は、1890年に石川倉次によって翻案された。「指で読む日本語」である点字は、私たちの身の周りのいろいろなモノにも表記されている。そこで、この授業では点訳者に求められる「点字の良心」を学び、墨字（私たちが読み書きする文字）を「点訳」して点字を書くために必要な「点訳」のルールを習得する。そして、実際に点字器で「点字を書く」演習を実施して基礎知識を身につけることをめざす。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分			授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通教育科目	教養教育科目	知を拓く	クォーターオープン講座ｃ		私たちは何かを口頭で伝える際、メッセージの内容（言語情報）には注意を払うが、メッセージをのせる声や話し方（聴覚情報）にまで気を配ることは少ないものだ。ところが、たとえ同じ内容の話をしたとしても、声や話し方により、相手に与える印象や伝わりやすさが変わってしまうほど、コミュニケーションにおいて聴覚情報は重要なものである。実際に放送現場でアナウンサーが行っている発声・滑舌練習や原稿読みレッスンを通して、声や話し方に磨きをかけ、一生の財産となる「話す力」の育成を目指す。	
専門教育科目	学科共通科目群		環境デザイン学入門	○	環境デザイン学科の初年次科目として、学科のカリキュラムについてしっかりと学び、各自の目標を定め、4年間の学修計画を立てることを目的とする。環境デザインとは何か、その意味や目的について理解した上で、ファッション、プロダクト、住環境、総合デザインの各分野について、内容の広がりや専門性の特徴、デザインの対象など、基礎的な内容を概観する。分野の科目構成や各科目の学修内容について理解し、専門的な知識や技術を修得する上で蓄積すべき学修体系とプロセスについて見極められるようにする。さらに、分野横断的に学ぶことの重要性、協働でデザインに取り組むことによる可能性に触れる機会とし、各自の学修計画に活かしていく。 （オムニバス方式／全14回） （5 橘弘志／2回）：学科カリキュラムの概要／学び方をデザインする （2 大川知子／1回）：アパレル・ファッションの世界 （10 滝澤愛／1回）：アパレル・ファッションデザインの学び方 （1 安齋利典／2回）：プロダクトデザインの世界／プロダクトデザインの学び方 （7 槙究／2回）：建学の精神とデザイン／建築・住環境の世界 （6 内藤将俊／1回）：建築・住環境の学び方 （8 一色ヒロタカ／2回）：総合デザインの世界／社会をどうデザインするか （3 佐藤健／1回）：情報デザインの世界 （9 加藤木秀章／1回）：サイエンスの視点の重要性 （4 塩原みゆき／1回）：社会を捉えることの重要性	オムニバス方式 主要授業科目
専門教育科目	学科共通科目群		環境デザイン学演習	○	各研究室の専門領域を把握することにより、環境デザイン学科での学修内容を理解し、大学生活の到達目標を見出すことを目的とする。少人数クラスで全研究室におけるゼミ活動を実際に体験し、教員の専門性や研究室活動について理解を深める。3年次以降で自分の修得したい知識や技術の領域を定める機会とし、環境デザイン学セミナーで所属する研究室への志望を固めるための一助とする。少人数の演習であるため、学生同士、各教員との面識を深める機会となることも目的としている。	共同 主要授業科目
専門教育科目	学科共通科目群		環境デザイン学セミナー	○	セミナー（ゼミ・ゼミナール）とは、大学における少人数教育の形式のひとつであり、研究室に所属し、討論や勉強会等を通じて、学生が相互に学び合う場である。その課程により、2年次までに培った基礎力に加え、専門的な内容に踏み込んだ知識・スキルを身に付ける。活動の内容は各研究室によって異なるが、以下のような活動が含まれる。1）論文読解およびその内容の発表、2）各自が設定したテーマについての調査・分析と発表、3）学園祭での展示企画、プレゼンテーションの実施、4）セミナーでの活動をまとめたポートフォリオの作成。その他、ゼミ合宿等のかっ概括道、展示会や見学会への参加によって、見聞や親睦を深める。	主要授業科目
専門教育科目	学科共通科目群		卒業研究	○	卒業研究は、各研究室に所属して教員の指導を受けながら、最終学年の1年間をかけて論文もしくは制作を行う。それぞれ所属する研究室の専門性を背景に、各自が選択したテーマに沿って自ら研究計画を立て、その計画に従って調査・研究・制作を行っていく。その活動では、指導教員と打ち合わせるだけでなく、研究室の仲間と意見交換の機会がある。また、他の研究室の教員を交えた中間発表会が数回開催される。卒業研究発表会では、各自の成果を発表し、教員や学生からの質問や指導を受ける。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科共通科目群	基礎演習 a		現在より論理的な判断を下せるようになること。その論理的判断の礎となるデータ収集と解析のあり方の基礎を身に付ける。専門科目に含まれる数学に予め取り組み、その内容を理解する。これらのことにより、現状を正しく把握し行動する力、多角的な視点から分析する力，大学での学びの礎となる数学的な考え方，情報の収集・整理，制作・評価に寄与する手法，コンピューターや数値計算可能なソフトウェアを使用した方法などを利用の仕方についても身に付ける。	
専門教育科目	学科共通科目群	基礎演習 b		環境デザイン学科において、建築士，一級衣料管理士の関連科目を履修し、理解を深めるには，数学・物理・化学などの基礎知識が不可欠である。本授業では，理数系科目の学修が不足している履修者にも理解できるように、数学・物理・化学の基礎から解説し、さらに様々な演習課題を行うことによりそれらの理解を深める授業を行う。環境・設備、形や構造に関わる身近な問題を解決するために、数学やICTスキルを道具として用いる捉え方を身につけ、問題を広く深く観察できる基礎力を修得する。	
専門教育科目	学科共通科目群	基礎演習 c		自然科学系実験で用いる器具やデータの取り扱いに関する基礎知識について演習形式で学ぶ。濃度の表し方については、質量パーセント、体積パーセント、質量/体積パーセント等、実際に実験器具を用いて、実験室にて測定をして理解する。また、実験に馴染んでもらうために、油脂のアルカリ塩での鹸化で得られる石鹸を、精油と乾燥花弁を添加して作る。さらに、測定データの処理の方法とその意味するところをしっかりと理解し、表計算ソフト「エクセル」を使って、図表にする方法を学ぶ。さらに、文献の検索方法、見方、利用の仕方などを学び、自然科学の実験レポートを書けるようにする。	
専門教育科目	学科共通科目群	統計の基礎		平均・分散・標準偏差などの代表的な基本統計量の意味を理解する。母集団と標本の関係を理解する。一変量の分布を尺度に応じた適切な図表に表現や二変量の関係を尺度に応じた適切な方法で分析し要因の可能性も含めて考察し、研鑽力を培う。数値などの情報を処理し、価値のある意味を取り出すためには、統計学の知識が必須である。本授業では、統計ソフトウェアを用いて入門的な統計的データ分析の手法を学び、その過程を通して統計学の基礎知識を身につけることを目標とする。	
専門教育科目	学科共通科目群	デザイン基礎演習 a		デザインは自分で考えた形やイメージを表現することから始まる。その基本となるのがスケッチを中心とした2次元の表現である。この授業では、自分が考えたものが描けるようになるために、スケッチの基礎を習得する。デザインのスケッチはデッサンや絵画とは異なり、絵心や画才がなくても、基本的なルールが分かれば描くことができる。そのルールを理解して実践することによって、ある程度の表現ができるようになる。また、基礎的なレイアウトやグラフィック表現を学び、レポートやポートフォリオに生かせるようにする。	
専門教育科目	学科共通科目群	デザイン基礎演習 b		自分がイメージしたものを何らかの方法で表現し、確認し改善する、その工程を繰り返すことでデザインがより洗練されたものへと進化し続ける。そこでこの授業では、自分自身のコミュニケーションツールを手に入れるための基礎として、手を動かしてものを造り上げることの楽しさや出来上がった時の喜び、そして、作品への自己評価を体験する機会を積極的に取り入れる。授業の前半では、2次元から3次元のものを作り上げることで立体感を、後半では、縮小された図面や模型でデザインを検討することにより、スケールの概念を修得するとともに、光や影を操作することで空間美や空間性を養うことをテーマとする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科共通科目群	色彩学		授業では、色彩学の分野からカラーデザインやデザイン作業に役立つ知識や理論を選出し講述する。調査や演習課題を通じて、色彩という視点から身の回りの生活環境を見直しながら、色彩学の基本的な知識を学修する。日常生活を色彩学の視点から観察できるようになること、デザインに役立つ色彩学の基本的な知識を身に付けること、ファッション、プロダクト、インテリア、景観のそれぞれの分野におけるカラーデザインに役立つ知識を身に付け、自分の言葉で説明できるようになること、それらを通じて、色彩を目印として身の回りから美を敏感に感じ取れるようになり、新たな発想や課題の発見につなげ、主体的に取り組む力を身に付けることを授業の目標とする。	
専門教育科目	学科共通科目群	色彩設計演習 a		建築室内及び建築外観を対象とした色彩設計を行う。生活環境のカラーコーディネーションを論理的に行い、説明できるようになること、Adobe Photoshop, Illustrator, InDesign の基本的な使い方を身に付け、プレゼンテーション資料を作成できるようになること、さらには、美を創出し、多様な視点からデザインを検討する洞察力を身に付ける。そのことにより、総合的な建築のカラーデザイン力を身に付けることを授業の目標とする。	
専門教育科目	学科共通科目群	色彩設計演習 b		身近な生活環境から対象物を選定し、画像処理ソフトを活用した色彩設計に必要なプロセスとスキルを学修する。加えて、一眼レフを使用した写真撮影を通してライティングや基本的な撮影手順を学修する。色が与える効果に配慮した色彩設計を行い説明ができるようになること、パソコンやスマートフォンなどのメディアの違いに配慮した色彩設計ができるようになること、画像処理ソフトを用いて、選定した対象物に合ったわかりやすく見易いレイアウトの資料を作成できるようになることを通じて、対象物に合ったデザインを自身で制作できる力を身に付ける。	
専門教育科目	学科共通科目群	デザイン史		産業革命以後、ヨーロッパ各地で展開されたデザイン運動はそれぞれ独自の様式を作り上げてきた。その様式は製品のみならず建築、インテリアやファッションにまで影響を与えている。デザイン史の授業では、様式を中心にその時代背景と作品をビジュアルに紹介しながら解説を行う。デザイン（様式）の発生から進化について学び、理解することにより、モノの本質や成り立ちを知ることができるようになる。現代デザインの流れを外観した上で、19世紀末から20世紀前半のさまざまなデザイン運動、および近代デザインの巨匠を取り上げ、詳細に解説する。	
専門教育科目	学科共通科目群	デザイン思考		デザインが生まれる際、様々な経験や知識から生み出される「アイデア」と、それを導きだすための論理的な「思考方法」が必要とされる。この思考方法には、「問題発見・分析・アイデア・提案・試行」というような基本的なプロセスが存在し、これらを論理的に構築していくことで、実社会の課題を解決し、多くの人の共感や社会を変えるようなデザインが可能となる。そのための基礎力として、このプロセスの体系的な理解や、その各段階におけるポイントや手法を理解することで、デザイン思考を習得し、実社会の様々な課題を見極める力を養う。	
専門教育科目	学科共通科目群	マテリアル・デザイン		衣料や建物、プロダクトをはじめ新しい生活・設計において発達する際には、新規材料の開発や性質が深くかかわっている。実際に描いたものから現実に作り出すコンセプトや幾何学的なデザインの段階においては、材料選定を考慮することが必要である。材料とデザインとの関係性を踏まえた上で，日常や生活において使われる材料の種類や性質、リサイクル性、IoTとのかかわりあいなど、様々な知見を取り入れた製品の設計・開発に寄与する授業を実施する.	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科共通科目群	生活材料学		生活材料学とは、住生活、衣生活などにかかわる材料を扱う学問である。生活に関係する材料について、どのようなものからできているのか、どのような性質を持っているのかを学ぶ。また、私たちが安全で快適な生活を送るために使われる材料に、どのような性質や機能が必要とされるかについて考えていく。生活材料の基本的な性質を知り、衣生活や住生活に関わる製品をデザインする時、使う時、そして地球環境を考える時に、材料の適切な選択や使用ができるようにする。この授業を通して、身の回りにある様々な材料が私たちの生活において果たす役割について理解する。	
専門教育科目	学科共通科目群	人体生理学		生命現象や生体機能の仕組みを学び、人体の機能系統の器官と働きを理解する。特に、健康・運動に関するヒトの各器官の機能を取り上げ、応用的に生理学を学ぶ「運動生理学」の基礎として、生理学の知識を身につける。生理学は、生命現象がどのような機能系統でどのように行われているかを学ぶ学問である。ここでは、呼吸、循環、消化・吸収、排泄、代謝といった生命現象、血液・体液、神経、内分泌、筋・骨といった機能系統、そしてそれらの複雑で微妙な調節のもとで行われる日常生活時の生理反応について講義する。これから運動・動作に関する学問を始めるにあたり、生体に関する基礎的な知識を身に付ける。	
専門教育科目	学科共通科目群	人体生理学実験		ヒトの体の機能を理解するために実験を通して講義（人体生理学）と関連づける。正常なヒトの体の機能を学習するために必要な中枢神経系の働き、感覚、運動、呼吸、循環、水分調節の機構について実験実習を通して理解を深める。活動電位、筋収縮の特性を理解する。中枢神経、末梢神経系の活動を解説し、身体の様々な感覚について理解を図る。ヒトから心電図を記録し、心臓機能の理解を深める。自律神経の理解を深める。ヒトを対象とした温熱環境実験に用いる実験機材に習熟するとともに、実際の実験を通して、データ収集の方法と問題点、データ分析方法、レポート作成手順について学修する。	隔年
専門教育科目	学科共通科目群	人間工学		人間工学は、人間自身が創造してきた、人間を取り巻く機械や建築物等のモノを、人間の活動に対して適切に用いることを目的とした学問である。人間を機械に合わせるのではなく、機械を人間に合わせるために、人間と機械との関わり方について理解することで、安全性、効率性、作業者の健康管理を向上させることが可能となる。本授業では、日常生活から将来の職業人としての生活に至るまでの人間活動において貢献するべく、人間工学の基礎的な知識と技術を身につける。さらに、建築・都市・インテリアを計画する視点から、人間に適した環境構築の手法を学修する。	
専門教育科目	学科共通科目群	人間工学実験		人間工学分野で用いられる測定評価手法を学び、人間と環境の関わりを心理生理的視点から捉える力を養うとともに、生活デザインの多様な要素と人間との関わりについて実験を通して学ぶ。感覚・知覚、認知、記憶・学習、行為・運動のそれぞれに関する基礎的な実験を自ら行い、また実験参加者として体験することを通じて、実験群と統制群の比較、間隔の閾値、知覚運動学習等の基礎的な実験パラダイムを習得する。また、実験から得られたデータを数値として要約し、統計的な手法を用いて検討することを学ぶ。さらに、これらの結果を、人間工学における標準的な形式としてまとめるための技術について学修する。	隔年
専門教育科目	学科共通科目群	環境心理学		環境心理学は、人間と環境の心理面・行動面での関わりを扱う学問である。50年程度の短い歴史しか持たないが、実際の環境整備に役立てようという問題意識から、建築計画・環境工学を中心に建築の分野でも研究が盛んに行われている。この授業では、これまでに蓄積されてきた知見について講述すると共に、課題を通じて実際に知識を使いこなすスキルを身につける。環境心理学の諸分野で蓄積されてきた知見について理解し、環境デザインに適用できるようになることを通じて、これまでの知を活かして新たな知を創造していく力を身に付ける、学修を通して自己成長する力、課題解決のために主体的に行動する力を身に付ける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	繊維高分子材料学		生活環境を物質の面から支えている繊維高分子材料(繊維に使われている高分子の種類と分類、低分子と高分子，内部構造などを含む)を整理して理解できるように講義する。広い視野と深い洞察力を身につけ繊維高分子の種々の性質を理解する「研鑽力」を養う。そのため、衣服やインテリア用品などは繊維と高分子からできており、これらの性能の多くは構成する高分子と繊維の種類と性質によって決まる。衣服やインテリア製品の企画・設計・製造や選択・使用では、繊維と高分子の構造と性質を知る授業である。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	繊維高分子材料実験		繊維高分子材料学で学んだ内容を基礎とし、繊維と高分子の主要な性質を実験を通して理解する。単一の繊維から成る15種類の標準試験布を用い繊維の形態と理化学的な性質を調べることや市販混用布を各人で鑑別し混用率測定の実験を行う。また、機器を利用した鑑別・分析法、高分子の合成と繊維の製造、吸湿度測定、粘弾性測定の実験なども行う。それらの授業内容から各種繊維の特徴を理解して、最終的に市販の衣料の繊維鑑別と混用率計測を独力でできるようになることを目標とする。また、学生が修得すべき「態度」のうち、実験に対し真理を探究しようとする態度で臨み、実験のプロセスや成果を正しく評価する力を養う。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	テキスタイル材料学		人間の営みに必要な衣環境分野の基礎知識である、被服材料(糸、織物、編物、不織布、レース、皮革)についての知識を修得する。快適で質の高い生活環境を作り出すために、被服材料にはどのような性能が求められるかについて理解する。学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得することを目標とする。本科目である「テキスタイル材料」とは、繊維、糸、布などの被服材料全般を意味する。この授業では糸と布に焦点をあて、それらの製造プロセスを理解した上で、糸と布の種類や構造、各種性質について学修する。これらをベースに、衣服やインテリア製品についての理解を一層深めることについても学修する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	テキスタイル材料実験		テキスタイル材料（繊維・糸・布）の構造と性質について、実験方法の原理と評価方法を理解し、それらが繊維製品の性能にどのように寄与するのかを学修する。快適な衣環境を作り出すため、衣服材料にはさまざま性能が求められるが、実験を通じてそれらをより専門的知識(繊維の太さと引張り特性、糸の構造・番手と引張り特性、布の構造(厚さ、質量、糸密度（網目密度）、組織と表示)、布の変形や破壊強さ、引張り強さ、引裂強さなど)についても学修する。学生が修得すべき「行動力」のうち目標に向かって計画を実行し、成果を正しく評価する能力を修得することを目標とする。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	機能材料学		衣服用繊維をはじめ生活に用いられる繊維製品全般において高性能化・高機能化が進んでいる。衣服素材からインテリア素材、産業資材までの幅広い分野で用いられる機能材料（機能性繊維材料）について、分子構造、微細構造、形態的特徴、力学的性質を理解し、その性質や用途展開について学習する。また、衣料用に開発される機能性繊維材料の種類や性質を理解し、適切に使用・管理する知識を得て、快適で安全な衣生活に使用されている機能性素材を理解し、持続可能な社会に資する力を養う授業である。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	テキスタイル管理学		衣・住生活の中の繊維製品の手入れや管理に関する領域の理論と実際を扱う。特に、衣服の機能を保持するために行われる洗濯は、衣服に付着した汚れを除去して、衛生的で快適な衣服環境を得るためにも重要である。洗濯については、洗剤の働きや汚れの付着、脱落などを界面化学的な側面からと、洗濯の方法や条件など実際的な側面から講義する。建築材料、プロダクト材料としてのテキスタイルの手入れや管理についても取り扱い、最近の洗剤、洗濯事情（洗濯機を含む）、衣服・洗濯に関する環境問題についても取り上げていく。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	テキスタイル管理実験		テキスタイル管理学、染色加工学で学んだ知識を確実にするための実験実習である。前半は、テキスタイル管理実験で、界面活性剤の働きについて確認し、JISに準拠した洗浄力試験を行い、その評価方法を理解する。後半は、染色加工学実験となる。染色加工の評価、染料の定量、染色方法と染色堅牢度を理解し、評価できるようにする。最後は、実際に工芸染色を行う。作品をデザインし、ろうけつ染め、あるいは絞りの技法を使って、藍染で作品を制作する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	染色加工学		色は形とともに衣服を含む繊維製品にとって重要な要素で、外観的性質に大きく関わってくる。身の回りの衣服に対する理解を深めてもらうために、色についての概念も含め、衣服に代表される繊維製品を染めるために使われる染料の種類と特性、染色理論、染色加工技術を学び、実際に着用している衣服をより身近に感じてもらい、理解を促す。衣服の正しい整理・管理・保管に必要な知識として、実用上重要な染色堅牢度について理解を深め、染色トラブルとその原因について学ぶ。また、被服の着心地や繊維製品の機能性に関わる加工についても、その原理と方法を学ぶ。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	生活環境科学		身近な生活環境の中で、それらを取り巻く環境問題について学修する。生活環境の現状を認識し、リアルタイムな情報を交えながら、人間の五感（視覚、聴覚、臭覚、味覚、温度感覚）と生活環境について解説する。さらに、各論として、人の活動で生じるエネルギー問題、大気汚染、水環境について論じ、生活廃棄物についても学ぶ。快適で、持続可能な生活環境を保持するために、何が必要かを考え、互いに学びあい、相手に伝える力を養う。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	被服衛生学		生活環境に関わる被服に着目して、その着心地や快適性をテーマに学ぶ。人体の温熱特性について理解した上で、被服の体温調節との関わりについて学び、被服設計、被服選択の基礎となる理論を理解する。さらに、被服の運動快適性と衣服圧について安全とのかかわりについて学ぶ。 衣服気候、クロ値や衣服圧をはじめとする被服衛生学の基本的知識を修得する。被服衛生学の知識や理論を用いて被服の着心地や快適性について、議論や説明ができるようになることを目指す。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	衣料管理実習		繊維製品に関する素材から生産・流通・消費等の分野を体系的に学び、それらに関する基礎知識を習得した学生が、1級衣料管理士の資格取得の一課程として、企業や公的検査機関での短期実習を行う。実習期間は1週間程度で、この実習を通して、実際の衣料管理士の仕事の一端を理解する。実習期間中は、体験した仕事内容をレポートにまとめ、実習終了後には、年度末を目途に、報告会にて実習成果の発表を行い、報告内容とレポート内容を報告先へ提出し、実習先への報告とする。この企業実習を体験することで、最新ファッションのアパレルからインテリア用品、雑貨まで、私たちの生活を豊かに彩る繊維製品の企画・設計／販売／品質保証／消費者対応について、大学だけでは学べない実質的な知識と技術、さらには実践的な知恵と工夫を学ぶことができる。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレル製作基礎演習		本授業では、服飾造形のための基礎的な縫製技術を演習形式で習得する。基本の手縫い、ミシン縫いにはじまり、様々な種類の縫合法や立体化、布端や縁、開口部の処理法、ポケット、ダーツなどに関する正確で美しい縫製技法やアイロンなどによる仕上げ法について実践を通して体得し、それらの理論的根拠も理解する。更に、留め具や芯地・裏地等の副資材に関する知識を深め、扱い方も学習する。最終課題として、それらを応用した衣服製作（ワンピース）に取り組む。各自好きなデザインを起こし、そのデザインを基に自身の体に合わせたパターン設計を平面製図法で行い、裁断、補正、縫製、仕上げ作業を通して作品を完成させる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレル製作基礎		本授業では、先ず被服設計の基盤となる人体の構造や機能、形状、運動機構、動作に伴う各部位の変化等の基本的事柄を学習した後に、パターン設計に直接的に関わっていく体型把握法や人体計測法を学ぶ。体型に関するデータを基に、体型の男女差、地域差、人種差、職業差、加齢や疾病に伴う体型や機能の変化など、各集団の体型の特徴と差異を識り、それらの体型的かつ人体機能的特徴に配慮した被服設計についても理解を深める。さらに、人体形態と衣服パターン・既製衣料サイズとの関連、衣服のデザイン・シルエット・ディテールとパターンとの関連等、被服設計の基礎事項について修得する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレル製作実習	○	上衣と下衣の製作実習を通して、衣服設計・製作の基礎的な知識を理解し、技法を習得する。自由にデザインしたブラウスとスカートの絵型から各自の体型データを基にパターン設計を行い、デザイン通りの審美性の高い作品を完成させる。平面である布素材を用いて、複雑な立体形状である人体を美しく被覆するための衣服パターン設計法、各種衣服素材の特性を活かす取り扱い方、縫製技法などの基礎的事項を学び、これらを通して衣服製作の一連のプロセスを理解する。さらに、工業生産プロセスに沿った製作実習により、個別生産と工業生産の相違点も考えながら取り組む。	主要授業科目
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションデザイン論	○	今日のファッションの源流を識ること、そして文化的・科学的視点からのファッションデザイン理論の習得が本授業のテーマである。先ず、新作発表の場であるファッションショーやファッションウィークについて、デザイナーの視点からの流行やトレンドの捉え方、デザイン発想などを概説する。次に点、線の集合である形としてのデザイン、カラーコーディネーションやコンポジションなどのファッションデザインの基礎理論と応用を学び、その理論を踏まえた服のデザイン表現を実践的に取り組み習得する。最後に現代ファッションの礎となった近・現代デザイナーの歴史とデザインについて学んだ後、ファッションデザインの未来を考察する。	主要授業科目
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションドローイング	○	前半はファッションデザイン画の基礎を学習し、後半はそれを踏まえて各自がポートフォリオ製作をする。はじめに基本となる９等身のヌードモデルを様々なポーズで自在に描く技術を習得し、それに着装させたデザイン画や製品図の描き方、デザイン・素材表現法、画材とその特徴などの基礎を学ぶ。続けてデザインに向けたリサーチとデザイン発想法を学習する。最終課題として各自が決めたテーマからデザイン発想し、ポートフォリオにまとめ、プレゼンテーションを行う。これらを通してファッションデザインの一連の手法を学修する。	主要授業科目
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションデザイン演習1		ジャケットの中でも最もスタンダードなテーラードジャケット（総裏仕立て）の工業生産プロセスに沿った製作を通し、衣服設計・製作の応用的な知識と技法を学ぶ。各自の体型データに基づき、アパレルCADシステムで工業用パターンの製図を行う。トワルチェックによる補正のポイントやパターン修正法を学ぶことで、審美的で精度の高いパターン設計力を養う。その後の縫製作業の中で、重衣料向け衣服素材の特性や扱い方を理解し、アイロンワーク（癖取り）などの高級服に施される高度な技法も取り入れ仕上げることで、美しく完成度の高い衣服造形力と技術力を修得する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションデザイン演習2	○	これまで学んできた服飾造形、パターン設計法、ファッションデザイン、素材等の技術・知識を踏まえ、これまでの応用となる自由作品の制作に取り組む。先ず、ファッションデザイン論やファッションドローイングで学んだ市場調査、トレンド分析、デザイン手法に基づきデザインを起こす。デザイン画の中から制作する作品を何点か選び、その製品図を描く。また、そのデザイン表現に適合する素材も検討し決定する。その後、平面製図法・立体裁断法によるパターン設計とトワルチェックによる補正・修正を行い、これまで培った技術力と縫製手法を活かした制作工程を経て、造形力とデザイン性の高いファッション作品を完成させる。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	立体裁断		立体裁断の基礎として重要な事項を、ブラウスなどのベーシックなアイテムを通して学ぶ。基本的な作業の進め方、道具の使い方、ボディラインやカッティングラインの入れ方、シーチングの種類と扱い方、要尺の積もり方、身頃・スカート・衿・袖のパターン作成法、ゆとりの入れ方、補正の仕方、アイロンワーク技法、トワルチェックなど、応用力へと繋がる立体裁断の基本を徹底的に身に付ける。作業を通じて、バランスの良い美しいパターンを感じ取る審美眼と作り出す技術力、パターンメーキング技能を習得させる。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレルＣＡＤ　a		アパレル産業生産では、消費者のニーズに対応するため、種々の工程でCADが導入されている。特に、設計分野におけるCADシステムは飛躍的に発展した。ヴァーチャル・リアリティと呼ばれる3次元のデータ表示を活用したパターンメーキングも行われるようになってきた。今や、アパレル設計生産の基礎技術としてCADの習得は不可欠である。本授業では、アパレルCADの操作方法やパターン作図法を習得し、創作的なデザインのパターンを自在に設計できる技術と知識の基礎を身に付ける。はじめにCADの特性や基本操作を習得した後に原型(身頃・袖)やスカートを作図する。その後、様々なデザインの身頃・袖・衿・スカートの展開法や、工業用パターンの縫い代付け等を学ぶ。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレルＣＡＤ　b		近年，世界のファッション産業において，3D CADソフトによる設計やそのデジタルデータを駆使した商品提案等が急速に拡がっている。本授業では、国内でも多くのアパレル企業が導入し、検定試験も始まるなど、社会的汎用性の高さに加え、採用企業側からも学生の操作技術の習得が求められている３D CADソフト「CLO Enterprise」を使用し、先ずは基本操作法を学ぶ。その後，各自がデザインした作品のパターンをCLOで設計し、素材、色、柄等もリアリティを追求しシミュレーションを行った上で作品をソフト内に完成させる。最後に作品をアバターに着装させ、ライティング等の空間デザインも行った仮想空間内でヴァーチャルファッションショー（プレゼンテーション）を行う。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	伝統衣服実習		和服は日本の風土の中で育った民族衣装である。大裁ち女物ひとえ長着（ゆかた）を製作し、製作に関する資料に沿って学び、技術を身に付ける。反物から１枚の着物が完成するまでの無駄のない裁断、美しい縫い方から日本の伝統的な文化を知ることができる。また、最後に着装発表を行い平面で構成された和服が人体に着装されることで立体化する過程を学修する。和服の基本的技法を活用し、作品を正確に製作することを目標とする。さらに、ゆかたの縫製や着装によって和服の構成を理解し、洋服との違いを理解する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションビジネスの世界		ファッション産業は、時代や生活者の変化に伴い、常に変化し続けるという特質がある。本科目はファッションビジネスを学ぶ為の入門編として、前半では、この産業の概観について「素材」「アパレル」「流通」という各段階それぞれの特徴や形成過程について学び、その複雑な産業構造を理解する。後半は、世界的な影響力を持つグローバルなファッション企業群について、ファストファッションと呼ばれる安価な製品群からラグジュアリーブランドを巡る、現代のビジネスの潮流を理解する。また、ICTの進展による産業の変化や、環境問題についても触れる。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションビジネス論		1年次の『ファッションビジネスの世界』で学んだファッション産業の概観を踏まえた上で、複雑、かつ日々変化する現代のファッションビジネスの潮流を理解する。特に、ビジネスに必要な商品分類・商品構成・定数定量・展開分類の基礎を理解し、その後、VMD（商品化政策の視覚化）について学ぶ。本科目を通して、業界紙（繊研新聞、WWD JAPANなど）やファッションサイトに書かれてある内容をきちんと理解でき、実際に店頭を見た際に、商品構成や展開分類を活用して分析出来るようになることを目指す。最終的には、現代のファッションビジネスに関する課題を、様々な角度から検討出来るようにする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッションビジネス演習		前半は、ファッションビジネスを遂行するために必要な商品知識（4つの主力アイテムの代表的な素材やデザイン）について理解を深め、自らの眼で商品の価値を見極められるようにする。また、世に「名品」と呼ばれる商品の歴史も踏まえながら学ぶ。後半は、そういった商品をビジネスに繋げていく為の計数（予算管理・売上管理・在庫管理）と、品揃え計画の基本について学ぶ。最終課題では、店舗面積と予算が決められている条件下で、自らコンセプトを考えた店舗における商品発注を行い、前半と後半の学びを融合させながら体得出来るようにする。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッション文化論		「ファッションとは何か」「なぜ人間は衣服を着るのか」その問いに対する答えは決して一つではない。その問いに対する探究を一つの契機として、私たちの生活に最も身近な「服飾の流行＝ファッション」という現象についての知識を習得し、社会や文化をより深く理解することを目指す。ファッションの歴史を通史的に学ぶことで各時代に表れる服飾が持つ多種多様な意味を概観し、さらに現代の服飾の中に歴史上の服装がどのように継承されているのか、流行はどのように生まれているかなどを具体的に紹介しながら、その社会的・文化的意味を解説する。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	アパレル生産		アパレル製品を量産化する為の、生産に関する基本的知識を、「原料」「テキスタイル」「編立」「副資材」「縫製」「物流」と段階を踏みながら学び、製品がどのような工程を経て作られるのか、その一連のプロセスについて理解する。同時に、それらを調達する際に必要となる商社・問屋等の仲介業者の存在とその活用方法についても触れる。また、生産は環境問題とも密接な繋がりを持っている為、現代のICT等を活用した生産の効率化やマスカスタマイゼーション等、新しい生産方式についても学ぶ。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	消費生活学		高度情報化などの社会生活活動の大きな変化に伴って、新しいサービスや電子決済など、私たちが日々の生活を送るうえで、消費生活に関わる事象に多くの消費者問題が顕在化している。このような現代社会における消費者問題について、特に、安全・安心な消費生活を営むために必要な法律や制度、企業が負うべき社会的責任等について学ぶ。また、消費者トラブルに巻き込まれないために主体的に判断する能力を育むことを目的に、特に身近である特定商取引法と景品表示法については、具体的な事例をとりあげて学びます。消費者の健全な市民社会の実現に向けて、消費者行動における社会貢献のあり方を自覚し、責任をもって行動する能力を身につける。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	マーケティング論		「マーケティング」とは、年々厳しさを増す市場環境の中で、企業が市場で支持される製品やサービスの開発によって、他社に抜きん出た競争優位を確立するために必要な活動を意味する。本科目の前半では、マーケティングの基本的な理論や用語を体得することをベースに、企業活動に不可欠なステークホルダーへの理解も深める。後半では、現代の企業価値を大きく左右するブランディングに関する基礎知識を学ぶ。理論のみならず、現代の多様化する生活者の動向を踏まえた各企業の取り組みについて、事例を交えながら学ぶ。	
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	マーケティングリサーチ		身近な生活環境を広くマーケットと捉え、それらをデザインしたり、改善したり、企画した商品を販売したりする活動をより効果的なものとする為の情報収集の方法について学ぶ。インタビュー、アンケート、観察といった手法を使って、身近な生活環境の改善点を見つけ出すことができるようになること、生活環境をデザインしたり、改善したりするPDCAサイクルに於けるCheckの意味を理解し、より良い環境づくりのサイクルを回すことができるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	ファッション企画論		（概要） ファッション商品に関する基礎知識やファッション企画に必要な情報収集・分析、商品化企画の基本を学ぶことを目標とする。ファッション企画に際して重要なトレンド情報の収集と分析について、また、現代のファッションマーケットを左右するストリートファッションの動向について、課題に取り組みながら理解する。さらに、実際にどのようにブランドを開発し、具体的な商品開発を実施するのかを学び、最終的にはひとつのブランド企画立案する課題に取り組む。 （オムニバス方式／全14回） （146 高野公三子／7回） マーケディング （195 宮武恵子／7回） 商品企画	オムニバス方式
専門教育科目	アパレル・ファッション科目群	消費科学		4年間の学びの集大成として、企業が製品やサービスを生活者に提供する際に、最低限必要な品質に関する知識を事例を交えながら体得する。前半は、消費科学の歴史と変遷を踏まえながら、国内外の生産拠点から、長く、数多いプロセスを経て作られる製品を、安心・安全に届けるために考慮すべきポイントについて、事例を含めて多角的に学ぶ。後半は、世界的な課題としての環境問題や、資本主義経済のあり方について、実社会で活躍する多様な方々の話に直接触れる機会を設け、その実態について実学的に学ぶ。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン概論	○	身の周りにある全てのモノはデザインされている。モノ＝製品のデザインをプロダクトデザインといい、私たちはプロダクトデザインされた製品の中で生活している。この授業では、プロダクトデザインの生い立ちやプロセス、世界各国の状況等、幅広くプロダクトデザインについて概観することによりプロダクトデザインを理解する。コンセプトやユーザビリティ等のプロダクトデザインの要素について学ぶことにより製品に対する観察力も養う。	主要授業科目
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	基礎造形論		我々の身の周りには様々なモノやコトが存在し、多様な形態や材料から成り立っている。そのモノやコトを見たり使ったりすることができるのは、そのモノやコトが造形されているからである。造形には大きく分けて、平面造形と立体造形がある。この授業では、造形(形をつくり上げること・形のあるものをつくること)によって生み出されたモノやコトについて、それぞれの、構成要素、成り立ち、表現方法、理解の仕方等を、事例を通して学んでいく。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	材料加工演習		世の中の製品には数多くの材料が様々な場所に多様な加工方法で使われている。この授業では、製品に使われている代表的な材料について、その材料の特性や利用方法を知る。次に材料特性に基づいた加工方法を知り、実際に加工してみる。そして、その材料を使って、思い描いた造形を立体に加工できることを目指す。合わせて、各々の材料に適する造形技術や加工による表現力、造形力を学び、デザインする際の基礎的な知識と能力を養う。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン論	○	プロダクトデザインとは、人間生活に求められる製品を、使用者と使用環境の視点から考え、産業という手段を通して具現化する活動である。この授業ではこれらの活動を、社会的背景、歴史、産業、科学技術、方法論など通して包括的に学ぶ。プロダクトデザインの歴史やプロダクトデザインと、社会、ビジネス、マーケティング、化学、技術、との関係を学ぶ。調査段階からコンセプト立案、デザイン開発、発想法、造形理論、視覚化の方法、評価方法等の、一連のデザインプロセスを学ぶことによりプロダクトデザインの基礎を身につけることができる。	主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン演習ａ	○	この授業では、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン論で学んだことを基にして、実際に、具体的なプロダクト(製品)をデザインして提案する。調査・分析、コンセプト立案、デザイン展開、モデル化、評価等を通して、プロダクトをデザインするプロセス・方法を習得する。ポートフォリオにまとめることにより、インターンシップや就職活動等へ役立てる。「プロダクトデザイン演習a」では、プロダクトデザインの基礎的な部分を学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン演習ｂ	○	この授業では、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン論で学んだことを基にして、実際に、具体的なプロダクト(製品)をデザインして提案する。調査・分析、コンセプト立案、デザイン展開、モデル化等を通して、プロダクトをデザインするプロセス・方法を習得する。ポートフォリオにまとめることにより、インターンシップや就職活動等へ役立てる。「プロダクトデザイン演習b」では、外部組織(企業、自治体等)とのタイアップも視野に入れ、実社会とのつながりも考えた展開を目指す。	主要授業科目
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	デザインマネジメントａ		デザインマネジメントは、デザインをいかにマネジメントするかという出発点から、マネジメントをいかにデザインするかという方向へと拡張している。この授業では、これらの狭義と広義のデザインマネジメントの基本的な考え方を学ぶ。その上で、世の中にある問題点を、デザインする上で使われる様々なツールを使って、個人・チーム・グループワークを通して、実際に課題解決を体験することにより、デザインマネジメントを習得していく。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	デザインマネジメントｂ		デザインマネジメントする上では、様々なルールやガイドライン、規格や法律等が関わってくる。この授業では、デザインに関わる特許・実用新案・意匠権・商標権、著作権等の知的財産権や規格等のルールにどのようなものがあるのかを学ぶ。その上で、様々な業界において、具体的にどのようにデザインがマネジメントされ、デザイナーや企業等の権利やユーザーが守られているか、事例を通して学んでいく。今後、社会に出て実際にデザインを業務とする上で必要な知識を習得する。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトＣＡＤ		プロダクトをデザインする上で、CAD：Computer Aided Design(コンピュータ支援設計)は欠かすことのできないデザインツールとなってきた。本演習では、2Dと３Dの関係の基礎的関係から、ソリッドモデリングやサーフェスモデリング等のCADの基本概念を学んだ上で、Ｃ Ａ Ｄアプリケーションの操作方法を体験を通しながら習得していく。活用方法やラピッドプロトタイピングの足がかりを含めて、CADの基礎を学ぶ。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	ユニバーサルデザイン論		現代社会では、障害者や高齢者を含めて誰もが安全で快適に利用できる生活環境について考える必要がある。ユニバーサルデザインは、日常生活用具、住居から公共交通機関、社会生活等、あらゆる場面において障害の有無や年齢にかかわらず誰もが利用しやすい環境を創出することを基本としている。本科目では、障害者や高齢者、子供、外国人、小さな子供を連れている親子、そして健常者の特性を理解し、ユニバーサルデザインやバリアフリーの理念を実現するために必要な基礎知識と技術を実践的に学修する。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	ビジュアルデザインａ		視覚的なデザインは、情報の意図、意味、感情を伝えるコミュニケーションの道具であり手段である。より効果的・効率的に表現者の意図を視覚的に伝達するための知識と技術を学ぶことは、自らのアイデアを的確に視覚化し、伝達し、共有できるようになることにつながるものである。「ビジュアルデザインa」では、ポスターや印刷物、ロゴマークの作成などの演習を通して､グラフィックの構成方法や表現技法、レイアウトなどの基本的な技術を修得する。対象となる情報を整理・編集し、目的に応じて表現する能力を身に付けることを目指す。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	ビジュアルデザインｂ		視覚的なデザインは、情報の意図、意味、感情を伝えるコミュニケーションの道具であり手段である。より効果的・効率的に表現者の意図を視覚的に伝達するための知識と技術を学ぶことは、自らのアイデアを的確に視覚化し、伝達し、共有できるようになることにつながるものである。「ビジュアルデザインb」では、画像編集、CG、映像作成等の演習を通じて、コミュニケーション手段としての画像・映像表現について学び、多様な情報をさまざまなメディアを通してビジュアルにアウトプットを行い、社会に向けてプレゼンテーションするための技術を身に付ける。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	情報デザイン論		情報デザインとは、情報の性質や関係性を明確化し、目的に応じて情報を効果的に相手に伝えるためのデザインである。この授業では、私たち人間が様々な手段で情報を伝えてきた情報デザインの概念やプロセスについて学修する。情報デザインに関わるさまざまな基礎的な理論や考え方を知り、知識を踏まえたうえで、その利用方法を習得しておくことで、質の高いデザイン成果を得られることを期待している。本講義では情報デザインに関わる基礎的な図法、文字書体、編集デザイン、情報伝達のためのピクトグラム〔絵文字〕、ダイヤグラム〔図表〕、色彩、について学修する。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	情報デザイン演習		WEB、アプリ、ピクトグラム、サイン計画等の制作・デザインを通して、効果的で適切な情報伝達を行うための知識と技術を養う演習科目である。情報デザインの内容には、伝えるべき情報の整理・分析、内容やユーザーの特性に合わせた情報の構造化、一貫したコンセプトの確立、ユーザーが情報に辿り着くためのインターフェースの設計、最終的なビジュアルの表現などが含まれる。情報アーキテクチャの考え方を理解し、それをベースにしたデザインスキルを修得することを目指す。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	感性科学		心地よさ、使いやすさ、楽しさなど、計測での評価が難しい事象について、五感に関する知識の習得、 感性工学についての理解を深め、客観的な評価法ならびに主観的な評価法（官能評価法）について学修する。情報科学・自然科学のアプローチから、人間の感性を明らかにする研究方法論について解説する。基礎として、感性情報の考え方や測定評価方法、ものづくりにおける感性の役割、情報処理技術についての解説を行った上で、いくつかの研究方法論および研究事例を紹介する。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	ユーザーエクスペリエンス		ユーザーエクスペリエンス(以降、UX)は、「製品、システム、サービスを使用した、および／または、使用を予期したことに起因する人の知覚（認知）や反応」と定義されており(ISO 9241-210)、ユーザーがある製品やシステムを使ったときに得られる経験や満足など全体を指す。この授業では、UXの生い立ちや世の中の動向を学びつつ、基本的な考え方やアプローチを理解し、様々な事例や課題を通してUXの基礎を習得していく。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	インテリアデザイン論		本科目では、内部空間を構成している「モノ」であるインテリア構成部位（インテリアエレメント）のデザインから「内部空間」のあり方を考え、インテリア空間を計画するために必要な基礎とデザインのポイントを学修する。人間の寸法・行為・心理の基本要素を基盤として、デザインの三大要素である形・素材・色彩を考え、インテリア構成部位（インテリアエレメント）ごとに人・社会・自然と関連させて、機能的役割と心理的役割を原点から考える。インテリア空間を構成部位ごとに考えていくことで、モノのデザインであるプロダクトデザインにもつながり、モノとモノの関係から空間を考えていくことで、建築デザインにもつながる。ワークシートを実施し、住宅のインテリア計画とインテリア製図の基礎的なスキルを身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	インテリアデザイン演習		インテリアデザイン論で学んだ知識を生かし、インテリアデザインを実践する上での基本技術を修得する。「感じ取る・考える・つくる・伝える」を基本姿勢とし、身近なインテリア空間の問題点に目を向けて、改善案を考え、表現していく中で、「人・社会・自然」を考えたインテリアデザインを目指す。建築の内部空間を考える演習と、内部空間のインテリアエレメント（モノ）のあり方を考える演習を行うことで、インテリアデザインだけでなく建築やプロダクトデザインにも応用できる技術を習得する。自分が考えたインテリアデザインを具体的な計画案としてまとめられる計画力・図面表現力と伝達力を身に付けるとともに、インテリアを形成する「かたち・素材・色彩・光」に関する知識を深める。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	インテリアコーディネート論		1984年にインテリアコーディネーターという職能と資格が生まれた。それは、「インテリアエレメントの流通過程において、消費者に対し、商品選択とインテリアの総合的構成等について適切な助言と提案を行う人」と定義されており、現在でもその基本は変わっていない。 　そこで、本科目では、適切なインテリア商品選択力を身につけることを目的とし、インテインテリアエレメントごとにその基本知識とインテリアコーディネートのポイントを学修していくことをテーマとする。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	インテリアコーディネート演習		インテリアコーディネート論で学んだ知識も活かし、インテリアコーディネートを実践していく上で不可欠な基本的な技術を修得することをテーマとする。 「自分のため」から「他者のため」のインテリアコーディネートへとつなげ、インテリアの自由性に加えて、社会性を踏まえた上で、「人・社会・自然」を考えた住環境デザインを目指すことを前提に、「家具・照明・ウィンドートリートメント」と、高度な専門知識を要する「内装材・建具・造作部品・住宅設備機器・その他」を対象に、２つの課題で計画案の作成とプレゼンテーションを行う。	
専門教育科目	プロダクト・インテリア科目群	光環境デザイン		この授業では、光環境を捉え構想する基礎となる考え方を学ぶことから始める。その上で、室内外の環境を選んで実際の光環境を計測・分析し、それらの情報をベースとして光環境をデザインする演習を実施する。室内外の光環境を心理物理的に把握することができるようになること、利用者が必要とする光環境をイメージできるようになること、照明器具等を使用してイメージした光環境を実現するデザインができるようになることを授業の目標とする。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築概論	○	歴史的・地理的に世界の建築を眺めながら、建築を捉える視点を紹介する。これまで知らなかった視点を自分のものとすることにより、自分自身で建築について考える視点を醸成するきっかけとする。 授業で解説した建築を捉える視点について理解し、建築を多様な視点で捉えることができること、建築を体験する面白さを見出し、新しい視点を発見できるようになること、授業で出てきた用語を理解して説明できるようになること、日本・世界の建築文化の多様性を理解し、多角的なものの見方を身に付けることにより、国際的視野と、美を探求し、自ら新しい知を創造することができる研鑽力を身に付けることを授業の目標とする。	主要授業科目
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	住居学		「住まい」は、私たちのもっとも身近な環境であり、私たちの生活行動や意識にさまざまな影響を与えている。それと同時に、「住まい」は、私たちの社会や文化、歴史や気候風土、材料や技術などと深く関わっている。住居学では、多角的な視点から住まいのもつ意味や役割について学んでいく。私たちの住まいに対する体験をもとに、住まいに関わる基礎的な知識を学習する。日本の住宅の変遷を追うことにより、住まいの構成原理とその変化について理解し、住まいを取り巻く自然・社会・文化・技術が、住まいの形や間取りに与える影響についても理解を深める。多角的な視点から現代の住まいの課題について理解し、その解決について検討する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	住居デザイン論		私たちの生活は一人一人異なる多様なものであり、その生活の容れ物である住居もまた多様なものとなる。住居デザイン論では、住居のさまざまな空間や形態、デザインの機能や意味を通して、住居についてより深く理解することを目指す。安全性・快適性・利便性を備えるとともに、現代的な住まい方に対応した住居を計画する上で不可欠な知識と視点を学修する。住宅やインテリアのさまざまな寸法や形態の基本的な考え方を理解するとともに、住宅やインテリアのデザインが、人の行動や心理とどのように関連して行われているのか、理解する。住宅のプランニングの考え方を理解し、評価するための視点を身に付けることを目指す。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	住環境デザイン論		周辺環境や気候、風土を含む地域性と共に、時代ごとに変化する社会性と住空間との関係性に加え、各々の環境で生み出される行為とそれを誘発する多様な空間の構成法について熟考する習慣を身に付けるため、講義の前半ではアクティビティを誘発する空間について、中盤では欧米及び日本の近現代の優れた建築の意義を、後半では最先端の都市住宅や自然と共生した住宅、社会性に富んだ集合住宅、小学校を中心とした教育施設、オフィスなどの多様な労働環境について計画学的な視点で多角的に学ぶことを本講義のテーマとする。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	福祉住環境論		少子高齢社会を迎えるにあたり、「福祉」の考え方は大きく変容しており、住まいや地域の役割はますます重要になっている。高齢者や障害者にとっての住環境のあり方を学ぶことは、私たち自身の生活と環境との関わり方を見直す上でも有用である。この授業では、福祉の概念の変化を背景に、高齢者や障害者の生活と環境との関連を捉え、住まいや地域の環境整備のあり方、福祉施設の計画・デザインなどについて、幅広く学んでいく。現代における「福祉」の理念（とその変化）と住環境との関わりについて理解を深める。日本の福祉制度や福祉の取り組みについて、住環境に関わる制度、福祉施設の種類や計画など、幅広く理解する。福祉住環境を実践する上で必要な知識と技術の習得を目指す。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	生活空間計画		私たちの生活に関わる住環境は、住居を中心として街や地域へと広がり、さまざまな施設が設計・計画の対象となる。こうした施設の計画においては、空間と行為との対応だけでなく、人の心理や地域・社会との関わりなど、多面的な知識が必要となる。生活空間計画の授業では、そのような複合的知識としての建築計画について、なるべく具体的な事例を題材としながら学習する。さまざまな用途の建築物について、機能的に「計画」するための考え方を理解し、それぞれの建物用途ごとに、求められる機能や空間の条件や、それを実現するための計画手法について理解する。さまざまな建築物の社会的役割・用途がどのように設定され、建築のデザインに結びついているのか、多様な視点から検討を加える。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築デザイン論		毎日の生活の中で目にし、体験しているいろいろな建築物や都市は、どのようなことを考えてデザインされているのだろうか。 日本の国内外で活躍する建築家や構造エンジニア、照明デザイナー、家具デザイナーに加え、街づくりやワークショップなどを通して活動するコミュニティデザイナーなど、建築や街、コミュニティに関わっているそれぞれのプロデザイナーがいくつかの優れた作品や経験を例として取り上げ、「デザインの意味やポイント」を概説することにより、建築デザインの本質を多角的にとらえることをテーマとする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	設計製図基礎	○	3次元の空間を2次元にあらわす製図の技術は、建築士やインテリアプランナーに代表される空間を扱う専門家や、プロダクトデザイナーなど3次元の物のデザインに携わる専門家にとって、基本的かつ必須のものである。製図とは、デザインする人、つくる人、利用する人、相互のコミュニケーションの手段であり、そのためには一定のルールを守って図面化することが求められる。「設計製図基礎」は、主に建築図面を題材としてその描き方や読み方を学び、製図の基礎的な技術を習得するための演習科目である。平面図、断面図、立面図など、3次元の立体を2次元の建築設計図面として表現するための基礎を身に付け、アイソメ図、パースなど、建築や空間をより具体的にイメージしやすい建築物の立体的な表現方法を身に付ける。	主要授業科目
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	空間造形基礎		インテリア空間、建築空間をデザインする上では、平面的に考えるだけでなく、立体的に空間を捉え、構成するが必要となる。この授業では、主にスチレンボードを使って立体を制作する演習を通し、基本的な建築模型の作り方を学ぶ。シンプルな立体から少しずつ複雑な立体造形へと制作を進めながら、立体的に空間を構想し、制作するための知識・技術を学んでいく。3次元空間を立体的に構成する基礎的スキルを身につけ、自分の考えた空間を立体的に再現し、表現するスキルを身につける。さらに、3次元立体を2次元平面に表現することで、立体と平面との関係を理解できるようになることを目指す。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	生活空間設計製図１	○	「生活するための建築」を主題とする幾つかの設計課題に取り組むことで、そこで行われる様々な行為に適した空間の大きさや関係性、材料について学ぶことに加え、人と人、人と自然、人ともの、人と社会との関係性を熟考することで、多様化するライフスタイルへの理解を深め、さらには、今の建築の問題点を抽出し、それらを改善した新たな生活空間の創造を目指すことをテーマとする。第１・３課題では、各自が製作した図面や模型を用いてプレゼンテーションを行うことで、計画した建築に対する表現方法を総合的に学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	生活空間設計製図２	○	設計製図2では、より複雑なプログラミングを必要とする様々な設計課題を行う。実際の建築行為においては、敷地条件、周辺環境、地域社会、家族構成員や家族間の関係、コミュニティの形成、現代的なニーズへの対応など、さまざまに絡み合った課題を捉える視点とスキルが重要となる。建築行為の役割や意味を考えながら、そこに一つの解決案としての建築をデザインし、プレゼンテーションする。より複雑な課題に対して、設計条件を整理し、自分なりの問題設定を行い、課題解決に向けて多面的に思考する態度と技術を身に付ける。さまざまな条件を組み合わせて課題解決に結びつける構成力、オリジナルのデザインとして結実させる創造力、分かりやすくプレゼンテーションする表現力を身に付ける。	主要授業科目
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	生活空間設計製図３		建築を生み出す際の、プログラムづくりや空間のつくり方を演習課題をとおして修得する。より複雑で高度なプログラミングを必要とする生活空間を題材にして、実践的な設計の手法や表現方法を学ぶ。ここで習得した能力は、建築だけでなく様々なデザインの現場で必要とされる、基礎的な能力となる。卒業研究（論文・制作）だけでなく、社会での実践の場に繋がるデザインの生み出し方を学ぶ。自身で建築のプログラムを組み立てることや、独創的な企画や建築空間を提案できるようになることは、建築設計分野だけでなく、様々な分野でも応用可能な力となる。特に多様化が進む社会においては、自身の探求心や独自視点の発見など、社会で活躍していくための基礎力が必要となる。現状把握と問題発見を行い、計画の立案をし、プロセスや成果を評価して、問題を解決する能力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築ＣＡＤ		現在の建築デザインにおいては、設計支援の一助としてCADは欠かせないツールとなっている。この授業では、パソコンのCADソフトを実際に操作して、建築CAD製図に必要な知識と技術を修得することを目指す。図面のトレース、ファニチャーのモデリングおよびプランニングを通して、2D-CADによる図面作成能力の育成と、3D-CADの基本的なオペレーティング技術を修得する。CAD技術によるデザイン能力の向上とともに、コンピュータを用いた設計についての利点と課題についても学び、デザイン課題の問題点の発見力と検討力を身に付ける。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築構造		すべての建築物は、建築構造によって安全にその空間が支えられている。建築構造の基本は力学であり、力の釣り合いと力の流れを理解することが、建築構造の第一歩となる。建築の単純な骨組みである梁・ラーメン・トラスなどの構造を理解し、応力の仕組みを学ぶことによって、建築構造の基本を学んでいく。建築の構造および構成部材とその役割を理解した上で、構造力学の基本となる考え方を理解し、構造計算の基礎的な知識・技術を身に付ける。主に静定構造物を対象として、力の釣り合い、部材内部の応力について理解する。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築・インテリア構法		構法とは、建物の実体部分の「仕組み」全体を表わす概念である。それには、単にできあがった状態の建物だけでなく、造る過程をも含んでいる。そこでこの授業では、木構造や鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造などの建物全体を構成する基本的な構造方式を理解した上で、それらを造る過程を踏まえることで、各々を構成する材料の性質や接合方法などを学び、さらには、屋根や壁、床、天井などの建物の各構成要素の仕組みや特性を深く理解することをテーマとする。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築施工		建築施工の概念をはじめ、様々な建物が完成するまでの施工工程を知り、建築資材や構法の変革に柔軟な対応ができるように基本を学ぶ。建設業の概要と建築事業を概説し、そのなかで重要な位置をしめる建築施工の意義と役割を理 解する。建築工事はどのような仕組みでどのように進められるか、多彩な諸産業との関わり、設 計とのかかわり、契約のしくみ、建築現場業務について学ぶ。 建築施工の各段階の施工技術を 習得し、それらを駆使しつつ満足度の高い建築を完成するための施工管理マネジメントを学ぶ。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	構法・構造演習		各種構法および構造をより深く理解するため、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造のすべてにおいて、構成要素とその役割を各工事段階の写真やイラスト等を含む数々のビジュアルを用いて解説を行う。また、特に木造在来構法においては、自身の設計した建築物の軸組みを制作する課題制作を通して、壁量計算の基本的な考え方や軸組の仕組みについてより詳しく理解することで、木造住宅を綿密に設計できる高度な専門知識を身に付けることをテーマとする。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	材料力学		建物で快適に過ごすためには、建物の構造（骨組み）が安全でなくてはならず、この安全性を確保するため、構造設計が必要である。構造設計では、地震など建物にかかる「力」を知り、建物を構成する「材料」が安全であるかを「力学」という手法で、読み解くことが重要である。「材料力学」では、上記の目的達成のために不可欠な力学の基礎知識の習得を目的とする。部材断面に生じる応力・応力度を学び、静定構造物・不静定構造物における梁の変形・たわみの求め方を修得する。授業の中では、実務における具体的な構造設計の例を示し、美しい建築構造物の実例についても紹介する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	生活環境工学		この授業では、建築環境工学の分野の知見を中心に、生活環境を調整・整備していくためのベースとなる知識について学んでいく。光環境・音環境・熱環境・空気環境を捉える指標と心理的・生理的な快適性の関連について理解し、実際の生活環境に於ける構成要素の特徴と関連付けることで、生活環境を建築環境工学的な観点からデザインするベースを手に入れることを目標とする。さらには、地球環境的な視点からも生活環境について講述する。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	住環境・設備学		環境の中に人は住んでいて、環境と人とをつないでいる物が建築であり、環境と人との関わりについての理解は建築立地や形への応用など建築空間をデザインするために重要である。光、音、熱・空気・給排水衛生・防災・省エネルギー等、快適な環境とそれを実現するための建築設備を中心に、建物をデザインする際に気をつける事柄について扱う。人にとって快適な環境とはどのような状態を指すのか、また環境の物理的な状態と人の感じ方、そしてそれを実現するための建築設備について理解を深める。外部環境から人を守るという観点の環境理解と、建築によって生み出される環境を快適にするという観点の住環境理解を、この講義を通して考えていく。	
専門教育科目	建築・住環境デザイン科目群	建築法規		私たちの周りに建つ多くの建築物は、さまざまな法規に従って建てられている。法規の中には、地震に壊れず、火事に燃えにくく、避難しやすいように、通風・採光・遮音性能が良いように、さらに都市環境に配慮するための、幅広く総合的な知識と技術が含まれている。建築法規の知識は、資格試験対応だけでなく、建物の設計からインテリア改修、住宅を購入する場合にも必要かつ有用なものである。この授業では、建築基準法を中心にして、基礎的な建築関連法規の知識を学ぶ。建ぺい率、斜線制限など、世の中で使われている法令上の用語を理解し、日本の建築物が「建築基準法」その他の関連法規によってどのように規定されているのか、具体的に理解する。	
専門教育科目	総合デザイン科目群	コミュニティデザイン論ａ	○	この講義では、コミュニティデザインに関する様々な事例や手法を通して、コミュニティデザイン分野を学んでいくための基礎力を身につける。そもそもコミュニティデザインの定義も幅広く、この講義の中では、実社会の課題を取り巻く、モノづくり、人づくり、コトづくりまでを含め、地域課題をデザインの力で解決し、そしてより良い方向へ導くことを、コミュニティデザインの定義とする。これをデザインするために必要となる、問題発見やリサーチや分析、関係者との協働と共創、そして解決方法の提案など、これらの体系的なデザインプロセスの理解と、実社会における複合的な課題に対するデザイン手法を、実例を踏まえて概観する。	主要授業科目
専門教育科目	総合デザイン科目群	コミュニティデザイン論ｂ		コミュニティデザイン分野を深めるための、応用力を身につける講義である。「コミュニティデザイン論a」で習得した基礎力をもとに、実社会における課題をデザインする際に求められるより高度な手法として、リサーチや分析手法、総合デザイン的視点、住民や関係者との協働・共創、そしてこれらをより良い方向へ導き、各デザイン分野のデザイン効果を最大化するためのディレクションなどについて、実例を元にその手法や技術を理解し、実社会におけるより複雑で複合的な課題に対する取り組み方を習得していく。	
専門教育科目	総合デザイン科目群	環境デザインプロジェクトａ	○	分野を異にする複数の教員が担当し、少人数のチーム制で、さまざまな地域連携／社会連携プロジェクトに挑む。地域や企業・団体等と連携して社会的な課題に取り組み、フィールドワークやグループワーク、ディスカッションなどを通じて、現実的な問題発見、および問題解決を目指す。「環境デザインプロジェクトa」では、地域や諸団体等の現場における諸課題を見出し、その複雑な要素を理解するため、フィールドリサーチやワークショップ、ヒアリング等、さまざまな手法を用いて情報を集め、整理・分析し、課題の本質に迫る。協働でのリサーチデザインからプレゼンテーションまで行うことで、課題発見力、行動力、協働力を身に付ける。	共同 主要授業科目

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	総合デザイン科目群	環境デザインプロジェクトb	○	分野を異にする複数の教員が担当し、さまざまな地域連携／社会連携プロジェクトに挑む。少人数のチーム制で、地域や企業・他組織等と連携した社会的な課題に取り組み、フィールドワークやグループワーク、ディスカッションなどを通じて、現実的な問題発見、および問題解決を目指す。「環境デザインプロジェクトb」では、課題解決に向けて実践的提案にチャレンジする。実際の社会的課題には、複雑な要素・要因が組み合わさっており、多様な視点で課題を捉え、多様なデザイン手法を複合し、クリエイティブな提案を行うことを目指す。さまざまな主体とのコミュニケーションや共同作業を通し、実践的な課題解決力、行動力、協働力を身に付ける。	共同 主要授業科目
専門教育科目	総合デザイン科目群	ワークショップ演習		モノやコト等のデザインを生み出す際には、一人で生み出すものから、多くの人々との共創で生み出すものまで、様々な手法がある。この演習では共創によりアイデアを生み出す過程で使われる「ワークショップ」という形式を中心に学んでいく。実際に手を動かしながら手法を身につけると同時に、ワークショップのファシリテーション技術を修得することを目指す。履修者の多様な価値観を内包したアイデアをともに生み出し、共創の楽しさを体験する。	
専門教育科目	総合デザイン科目群	コミュニティデザイン演習	○	「コミュニティデザイン論a及びb」で習得した基礎力〜応用力を活かし、演習課題による実践形式の課題に取り組む。この授業ではコミュニティをデザインする際に必要となる「総合デザイン」としての視点を取り入れたディレクションや、コミュニティデザインに求められる様々なデザイン分野を横断する思考とデザイン力を身につける。演習課題として、課題の発見からスタートし、リサーチ・分析、関係者との協働・共創、アイデアから提案へと結びつける、コミュニティデザインに求められる一連のプロセスを自ら取り組む。このより実践的な演習課題により、総合設計演習や卒業研究、そして実社会で求められる技術の修得を目指す。	主要授業科目
専門教育科目	総合デザイン科目群	総合設計演習		この演習では、これまでコミュニティ、建築・住環境、プロダクト、ファッション等のデザイン・制作系の演習で修得してきた知識や技術を基礎に、それらを組み合わせて課題解決を提案する総合デザインに挑む。与えられた条件に合わせてモノを設計するだけでなく、課題を明確にするためのリサーチ、課題解決に求められるプログラムの検討、多様なデザイン手法のディレクション、効果的な情報発信／プレゼンテーション等のプロセスを含む、総合的な課題に取り組む。なるべく異分野のメンバーで構成されるチームで取り組むことにより、グループワークのスキルを身に付けることも目指す。	共同
専門教育科目	オープン科目	環境デザイン特論a		環境デザインに関わるさまざまなトピックを取り上げて、講義および議論を行う。都市環境、自然環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解する。「環境デザイン特論a」では、最新の環境デザインプロジェクトを事例として取り上げ、その背後にあるデザイン戦略や問題解決アプローチを分析し、社会に対する影響について議論・考察する。デザインにまつわる新しい考え方や関わり方に触れることで、クリエイティブなマインドセットを醸成することを目指す。	
専門教育科目	オープン科目	環境デザイン特論b		環境デザインに関わるさまざまなトピックを取り上げて、講義および議論を行う。都市環境、自然環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解する。「環境デザイン特論b」では、現代の社会的環境の実態や変容に目を向け、フィールドサーベイやリサーチを通して、どのように現状を捉え、どのような課題を見出してきたのか、その手法や成果を学んでいく。さらに、貧困やマイノリティなどを含めた多様なコミュニティに対する視点を広げ、問題解決手段としての環境デザインの可能性について、幅広く議論する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	関連科目群	調理学及び実習		「食べ物」を対象に調理操作技術の向上や食生活に実践活用できる資質の向上を目標とし、教職を目指す学生を中心とした実習授業。「食べ物」を料理として食卓の一献立としてとらえ、美味しさの本質を理解し、調理の必要性や調理の楽しさを学び、食事をつくる喜びを育成する。献立形式としては、日本・中国・西洋料理の献立形式に沿って基礎技術を学び、調理に関わる食品の成分変化を調理学実験から理解し、家庭科の授業において重要な教材研究を実践し、食に関する探究心を養成する。	
専門教育科目	関連科目群	栄養学		栄養の摂取はヒトの生存と生活活動に欠かせない。更に、健康を維持・増進し疾患を防ぐには、適切な栄養の摂取が必要である。各栄養素の生体における意義、それらがいかに消化・吸収・代謝されて生命活動に結びつくかを学び、疾患の予防について考える。栄養の概念、栄養素について、栄養と健康、疾患の関連について理解し、説明できるようにする。・栄養と栄養素、・各栄養素の生体における意義、・栄養素の摂取、消化、吸収、・消化器の仕組み、・三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）、・やせと肥満、摂食障害、・ビタミンの働きと欠乏症（水溶性ビタミン、脂溶性ビタミン）、・多量ミネラルの働きと欠乏症、・微量ミネラルの働きと欠乏症、・病気と栄養 食物アレルギー、生活習慣病。	
専門教育科目	関連科目群	食物学		氾濫する情報と便利な社会において、人として望ましい食生活を営むことについて探求し、消費者として生きる力を養うための基礎知識を学ぶ。食生活の現状を把握し、ライフステージの食生活について考え、健康的な食生活を営むための基礎知識および伝承すべき食文化についても学び、消費者として実生活で食品を選択できる能力を養う。専門的な基礎知識および伝統的な食文化として習得すべき「学術的な力」「豊かな教養の力」を取得する。 教職「家庭科」資格を目指す学生の必修科目である。	
専門教育科目	関連科目群	衣料学		衣生活に必要な基礎知識を、被服材料学、被服整理学、染色学等の各分野から学習し、衣料の性質や機能を理解して適材適所に応じた衣料の選択、装い、管理ができるようにする。また、国際的視点や持続可能な社会の視点から地球環境に配慮した新しい衣料用繊維や洗剤、染料の知識を修得する。衣料となる繊維製品の性質、洗濯、保管、染色等の性質について理解できることを目指し、家庭科教員に必要な衣料学の知識を広く身に付け、教育現場で活用できるようにする。	
専門教育科目	関連科目群	衣料学演習		教員免許の取得を目指し、家庭科の教科を指導する上で必要な衣料学分野の授業を行う。衣料学で学習する基本的な内容のうち、繊維素材の一般的な性質、糸や織物の性質、染色や洗濯の科学について理解を深め、家庭科教育の現場での実践力、応用力の獲得を目標とする。衣料素材の持つ性能・機能を理解し、具体的な衣料の取り扱い、管理について理解する。衣生活での学びから、衣料に関わる問題を解決出来る力を獲得する。また、これらの得た知識を実際の教育現場で活用して家庭科の指導に資する実践力を養う。	
専門教育科目	関連科目群	被服実習 a		洋服は身体保護・体温調節・運動機能・美しさ・流行など、様々な役割や側面を持っている。洋服の歴史・形態・名称・着装・デザイン・素材などの知識や、洋服の製作で必要な知識や技能を総合的に学び、さらに、人体の構造、計測法、型紙製作の基本となる原型理論と作図法、体型と原型の適合性、縫製に使われる用具や布地の扱い方、縫い方について詳しく学ぶ。既製服がほぼ100%を占める現代社会では、売られている製品の中から、体型に合い、着心地が良く、洗濯など管理がしやすい洋服を選び、環境を壊さない循環的利用をする力を習得する。実習に取り組むことで製作指導のための技能を磨き、多様な生徒の体型に適合した美しいシルエットを形づくる力を身につける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	関連科目群	被服実習ｂ		日本の民族衣装である「きもの」は、日本特有の気候や生活文化に適応した素晴らしい伝統衣服である。「大裁ち女物ひとえ長着（女物浴衣）」の実物製作を通して、平面の布を立体である人体に合わせる構成理論と実際のものづくりを学る。具体的には、一反（布幅約36ｃｍ・布長さ約11m50ｃｍ）の反物から一着の浴衣を完成させるまでの過程、すなわち、①材料や用具の選択、②長着の構成、③反物の裁断法、④しるしの付け方、⑤各部位を美しく丈夫に仕上げる手縫いの縫製技法などの学習を連続的に行うことで日本の伝統的で優れた和服文化を学習する。最後に、浴衣を美しく着装する着付け実習と管理収納の方法を学び、和服の衣生活力を養う。	
専門教育科目	関連科目群	被服実習ｃ		被服の構成理論や基本技術の習得を目標とする。中学校・高等学校家庭科の被服分野における教材研究を中心に学習する。被服の機能や着装、構成理論や服装史について概説する。さらに人体計測の基礎、パターンの作成と展開、素材の選択、縫製用具やミシンの使い方、基本的な縫製技術等の習得を目的として、家庭科の授業展開に応用できるように小物や休養着の製作を行なう。縫製技術や休養着の製作技術を習得することで、簡単な被服の製作ができるようになる。毎時間ごとに目標を立てて実行していくことで、自ら主体的に製作に取り組む行動力を習得し、作品を完成することで、作る喜びや楽しさを知る。	
専門教育科目	関連科目群	家庭経営学		社会の最小集団である家族からなる家庭は、企業を経営するのと同様に、経済に関する知識やセンスが求められる。そのセンスを磨く学問が「家庭経営学（family resource management）」である。 個人や家族がもっている知識、エネルギー、時間、友人、能力など資源resourceを使い、家族構成員の価値化に沿った形で、気持ちのよい、自分らしい生活を運営するために「家族経済学」と「消費生活」の2領域を中心に講義を行う。社会に出たら嫌でも付き合うことになる「数字」や「経済」が得意な大学生を目指す。 (1)家庭経済学領域では、給与明細を読み解き、所得税の計算ができ、直接金融の特徴（株式、債券、投資信託）が説明できるようになる。 (2)消費生活領域では、契約・クーリングオフ、契約自由の原則やネット社会のトラブル対処方法などについて、正しく理解できるようになる。	
専門教育科目	関連科目群	生活経済学		2022年度からの高校新学習指導要領　高校「家庭」では、キャッシュレス化、株式、債券、投資信託といった直接金融を教えることと明記された。高い生活経済リテラシーをもち、持続可能な家計管理ができるオトナになることを目指す。 (1)人生設計のあらゆる場面でお金が関わることを実感をもって理解できるようになる。 (2)お金の知識について、直接金融の金融商品を説明することができるようになる。 (3)「借入」した場合の返済について、シミュレーションなどを通して理解することができるようになる。	
専門教育科目	関連科目群	家族関係学		人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的にとらえる中で、家族関係の法則性について明らかにする。今日、家族の「多様化」や「私事化」、「個別化」、「個人化」が進み、様々な家族の問題が取りざたされている。どのようにそれらの問題をとらえ、どのように対応していくか、問題意識を基に分析を試みる。さらに、誰にとっても身近な存在である家族について、客観的、科学的にとらえ、多面的に分析し、問題解決に取り組む態度を身に付けることを目的とする。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	関連科目群	保育学		子どもたちが健やかに育つよう、保育者は日々努力を重ねている。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき展開される保育園・幼稚園・認定こども園の実際の様子を知ると共に、今日の保育が抱える課題に目を向けられるようにする。そして、今後の保育のあるべき姿を共に考え合う場とする。乳幼児や保育に関する知識を身に付け、現代的課題を考えることで、広い視野と深い洞察力を身につける。	
専門教育科目	関連科目群	育児学		育児学は、子どもの健全な成長と発達を支え、次世代を担う社会人を育成するための実践の学問である。子どもの身体と心の発達過程を正しく理解し、経験と科学によって裏打ちされた育児知識・技術を学び、自身の生活や仕事で活かせるようにする。更に、社会で注目されている子どもの病気や問題の基本事項を理解する。子どもの発育・発達、病気や養育の問題について理解し、これらについて説明できるようにする。 女性の身体的特徴、妊娠のメカニズムと胎児の発育、子どもの発育と発達、子どもの生活、乳汁栄養と離乳食、食物アレルギー、子どもの肥満、子どものやせと摂食障害、子どもの事故、感染症と予防接種、被虐待児、注意欠陥/多動性障害・学習障害、子どもの発育と発達に影響する因子。	
専門教育科目	関連科目群	看護学		本来看護は、看護師誕生前から人々の暮らしの中にあり、人間誰もが持っている自然に治る力(自然治癒力)を引き出すことにある。また、看護は、病気や症状がある人のみが対象ではなく、健康な人も対象となり、健康な人が、より健康に過ごせるためのケアも含める。例えばコロナ感染症に罹らないための予防行動、メンタルヘルス、若者に多い健康阻害因子とその予防など公衆衛生学的な視点からもアプローチをしていく。また、自身の心身の状態に気付くための観察方法並びに病気や症状のケアや予防等、分かり易く学ぶ。 テーマ:①ヘルスプロモーションと看護　②女性の健康　③青年期を生きる　④ストレスとメンタルヘルス　⑤病気とその予防　⑥身近な症状の見方と家庭看護　⑦応急処置/救急法　⑧高齢者と介護の8項目を具体的テーマとする。	
教職に関する専門科目		教職入門		教職の社会的意義、教職の歴史、教員に求められる役割や資質、職務の内容と教員研修の意義、教員養成と採用の現状などについて学習する。また、グループで協力して共通の課題に取り組むことで、教職に必要な「協働性」を養う。これらの学習を通して、教職への自らの意志と適性を確かめつつ、教職への意欲を高めることを目的とする。 ・教職の意義について学び、教職に関する知識、理解を修得する。 ・相互に協力をして課題に取り組み、教職に必要な「協働性」の育成をめざす。	
教職に関する専門科目		教育原理		教育の歴史と主だった思想を学ぶ中で、教育の基本概念をつかむ。社会的歴史的な文脈のなかで教育の思想と実践がどのように変遷し、発展してきたかを理解することによって、現代の教育上の課題を自ら発見する力を身に付ける。 　教育を社会的な文脈のなかで理解し、最終的には親、社会、子どもの権利関係という視点から教育学固有の問題を理解する。 ・すべての子どもたちを対象とする公教育を成立させるに至った近代までの過程を理解できるようになる。 ・近代へと至るそれぞれの時代の顕著な教育思想や教育実践を理解できるようになる。 ・教育が人類社会にとって普遍的・共通的な価値を持つ社会的事実であり続けてきたことを理解できるようになる。 ・人類社会における公教育と教職の重要性を理解できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	発達・学習理論		児童生徒の発達と学習過程について基礎知識を学び，それらが教育といかに関わるかを対話的に思考し，心理特性を踏まえた学習指導ができるための基礎力を獲得することを目的とする。発達や学習の各領域を学び，基礎知識の定着を図る。また授業で扱う理論が各自の経験における教育・学習・発達状況といかに関連するかも考えていく。 ・子供の発達の道筋を説明でき、子供との接し方に配慮できるようになる ・学習と記憶の仕組みがわかり、教育場面に応用できる	
教職に関する専門科目	教育制度		公教育制度の成立、プロセスや理念、また教育制度の各項目についての法制度的理解、さらに直近の教育制度改革の背景と目的、要点について学ぶ。 学校教育の成立のプロセスや理念、教育制度の意義、原理、構造について理解し、現代社会の教育制度が抱える課題について多面的に捉えることができるようになる。また、公教育制度が孕む様々な矛盾を、社会的な課題や国家目的という文脈の中で具体的に理解しつつ、学校、教育行政機関の目的を実現するための学校経営的視点を持つことができるようになる。さらに、学校と地域社会との連携、学校災害や事故への対応など、学校に期待される現代的課題を理解できるようになる。	
教職に関する専門科目	教育課程論		学習指導要領の変遷を理解する。学校教育における教育課程の意義と機能、編制の基本原理と方法を理解する。直近の教育内容改革の骨子を理解する。カリキュラム・マネジメントの重要性と方法に関する理解を深める。 ・教育課程に関する基礎的な教職教養を身に付ける。 ・学校におけるカリキュラムの内容と編制方法を社会的な文脈のなかで理解できるようになる。 「教育課程論」の基本確認と導入、戦後教育改革における教育内容編成原理、政治経済と教育内容、教育をめぐる状況の変化と教育内容改革の課題、教育内容と教師像の転換、学力問題と学習指導要領改訂、評価とカリキュラム・マネジメント	
教職に関する専門科目	特別支援教育論		今や通常学校の教員も、特別支援教育の理解が不可欠である。それは、通常学校にも特別な支援という教育的ニーズを必要としている児童生徒が学び、障害のある子もない子も共に学ぶインクルーシブ教育システムを推進しているからである。そして広くすべての児童生徒達にその指導・支援のあり方が役立ち、わかりやすい授業や居心地の良い学校へと繋がっていきく。そのため、特別支援教育の基本理念を理解し、指導・支援の仕方を修得することが求められる。 この授業では、特別支援教育や各種障害の特性や支援の基礎を学び、共生社会を目指す教師としての資質・能力を育成する。 ・特別支援教育の理念と多様な学びの場の概要を修得する。 ・障害および様々な教育的ニーズを知り、その特性が理解できるようになる。 ・様々な困難を抱える児童・生徒を支援する方法の基礎が身に付く。	
教職に関する専門科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」は、教科の学習だけでは育成できない資質・能力を育む機能を持っている。将来教職をめざすうえで、「特別活動」や「総合的な学習（探究）の時間」の意義や内容、実践に関わる指導法について学習することが必要である。理論と実践を融合した授業を展開する。 ・「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」に関する基礎的な知識を習得する。 ・教育課程における「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の位置付けと各教科等との関連を理解する。 ・「特別活動」と「総合的な学習（探究）の時間」の指導計画と評価に関する知識・技能を身に付ける。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	家庭科教育法（1）		家庭科教育の変遷、教科としての特質、家庭科がこれからの時代に果たすべき役割について理解するとともに、教育内容の系統性を踏まえた指導法を学修し、指導技術を修得する。中学校「技術・家庭（家庭分野）」及び高等学校「家庭」の内容と指導法について理解し、多角的な視点を取り入れた授業設計を行い、授業実践ができるようになる。 ・家庭科教育の変遷、現状と課題、・学習指導要領の目標と内容、指導計画、・学習評価と評価計画、・家族・家庭生活領域の教材研究と授業づくり、・食生活領域の教材研究と授業づくり、・衣生活領域の教材研究と授業づくり、・住生活領域の教材研究と授業づくり、・消費生活・環境領域の教材研究と授業づくり、・生活の課題と実践、ホームプロジェクトと学校家庭、・クラブ活動の教材研究と授業づくり、・学習指導案の作成、・模擬授業の実施と検討	
教職に関する専門科目	家庭科教育法（2）		中学校・高等学校の家庭科の各内容について、場面に応じた効果的な指導が展開できるよう、情報機器等を活用し、教材を自ら考え、工夫できるようにする授業実践力を養う。 ・家庭科の目標である自立し共に生きる生活を創造するために、よりよい生活を営む力を育成するための指導法について具体的　に理解し、模擬授業に活かすことができるようになる。 ・学習指導案に基づき模擬授業を行うことで、自己の問題点を把握し、改善につなげることができるようになる。	
教職に関する専門科目	家庭科教育法（3）		新学習指導要領の趣旨や家庭科の特質を踏まえた授業が展開できるように、模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。 ・主体的・対話的で深い学びの視点や指導と評価の一体化を図る視点から模擬授業を設計し、実施後は、自己の課題を把握し改善で　きるようになる。 ・授業の過程において、情報機器等を効果的に活用することができるようになる。 　家庭科における問題解決的な学習、家族・家庭生活及び福祉領域の授業研究と実践（家庭の機能、幼児、高齢者、地域との関わり） 　食生活領域の授業研究と実践（栄養、献立作成、食品の選択、調理、食文化、 　衣生活領域の授業研究と実践（衣服の選択、衣服の手入れ、製作、住居の機能、安全な住まい方） 　消費生活・環境領域の授業研究と実践（金銭の管理と購入、消費者の権利と責任）	
教職に関する専門科目	家庭科教育法（4）		家庭科における実習、観察・実験、調査・研究等の指導法について学修し、高度で専門的な知識と指導技術を修得する。 　中学校及び高等学校「家庭」の衣食住、保育等における実践的・体験的な学習の指導法について知識と技術を身に付け、問題解決的な学習を取り入れた授業実践ができる。 ・中学校「技術・家庭（家庭分野）」、高等学校「家庭」の学習指導と評価、・高等学校共通教科「家庭」の指導計画・評価計画の作成と学習指導案、・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動の指導、・基礎基本を取り入れた被服実習の指導、・技術の定着を図る被服実習の指導、・実習作品の仕上げと評価、・被服実験の指導と教材作成、・食生活、調理実験、調理実習の指導の指導、・乳幼児の生活と保育、高齢者の生活と福祉の指導、・消費生活の指導、・実践的、体験的な学習内容、問題解決的な学習方法、学ぶ意欲を高め、生きる力を育てる模擬授業の実施と評価	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	道徳教育指導論		教育基本法及び関連する法に基づく学校教育の役割は重く、特に学校の教育活動全体を通して行われる道徳教育は教育基本法の冒頭にある「人格の形成」を具現化するために不可欠な教育活動である。『特別の教科 道徳』は社会的課題であるいじめ問題やいじめによる不登校、自殺といった課題解決に直接かかわるものと期待され教科化された。 道徳教育の目標及び道徳科の目標を十分に理解するとともに、道徳科を通して人間としての生き方について考えを深め、道徳性を養うための指導理論を理解する。模擬授業を通して実践的な指導力を身につける。	
教職に関する専門科目	教育方法・技術論（ＩＣＴ活用含む）		授業とは、実際に生徒を前にして授業を行うことのみで完結するわけではない。事前に綿密な授業計画を立て、次にそれを実施し、さらに終了後には振り返って改善点を探るというPlan-Do-Check-Actのサイクルから成り立つ。本講義では、このような授業の一連の流れとその技法を学ぶ。 さらに近年、教育の世界においても情報化の流れが急速に進んでいることから、教育における情報通信技術（ICT）の活用についても学び、ICTを教育に取り入れる方法を考えていく。 以上をふまえて、本講義では最後に総まとめとして、ICTを活用した模擬授業を実施する。	
教職に関する専門科目	生徒・進路指導論		生徒指導とは、生徒の人格の成長を目標とする営みである。個性の伸張をはかりつつ、社会性を身に着けることが人格成長へとつながっている。その目標に必要な知識を身に着けるとともに、様々な方法を知り、それを自分で使えるよう実践的な方法を学ぶ。 ①生徒指導を進めていくための知識・技能を身につけて、理論に支えられた実践につなぐことができるようになる。 ②生徒指導を組織的に進める必要性を理解し、他の教職員および関係機関と連携しながら実践できる方法・力を修得する。 ③進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や学級経営の在り方および方法論が理解できるようになる。	
教職に関する専門科目	教育相談		教育相談は、児童・生徒の心理的特性や教育的課題を適切に捉え、個々の発達の状況に応じて成長を支援する教育活動である。生徒の発達段階を踏まえて、教師が行う教育相談の理論と方法について学ぶ。前半では、教育相談の基盤となるカウンセリング理論や技法、生徒を理解するためのアセスメントに関する知識を修得する。また、様々な問題に対し、学校内外ならびに保護者との連携してチームで関わっていくことの重要性を理解する。後半では、学校現場での不適応や心の問題に対してどのように理解して対応するかを、グループワークを通して検討する。 ①学校における教育相談の意義と課題を理解する。 ②教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。 ③多様な価値観を理解し、人の話を傾聴する技術を身につける。 ④必要に応じて学校内外の機関や保護者と連携し、適切な支援を考えることが出来るようになる。	
教職に関する専門科目	教育実習Ａ		実際の教育現場である中学校や高等学校で円滑な教育実習を行うために、教師としての心構えや教科等の指導、学級経営、生徒指導等の指導方法、教職員との関係の構築など、実習に臨むにあたっての基本的な心構えや態度及び知識やスキルを身に付ける。 3週間の実習後は、教育実習の体験を振り返り、その成果と課題を分析し、さらなる教師力の向上を目指すことを目的とする。 ・教育実習生として、かつ本学の代表として、学校現場の教育活動に携わるという強い自覚と目的意識をもって教育実習に臨むことができるようになる。 ・教育実習期間の学びを整理して、自己の課題を把握し、改善できるようになる。	

授　業　科　目　の　概　要 （環境デザイン学部環境デザイン学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	教育実習Ｂ		実際の教育現場である中学校や高等学校で円滑な教育実習を行うために、教師としての心構えや教科等の指導、学級経営、生徒指導等の指導方法、教職員との関係の構築など、実習に臨むにあたっての基本的な心構えや態度及び知識やスキルを身に付ける。 2週間の実習後は、教育実習の体験を振り返り、その成果と課題を分析し、さらなる教師力の向上を目指すことを目的とする。 ・教育実習生として、かつ本学の代表として、学校現場の教育活動に携わるという強い自覚と目的意識をもって教育実習に臨むことができるようになる。 ・教育実習期間の学びを整理して、自己の課題を把握し、改善できるようになる。	
教職に関する専門科目	教職実践演習（中・高）		教職課程の総まとめの科目として、これまでの教職課程の科目の履修や様々な活動を通じて身に付けてきた資質能力が、教員として必要なレベルまで有機的に統合され、形成されたかについて振り返って確認し、発表や協議、討論等を通して、知識やスキルを補充・深化することにより、さらなる力量形成を目指すことを目的とする。 ・教員になる上での自己の課題を明確にし、その解決に向けて具体的に考えることができる。 ・発表や協議、討論等を通して、協働性や同僚性を高めるとともに　知識やスキルを補充・深化することができる。 ・学校現場の様々な課題について理解し、具体的な解決策を考えることができる。	
教職に関する専門科目	介護支援基礎論		中学校の教員免許取得に必須の介護等体験を次年度に行うための事前学習を行う。介護等体験は、特別支援学校と社会福祉施設で行い、個人の尊厳と社会連携の理念を学び、多様な人々と交流する。それは、介護のハウツウではなく、多様な人々と関わる経験と、いかにコミュニケーションしたらよいか身をもって考える機会となる。充実した介護等体験ができるよう、体験先に関する基本や体験先で出会う障害者や高齢者等との関わり方のポイントについて学び、また、学外での活動を円滑に行うための社会的態度も習得する。 ・特別支援学校と社会福祉施設に関する基本を習得する。 ・多様な価値観の人々との相互理解と協力を築く態度が身につく。 ・障害がある人や高齢者などと関わるポイントが身につく。 ・学外での活動を円滑に行うための社会的態度も修得する。	
教職に関する専門科目	介護等体験		中学校教諭免許課程に必須となる学外での活動。特別支援学校および社会福祉施設において７日間にわたる介護等体験を実施し、中学校教員を目指す者として、個人の尊厳と社会連帯の理念、および、多様な人々とのコミュ二ケーションのあり方について、体験を通して、その基本事項を修得できることを目指す。 ・多様な価値観を持つ人々との交流を通じて、人権への意識が高まる。 ・多様な人々とどのように関わったらよいか、コミュニケーションしたらよいかについて、体験を通して気づくことができる。 ・相互理解と協力を築く態度、自己成長する研鑽力、課題解決のための行動力、相互理解に基づいて自らの役割を果たす協働力を修 得する。	

授　業　科　目　の　概　要

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教職に関する専門科目	教職研究ａ		教育や学校を取り巻く諸問題、教師や児童・生徒に関する今日的な課題等について、資料に基づいて問題点を把握するとともに、各問題に関する背景の調査や情報収集、解決に向けた発表や協議等を通して、問題解決に向けた方策を多様な視点から考察し、教職を目指すにあたっての幅広い視野と識見を身に付ける。 ・教育時事に関する情報を収集し、整理・活用することができるようになる。 ・今日的な教育課題を多用な視点から把握し焦点化して、よりよい問題解決に向けて考えをまとめることができるようになる。 ・自分の考えを、根拠に基づいて他者に説得力をもって伝達することができるようになる。	
教職に関する専門科目	教職研究ｂ		教職に就くことを目指して、各科目で学習した教育心理学の内容を改めて把握し直し、より深めることが目的。教育は生徒と教師、生徒同士が関わり合って行われる複雑な活動であるため、より良い教育を行うためには、人間の心や行動に関する心理学の観点を持つことが必要である。たとえば、生徒の様子について発達や学習の理論から把握し、教育的働きかけの基礎的メカニズムや、メンタルな支援、特別支援教育など。教職課程では、教育に関する心理学の科目として、「発達・学習理論」をはじめとして「教育方法・技術論」「特別支援教育論」「教育相談」などで、様々な内容を学んだことを教育に活かせるよう、別々に学習した内容を体系的・総合的に整理し直し、教職の希望に近づけるようにする。	
教職に関する専門科目	教職研究ｃ		必修の教職課程科目である教育制度及び教育課程論で行った内容に基づき，教育制度，教育法，学習指導要領等について，より理解を深める。授業内においては、演習及び法規関連の内容の確認のために『教育六法』を用いる。 ・日本の教育制度に関する規定を，法規に基づいて理解する ・法規の改正を伴う最新の教育制度動向について説明できる ・現行学習指導要領の概要と重要ポイント，導入の背景と企図を理解する	
教職に関する専門科目	教職研究ｄ		家庭科の教員になるために必要とされる学びを把握し、自分に不足している点を補充・深化することで、より専門性を高め、さらなる力量形成を目指すことを目的としている。 　家庭科の教員として必要な知識や技能、資質能力を身に付け、学校や生徒の実態を踏まえたかつ場面に応じた授業ができるようになる実践力を身に付けていく。 ・家庭科教員に求められる各領域における知識や技能等を把握するとともにそれらを活かした授業をデザインすることができるようになる。 ・教員としての指導の根幹をなす授業力を高めるために、様々な事例や指導方法を学ぶことで、教職に対する自信と誇りをもって指導にあたることができるようになる。	
教職に関する専門科目	教職研究ｅ		教職は、書く、話すなどの表現力が求められる職務であり、教員採用選考の試験内容にも、論作文、面接（個人・集団）、場面指導などが位置付けられている。そうした課題に対応できる教師を目指して、演習を通して教師に相応しい表現力を身に付けていく。 1.幅広い視点から課題について考え、根拠を基に自分の考えを書いたり、話したりできるようになる。 2.与えられた課題について、自己の考えを確かにもちながら、他者との協働を通して視野を広げたり、深めたりすることができるようになる。 3.多様な状況や場面に対して、周囲の様々な環境や影響などに配慮しながら、的確な判断ができるようになる。	

学校法人実践女子学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
実践女子大学				実践女子大学				
文学部				文学部				
国文学科	110	3年次 9	458	国文学科	110	3年次 9	458	
英文学科	110	3年次 9	458	英文学科	110	3年次 9	458	
美学美術史学科	90	3年次 2	364	美学美術史学科	90	3年次 2	364	
生活科学部				生活科学部				
食生活科学科				食生活科学科				
管理栄養士専攻	70	－	280	管理栄養士専攻	70	－	280	
食物科学専攻	75	－	300	食物科学専攻	75	－	300	
健康栄養専攻	40	－	160	健康栄養専攻	40	－	160	
生活環境学科	80	3年次 2	324		0	3年次 0	0	令和7年4月学生募集停止 令和9年4月学生募集停止 (3年次編入学分)
生活文化学科				生活文化学科				
生活心理専攻	40	3年次 2	164	生活心理専攻	40	3年次 2	164	
幼児保育専攻	45	－	180	幼児保育専攻	45	－	180	
現代生活学科	60	－	240	現代生活学科	60	－	240	
人間社会学部				人間社会学部				
人間社会学科	100	－	400	人間社会学科	100	－	400	
ビジネス社会学科	80	－	320	ビジネス社会学科	80	－	320	
社会デザイン学科	80	－	320	社会デザイン学科	80	－	320	
国際学部				国際学部				
国際学科	120	－	480	国際学科	120	－	480	
				環境デザイン学部				学部の設置（届出）
				環境デザイン学科	81	－	324	
計	1,100	3年次 24	4,448	計	1,101	3年次 22	4,448	
実践女子大学大学院				実践女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
国文学専攻（M）	10	－	20	国文学専攻（M）	10	－	20	
国文学専攻（D）	3	－	9	国文学専攻（D）	3	－	9	
英文学専攻（M）	6	－	12	英文学専攻（M）	6	－	12	
美術史学専攻（M）	6	－	12	美術史学専攻（M）	6	－	12	
美術史学専攻（D）	2	－	6	美術史学専攻（D）	2	－	6	
生活科学研究科				生活科学研究科				
食物栄養学専攻（M）	6	－	12	食物栄養学専攻（M）	6	－	12	
食物栄養学専攻（D）	2	－	6	食物栄養学専攻（D）	2	－	6	
生活環境学専攻（M）	6	－	12	生活環境学専攻（M）	6	－	12	
人間社会研究科				人間社会研究科				
人間社会専攻（M）	7	－	14	人間社会専攻（M）	7	－	14	
計	48	－	103	計	48	－	103	

１．都道府県内における位置関係の図面

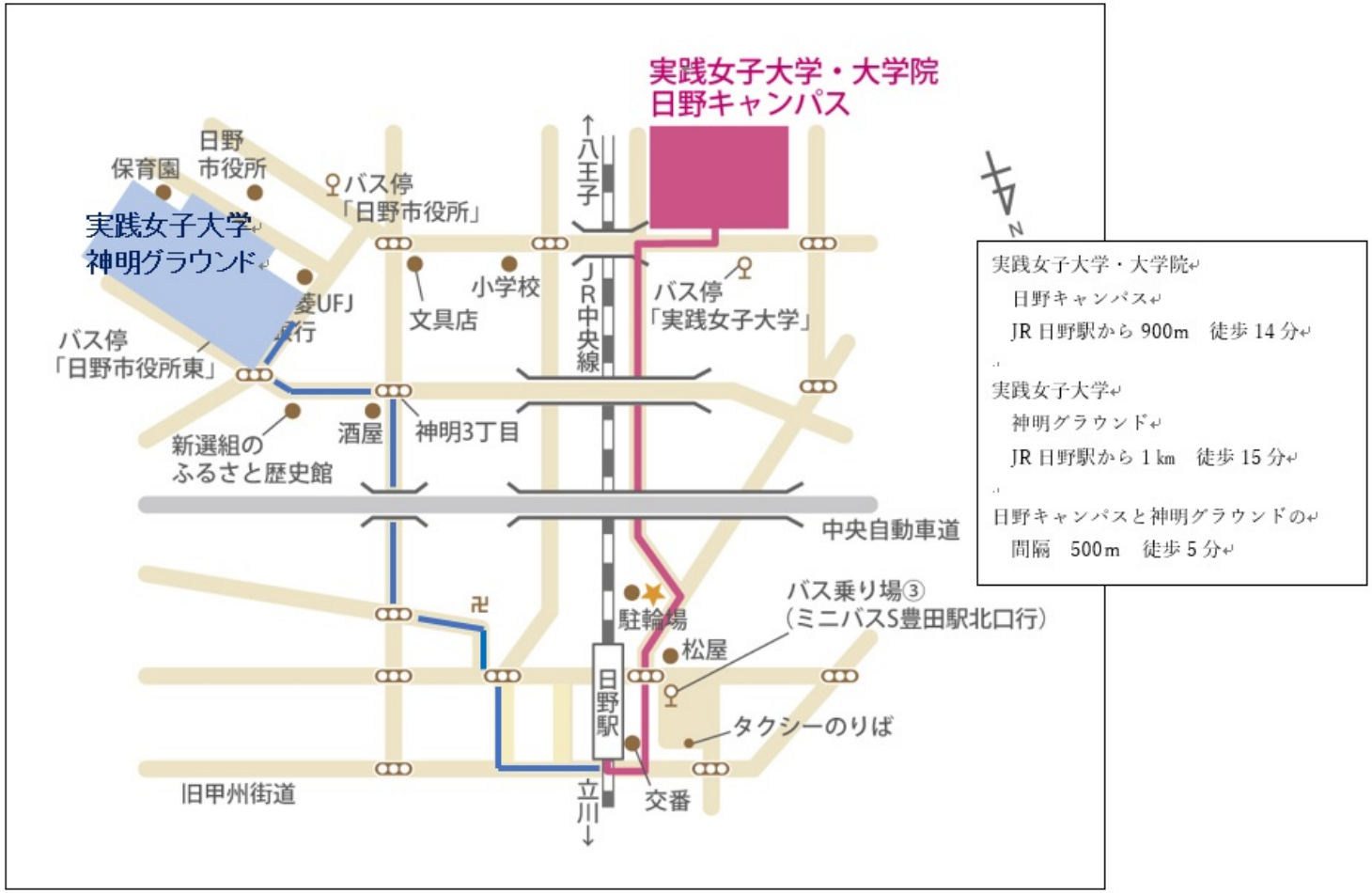


実践女子大学　環境デザイン学部
　日野キャンパス
　　東京都日野市大坂上４－１－１

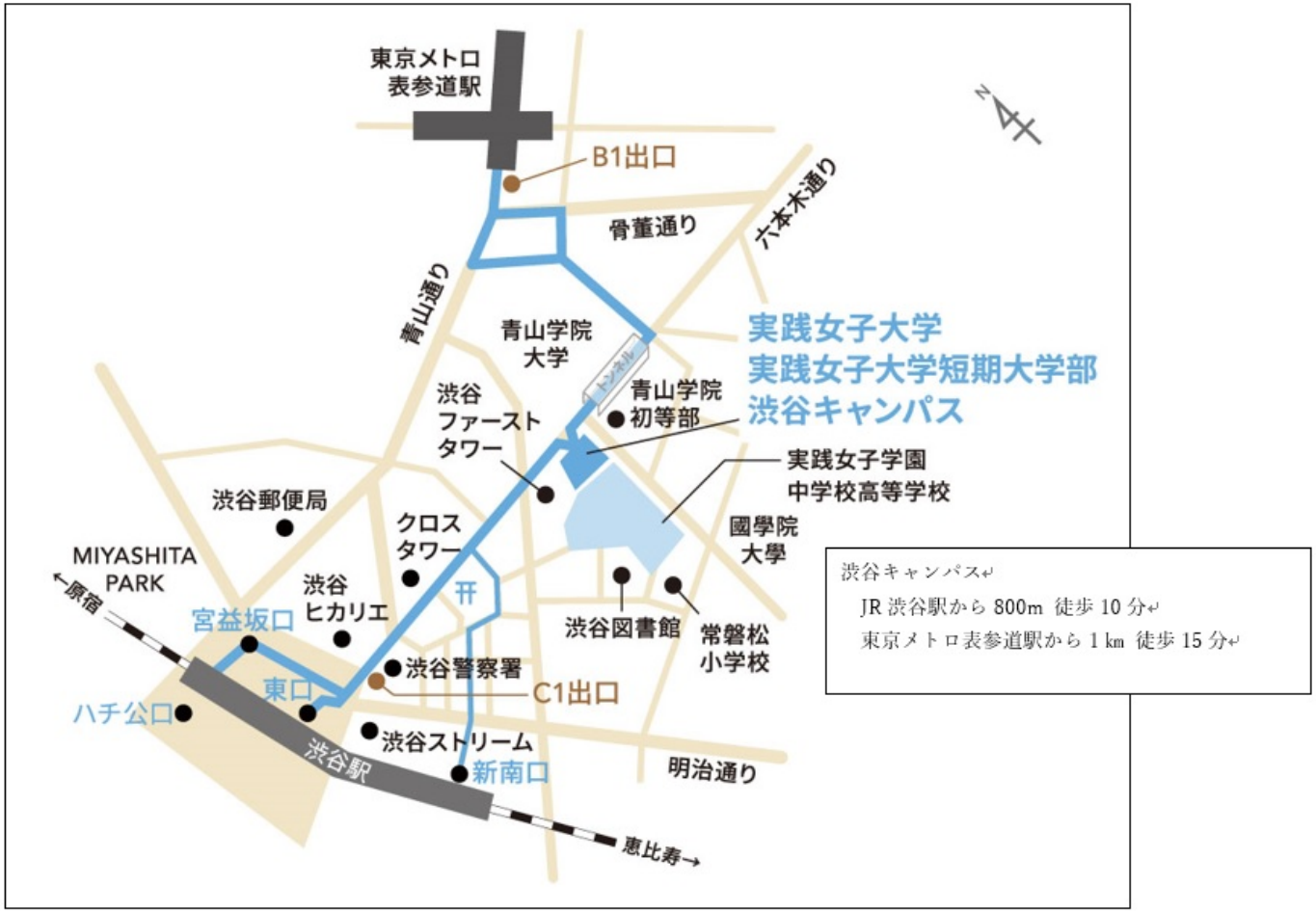
実践女子大学
　神明グラウンド
　　東京都日野市神明１－１３－１

実践女子大学
　渋谷キャンパス
　　東京都渋谷区東１－１－４９

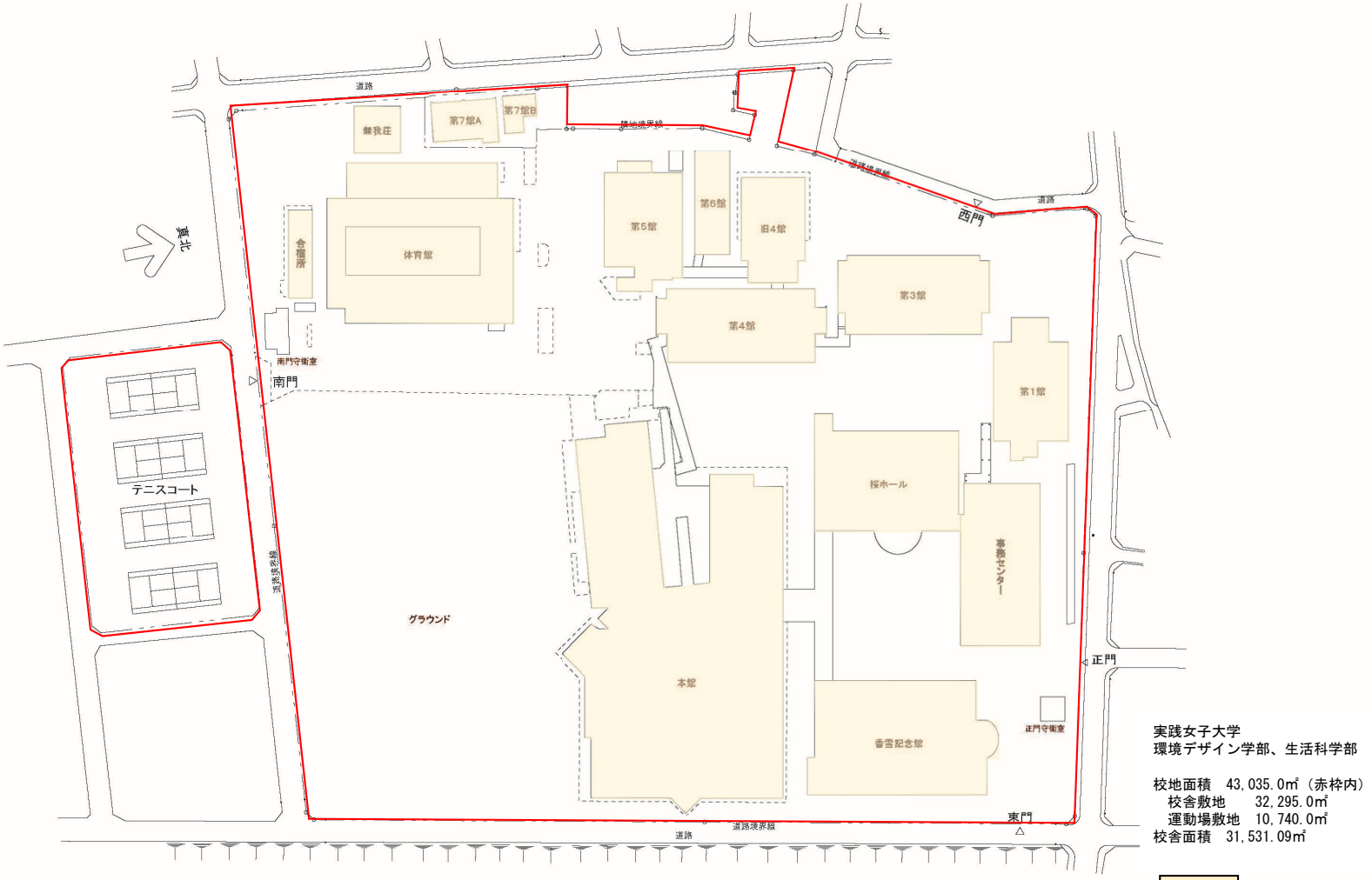
２．最寄り駅からの距離，交通機関及び所要時間がわかる図面（日野キャンパス、神明グラウンド）



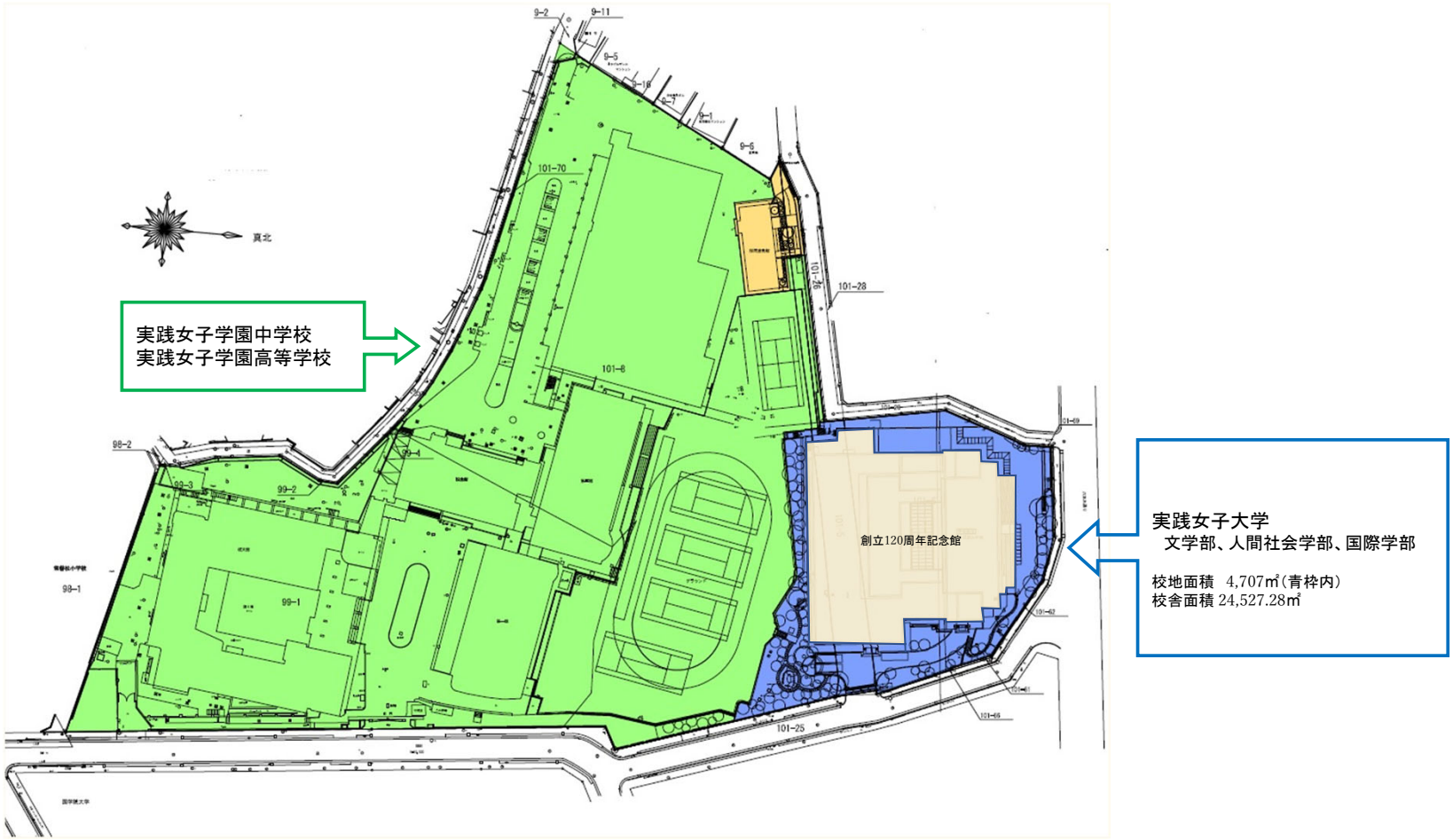
最寄り駅からの距離，交通機関及び所要時間がわかる図面（渋谷キャンパス）



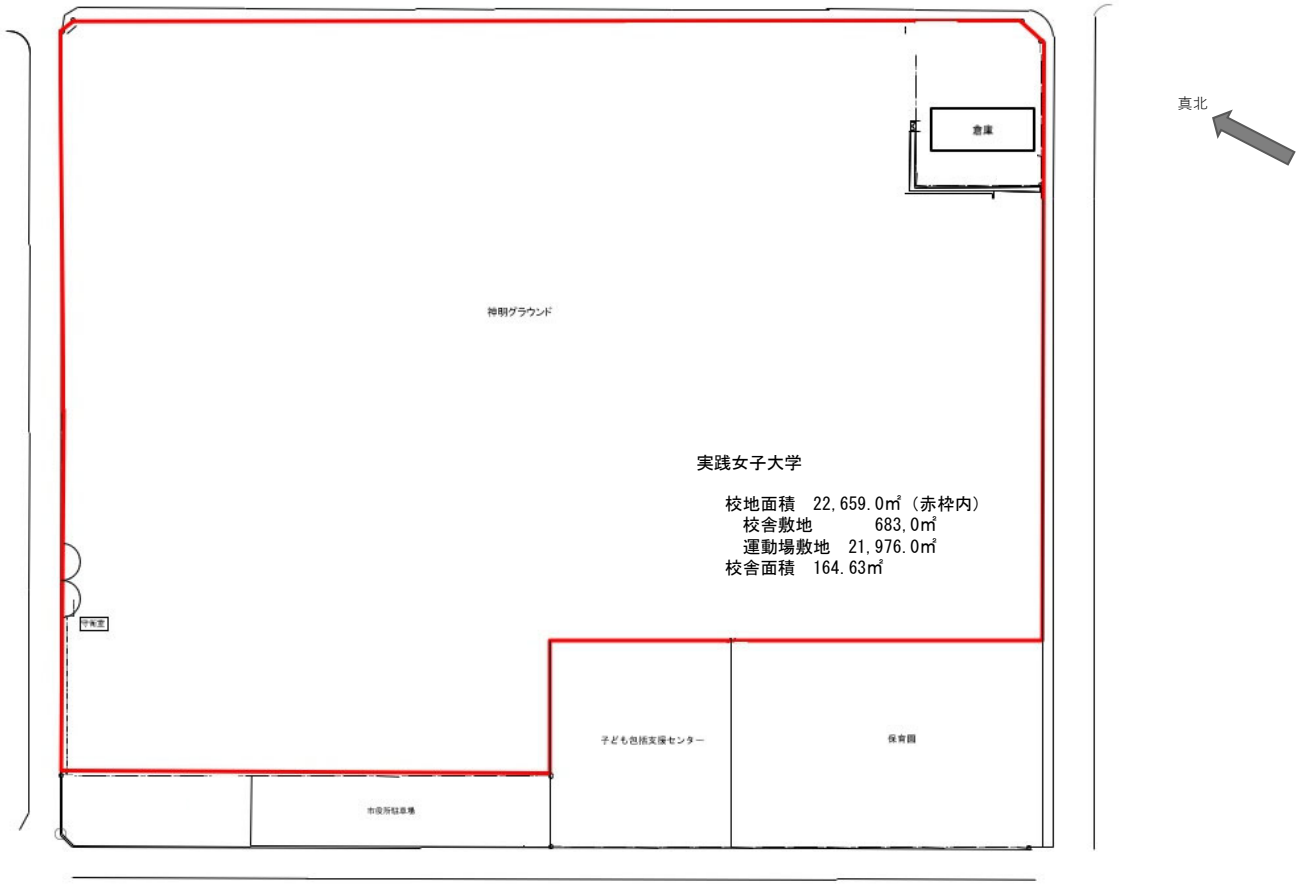
３．校舎，運動場等の配置図（日野キャンパス）



校舎，運動場等の配置図（渋谷キャンパス）



校舎，運動場等の配置図（神明グラウンド）



実 践 女 子 大 学 学 則(案)

２０２５（令和７）年４月

実 践 女 子 大 学

○実践女子大学学則

（昭和 24 年 4 月制定）

改正 昭和 56 年 4 月 1 日　昭和 57 年 4 月 1 日　昭和 58 年 4 月 1 日
昭和 59 年 4 月 1 日　昭和 60 年 4 月 1 日　昭和 61 年 4 月 1 日
昭和 62 年 4 月 1 日　昭和 63 年 4 月 1 日　平成元年 4 月 1 日
平成 2 年 4 月 1 日　平成 3 年 4 月 1 日　平成 4 年 4 月 1 日
平成 5 年 4 月 1 日　平成 6 年 4 月 1 日　平成 7 年 4 月 1 日
平成 8 年 4 月 1 日　平成 9 年 4 月 1 日　平成 10 年 4 月 1 日
平成 11 年 4 月 1 日　平成 12 年 4 月 1 日　平成 13 年 4 月 1 日
平成 14 年 4 月 1 日　平成 15 年 4 月 1 日　平成 16 年 4 月 1 日
平成 17 年 4 月 1 日　平成 18 年 4 月 1 日　平成 18 年 12 月 15 日
平成 19 年 3 月 23 日　平成 19 年 4 月 11 日　平成 19 年 12 月 19 日
平成 20 年 3 月 28 日　平成 21 年 3 月 27 日　平成 21 年 7 月 22 日
平成 22 年 3 月 26 日　平成 22 年 7 月 28 日　平成 22 年 12 月 17 日
平成 23 年 4 月 1 日　平成 24 年 3 月 23 日　平成 24 年 7 月 20 日
平成 24 年 10 月 19 日　平成 25 年 3 月 22 日　平成 25 年 3 月 22 日
平成 26 年 3 月 22 日改正　平成 27 年 3 月 28 日改正　平成 28 年 3 月 26 日改正
平成 29 年 3 月 25 日改正　平成 30 年 3 月 24 日改正　2019 年 3 月 23 日改正
2020 年 3 月 21 日改正　2021 年 3 月 27 日改正　2022 年 3 月 26 日改正
2023 年 2 月 18 日改正　2024 年 3 月 23 日改正

※昭和 24 年 4 月から昭和 56 年 4 月 1 日の間の沿革は省略

第 1 章　総則

第 1 条　本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを実践し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。

第 2 条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。

2　前項の点検、評価の方法等については、別に定める。

第 2 章　大学院、学部、学科等の組織、目的

第 3 条　本学に文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部、環境デザイン学部をおき、修業年限は各 4 年とする。

2　文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。

3　生活科学部に食生活科学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活心理専攻と幼児保育専攻をおく。

4　人間社会学部に人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科をおく。

5　国際学部に国際学科をおく。

6　環境デザイン学部に環境デザイン学科をおく。

7　学生は、8 年を超えて在学することはできない。

第4条　本学に大学院をおく。
2　大学院に関する事項は、別に定める。
第5条　文学部及び文学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。
2　文学部では、日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を授け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とする。
3　国文学科では、日本文学を体系的、理論的、総合的に研究し、日本語の本質と変遷を解明することにより、日本文化の進展に寄与しうる人材を育成することを目的とする。そのため、研究の対象を広げることに努め、古典を重視するとともに近代現代の文学、さらにはそれらに大きな影響を与えた中国の思想と文学に深く配慮し、現代の我々の言語生活に直結する歴史的課題にも留意した教育を実践する。
4　英文学科では、大学生としてのしっかりとした基礎の上に英語の運用能力を養成し、英語圏文化及び言語学に関する幅広い知識と教養を身につけることにより、知的好奇心を備え、主体的に国際化社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
5　美学美術史学科では、日本、東洋、西洋各地域の美術史と美学及び日本芸能史について、幅広い知識と教養を身につけ、美術の実技を学ぶことも含めて、芸術についての総合的な理解力と自己表現力を養い、芸術、文化とそれを生み出した社会に対する理解と洞察力を備えた人材の育成を目的とする。
第6条　生活科学部及び生活科学部各学科・専攻の教育研究上の目的は次のとおりとする。
2　生活科学部では、食物、栄養、健康、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とする。
3　食生活科学科では、社会で必要とされる健康と栄養、食と暮らしのスペシャリストを育成する。さらに、食関連の職業に就いたときに活躍できる能力と、取得した資格に相応しい実力の養成を目的とする。
(1)　管理栄養士専攻
　食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、管理栄養士として、また、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
(2)　食物科学専攻
　食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、フードスペシャリスト、家庭科教員、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
(3)　健康栄養専攻
　食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
4　生活文化学科では、人の生涯発達、家族・家庭、保育・教育に関する広い学識を授け、生活を探究し、専門性を要する職業に就いた時に活躍できる人材の育成を目的とする。
(1)　生活心理専攻
　生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえ、社会の変化に伴う家庭経済や家族関係、ならびに心身の健康に関する生活課題について、心理学的方法を基礎として理解、考察し、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

(2)　幼児保育専攻

家族とともにある子どもの発達を理解し、子どもと家族を総合的に支援する観点から、必要な基本的知識・技能・態度を身につけた保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成を目的とする。

5　現代生活学科では、現代生活の問題を構造的に捉えクリエイティブに解決できる人材の育成を目的とする。

第7条　人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2　人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。

3　人間社会学科では、社会に対する学びとしての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学びとしての心理学を基礎にしつつ、教育学やジェンダー論、メディア論などを学ぶことを通して、現代社会に生きる人と人、人と社会の関係について理解を深めるとともに、社会調査の技法や課題解決能力、コミュニケーション能力を身につけ、ビジネス社会や地域社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とする。

4　ビジネス社会学科では、多様化・複雑化するビジネス社会に求められる経営学、マーケティング論、経済学、法律学、コミュニケーション学を中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会における企業や地域・国際社会で発生する諸問題に取り組み、それらを解決できる能力を修得し、企業組織や地域・国際社会で活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

5　社会デザイン学科では、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

第7条の2　国際学部及び国際学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2　国際学部では、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語以外の外国語に慣れ親しみ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成を目的とする。

3　国際学科では、国際語である英語の高い運用能力と様々な人々に対応したコミュニケーション能力を背景に、学問としての言語・コミュニケーション研究、国際文化研究、日本文化研究、地域・観光研究という4つの研究領域に関する幅広い知識を活用し、国際社会で他者と協働しながら目標に向かうことのできる人材の育成を目的とする。

第7条の3　環境デザイン学部及び環境デザイン学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2　環境デザイン学部では、生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その

影響や相互関係を多様な視点から理解し、実際の社会課題などに応用することができる力を身につけた人材の育成を目的とする。

3　環境デザイン学科では、ファッション、プロダクト、建築等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを学び、各分野で学んだ様々なスキルを総合的に用いて、実際の社会課題などをデザインの力で解決することができる人材の育成を目的とする。

第8条　文学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国文学科	110名	9名	458名
英文学科	110名	9名	458名
美学美術史学科	90名	2名	364名

第9条　生活科学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	専攻	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	－	280名
	食物科学専攻	75名	－	300名
	健康栄養専攻	40名	－	160名
生活文化学科	生活心理専攻	40名	2名	164名
	幼児保育専攻	45名	－	180名
現代生活学科		60名	－	240名

第10条　人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
人間社会学科	100名	－	400名
ビジネス社会学科	80名	－	320名
社会デザイン学科	80名	－	320名

第10条の2　国際学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国際学科	120名	－	480名

第10条の3　環境デザイン学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
環境デザイン学科	81名	－	324名

第11条　本学に大学教育研究センター、大学言語文化教育研究センター、大学教職センターをおく。

2　大学教育研究センターに関する規程は、別に定める。

3　大学言語文化教育研究センターに関する規程は、別に定める。

4　大学教職センターに関する規程は、別に定める。

第 12 条　本学に文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所を附置するとともに、これらを統括し、本学の学術研究を推進するために実践女子大学研究推進機構を置く。

2　実践女子大学研究推進機構、文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所に関する規程は、別に定める。

第 3 章　授業科目

第 13 条　授業科目は、各学科共これを必修科目と選択科目とに分け、学年の始めに定める。

第 14 条　文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部。環境デザイン学部の共通教育科目は、別表第 1 のとおりとする。

第 15 条　文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第 3 のとおりとする。

2　生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活文化学科生活心理専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第 4 のとおりとする。

3　人間社会学部人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の専門科目は、別表第 5 のとおりとする。

4　国際学部国際学科の専門科目は、別表第 6 のとおりとする。

5　環境デザイン学部環境デザイン学科の専門科目は、別表第 7 のとおりとする。

第 16 条　教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第 8、司書及び司書教諭は別表第 9、学芸員は別表第 10 の授業科目を履修しなければならない。

2　本学の各学科において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科		取得できる教育職員免許状の種類	
文学部	国文学科		中学校教諭 1 種免許状	国語
			高等学校教諭 1 種免許状	国語・書道
	英文学科		中学校教諭 1 種免許状	外国語(英語)
			高等学校教諭 1 種免許状	外国語(英語)
	美学美術史学科		中学校教諭 1 種免許状	美術
			高等学校教諭 1 種免許状	美術
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	栄養教諭 1 種免許状	
		食物科学専攻	中学校教諭 1 種免許状	家庭
			高等学校教諭 1 種免許状	家庭
		健康栄養専攻	栄養教諭 2 種免許状	
	生活文化学科	生活心理専攻	中学校教諭 1 種免許状	家庭
			高等学校教諭 1 種免許状	家庭
		幼児保育専攻	幼稚園教諭 1 種免許状	
			小学校教諭 1 種免許状	
	現代生活学科		中学校教諭 1 種免許状	家庭

		高等学校教諭 1 種免許状	家庭
人間社会学部	人間社会学科	中学校教諭 1 種免許状	社会
		高等学校教諭 1 種免許状	公民
	ビジネス社会学科	中学校教諭 1 種免許状	社会
		高等学校教諭 1 種免許状	公民
環境デザイン学部	環境デザイン学科	中学校教諭 1 種免許状	家庭
		高等学校教諭 1 種免許状	家庭

3　管理栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻に在籍し、第 26 条の規定によるほか、第 15 条別表第 4 に定める所定の授業科目を履修し、国家試験を受験しなければならない。

4　栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻又は同健康栄養専攻に在籍し、第 26 条の規定によるほか、第 15 条別表第 4 に定める「栄養士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。

5　一級建築士試験又は二級建築士試験の受験資格を取得しようとする者は、環境デザイン学科に在籍し、建築士法に定める必要な単位を修得しなければならない。

6　保育士の資格を取得しようとする者は、生活文化学科幼児保育専攻に在籍し、第 26 条の規定によるほか、第 14 条別表第 1 及び第 15 条別表第 4 に定める「保育士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。なお、履修方法の詳細は別に定める。

7　その他の資格について、取得に必要な要件は別に定める。

第 4 章　履修方法、単位算定

第 17 条　学生は、履修しようとする授業科目を毎学年又は毎学期の始めに登録しなければならない。登録していない授業科目には単位を与えない。

第 18 条　削除

第 19 条　授業科目を履修し、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して合格した者には、所定の単位を与える。

2　1 単位の授業科目は、45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1)　講義・演習については、15 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

(2)　実験、実習及び実技については、45 時間をもって 1 単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30 時間をもって 1 単位とすることができる。

3　卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では 6 単位、英文学科では 6 単位、美学美術史学科では 6 単位、食生活科学科管理栄養士専攻及び同健康栄養専攻では 5 単位、同食物科学専攻では 6 単位、生活文化学科では 6 単位、現代生活学科では 4 単位、人間社会学科では 4 単位、ビジネス社会学科では 4 単位、社会デザイン学科では 4 単位、国際学科では 6 単位、環境デザイン学科では 6 単位とする。

4　本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第2項に規定する講義・演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第20条　本学が教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学又は短期大学と協議したところにより、学生が当該の他大学等において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。

2　本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学において修得したものとして認めることができる。

3　本学が教育上有益と認めるときは、本学が留学先として適当と認めた外国の大学あるいはこれに相当する高等教育機関において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。

4　留学に関する規程は、別に定める。

5　1項、2項及び3項において認めることのできる単位数の合計は次条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えないものとし、単位の取り扱いに関しては別に定める。

第21条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に大学又は短期大学において修得した単位(第58条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学において修得した単位として前条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えない範囲で認めることがある。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。

2　編入学・転入学の場合は、前項の単位認定とは別に認めることができる。

3　単位の取り扱いに関しては、別に定める。

第5章　学習評価、卒業の認定

第22条　定期試験は、毎年2回各学期の終わりに行う。ただし、休学中の者は試験を受けることはできない。

第23条　病気又は事故により試験に欠席したときは、願い出により追試験を許可することがある。

2　追試験に関する規程は別に定める。

第24条　試験等の評価は、＋A・A・B・C・Dの五段階とし、C以上を合格とする。卒業論文についても同様である。

第25条　卒業論文又はこれに代る授業科目の制作物は、専門科目の範囲内で題目を定め、所定の期日までに提出しなければならない。

第26条　本学を卒業するためには、次表に定める単位を修得しなければならない。

＼授業科目の区分 学部・学科		共通教育科目	専門科目	選択自由単位	合計
文学部	国文学科	28	70	26	124単位以上
	英文学科	28	76	20	124単位以上
	美学美術史学科	28	76	20	124単位以上

生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	24	85	15	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
	生活文化学科	生活心理専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
	現代生活学科		36	76	12	124 単位以上
人間社会学部	人間社会学科		28	76	20	124 単位以上
	ビジネス社会学科		28	76	20	124 単位以上
	社会デザイン学科		28	76	20	124 単位以上
国際学部	国際学科		28	76	20	124 単位以上
環境デザイン学部	環境デザイン学科		28	82	20	130 単位以上

2　前項の単位修得に関しては、別に定める。

第 27 条　前条第 1 項に定める単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2　学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

文学部卒業者　　学士(文学)
生活科学部卒業者　　学士(生活科学)
人間社会学部卒業者　　学士(人間社会学)
国際学部卒業者　　学士(国際学)
環境デザイン学部卒業者　学士(環境デザイン学)

第 28 条　在学 8 年(休学期間は除く。)を超えてなお所定の単位を修得できない者は、これを除籍する。

第 6 章　入学・転部・転科・退学・休学・転学

第 29 条　入学の時期は、学年の始めとする。

第 30 条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等学校を卒業した者
(2)　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
(3)　通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
(4)　外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
(5)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した、在外教育施設の当該課程を修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者
(7)　高等学校卒業程度認定試験規則(平成 17 年文部科学省令第 1 号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定合格者を含む。)
(8)　その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者

第 31 条　次の各号の一に該当する者で、本学への編入学・転入学を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。
(1)　大学を卒業した者
(2)　大学に 2 年以上在学した者
(3)　短期大学を卒業した者
(4)　その他前各号と同等以上の学力があると本学で認めた者

2　本学学生で転部・転科を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に転部・転科を許可することがある。

第 32 条　入学志願者に対しては、選考試験を行う。その方法は、その都度定める。

第 33 条　入学志願者は、所定の入学願書に入学検定料を添えて願い出なければならない。

第 34 条　選考試験に合格した者は、指定の期日までに入学金その他の納付金を納入しなければならない。また、別に定める期日までに、保証人による保証書を提出しなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第 35 条　保証人は、父又は母(父母のない場合は、独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。外国人で父母が日本に居住していない場合は、我が国に在住する独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。)とし、その学生の在学中における経済的負担を含む一切の責任を負うものとする。

第 36 条　保証人の身分に異動があったとき、又は死亡したときには、その旨直ちに届け出なければならない。

第 37 条　学生が病気又は事故によって欠席するときには、その旨届け出なければならない。ただし、欠席が 1 週間以上にわたるときには、保証人の連署を要し、病気のときには、医師の診断書を添えなければならない。

第 38 条　退学しようとする者又は転学しようとする者は、その理由を具し、保証人の連署で願い出なければならない。

第 39 条　病気又は事故によって、引き続き 3 か月以上学習することができない者は、その理由を具し、保証人の連署で休学を願い出ることができる。

2　休学期間は、通算して 2 年を超えることができない。

第 40 条　休学期間は、第 3 条第 5 項の在学年数に算入しない。

第 41 条　休学している者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て許可を得なければならない。

第 42 条　いったん退学した者が再入学しようとするときは、退学後 2 年以内に限り選考のうえ許可することがある。

2　再入学については、「実践女子大学再入学に関する規程」による。

第 43 条　授業料その他の学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者は、除籍する。

第 7 章　学費

第 44 条　本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

		入学金	授業料 （年額）	施設設備費 （年額）	実験実習費 （年額）
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	240,000 円	770,000 円	320,000 円	―
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻 食物科学専攻 健康栄養専攻	 240,000 円 240,000 円 240,000 円	 810,000 円 790,000 円 790,000 円	 320,000 円 320,000 円 320,000 円	 80,000 円 60,000 円 70,000 円
	生活文化学科 生活心理専攻 幼児保育専攻	 240,000 円 240,000 円	 790,000 円 810,000 円	 320,000 円 320,000 円	 ― 40,000 円
	現代生活学科	240,000 円	790,000 円	320,000 円	―
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科 社会デザイン学科	240,000 円	770,000 円	320,000 円	―
国際学部	国際学科	240,000 円	830,000 円	320,000 円	―
環境デザイン学部	環境デザイン学科	240,000 円	790,000 円	320,000 円	40,000 円

第 45 条　授業料の納入期限は、前期分 4 月末日、後期分 10 月末日までとする。

第 46 条　授業料その他の学費は、出席の有無にかかわらず、学籍のある間は納めなければならない。ただし、休学期間中の授業料、実験実習費は免除することができる。この場合、次条本文の規定はこれを適用しない。

第 47 条　既納の学費は、いかなる理由でも返還しない。ただし、入学時の納入金に限り所定期間内に本人及び保証人の連署による「入学辞退及び納入金返還申出」のあるものについては、入学金を差し引いた納入金を返還する。

第 8 章　教職員組職

第 48 条　本学に学長をおく。

2　学長は大学を統括し、これを代表する。

3　学長は、別に定める規程により選任する。

第 49 条　本学に副学長をおく。

2　副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

3　副学長は、別に定める規程により選任する。

4　副学長は、学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長の職務を行う。

第 50 条　本学に教授、准教授、講師、助教及び助手をおく。

2　講師を分けて専任と兼任とする。

3　教授、准教授、講師及び助教の任免は、教授会の議を経て、学長が決定し、理事会がこれを行う。

第 50 条の 2　本学に特別任用教員をおく。

2　特別任用教員に関する規程は、別に定める。

第 51 条　各学部に学部長をおく。

2　学部長は学長を補佐し、学部に関する校務をつかさどる。

3　学部長は、別に定める規程により選任する。

第 52 条　各学科、課程に主任を置き、教授の中から任命する。

2　主任に関する規程は、別に定める。

第 53 条　本学に教授会を設ける。

2　教授会に関する規程は、別に定める。

第 54 条　教授会は、必要に応じ委員会を設けることができる。

2　委員会に関する規程は、別に定める。

第 55 条　本学に事務職員その他必要な職員をおく。

第 9 章　賞罰

第 56 条　在学中、人格、学術共に優秀な者を教授会の議を経て特待生とし、授業料その他を免除することがある。

第 57 条　学長は、学生が学則又は学内規定に違反し、学生の本分に反する行為があると認めたときは、教授会の議を経て懲戒を行うことができる。

2　前項の懲戒は訓告、停学及び退学とし、退学は学生が次の各号の一に該当するときに限る。

(1)　性行不良で、改善の見込みがないと認められるとき

(2)　学力劣等で、成業の見込みがないと認められるとき

(3)　正当な理由なく出席常でないとき

(4)　学園の秩序を乱し、その他学生の本分に反したとき

第 10 章　科目等履修生・特別聴講学生・委託生・外国人留学生

第 58 条　本学の授業科目の修得を目的として願い出のあった者(以下、科目等履修生という。)については、授業に支障のない範囲において選考のうえ科目の履修を許可し、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して合格した者に、第 19 条に定めるところにより単位を与えることがある。

2　科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第 59 条　本学の授業科目の聴講を希望する他大学又は短期大学等の学生があるときは、当該の大学又は短期大学等との協議に基づき所定の手続きを経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2　特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

第 60 条　委託生として入学又は聴講を希望する者があるときは、その研修しようとする授業科目の教授者、学部長、学長協議のうえ許可するものとする。

2　委託生に関する規程は、別に定める。

第 61 条　外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第 30 条第 4 号又は第 8 号に規定する要件を満たして入学を願い出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。
2　外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。
3　外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第 11 を設ける。
4　前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

第 11 章　公開講座

第 62 条　本学は、必要に応じ公開講座を開設する。

第 12 章　学期及び休業日

第 63 条　学年は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
第 64 条　1 年間の授業を行う期間は、35 週にわたることを原則とする。
第 65 条　学年を分けて、次の 2 学期とする。
　前期　4 月 1 日から 9 月 20 日まで
　後期　9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで
2　前項に定める各学期に 2 つの期間（以下「クォーター」という。）を置くことができる。
3　各クォーターの始期及び終期については、別に定める。
第 66 条　休業日は、次のとおりとする。
　日曜日
　国民の祝日に関する法律に規定する休日
　本学創立記念日(5 月 7 日)
　春期休業日　3 月 21 日から 4 月 4 日まで
　夏期休業日　7 月 30 日から 9 月 20 日まで
　冬期休業日　12 月 21 日から翌年 1 月 7 日まで
2　前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第 13 章　図書館

第 67 条　本学に図書館を設ける。
2　図書館に関する事項は、別に定める。

第 14 章　生涯学習センター

第 68 条　本学に生涯学習センターを附置する。
2　生涯学習センターに関する規程は、別に定める。

第 15 章　雑則

第 69 条　学則の改廃については、全学教授会の議を経て、学長が決定し、理事会に付議する。

附　則

この学則は、昭和 24 年 4 月から適用する。
(中略)

附　則(昭和 61 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 2 章第 3 条及び第 4 条の規定にかかわらず、昭和 61 年度から昭和 74 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

文学部			家政学部			計
国文学科	英文学科	美学美術史学科	食物学科		被服学科	
			管理栄養士専攻	食物学専攻		
150 名	150 名	100 名	60 名	120 名	120 名	700 名

3　第 3 章第 6 条別表(2)家政学部授業科目(被服学科)及び第 7 章第 29 条の規定は、昭和 61 年度入学生から適用し、昭和 60 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(昭和 62 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 6 条別表(2)家政学部授業科目の食物学科基礎教育科目並びに専門教育科目は昭和 62 年度入学生から適用し、昭和 61 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 5 章第 16 条及び第 7 章第 29 条の規定は昭和 62 年度入学生から適用し、昭和 61 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(昭和 63 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目の外国語科目並びに英文学科専門教育科目は昭和 63 年度入学生から適用し、昭和 62 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 7 章第 29 条の規定は、昭和 63 年度入学生から適用し、昭和 62 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成元年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目の美学美術史学科専門教育科目は平成元年度入学生から適用し、昭和 63 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 7 章第 29 条の規定は平成元年度入学生から適用し、昭和 63 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 2 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目中、国文学科「中世近世文学史」、「漢字書法 I II」及び英文学科「比較文化」については、平成 2 年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 3 章第 5 条別表(2)家政学部授業科目並びに第 3 章第 8 条別表(3)教職課程授業科目は、平成 2 年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

4　第 7 章第 29 条の規定は平成 2 年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 3 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目の英文学科基礎教育科目及び専門教育科目、美学美術史学科専門教育科目、第 3 章第 8 条別表(7)博物館学芸員関係授業科目は、平成 3 年度入学生から適用し、平成 2 年度以前の入学生については従前の規定による。
3　第 7 章第 29 条の規定は、平成 3 年度入学生から適用し、平成 2 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 4 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 5 章第 19 条第 2 項の規定は、平成 3 年 9 月 24 日から適用する。
2　第 7 章第 36 条の規定は、平成 4 年度入学生から適用し、平成 3 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 5 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 21 条及び第 7 条別表第 1、第 8 条別表第 2、第 9 条別表第 3、第 11 条別表第 7 並びに第 39 条の規定については平成 5 年度入学生から適用し、平成 4 年度以前の入学生は従前の規定による。

附　則(平成 6 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 7 条別表第 1、第 8 条別表第 2、第 9 条別表第 3 並びに第 39 条の規定については平成 6 年度入学生から適用し、平成 5 年度以前の入学生は従前の規定による。

附　則(平成 7 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 3 条、第 6 条、第 7 条、第 9 条、第 11 条 2 項、第 14 条 3 項、第 20 条、第 21 条、第 22 条 2 項、第 39 条及び第 7 条別表 1、第 8 条別表 2、第 9 条別表 3、第 11 条別表 4、別表 5、別表 6、別表 7 の規定については平成 7 年度入学生から適用し、平成 6 年度以前の入学生については従前の規定による。ただし、生活科学部、食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻および生活環境学科の名称については平成 7 年度入学生から適用し、平成 6 年度以前の入学生については平成 9 年度までの間は従前どおりとする。
3　第 6 条に規定する入学定員は、平成 11 年度までの間は次のとおりとする。

<table>
<tr><td colspan="4">生活科学部</td></tr>
<tr><td colspan="2">食生活科学科</td><td rowspan="2">生活環境学科</td><td rowspan="2">生活文化学科</td></tr>
<tr><td>管理栄養士専攻</td><td>食物科学専攻</td></tr>
</table>

40 名	90 名	90 名	80 名

附　則(平成 8 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 7 条別表第 1 文学部・生活科学部総合教育科目、第 8 条別表第 2 文学部専門科目国文学科、英文学科及び第 9 条別表第 3 生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻については、平成 8 年度入学生から適用し、平成 7 年度入学以前の入学生については従前の規定による。

3　第 5 章第 21 条の規定のうち文学部及び生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻については、平成 8 年度入学生から適用し、平成 7 年度入学生以前の入学生については、従前の規定による。

4　第 7 章第 39 条の規定については、平成 8 年度入学生から適用し、平成 7 年度入学以前の入学生については、従前の規定による。ただし、冷暖房費については、平成 7 年度入学以前の入学生にも適用する。

附　則(平成 9 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 4 章第 15 条 2 項 3 項の規定については、平成 8 年度入学以前の入学生についても適用する。

3　第 5 章第 21 条の規定のうち生活科学部食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科については、平成 9 年度入学生から適用し、平成 8 年度入学以前の入学生については従前の規定による。

4　第 7 章第 39 条の規定については、平成 9 年度入学生から適用し、平成 8 年度以前の入学生については従前の規定による。

5　第 3 章第 8 条別表第 2 文学部専門科目国文学科、美学美術史学科及び第 9 条別表第 3 生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻、生活環境学科については、平成 9 年度入学生から適用し、平成 8 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 10 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 7 章第 39 条の規定については、平成 10 年度入学生から適用し、平成 9 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 3 章第 8 条別表第 2 文学部専門科目美学美術史学科及び第 9 条別表第 3 生活科学部専門科目生活環境学科については、平成 10 年度入学生から適用し、平成 9 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 11 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 7 章第 39 条の規定については、平成 11 年度入学生から適用し、平成 10 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第3章第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。生活文化学科については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。別表第6学校図書館司書教諭科目及び単位数については平成11年度から適用する。

附　則(平成12年4月1日)

1　この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。

2　第5条及び第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

	学部・学科		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	国文学科		145名	137名	130名	125名	120名
	英文学科		145名	137名	130名	125名	120名
	美学美術史学科		100名	100名	100名	100名	100名
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	70名	70名	70名	70名
		食物科学専攻	57名	57名	54名	51名	45名
	生活環境学科		85名	83名	82名	77名	75名
	生活文化学科		80名	80名	80名	80名	80名

3　第7章第39条の規定については、平成12年度入学生から適用し平成11年度以前の入学生については従前の規定による。

4　第3章第7条別表第1全学共通科目、別表第2文学部・生活科学部共通科目、第8条別表第3文学部専門科目国文学科、英文学科、美学美術史学科、第9条別表第4生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科及び生活文化学科については平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。第11条別表第5教職課程科目、別表第8博物館学芸員科目及び単位数については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成13年4月1日)

1　この改正学則は、平成13年4月1日から施行する。

2　第3章第8条別表第3文学部専門科目美学美術史学科については平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成14年4月1日)

1　この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。

2　第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

	学部・学科		平成14年度	平成15年度	平成16年度
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	70名	70名
		食物科学専攻	84名	81名	75名

	生活環境学科	87 名	82 名	80 名
	生活文化学科	85 名	85 名	85 名

3　第 21 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

4　第 39 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

5　第 9 条別表第 4 生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 15 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 3 章第 8 条別表第 3 文学部専門科目美学美術史学科については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 3 章第 11 条別表第 8 博物館学芸員関係授業科目については平成 13 年度入学生から適用し、平成 12 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 16 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 10 条別表第 4 生活環境学科の授業科目のうち「消費生活学」については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 17 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 10 条別表第 4 食生活科学科管理栄養士専攻及び食物科学専攻の授業科目のうち「毒性学」については平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 10 条別表第 5 人間社会学科の授業科目については、平成 16 年度入学生から適用する

附　則(平成 18 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 11 条第 2 項の規定のうち美学美術史学科については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。

3　第 10 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

アジアの美術 c	2	アジアの美術 d	2	デザイン史 a	2	デザイン史 b	2
身体文化論 a	2	身体文化論 b	2	絵画入門 a	1	絵画入門 b	1
絵画実習 a	2	絵画実習 b	2	絵画実習 c	2	絵画実習 d	2
デザイン入門 a	1	デザイン入門 b	1	デザイン実習 a	2	デザイン実習 b	2
デザイン実習 c	2	デザイン実習 d	1	デザイン実習 e	1	工芸実習 a	2

工芸実習ｂ	2	彫刻実習ａ	2	彫刻実習ｂ	2		

4　第10条別表第4食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「生理学」については平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

5　第11条別表第6教職課程授業科目及び単位数のうち美学美術史学科教育職員免許状に関わる科目については、美学美術史学科平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

6　第11条別表第6教職課程授業科目及び単位数のうち「教育原理」については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

7　第11条別表第9博物館学芸員関係授業科目については、平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については従前の規定による。

8　第10条別表第1-1文学部・生活科学部共通科目のうち「コリア語ａ」「コリア語ｂ」については、平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生については従前の規定による。

9　第10条別表第1-2人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成16年度入学生から適用する。

コリア語Ａ	1	コリア語Ｂ	1	フランス語Ａ	1	フランス語Ｂ	1
フランス語Ｃ	1	フランス語Ｄ	1	ドイツ語Ａ	1	ドイツ語Ｂ	1
ドイツ語Ｃ	1	ドイツ語Ｄ	1				

附　則(平成18年12月15日)

この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成19年3月23日)

1　この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

2　第10条別表第4生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち幼稚園教諭免許状に関わる科目については、生活文化学科保育士コース平成17年度入学生から適用する。

3　第11条第2項の規定のうち生活文化学科幼児保育専攻については、生活文化学科保育士コース平成17年度入学生から適用する。

4　第10条別表第1-1文学部・生活科学部共通科目のうち「コリア語会話ａ」「コリア語会話ｂ」については平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成19年4月11日)

この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成19年12月19日)

この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

附　則(平成20年3月28日)

1　この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

2　第 14 条別表第 1-2 人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成 18 年度入学生から適用し、平成 17 年度以前の入学生については従前の規定による。

健康運動実習 2	1	健康体力科学演習	1	ヘルスプロモーション実践実習 2	1	レクリエーショナルスポーツ	1

3　平成 18 年度入学生及び平成 19 年度入学生については、第 15 条別表第 3 英文学科の授業科目から次の科目を削除する。

セミナーc	1	セミナーd	1	セミナーe	1	セミナーf	1

4　第 15 条別表第 4 食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「健康運動論演習」については、平成 19 年度入学生から適用し、平成 18 年度以前の入学生については従前の規定による。

5　第 15 条別表第 5 人間社会学科の授業科目のうち次の科目については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。

心理学研究法	2	社会調査方法論	2	社会調査実習 I	2	社会調査実習 II	2
認知心理学	2	社会科学データ分析	2	特別講義 B	2		

附　則(平成 21 年 3 月 27 日)

1　この改正学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 15 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成 20 年度入学生から適用し、平成 19 年度以前の入学生については従前の規定による。

西洋古代・中世美術 a	2	西洋古代・中世美術 b	2	西洋古代・中世美術 c	2	西洋古代・中世美術 d	2
西洋現代美術 a	2	西洋現代美術 b	2	絵画実習 e	2		

3　平成 20 年度入学生については、第 15 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目から次の科目を削除する。

西洋古代美術 a	2	西洋古代美術 b	2	西洋中世美術 a	2	西洋中世美術 b	2
デザイン実習 e	1						

4　第 16 条別表第 9 博物館学芸員関係の授業科目のうち「文化財保存学 a」「文化財保存学 b」の単位数については、平成 19 年度入学生から適用し、平成 18 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 21 年 7 月 22 日)

1　この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 15 条別表第 4 生活文化学科生活文化専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。

3　第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。

附　則(平成 22 年 3 月 26 日)

1　この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、別表第 4、別表第 6、第 16 条第 2 項の規定は、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(平成 22 年 7 月 28 日)

1　この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則(平成 22 年 12 月 17 日)

1　この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附　則(平成 23 年 4 月 1 日)

1　この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 26 条、第 44 条の規定については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生について従前の規定による。
3　第 15 条別表第 4、及び第 15 条別表第 5 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規定による。
4　第 16 条別表第 6 教職課程授業科目については、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については従前の規定による。
5　第 16 条別表第 7 図書館司書関係授業科目については、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については従前の規定による。
6　第 16 条別表第 9 博物館学芸員関係授業科目については、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については従前の規定による。

附　則(平成 24 年 3 月 23 日)

1　この改正学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち、次の科目については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については従前の規程による。

道徳の指導法	講義	2	特別活動の指導法	講義	2
介護支援基礎論	講義	2	介護等体験	実習	1
教育実習指導(幼稚園)	演習	1	教育実習指導(小学校)	演習	1
教育実習 a(幼稚園)	実習	4	教育実習 b(幼稚園)	実習	2
教育実習 a(小学校)	実習	4	教育実習 b(小学校)	実習	2

3　平成 23 年度入学生については、第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の科目から次の科目を削除する。

道徳・特別活動の指導法	講義	2	教育実習指導	演習	1
教育実習	実習	4			

4　第 16 条別表第 6 教職課程授業科目については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については従前の規程による。
5　第 49 条第 1 項、第 2 項及び第 4 項については、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。
6　学長の職務の代理及び代行に関しては、平成 24 年度は従前の規程による。
7　平成 19 年 4 月 11 日制定の「学長の職務の代理及び代行に関する規程」は、平成 25 年 3 月 31 日をもって廃止とする。

附　則(平成 24 年 7 月 20 日)

1　この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 8 条、第 9 条、第 10 条に規定する編入学定員（第 3 年次）は、平成 25 年度及び平成 26 年度については次のとおりとする。

文学部

	平成 25 年度	平成 26 年度
国文学科	13 名	13 名
英文学科	13 名	13 名
美学美術史学科	8 名	8 名

生活科学部

学科	専攻	平成 25 年度	平成 26 年度
食生活科学科	管理栄養士専攻	2 名	2 名
	食物科学専攻	2 名	2 名
	健康栄養専攻	−	−
生活環境学科		2 名	2 名
生活文化学科	生活文化専攻	2 名	2 名
	幼児保育専攻	2 名	2 名

人間社会学部

	平成 25 年度	平成 26 年度
人間社会学科	10 名	10 名
現代社会学科	10 名	10 名

附　則(平成 24 年 10 月 19 日)

1　この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 14 条別表第 1 共通教育科目及び第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目は、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(平成 25 年 3 月 22 日)

1　この改正学則は、平成２５年４月１日から施行する。
2　第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、第 15 条別表第 4、第 15 条別表第 5、第 16 条別表第 6、第 16 条別表第 9、第 19 条、第 26 条、第 44 条の規定については、平成 25 年度入学生より適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(平成 25 年 3 月 22 日)

この改正学則は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則(平成 26 年 3 月 22 日改正)

1　この改正学則は、平成２６年４月１日から施行する。

2　第３条、第６条、第９条、第１５条、第１６条、第２６条の規定については、平成２６年度入学生から適用し、平成２５年度以前の入学生については、従前の規程による。

3　第１５条別表第４は、平成２６年度入学生から適用し、平成２５年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち、次の科目は平成２４年度入学生に適用する。

スポーツと健康科学ａ	講義	2	スポーツと健康科学ｂ	講義	2

4　第１６条別表第６教職課程授業科目については、平成２６年度入学生から適用し、平成２５年度以前の入学生については従前の規程による。

附　則(平成 27 年 3 月 28 日改正)

1　この改正学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 26 条の規定については、平成 27 年度入学生から適用し、平成 26 年度以前の入学生については、従前の規定による。

3　第 15 条別表第 3、第 4 及び第 5 の授業科目については、平成 27 年度入学生から適用し、平成 26 年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、別表第 4 現代生活学科授業科目については、平成 26 年度入学生から適用する。

附　則(平成 28 年 3 月 26 日改正)

1　この改正学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　第１５条別表第４食生活科学科授業科目については、平成２８年度入学生から適用し、平成２７年度以前の入学生については、従前の規定による。

3　第 19 条第 3 項の卒業論文又はこれに代る授業科目のうち、人間社会学科及び現代社会学科については、平成 27 年度入学生から適用し、平成 26 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(平成 29 年 3 月 25 日改正)

1　この改正学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 4、第 44 条の規定については、平成 29 年度入学生から適用し、平成 28 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(平成 30 年 3 月 24 日改正)

1　この改正学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 7 条、第 15 条別表第 3、第 15 条別表第 4、第 16 条、第 16 条別表第７、第 26 条及び第 61 条の規定については、平成 30 年度入学生から適用し、平成 29 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(2019 年 3 月 23 日改正)

1　この改正学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 4 及び第 15 条別表第 5 の規定については、2019 年度入学生から適用し、2018 年度以前の入学生については、従前の規定による。

3　第 16 条別表第 6 の規定については、2019 年度入学生から適用し、2018 年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、教職課程授業科目のうち、次の科目は 2017 年度入学生から適用する。

特別支援教育論	講義	1
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2

附　則(2020 年 3 月 21 日改正)

1　この改正学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 15 条別表第 3 及び第 15 条別表第 4 の規定については、2020 年度入学生から適用し、2019 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則(2021 年 3 月 27 日改正)

1　この改正学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 14 条別表第 1 及び第 15 条別表第 4 の規定については、2021 年度入学生から適用し、2020 年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、共通教育科目のうち、次の科目については 2018 年度入学生から適用する。

附則別表

海外語学研修ｅ	実習	1
海外語学研修ｆ	実習	1
海外語学研修ｇ	実習	1
海外語学研修ｈ	実習	1

附　則(2022 年 3 月 26 日改正)

1　この改正学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 15 条別表第 4 及び第 16 条別表第 6 の規定については、2022 年度入学生から適用し、2021 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則（2023 年 2 月 18 日改正）

1　この改正学則は、2023 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 44 条の規定については、2023 年度入学生から適用し、2022 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附　則（2023 年 2 月 18 日改正）

1　この改正学則は、2024 年 4 月 1 日から施行する。

2　第3条、第7条、第7条の2、第10条、第10条の2、第14条、第15条、第16条、第19条、第26条、第27条、第44条及び第61条の規定については、2024年度入学生から適用し、2023年度以前入学生については、従前の規定による。

附　則（2024年3月23日改正）

1　この改正学則は、2024年4月1日から施行する。

2　第5条、第6条、第14条別表第1、第15条別表第3、第15条別表第4、第15条別表第5、第16条及び第26条の規定については、2024年度入学生から適用し、2023年度以前入学生については、従前の規定による。ただし、共通教育科目のうち、次の科目については2021年度入学生から適用する。

Study Abroad a	実習	5
Study Abroad b	実習	5
Study Abroad c	実習	10
Study Abroad d	実習	10

附　則（2024年3月23日改正）

1　この改正学則は、2025年4月1日から施行する。

2　第3条、第6条、第9条、第15条、第16条、第19条、第26条、第44条及び第61条の規定については、2025年度入学生から適用し、2024年度以前入学生については、従前の規定による。

3　第16条別表第8教職課程授業科目については、2025年度入学生から適用し、2024年度以前入学生については、従前の規定による。

4　第14条別表第1の共通教育科目のうち、次の科目については、環境デザイン学部の学生には適用しない。

Study Abroad a	実習	5
Study Abroad b	実習	5
Study Abroad c	実習	10
Study Abroad d	実習	10
グローバルインターンシップａ	実習	7
グローバルインターンシップｂ	実習	14

別表第１

第１４条別表第１　共通教育科目

必　　修　　科　　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	＊
実践キャリアプランニング	講義	2	＊
Integrated English a	演習	1	＊
Integrated English b	演習	1	＊
データサイエンス入門	講義	1	＊
情報リテラシー基礎	演習	1	＊
選　　択　　科　　目			
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	演習	2	
短期インターンシップ	実習	1	
長期インターンシップ	実習	2	
海外短期インターンシップ	実習	1	
海外長期インターンシップ	実習	2	
キャリア開発実践論	演習	2	
ビジネスのスキルとマナー	講義	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
女性とキャリア形成	講義	2	
キャリア・ショーケース	講義	2	
ライフデザイン	講義	2	
実践企業分析論	講義	2	
実践企業分析論演習	演習	2	
Effective Writing	演習	1	
Effective Speaking	演習	1	
Active Reading	演習	1	
Active Listening	演習	1	
CEFR B1	演習	1	
Global Studies a	講義	2	
Global Studies b	講義	2	
Global Studies c	講義	2	
Global Studies d	講義	2	
Global Studies e	講義	2	
Global Studies f	講義	2	
Global Studies g	講義	2	
Global Studies h	講義	2	
Global Studies i	講義	2	

Global Studies j	講義	2	
フランス語１ａ	演習	1	
フランス語１ｂ	演習	1	
ドイツ語１ａ	演習	1	
ドイツ語１ｂ	演習	1	
中国語１ａ	演習	1	
中国語１ｂ	演習	1	
コリア語１ａ	演習	1	
コリア語１ｂ	演習	1	
スペイン語１ａ	演習	1	
スペイン語１ｂ	演習	1	
フランス語２ａ	演習	1	
フランス語２ｂ	演習	1	
ドイツ語２ａ	演習	1	
ドイツ語２ｂ	演習	1	
中国語２ａ	演習	1	
中国語２ｂ	演習	1	
コリア語２ａ	演習	1	
コリア語２ｂ	演習	1	
スペイン語２ａ	演習	1	
スペイン語２ｂ	演習	1	
海外語学研修ａ	実習	2	
海外語学研修ｂ	実習	2	
海外語学研修ｃ	実習	2	
海外語学研修ｄ	実習	2	
海外語学研修ｅ	実習	1	
海外語学研修ｆ	実習	1	
海外語学研修ｇ	実習	1	
海外語学研修ｈ	実習	1	
Study Abroad a	実習	5	
Study Abroad b	実習	5	
Study Abroad c	実習	10	
Study Abroad d	実習	10	
グローバルインターンシップａ	実習	7	
グローバルインターンシップｂ	実習	14	
情報スキル基礎	演習	1	
情報リテラシー応用ａ	演習	2	
情報リテラシー応用ｂ	演習	2	
情報リテラシー応用ｃ	演習	2	

情報リテラシー応用ｄ	演習	2	
情報リテラシー応用ｅ	演習	2	
実践プロジェクトａ	演習	2	
実践プロジェクトｂ	演習	2	
実践プロジェクトｃ	演習	2	
ボランティアプロジェクトａ	演習	1	
ボランティアプロジェクトｂ	演習	1	
ジェンダー論入門	講義	2	
女性の歴史	講義	2	
女性の健康	講義	2	
文学とジェンダー	講義	2	
国際社会とジェンダー	講義	2	
女性教育とジェンダー	講義	2	
ジェンダーと心理	講義	2	
哲学入門	講義	2	
現代の思想	講義	2	
言語学入門	講義	2	
倫理学入門	講義	2	
生命と環境の倫理	講義	2	
社会思想入門	講義	2	
東洋思想入門	講義	2	
世界の宗教	講義	2	
日本の古典文学	講義	2	
日本の近現代文学	講義	2	
西洋の文学	講義	2	
児童文学入門	講義	2	
世界のファンタジー	講義	2	
文化人類学入門	講義	2	
美術の世界	講義	2	
音楽の世界	講義	2	
ファッションの世界	講義	2	
映像文化論	講義	2	
日本の伝統文化	講義	2	
日本のポップカルチャー	講義	2	
心理学入門	講義	2	
人間関係の心理学	講義	2	
心の健康	講義	2	
地域研究ａ	講義	2	
地域研究ｂ	講義	2	

食文化論	講義	2	
衣文化論	講義	2	
生活とデザイン	講義	2	
社会とデザイン	講義	2	
メディア論	講義	2	
サブカルチャー論	講義	2	
教育学	講義	2	
日本国憲法	講義	2	＊
法学入門	講義	2	
日本の政治	講義	2	
国際政治の基礎	講義	2	
日本の経済	講義	2	
国際経済の基礎	講義	2	
日本史	講義	2	
西洋史	講義	2	
東洋史	講義	2	
地理学	講義	2	
社会学入門	講義	2	
社会保障論	講義	2	
日常生活と法	講義	2	
金融リテラシー入門	講義	2	
数学的思考	講義	2	
統計的思考	講義	2	
くらしの化学	講義	2	
くらしの人間工学	講義	2	
生活環境の科学	講義	2	
生命の科学	講義	2	
身体の科学	講義	2	
宇宙の科学	講義	2	
地球と環境の科学	講義	2	
科学技術と人間	講義	2	
農業と食料	講義	2	
バイオの世界	講義	2	
防災の科学	講義	2	
身体運動の科学ａ	講義	2	＊
身体運動の科学ｂ	講義	2	＊
スポーツ文化論	講義	2	＊
健康運動実習ａ	実技	1	＊
健康運動実習ｂ	実技	1	＊

基礎スポーツ実習 a	実技	1	＊
基礎スポーツ実習 b	実技	1	＊
基礎スポーツ実習 c	実技	1	＊
基礎スポーツ実習 d	実技	1	＊
健康体力科学演習	演習	1	
ヘルスプロモーション実践実習 a	実技	1	＊
ヘルスプロモーション実践実習 b	実技	1	＊
アダプテッドスポーツ	実技	1	＊
スポーツ応用科学実習	実技	1	＊
実践教養講座 a	演習	2	
実践教養講座 b	演習	2	
実践教養講座 c	演習	2	
実践教養講座 d	演習	2	
実践教養講座 e	演習	2	
実践教養講座 f	演習	2	
実践教養講座 g	演習	2	
実践教養講座 h	演習	2	
実践教養講座 i	演習	2	
オープン講座 a	講義	2	
オープン講座 b	講義	2	
オープン講座 c	講義	2	
クォーターオープン講座 a	講義	1	
クォーターオープン講座 b	講義	1	
クォーターオープン講座 c	講義	1	

＊印：「保育士養成課程」　教養科目　10 単位以上

別表第３

第１５条別表第３　文学部専門科目　国文学科

必　修　科　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備　考
国語学概論 a	講義	2	
国語学概論 b	講義	2	
国文学概論 a	講義	2	
国文学概論 b	講義	2	
古典文学基礎講読 a	講義	2	
古典文学基礎講読 b	講義	2	
近代文学基礎講読 a	講義	2	
近代文学基礎講読 b	講義	2	
漢文学基礎講読 a	講義	2	
漢文学基礎講読 b	講義	2	
国文学科プロジェクト入門	演習	2	
特殊演習 a	演習	1	
特殊演習 b	演習	1	
卒業論文		6	
選　択　科　目			
国語学基礎演習 a	演習	2	
国語学基礎演習 b	演習	2	
上代文学基礎演習 a	演習	2	
上代文学基礎演習 b	演習	2	
中古文学基礎演習 a	演習	2	
中古文学基礎演習 b	演習	2	
中世文学基礎演習 a	演習	2	
中世文学基礎演習 b	演習	2	
近世文学基礎演習 a	演習	2	
近世文学基礎演習 b	演習	2	
近現代文学基礎演習 a	演習	2	
近現代文学基礎演習 b	演習	2	
漢文学基礎演習 a	演習	2	
漢文学基礎演習 b	演習	2	
国語史 a	講義	2	
国語史 b	講義	2	
上代文学史 a	講義	2	
上代文学史 b	講義	2	
中古文学史 a	講義	2	
中古文学史 b	講義	2	

中世文学史ａ	講義	2	
中世文学史ｂ	講義	2	
近世文学史ａ	講義	2	
近世文学史ｂ	講義	2	
近現代文学史ａ	講義	2	
近現代文学史ｂ	講義	2	
中国文学史ａ	講義	2	
中国文学史ｂ	講義	2	
国語学研究ａ	講義	2	
国語学研究ｂ	講義	2	
上代文学研究ａ	講義	2	
上代文学研究ｂ	講義	2	
中古文学研究ａ	講義	2	
中古文学研究ｂ	講義	2	
中世文学研究ａ	講義	2	
中世文学研究ｂ	講義	2	
近世文学研究ａ	講義	2	
近世文学研究ｂ	講義	2	
近現代文学研究ａ	講義	2	
近現代文学研究ｂ	講義	2	
中国文学研究ａ	講義	2	
中国文学研究ｂ	講義	2	
国語学演習ａ	演習	2	
国語学演習ｂ	演習	2	
上代文学演習ａ	演習	2	
上代文学演習ｂ	演習	2	
中古文学演習ａ	演習	2	
中古文学演習ｂ	演習	2	
中世文学演習ａ	演習	2	
中世文学演習ｂ	演習	2	
近世文学演習ａ	演習	2	
近世文学演習ｂ	演習	2	
近現代文学演習ａ	演習	2	
近現代文学演習ｂ	演習	2	
中国文学演習ａ	演習	2	
中国文学演習ｂ	演習	2	
日本語教育学演習ａ	演習	2	
日本語教育学演習ｂ	演習	2	
文学散歩プロジェクト	演習	2	

名所旧跡プロジェクト	演習	2	
国文学科社会連携プロジェクト	演習	2	
国文学科グローバルプロジェクト	演習	2	
国文学マーケティングプロジェクト	演習	2	
日本語教育実習	実習	1	
正しい文章を書く a	演習	2	
正しい文章を書く b	演習	2	
美しい文字を書く a	演習	1	
美しい文字を書く b	演習	1	
日本語表現を極める a	演習	2	
日本語表現を極める b	演習	2	
書芸を極める a	演習	1	
書芸を極める b	演習	1	
礼法 a	講義	2	
礼法 b	講義	2	
伝統芸能 a	講義	2	
伝統芸能 b	講義	2	
茶道 a	講義	2	
茶道 b	講義	2	
有職 a	講義	2	
有職 b	講義	2	
香道 a	講義	2	
香道 b	講義	2	
日本語教授法―初級―	講義	2	
日本語教授法―中級―	講義	2	
日本語教育文法―初級―	講義	2	
日本語教育文法―中級―	講義	2	
日本事情	講義	2	
日本語のバリエーション	講義	2	
第二言語習得研究	講義	2	
日本語の音声	講義	2	
日本語教授法演習 a	演習	2	
日本語教授法演習 b	演習	2	
Japanese Literature	講義	2	
Japanese Linguistics	講義	2	
Japanese Culture	講義	2	
日本語文法論 a	講義	2	
日本語文法論 b	講義	2	
日本文学史 a	講義	2	

日本文学史ｂ	講義	2	
漢文学ａ	講義	2	
漢文学ｂ	講義	2	
書道史	講義	2	
書学概論	講義	2	
漢字書法ａ	演習	1	
漢字書法ｂ	演習	1	
仮名書法ａ	演習	1	
仮名書法ｂ	演習	1	
キャリアプロジェクト演習	演習	2	
キャリア基礎講座	演習	1	
キャリア・オープン講座	演習	2	
キャリア・インテンシヴ演習	演習	2	
キャリア実践演習	演習	2	

別表第３

第１５条別表第３　文学部専門科目　英文学科

必　修　科　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備　考
英文入門ゼミ	演習	2	
英文２年基礎ゼミ	演習	2	
英文３年研究ゼミａ	演習	1	
英文３年研究ゼミｂ	演習	2	
英文卒論ゼミａ	演習	1	
英文卒論ゼミｂ	演習	1	
卒業論文		6	
Basic Presentation a	演習	1	
Basic Presentation b	演習	1	
Comprehensive English a	演習	2	
Comprehensive English b	演習	2	
Comprehensive English c	演習	2	
Comprehensive English d	演習	2	
Intermediate Presentation a	演習	2	
Intermediate Presentation b	演習	2	
ジェンダー表象への招待	講義	2	
言語学への招待	講義	2	
選　択　科　目			
International Community and Japan	演習	2	
社会を考える	演習	1	
プロジェクト科目ａ		1	
プロジェクト科目ｂ		2	
English for Gender Studies Ⅰa	演習	2	
English for Gender Studies Ⅰb	演習	2	
English for Gender Studies Ⅰc	演習	2	
English for Gender Studies Ⅰd	演習	2	
English for Gender Studies Ⅱa	演習	1	
English for Gender Studies Ⅱb	演習	1	
English for Gender Studies Ⅱc	演習	1	
English for Gender Studies Ⅱd	演習	1	
English for Gender Studies Ⅱe	演習	2	
English for Gender Studies Ⅱf	演習	2	
English for Gender Studies Ⅲa	演習	2	
English for Gender Studies Ⅲb	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅰa	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅰb	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅰc	演習	2	

English for Cultural Studies Ⅰd	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅱa	演習	1	
English for Cultural Studies Ⅱb	演習	1	
English for Cultural Studies Ⅱc	演習	1	
English for Cultural Studies Ⅱd	演習	1	
English for Cultural Studies Ⅱe	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅱf	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅲa	演習	2	
English for Cultural Studies Ⅲb	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅰa	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅰb	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅰc	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅰd	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅱa	演習	1	
English for Linguistic Studies Ⅱb	演習	1	
English for Linguistic Studies Ⅱc	演習	1	
English for Linguistic Studies Ⅱd	演習	1	
English for Linguistic Studies Ⅱe	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅱf	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅲa	演習	2	
English for Linguistic Studies Ⅲb	演習	2	
ジェンダー表象を考えるａ	講義	2	
ジェンダー表象を考えるｂ	講義	2	
ジェンダー表象の探究ａ	講義	2	
ジェンダー表象の探究ｂ	講義	2	
グローバル英語圏文化への招待ａ	講義	2	
グローバル英語圏文化への招待ｂ	講義	2	
グローバル英語圏文化を考えるａ	講義	2	
グローバル英語圏文化を考えるｂ	講義	2	
グローバル英語圏文化の探究ａ	講義	2	
グローバル英語圏文化の探究ｂ	講義	2	
言語学を考えるａ	講義	2	
言語学を考えるｂ	講義	2	
言語学の探究ａ	講義	2	
言語学の探究ｂ	講義	2	
Vocabulary	演習	2	
TOEIC 演習	演習	2	
SNS 英語	演習	2	
翻訳演習	演習	2	
Advanced Speaking a	演習	2	
Advanced Speaking b	演習	2	

Business Presentation a	演習	2	
Business Presentation b	演習	2	
英文法論	講義	2	
言語習得論	講義	2	
英語音声学	講義	2	
ブック・セミナー	演習	2	
文化とアダプテーションａ	講義	2	
文化とアダプテーションｂ	講義	2	
ジェンダーと私／私たちａ	講義	2	
ジェンダーと私／私たちｂ	講義	2	
イギリス文学史ａ	講義	2	
イギリス文学史ｂ	講義	2	
アメリカ文学史ａ	講義	2	
アメリカ文学史ｂ	講義	2	
移民と英語圏文学・文化ａ	講義	2	
移民と英語圏文学・文化ｂ	講義	2	
英語圏文学・文化の読み方ａ	講義	2	
英語圏文学・文化の読み方ｂ	講義	2	
世界と文学ａ	講義	2	
世界と文学ｂ	講義	2	
グローバリズムとメディア	講義	2	
世界の英語	講義	2	
ことばとジェンダー	講義	2	
ことばと人間	講義	2	
英語史	講義	2	
キャリアプロジェクト演習	演習	2	
キャリア基礎講座	演習	1	
キャリア・オープン講座	演習	2	
キャリア・インテンシヴ演習	演習	2	
キャリア実践演習	演習	2	

別表第３

第１５条別表第３　文学部専門科目　美学美術史学科

必　修　科　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備　考
日本美術史入門ａ	講義	2	
日本近代美術史入門ａ	講義	2	
仏教美術史入門ａ	講義	2	
西洋美術史入門ａ	講義	2	
西洋近代美術史入門ａ	講義	2	
現代美術史入門ａ	講義	2	
美学入門ａ	講義	2	
民俗芸能入門ａ	講義	2	
卒論ゼミａ	演習	1	
卒論ゼミｂ	演習	1	
卒業論文		6	
選　択　科　目			
入門演習	演習	2	
基礎演習	演習	2	
日本美術史入門ｂ	講義	2	
日本近代美術史入門ｂ	講義	2	
仏教美術史入門ｂ	講義	2	
西洋美術史入門ｂ	講義	2	
西洋近代美術史入門ｂ	講義	2	
現代美術史入門ｂ	講義	2	
美学入門ｂ	講義	2	
民俗芸能入門ｂ	講義	2	
日本美術史特講ａ	講義	2	
日本美術史特講ｂ	講義	2	
日本美術史特講ｃ	講義	2	
日本美術史特講ｄ	講義	2	
日本近代美術史特講ａ	講義	2	
日本近代美術史特講ｂ	講義	2	
日本近代美術史特講ｃ	講義	2	
日本近代美術史特講ｄ	講義	2	
仏教美術史特講ａ	講義	2	
仏教美術史特講ｂ	講義	2	
仏教美術史特講ｃ	講義	2	
仏教美術史特講ｄ	講義	2	
西洋美術史特講ａ	講義	2	

西洋美術史特講ｂ	講義	2	
西洋美術史特講ｃ	講義	2	
西洋美術史特講ｄ	講義	2	
西洋近代美術史特講ａ	講義	2	
西洋近代美術史特講ｂ	講義	2	
西洋近代美術史特講ｃ	講義	2	
西洋近代美術史特講ｄ	講義	2	
現代美術史特講ａ	講義	2	
現代美術史特講ｂ	講義	2	
現代美術史特講ｃ	講義	2	
現代美術史特講ｄ	講義	2	
美学特講ａ	講義	2	
美学特講ｂ	講義	2	
美学特講ｃ	講義	2	
美学特講ｄ	講義	2	
民俗芸能特講ａ	講義	2	
民俗芸能特講ｂ	講義	2	
民俗芸能特講ｃ	講義	2	
民俗芸能特講ｄ	講義	2	
世界の美術ａ	講義	2	
世界の美術ｂ	講義	2	
中国の美術ａ	講義	2	
中国の美術ｂ	講義	2	
日本の美術ａ	講義	2	
日本の美術ｂ	講義	2	
日本の美術ｃ	講義	2	
日本の美術ｄ	講義	2	
アジアの美術ａ	講義	2	
アジアの美術ｂ	講義	2	
アジアの美術ｃ	講義	2	
アジアの美術ｄ	講義	2	
西洋の美術ａ	講義	2	
西洋の美術ｂ	講義	2	
西洋の美術ｃ	講義	2	
西洋の美術ｄ	講義	2	
美術と社会ａ	講義	2	
美術と社会ｂ	講義	2	
美術と社会ｃ	講義	2	
美術と社会ｄ	講義	2	

民俗学	講義	2	
デザイン史	講義	2	
デザイン論	講義	2	
メディア芸術論	講義	2	
アートマネージメント論	講義	2	
アートコミュニケーション論	講義	2	
グローバル・アートスタディズａ	演習	2	
グローバル・アートスタディズｂ	演習	2	
グローバル・アートスタディズｃ	演習	2	
グローバル・アートスタディズｄ	演習	2	
グローバル・アートスタディズｅ	演習	2	
グローバル・アートスタディズｆ	演習	2	
日本美術史演習ａ	演習	2	
日本美術史演習ｂ	演習	2	
日本近代美術史演習ａ	演習	2	
日本近代美術史演習ｂ	演習	2	
仏教美術史演習ａ	演習	2	
仏教美術史演習ｂ	演習	2	
西洋美術史演習ａ	演習	2	
西洋美術史演習ｂ	演習	2	
西洋近代美術史演習ａ	演習	2	
西洋近代美術史演習ｂ	演習	2	
現代美術史演習ａ	演習	2	
現代美術史演習ｂ	演習	2	
美学演習ａ	演習	2	
美学演習ｂ	演習	2	
民俗芸能演習ａ	演習	2	
民俗芸能演習ｂ	演習	2	
美術史実地研究ａ	実習	1	
美術史実地研究ｂ	実習	1	
アートと社会連携	実習	1	
アート・プロジェクト実践	実習	2	
絵画入門ａ	実習	1	
絵画入門ｂ	実習	1	
デザイン入門ａ	実習	1	
デザイン入門ｂ	実習	1	
絵画実習ａ	実習	2	
絵画実習ｂ	実習	2	
絵画実習ｃ	実習	2	

絵画実習ｄ	実習	2	
絵画実習ｅ	実習	2	
デザイン実習ａ	実習	2	
デザイン実習ｂ	実習	2	
デザイン実習ｃ	実習	2	
デザイン実習ｄ	実習	2	
工芸実習ａ	実習	2	
工芸実習ｂ	実習	2	
彫刻実習ａ	実習	2	
彫刻実習ｂ	実習	2	
キャリアプロジェクト演習	演習	2	
キャリア基礎講座	演習	1	
キャリア・オープン講座	演習	2	
キャリア・インテンシヴ演習	演習	2	
キャリア実践演習	演習	2	

別表第４

第１５条別表第４　生活科学部専門科目　食生活科学科管理栄養士専攻

規則等規定科目		授業科目	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
専門基礎分野	社会・環境と健康	健康管理論	講義	2		＊＊a
		公衆衛生学a	講義	2		＊＊a
		公衆衛生学b	講義	2		＊＊a
		栄養疫学実習	実習	1		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学a	講義	2		＊＊b
		解剖生理学b	講義	2		＊＊b
		栄養生理学(運動生理学を含む)	講義	2		
		生化学a	講義	2		＊＊b
		生化学b	講義	2		＊＊b
		臨床医学概論	講義	2		
		感染と防御	講義	2		
		解剖生理学実験	実験	1		＊＊b
		生化学実験	実験	1		＊＊b
	食べ物と健康	食品学a	講義	2		＊＊c
		食品学b	講義	2		＊＊c
		調理学	講義	2		＊＊f
		食品機能論	講義	2		＊＊c
		食品加工学a	講義	2		＊＊c
		食品衛生学a	講義	2		＊＊c
		食品衛生学b	講義	2		
		食品学実験a	実験	1		
		食品衛生学実験	実験	1		＊＊c
		食品加工学実習	実習	1		＊＊c
		調理学実験	実験	1		＊＊f
		基礎調理１	実習	1		＊＊f
		基礎調理２	実習	1		
専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2		＊＊d
		基礎栄養学実習	実習	1		
	応用栄養学	栄養マネジメント論	講義	2		
		ライフステージ栄養学a	講義	2		＊＊d
		ライフステージ栄養学b	講義	2		＊＊d
		栄養マネジメント実習	実習	1		＊＊e
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		＊＊e
	栄養教育論	栄養教育総論	講義	2		
		栄養教育各論a	講義	2		＊＊e
		栄養教育各論b	講義	2		＊＊e
		栄養教育論実習a	実習	1		＊＊e

		栄養教育論実習ｂ	実習	1		＊＊ｅ
	臨床栄養学	臨床栄養学ａ	講義	2		＊＊ｄ
		臨床栄養学ｂ	講義	2		＊＊ｄ
		臨床栄養管理学総論	講義	2		
		臨床栄養管理学各論	講義	2		
		臨床栄養学実習ａ	実習	1		＊＊ｄ
		臨床栄養管理実習	実習	1		＊＊ｄ
	公衆栄養学	公衆栄養学ａ	講義	2		＊＊ｅ
		公衆栄養学ｂ	講義	2		＊＊ｅ
		公衆栄養学実習ａ	実習	1		＊＊ｅ
	給食経営管理論	給食経営管理ａ	講義	2		＊＊ｆ
		給食経営管理ｂ	講義	2		＊＊ｆ
		給食マネジメント実習	実習	2		＊＊ｆ
	総合演習（管理栄養士国家試験受験資格4単位必修）	総合演習ａ	演習	1		
		総合演習ｂ	演習	1		
		総合演習ｃ	演習		1	
		総合演習ｄ	演習		1	
	総合演習	特別講義ａ	演習		1	
		特別講義ｂ	演習		1	
		特別講義ｃ	演習		1	
		特別講義ｄ	演習		1	
		特別講義ｅ	演習		1	
		特別講義ｆ	演習		1	
		特別講義ｇ	演習		1	
		特別講義ｈ	演習		1	
	臨地実習	校外給食実習	臨地実習	1		＊＊ｆ
		臨床栄養学実習ｂ	臨地実習	2		＊＊ｄ
専門分野（選択必修一単位）	臨地実習（1単位必修）	臨床栄養学実習ｃ	臨地実習		1	＊ｄ
		公衆栄養学実習ｂ	臨地実習		1	＊ｅ
	食べ物と健康（1単位必修）	調理学実習ａ	実習		1	
		調理学実習ｂ	実習		1	
その他の科目（選択科目）		微生物学	講義		2	
		基礎化学	講義		2	
		食品学実験ｂ	実験		1	
		食品分析学	講義		2	
		食品物性論	講義		2	
		食事摂取基準論	講義		2	
		食事計画演習	演習		1	
		スポーツ栄養学	講義		2	
		スポーツ栄養学演習	演習		1	
		食ビジネス論	講義		2	

	経営学総論	講義		2	
	心理カウンセリング論	講義		2	
	管理栄養士特別講座	講義		2	
	管理栄養士オープン講座	演習		2	
卒業論文	卒業研究			5	

※1　管理栄養士専攻の学級数（1 学級 50 人以下）は 2 学級とする。

※2　栄養士資格取得に必要な単位

＊＊印：「栄養士養成課程」必修科目 66 単位

＊印：「栄養士養成課程」選択必修科目 1 単位以上

a ～ f は栄養士法施行規則に定める教育内容

a ：社会生活と健康

b ：人体の構造と機能

c ：食品と衛生

d ：栄養と健康

e ：栄養の指導

f ：給食の運営

別表第４

第１５条別表第４　生活科学部専門科目　食生活科学科食物科学専攻

必　修　科　目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
基礎化学	講義	2	
食物科学基礎実験	実験	1	
フードスペシャリスト論	講義	2	
基礎生物	講義	2	
食生活論	講義	2	
ライティングセミナー	演習	1	
食品衛生学	講義	2	
調理学実験ａ	実験	1	
フードコーディネート論	講義	2	
調理科学	講義	2	
フードシステム論	講義	2	
食品学ａ	講義	2	
食品学ｂ	講義	2	
食品分析学	講義	2	
食品学実験	実験	1	
食品分析学実験	実験	1	
食品加工学	講義	2	
卒業論文		6	
選　択　科　目			
食料生産実習	実習	1	
栄養生化学入門	講義	2	
栄養生理学	講義	2	
ライフステージと栄養	講義	2	
疾病と栄養	講義	2	
社会・環境と健康	講義	2	
食品衛生学実験	実験	1	
食品安全学	講義	2	
食の安全安心と消費者	講義	2	
基礎調理１	実習	1	
調理学実験ｂ	実験	1	
基礎調理２	実習	1	
官能評価演習	演習	1	
中国料理実習	実習	1	
日本料理実習	実習	1	
テーブルマネジメント演習	演習	1	
食品物性論	講義	2	

食生活演習	演習	1	
世界と日本の食文化	講義	2	
西洋料理実習	実習	1	
食商品学	講義	2	
消費者行動論	講義	2	
食品開発論	講義	2	
品質管理統計演習	演習	1	
フードマーケティング論	講義	2	
食品企業経営論	講義	2	
フードビジネス研究	講義	2	
商業空間デザイン	講義	2	
マーケティング演習	演習	1	
フードサービス演習	演習	1	
食ビジネス演習	演習	1	
パッケージング論	講義	2	
食品機能論	講義	2	
食品鑑別論	講義	2	
機器分析実験	実験	1	
発酵食品学	講義	2	
食品加工学実習	実習	1	
食品科学演習	演習	1	
スポーツと健康科学ａ	講義	2	
スポーツと健康科学ｂ	講義	2	
健康運動実践指導実習ａ	実習	1	
健康運動実践指導実習ｂ	実習	1	
健康運動実践指導実習ｃ	実習	1	
健康運動実践指導者総合演習	実習	1	
スポーツ医科学実習	実習	1	
生活経済学	講義	2	
住居学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服実習ａ	実習	2	
被服実習ｂ	実習	2	
被服実習ｃ	実習	2	
看護学	講義	2	
家庭経営学	講義	2	
家族関係学	講義	2	
保育学	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
フードスペシャリスト特別講義	講義	1	
食生活オープン講座	演習	2	

別表第４

第１５条別表第４　生活科学部専門科目　食生活科学科健康栄養専攻

規則等規定科目		授業科目	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
専門科目	社会生活と健康	公衆衛生学ａ	講義	2		＊＊
		社会と福祉	講義	2		＊＊
	人体の構造と機能	解剖生理学ａ	講義	2		＊＊
		人体の構造と疾病	講義	2		＊＊
		生化学ａ	講義	2		＊＊
		生化学ｂ	講義	2		＊＊
		解剖生理学実験	実験	1		＊＊
		栄養生化学実験	実験	1		＊＊
	食品と衛生	食品学ａ	講義	2		＊＊
		食品学ｂ	講義	2		＊＊
		食品学実験ａ	実験	1		＊＊
		食品衛生学ａ	講義	2		＊＊
		食品衛生学実験	実験	1		＊＊
	栄養と健康	基礎栄養学	講義	2		＊＊
		食事摂取基準論	講義	2		＊＊
		ライフステージ栄養学ａ	講義	2		＊＊
		ライフステージ栄養学ｂ	講義	2		＊＊
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		＊＊
		臨床栄養学ａ	講義	2		＊＊
		臨床栄養学ｂ	講義	2		＊＊
		臨床栄養学実習ａ	実習	1		＊＊
		臨床栄養学実習ｂ	実習	1		＊＊
	栄養の指導	栄養指導論ａ	講義	2		＊＊
		栄養指導論ｂ	講義	2		＊＊
		公衆栄養学ａ	講義	2		＊＊
		栄養指導実習ａ	実習	1		＊＊
		栄養指導実習ｂ	実習	1		＊＊
	給食の運営	調理学	講義	2		＊＊
		給食計画論	講義	2		＊＊
		給食実務論	講義	2		＊＊
		基礎調理	実習	2		＊＊
		給食実務学内実習	実習	2		＊＊
		給食実務校外実習ａ	実習		2	＊
		給食実務校外実習ｂ	実習		3	＊

		献立学	講義	2		
		応用調理	実習	2		
健康栄養科目	食育群	ライフステージと食育	講義	2		
		食文化と食育	講義		2	
		食育と調理	実習		1	
		行動変容とカウンセリング	講義		2	
	健康支援群	健康栄養演習	演習	2		
		スポーツと健康科学a	講義		2	
		スポーツと健康科学b	講義		2	
		スポーツ栄養学	講義		2	
		スポーツ栄養学演習	演習		1	
		健康運動実践指導実習a	実習		1	
		健康運動実践指導実習b	実習		1	
		健康運動実践指導実習c	実習		1	
		健康運動実践指導者総合演習	実習		1	
		スポーツ医科学実習	実習		1	
	レベルアップ群	解剖生理学b	講義		2	
		食品衛生学b	講義		2	
		公衆栄養学b	講義		2	
		食品機能論	講義		2	
		臨床栄養管理学	講義		2	
		公衆衛生学b	講義		2	
		健康栄養総合演習a	演習		2	
		健康栄養総合演習b	演習		2	
関連科目		基礎化学	講義		2	
		健康栄養基礎実験	実験		1	
		ビジネスマネジネント演習	演習	2		
		ビジネスリテラシーa	講義		2	
		ビジネスリテラシーb	講義		2	
		健康とくすりの科学	講義		2	
		食品加工学	講義		2	
		食品微生物学	講義		2	
		食品加工学実習	実習		1	
		栄養生理学	講義		2	
		健康栄養インターンシップ	実習		2	
		健康栄養オープン講座	演習		2	

	卒業研究	実習		5	

※1　栄養士資格取得に必要な単位

＊＊印：「栄養士養成課程」必修科目 55 単位

＊印：「栄養士養成課程」選択必修科目 2 単位もしくは 3 単位

別表第４

第１５条別表第４　生活科学部専門科目　生活文化学科生活心理専攻

区分		授　業　科　目	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
基本目科群	学科基本科目	生活文化概論	講義	2		
		生活文化史ａ	講義	2		
		生活文化史ｂ	講義	2		
		基礎演習ａ（論理的表現とコミュニケーション）	演習	1		
		基礎演習ｂ（科学的思考法とコミュニケーション）	演習	1		
		ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	演習	2		
		卒業論文	演習	6		
		生活の科学	講義	2		
		生涯発達心理学ａ	講義	2		
		生涯発達心理学ｂ	講義	2		
		家庭教育論	講義	2		
	専攻基本科目	生活心理フィールドワークａ	演習	1		
		生活心理フィールドワークｂ	演習	1		
		生活心理概論	講義	2		
		生活心理演習（大学から社会へ）	演習		1	
		心理実習	演習 実習		2	
		生活心理研究計画法	演習		1	
		心理演習	演習		2	
方法基礎領域	心理	心理学概論１	講義	2		
		心理学概論２	講義	2		
		心理学演習１	演習	1		
		心理学演習２	演習		1	
		心理学研究法	演習	2		
		心理学統計法１（ベーシック）	演習	1		
		心理学統計法２（スタンダード）	演習		1	
		心理調査法１	演習		1	
		心理調査法２	演習		1	
		質的調査研究法	演習		1	
		心理検査法１（心理的アセスメントａ）	演習		1	
		心理検査法２（心理的アセスメントｂ）	演習		1	
		心理学実験１	演習		2	
		心理学実験２	演習		2	
		知覚・認知心理学ａ	講義	2		
		知覚・認知心理学ｂ	講義		2	

		学習・言語心理学	講義		2	
		感情・人格心理学	講義		2	
		教育・学校心理学	講義		2	
		発達心理学	講義		2	
		公認心理師の職責	講義		2	
基盤領域群	生活と社会	生活経済学	講義	2		
		生活経済学演習	演習		1	
		関係行政論	講義		2	
		家庭生活と政治経済	講義		2	
		消費者安全論	講義		2	
		消費者安全論演習	演習		1	
		少子高齢化社会と生活	講義		2	
		男女共同参画社会と生活	講義		2	
		社会心理学１（社会・集団・家族心理学ａ）	講義	2		
		社会心理学２	講義		2	
		社会心理学調査実習	実習		2	
		キャリア心理学（産業・組織心理学）	講義		2	
		コミュニティ心理学	講義		2	
		福祉心理学	講義		2	
		司法・犯罪心理学	講義		2	
基盤領域群	家族と社会	家族関係学	講義	2		
		生涯発達心理学演習ａ	演習		1	
		生涯発達心理学演習ｂ	演習		1	
		家族と生涯発達総論	講義	2		
		家族と生涯発達各論ａ（乳幼児・児童期）	講義		2	
		家族と生涯発達各論ｂ（青年・成人・高齢期）	講義		2	
		家族社会学	講義		2	
		家族心理学（社会・集団・家族心理学ｂ）	講義		2	
		家族心理学演習	演習		1	
		家族臨床心理学１	講義		2	
		家族臨床心理学２	講義		2	
	心身の健康	人体の構造と機能及び疾病	講義	2		
		脳と心（神経・生理心理学）	講義		2	
		女性の健康と現代医療	講義	2		
		健康・医療心理学	講義		2	
		臨床心理学１（臨床心理学概論）	講義	2		
		臨床心理学２（心理学的支援法）	講義		2	
		臨床発達心理学１	講義		2	
		臨床発達心理学２	講義		2	
		精神疾患とその治療	講義		2	

		生活心理特論（障害者・障害児心理学）	講義		2	
探求領域群	人と生活	生活デザイン入門	演習		2	
		家庭経営学概論	講義	2		
		家庭経営学	講義	2		
		衣料学	講義		2	
		衣料学演習	演習		2	
		被服実習ａ	実習		2	
		被服実習ｂ	実習		2	
		被服実習ｃ	実習		2	
		栄養学	講義		2	
		食物学	講義		2	
		調理学及び実習	実習		2	
		住居学	講義		2	
		保育学	講義		2	
		看護学	講義		2	
	保育・教育	教育学概論	講義		2	
		社会福祉	講義		2	
		子ども理解とカウンセリング	講義		2	

別表第4

第15条別表第4　生活科学部専門科目　生活文化学科　幼児保育専攻

区分		授　業　科　目	授業形態	単位数		備考
				必修	選択	
基本科目群	学科基本科目	生活文化概論	講義	2		
		生活文化史ａ	講義	2		
		生活文化史ｂ	講義	2		
		基礎演習ａ（論理的表現とコミュニケーション）	演習	1		
		基礎演習ｂ（科学的思考法とコミュニケーション）	演習	1		
		ゼミナール（論理的判断とコミュニケーション）	演習	2		
		卒業論文	演習	6		
		生活の科学	講義	2		
		生涯発達心理学ａ	講義	2		＊＊
		生涯発達心理学ｂ	講義	2		＊＊
		家庭教育論	講義	2		＊
	専攻基本科目	保育原理	講義	2		＊＊
		教育学概論	講義	2		＊＊
		子どもの保健	講義	2		＊＊
		子どもの健康と安全	演習		1	＊＊
		子ども家庭福祉	講義	2		＊＊
		保育・教育指導の基礎ａ	演習	1		
		保育・教育指導の基礎ｂ	演習	1		
		保育・教育指導の基礎ｃ	演習		1	＊
		保育・教育指導の実際ａ	演習	1		
		保育・教育指導の実際ｂ	演習	1		
		保育・教育指導の実際ｃ	演習		1	＊
保育領域		保育学演習	演習		1	＊
		保育者論	講義		2	＊＊
		社会福祉	講義		2	＊＊
		子ども家庭支援の心理学	講義		2	＊＊
		社会的養護ａ	講義		2	＊＊
		生涯発達心理学演習ａ	演習		1	＊
		生涯発達心理学演習ｂ	演習		1	
		子ども理解とカウンセリング	講義		2	＊
		子どもの食と栄養ａ	演習		1	＊＊
		子どもの食と栄養ｂ	演習		1	＊＊
		子ども家庭支援論	講義		2	＊＊
		保育内容総論	演習		1	＊＊
		保育内容指導法（健康）	演習		1	＊＊

	保育内容指導法（人間関係）	演習		1	＊＊
	保育内容指導法（環境）	演習		1	＊＊
	保育内容指導法（言葉）	演習		1	＊＊
	保育内容指導法（表現）	演習		1	＊＊
	乳児保育ａ	講義		2	＊＊
	乳児保育ｂ	演習		1	＊＊
	特別な配慮を要する子どもの理解と支援ａ	演習		1	＊＊
	特別な配慮を要する子どもの理解と支援ｂ	演習		1	＊＊
	社会的養護ｂ	演習		1	＊＊
	子育て支援	演習		1	＊＊
	子どもの理解と援助	演習		1	＊＊
	保育活動の実際ａ	演習		1	＊＊
	保育活動の実際ｂ	演習		1	＊＊
	保育活動の実際ｃ	演習		1	＊＊
	保育活動の実際ｄ	演習		1	＊＊
教育領域	教育学演習	演習		1	
	教職論	講義		2	
	教育思想史	講義		2	＊
	教育・学校心理学	講義		2	＊
	教育制度論	講義		2	＊
	国語	講義		2	
	社会	講義		2	
	算数	講義		2	
	理科	講義		2	
	生活	講義		2	
	音楽	講義		2	
	図画工作	講義		2	
	家庭	講義		2	
	体育	講義		2	
	カリキュラム論	講義		2	
	保育カリキュラム論	講義		2	＊＊
	幼児教育法	演習		1	
	児童教育法	演習		2	
	初等教科指導法（国語）	演習		1	
	初等教科指導法（社会）	演習		1	
	初等教科指導法（算数）	演習		1	
	初等教科指導法（理科）	演習		1	
	初等教科指導法（生活）	演習		1	
	初等教科指導法（音楽）	演習		1	
	初等教科指導法（図画工作）	演習		1	
	初等教科指導法（家庭）	演習		1	

	初等教科指導法（体育）	演習		1	
	初等教科指導法（英語）	演習		1	
	道徳の指導法	講義		2	
	特別活動と総合的な学習の時間の指導法	講義		2	
	教育方法・技術（ICT 活用含む）	講義		2	
	生徒・進路指導論	講義		2	
	子どもと英語	講義		2	＊
	子どもと健康	講義		2	
	子どもと人間関係	講義		2	
	子どもと環境	講義		2	
	子どもと言葉	講義		2	
	子どもと表現	講義		2	
実習・実践演習領域	保育実習指導１	演習		2	＊＊
	保育実習１ａ（保育所）	実習		2	＊＊
	保育実習１ｂ（児童福祉施設）	実習		2	＊＊
	保育実習指導２	演習		1	＊＊
	保育実習２ａ（保育所）	実習		2	＊
	保育実習２ｂ（児童福祉施設）	実習		2	＊
	教育実習指導（幼稚園）	演習		1	
	教育実習ａ（幼稚園）	実習		4	
	教育実習ｂ（幼稚園）	実習		2	
	教育実習指導（小学校）	演習		1	
	教育実習（小学校）	実習		4	
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2	＊＊
	教職実践演習（幼・小）	演習		2	
生活心理領域	女性の健康と現代医療	講義		2	
	臨床心理学１（臨床心理学概論）	講義		2	
	家庭経営学概論	講義		2	

＊＊印:「保育士養成課程」必修科目　54 単位

＊印:「保育士養成課程」選択必修科目　9 単位以上

第１５条別表第４　生活科学部専門科目　現代生活学科

必　修　科　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備　　考
ビジネスプランニング	演習	2	
現代生活学	講義	2	
ゼミナール	演習	4	
ファイナルプロジェクト	演習	4	
コミュニティ概論	講義	2	
環境科学概論	講義	2	
メディア社会概論	講義	2	
グレートブックスセミナー１	演習	2	
ライフ・プランニング	講義	2	
ビジネス・スキルａ	演習	2	
ビジネス・スキルｂ	演習	2	
企業研究ａ	演習	2	
企業研究ｂ	演習	2	
選　択　科　目			
プロジェクト基礎演習ａ	演習	2	
プロジェクト基礎演習ｂ	演習	2	
プロジェクト基礎演習ｃ	演習	2	
プロジェクト基礎演習ｄ	演習	2	
プロジェクト実践演習ａ	演習	2	
プロジェクト実践演習ｂ	演習	2	
家庭経営ａ（食生活）	講義	2	
家庭経営ｂ（衣環境）	講義	2	
家庭経営ｃ（育児・介護）	講義	2	
基礎メディア技術	講義	2	
フィールドリサーチａ	演習	2	
フィールドリサーチｂ	演習	2	
フィールドリサーチｃ	演習	2	
統計とモデリング	講義	2	
現代社会を読み解くａ（政治と経済）	講義	2	
現代社会を読み解くｂ（生活と産業）	講義	2	
現代社会を読み解くｃ（文化と市場）	講義	2	
現代社会を読み解くｄ（科学技術と社会）	講義	2	
グレートブックスセミナー２ａ	演習	2	
グレートブックスセミナー２ｂ	演習	2	
地域文化形成論	講義	2	
コミュニティ経済演習	演習	2	

自立生活論ａ（健康）	講義	2	
自立生活論ｂ（消費者）	講義	2	
自立生活論ｃ（安全と保障）	講義	2	
少子高齢化社会	講義	2	
グローバル社会	講義	2	
地域エネルギー論	講義	2	
地域エネルギー論演習	演習	2	
地域食料論	講義	2	
地域食料論演習	演習	2	
生活産業創出論	講義	2	
環境マーケティング論ａ	講義	2	
環境マーケティング論ｂ	講義	2	
環境マーケティング論演習ａ	演習	2	
環境マーケティング論演習ｂ	演習	2	
エコビジネス演習	演習	2	
環境の化学と工学	講義	2	
環境化学演習	演習	2	
環境マネジメント論	講義	2	
環境経済学	講義	2	
環境思想ａ	講義	2	
環境思想ｂ	講義	2	
環境思想演習	演習	2	
ビジネス特論ａ（環境ビジネス）	講義	2	
ビジネス特論ｂ（地域ビジネス）	講義	2	
ビジネス特論ｃ（起業論）	講義	2	
生活産業史	講義	2	
社会責任論	講義	2	
女性社会論ａ	講義	2	
女性社会論ｂ	講義	2	
メディアコミュニケーションａ	講義	2	
メディアコミュニケーションｂ	講義	2	
メディアアート論ａ	講義	2	
メディアアート論ｂ	講義	2	
応用メディア技術	演習	2	
映像制作演習ａ	演習	2	
映像制作演習ｂ	演習	2	
Ｗｅｂテクノロジー演習	演習	2	
プログラミング演習１	演習	2	
プログラミング演習２	演習	2	

メディア経営論	講義	2	
メディア経営論演習	演習	2	
メディアプロデュース論	講義	2	
メディアプロデュース論演習	演習	2	
情報セキュリティ社会	講義	2	
広告とメディア	講義	2	
ビジネス・マナー	演習	2	
家庭経営学	講義	2	
家族関係学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服実習 a	実習	2	
被服実習 b	実習	2	
被服実習 c	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
住居学	講義	2	
看護学	講義	2	
育児学	講義	2	
保育学	講義	2	

別表第５

第１５条別表第５　人間社会学部専門科目　人間社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演習Ⅰ	演習	2		
	演習Ⅱa	演習	2		
	演習Ⅱb	演習	2		
	演習Ⅲa	演習	2		
	演習Ⅲb	演習	2		
	演習Ⅳa	演習	2		
	演習Ⅳb	演習	2		
	卒業研究	演習	4		
基礎科目	人間社会学入門	講義	2		
	心理学概論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教育学概論	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	異文化理解	講義		2	
	文化人類学	講義		2	
	社会学概論	講義	2		
	法律学概論	講義	2		
	ジェンダー論	講義		2	
	地理学概論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	メディア社会論	講義		2	
	国際関係概論	講義		2	
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	簿記論Ⅰ	講義		2	
	簿記論Ⅱ	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
	キャリア・マネジメント論	講義		2	
	キャリア・デザイン論	演習		2	
	実践デザインラボⅠ	演習		2	
	アントレプレナーシップ論	講義		2	
	アントレプレナーシップ演習	演習		2	
	リーダーシップ開発a	演習		2	

	リーダーシップ開発ｂ	演習		2	
	社会と統計	講義	2		
	社会調査概論	講義		2	
	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠｂ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡｂ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢｂ	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	家族社会学	講義		2	
	教育社会学	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	臨床心理学概論	講義		2	
	人体の構造と機能及び疾病	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	ダイバーシティ論	講義		2	
	経営組織論	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	社会情報学概論	講義		2	
	メディア情報学	講義		2	
	労働法	講義		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	広告・ＰＲ論	演習		2	
	海外ステイのための実践英会話	演習		2	
	ビジネス英語コミュニケーション	演習		2	
	特別講義ａ	講義		2	
	特別講義ｂ	講義		2	
展開・応用科目	福祉社会学	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	質的データ分析	演習		2	
	社会システム論	講義		2	

ワーク・ライフ・バランス論	演習		2	
社会ネットワーク論	講義		2	
リスク社会論	講義		2	
現代教育論	講義		2	
メディアとインターセクショナリティ	講義		2	
社会科学データ分析	演習		2	
社会政策論	講義		2	
社会調査実習Ⅰ	演習		2	
社会調査実習Ⅱ	演習		2	
教育社会学演習	演習		2	
心理学実験Ⅰ	演習		2	
心理学実験Ⅱ	演習		2	
心理学的支援法	講義		2	
教育・学校心理学	講義		2	
知覚・認知心理学	講義		2	
司法・犯罪心理学	講義		2	
応用心理学	講義		2	
心理学統計法	講義		2	
心理学研究法	演習		2	
学習・言語心理学	講義		2	
健康・医療心理学	講義		2	
感情・人格心理学	講義		2	
心理演習（カウンセリング）	演習		2	
神経・生理心理学	講義		2	
産業・組織心理学	講義		2	
福祉心理学	講義		2	
障害者・障害児心理学	講義		2	
心理的アセスメント	講義		2	
フィールドワーク論	演習		2	
都市フィールドワーク論	講義		2	
共創デザイン論	講義		2	
メディア心理学	講義		2	
多文化社会論	講義		2	
ジェンダーの人類学	講義		2	
アジア文化論	講義		2	
メディア情報リテラシー	講義		2	
メディア表現	講義		2	
デジタルメディア論	講義		2	
国際経済論	講義		2	

	観光事業論	演習		2	
	アジア経済・経営論	講義		2	
	国際協力論	講義		2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義		2	
	関係行政論	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	

別表第５

第１５条別表第５　人間社会学部専門科目　ビジネス社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演習Ⅰ	演習	2		
	演習Ⅱａ	演習	2		
	演習Ⅱｂ	演習	2		
	演習Ⅲａ	演習	2		
	演習Ⅲｂ	演習	2		
	演習Ⅳａ	演習	2		
	演習Ⅳｂ	演習	2		
	卒業研究	演習	4		
基礎科目	人間社会学入門	講義	2		
	心理学概論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教育学概論	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	異文化理解	講義		2	
	文化人類学	講義		2	
	社会学概論	講義	2		
	法律学概論	講義	2		
	ジェンダー論	講義		2	
	地理学概論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	メディア社会論	講義		2	
	国際関係概論	講義		2	
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	簿記論Ⅰ	講義		2	
	簿記論Ⅱ	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
	キャリア・マネジメント論	講義		2	
	キャリア・デザイン論	演習		2	
	実践デザインラボⅠ	演習		2	
	アントレプレナーシップ論	講義		2	
	アントレプレナーシップ演習	演習		2	
	リーダーシップ開発ａ	演習		2	
	リーダーシップ開発ｂ	演習		2	
	社会と統計	講義	2		
	社会調査概論	講義		2	

	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会言語学	講義		2	
	ワーク・ライフ・バランス論	演習		2	
	経営組織論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	企業戦略論	講義		2	
	会計学総論Ⅰ	講義		2	
	会計学総論Ⅱ	講義		2	
	労働法	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	教育・学校心理学	講義		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	債権法	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義a	講義		2	
	特別講義b	講義		2	
展開・応用科目	現代日本経済論	講義		2	
	会社法	講義		2	
	消費者保護論	講義		2	
	経済法	演習		2	
	家族社会学	講義		2	
	金融論	講義		2	
	財政論	講義		2	
	証券論	講義		2	
	国際経済論	講義		2	
	観光事業論	演習		2	
	地域経済論	講義		2	

	家族法	演習		2	
	知的財産法	講義		2	
	行政法	講義		2	
	原価計算論	講義		2	
	現代企業論	演習		2	
	広告・ＰＲ論	演習		2	
	人的資源管理	講義		2	
	応用心理学	講義		2	
	経営分析論	演習		2	
	経営管理論	演習		2	
	イノベーション論	講義		2	
	流通論	講義		2	
	消費者心理学	講義		2	
	ソーシャル・マーケティング論	演習		2	
	リーダーシップ論	講義		2	
	コーチング論	演習		2	
	人材開発論	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	産業・組織心理学	講義		2	
	社会調査実習Ⅰ	演習		2	
	社会調査実習Ⅱ	演習		2	
	社会科学データ分析	演習		2	
	国際政治論	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	アジア文化論	講義		2	
	多文化社会論	講義		2	
	表象メディア論	講義		2	
	共生支援論	講義		2	
	国際企業論	講義		2	
	経済発展論	講義		2	
	社会文化事業論	演習		2	
	国際協力論	講義		2	
	国際ビジネスと法	講義		2	
	アジア経済・経営論	講義		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義		2	
	関係行政論	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	

別表第５

第１５条別表第５　人間社会学部専門科目　社会デザイン学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演習Ⅰ	演習	2		
	演習Ⅱａ	演習	2		
	演習Ⅱｂ	演習	2		
	演習Ⅲａ	演習	2		
	演習Ⅲｂ	演習	2		
	演習Ⅳａ	演習	2		
	演習Ⅳｂ	演習	2		
	卒業研究	演習	4		
基礎科目	人間社会学入門	講義	2		
	心理学概論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教育学概論	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	異文化理解	講義		2	
	文化人類学	講義		2	
	社会学概論	講義	2		
	法律学概論	講義	2		
	ジェンダー論	講義		2	
	地理学概論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	メディア社会論	講義		2	
	国際関係概論	講義		2	
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	簿記論Ⅰ	講義		2	
	簿記論Ⅱ	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
	キャリア・マネジメント論	講義		2	
	キャリア・デザイン論	演習		2	
	実践デザインラボⅠ	演習		2	
	アントレプレナーシップ論	講義		2	
	アントレプレナーシップ演習	演習		2	
	リーダーシップ開発ａ	演習		2	
	リーダーシップ開発ｂ	演習		2	
	社会と統計	講義	2		
	社会調査概論	講義		2	

	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査･実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠｂ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡｂ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢａ	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢｂ	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会情報学概論	講義		2	
	情報と職業	講義		2	
	サステナビリティ論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	社会･集団･家族心理学	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	都市フィールドワーク論	講義		2	
	課題解決プロセス基礎	講義		2	
	AI・機械学習	講義		2	
	マルチメディア処理	講義		2	
	実践デザインラボ Ⅱ	演習		2	
	デザイン思考とデータ活用	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義ａ	講義		2	
	特別講義ｂ	講義		2	
展開・応用科目	表象メディア論	講義		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア情報学	講義		2	
	情報セキュリティ	講義		2	
	応用倫理学	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	身体論	講義		2	
	テクノロジーと性	講義		2	
	共創デザイン論	講義		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	広告･ＰＲ論	演習		2	
	福祉社会学	講義		2	

	メディア心理学	講義		2	
	マスメディア論	講義		2	
	メディア・ワークショップ	演習		2	
	社会科学におけるデータと数理	講義		2	
	データに基づく地域創生	講義		2	
	データ時代の女性キャリア開発	講義		2	
	シリアスゲーム・デザイン演習	演習		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	社会科学における Web データ収集技術論	演習		2	
	社会科学データ分析	演習		2	
	共創デザイン・プロジェクト	演習		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
	イノベーション論	講義		2	
	メディアとインターセクショナリティ	講義		2	
	社会科学におけるプログラミング	演習		2	
	社会科学におけるソフトウェア設計	演習		2	
	課題解決プロセス応用	演習		2	
	ソーシャル・マーケティング論	演習		2	
	ジェンダード・イノベーション	演習		2	
	リスク・コミュニケーション	演習		2	
	社会調査実習Ⅰ	演習		2	
	社会調査実習Ⅱ	演習		2	
	デジタルメディア論	講義		2	
	メディア表現	講義		2	
	メディアデータ分析	演習		2	
	社会科学における AI・機械学習応用	演習		2	
	社会科学における質的データ分析	演習		2	
	社会的価値創造論	講義		2	
	心理学統計法	講義		2	
	人工知能と人間・社会	講義		2	
	科学技術社会論	講義		2	
	リスク社会論	講義		2	
専門資格科目	関係行政論	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	
	公認心理師の職責	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	

別表第６

第１５条別表第６　国際学部専門科目　国際学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
アカデミック演習	基礎演習	演習	2		
	専門演習ａ	演習	1		
	専門演習ｂ	演習	1		
	卒業研究	演習	6		
外国語科目	Effective Communication a	演習	2		
	Effective Communication b	演習	2		
	Effective Communication c	演習	1		
	English Workshop a	演習		1	
	English Workshop b	演習		1	
	English Workshop c	演習		1	
	English Workshop d	演習		1	
	English Grammar	演習	1		
	Basic Listening	演習		1	
	Advanced Listening	演習		1	
	Basic Reading	演習		1	
	Advanced Reading	演習		1	
	Basic Writing	演習		1	
	Advanced Writing	演習		1	
	Speaking & Presentation a	演習		1	
	Speaking & Presentation b	演習		1	
	English Education for Children	演習		1	
	Practical English a	演習		1	
	Practical English b	演習		1	
	イタリア語１	演習		1	
	イタリア語２ａ	演習		1	
	イタリア語２ｂ	演習		1	
専門基礎科目	異文化コミュニケーション論ａ	講義	2		
	情報コミュニケーション論	講義		2	
	国際メディア論	講義		2	
	英語学入門ａ	講義		2	
	英語学入門ｂ	講義		2	
	英語発音論	講義		2	
	認知文法論	講義		2	
	国際文化論ａ	講義	2		

	国際文化論ｂ	講義		2	
	国際社会学ａ	講義		2	
	国際社会学ｂ	講義		2	
	国際関係論	講義		2	
	比較文化論	講義		2	
	日本文化論ａ	講義	2		
	日本文化論ｂ	講義		2	
	現代日本社会論	講義	2		
	日本語学入門ａ	講義		2	
	日本語学入門ｂ	講義		2	
	海外の日本文学	講義		2	
	日本語教育入門ａ	講義		2	
	地域経営学入門ａ	講義	2		
	地域経営学入門ｂ	講義		2	
	観光学入門ａ	講義	2		
	観光学入門ｂ	講義		2	
	観光地理学	講義		2	
専門応用展開科目	異文化コミュニケーション論ｂ	講義	2		
	ポライトネス論	講義		2	
	対人コミュニケーション論	講義		2	
	集団・組織コミュニケーション論	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義ａ	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義ｂ	講義		2	
	国際コミュニケーション演習ａ	演習		2	
	国際コミュニケーション演習ｂ	演習		2	
	マスメディア演習	演習		2	
	ソーシャルメディア演習	演習		2	
	多文化共生論	講義	2		
	国際経営学	講義		2	
	世界の民族と宗教	講義		2	
	海外文化事情ａ	演習		2	
	海外文化事情ｂ	演習		2	
	海外文化事情ｃ	演習		2	
	海外文化事情ｄ	演習		2	
	海外文化事情ｅ	演習		2	
	海外文化事情ｆ	演習		2	
	国際政治学	講義		2	
	国際キャリア論	講義		2	

	グローバリゼーション論	講義		2	
	国際文化資源論	講義		2	
	国際文化特別講義ａ	講義		2	
	国際文化特別講義ｂ	講義		2	
	Global Seminar ａ	演習		2	
	Global Seminar ｂ	演習		2	
	国際文化演習ａ	演習		2	
	国際文化演習ｂ	演習		2	
	日本文化資源論	講義	2		
	民俗伝統芸能論	講義		2	
	日本語教育入門ｂ	講義		2	
	日本文化事情ａ	演習		2	
	日本文化事情ｂ	演習		2	
	日本文化事情ｃ	演習		2	
	日本のメディア文化	講義		2	
	コンテンツ産業論	講義		2	
	東京文化論	講義		2	
	日本文化特別講義ａ	講義		2	
	日本文化特別講義ｂ	講義		2	
	日本文化演習ａ	演習		2	
	日本文化演習ｂ	演習		2	
	地域社会論	講義	2		
	社会統計学入門	講義		2	
	マーケティング概論	講義		2	
	地域政策論	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	地域観光事業ａ	演習		2	
	地域観光事業ｂ	演習		2	
	観光英語	演習		2	
	地域ブランディング	講義		2	
	地域活動企画	講義		2	
	地域文化特別講義ａ	講義		2	
	地域文化特別講義ｂ	講義		2	
	地域観光演習ａ	演習		2	
	地域観光演習ｂ	演習		2	

オフキャンパス・プログラム	国際文化事前研修	演習	2		
	海外留学ａ	実習		9	
	海外留学ｂ	実習		12	
	海外留学ｃ	実習		15	
	海外留学ｄ	実習		18	
	国内インターンシップａ	実習		1	
	国内インターンシップｂ	実習		1	
	国内インターンシップｃ	実習		1	
	国内インターンシップｄ	実習		1	

別表第７

第１５条別表第７　環境デザイン学部専門科目　環境デザイン学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
学科共通科目群	環境デザイン学入門	講義	2		
	環境デザイン学演習	演習	2		
	環境デザイン学セミナー	演習	2		
	卒業研究	演習	6		
	基礎演習ａ	演習		2	
	基礎演習ｂ	演習		2	
	基礎演習ｃ	演習		2	
	統計の基礎	講義		2	
	デザイン基礎演習ａ	演習		2	
	デザイン基礎演習ｂ	演習		2	
	色彩学	講義		2	
	色彩設計演習ａ	演習		2	
	色彩設計演習ｂ	演習		2	
	デザイン史	講義		2	
	デザイン思考	講義		2	
	マテリアル・デザイン	講義		2	
	生活材料学	講義		2	
	人体生理学	講義		2	
	人体生理学実験	実験		2	
	人間工学	講義		2	
	人間工学実験	実験		2	
	環境心理学	講義		2	
アパレル・ファッション科目群	繊維高分子材料学	講義		2	
	繊維高分子材料実験	実験		2	
	テキスタイル材料学	講義		2	
	テキスタイル材料実験	実験		2	
	機能材料学	講義		2	
	テキスタイル管理学	講義		2	
	テキスタイル管理実験	実験		2	
	染色加工学	講義		2	
	生活環境科学	講義		2	
	被服衛生学	講義		2	
	衣料管理実習	実習		1	
	アパレル製作基礎演習	演習		2	
	アパレル製作基礎	講義		2	
	アパレル製作実習	実習		2	
	ファッションデザイン論	講義		2	
	ファッションドローイング	演習		2	
	ファッションデザイン演習１	演習		2	
	ファッションデザイン演習２	演習		2	
	立体裁断	講義		2	

	アパレルＣＡＤａ	演習		2	
	アパレルＣＡＤｂ	演習		2	
	伝統衣服実習	実習		2	
	ファッションビジネスの世界	講義		2	
	ファッションビジネス論	講義		2	
	ファッションビジネス演習	演習		2	
	ファッション文化論	講義		2	
	アパレル生産	講義		2	
	消費生活学	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	マーケティングリサーチ	演習		2	
	ファッション企画論	講義		2	
	消費科学	講義		2	
プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン概論	講義		2	
	基礎造形論	講義		2	
	材料加工演習	演習		2	
	プロダクトデザイン論	講義		2	
	プロダクトデザイン演習ａ	演習		2	
	プロダクトデザイン演習ｂ	演習		2	
	デザインマネジメントａ	講義		2	
	デザインマネジメントｂ	講義		2	
	プロダクトＣＡＤ	演習		2	
	ユニバーサルデザイン論	講義		2	
	ビジュアルデザインａ	演習		2	
	ビジュアルデザインｂ	演習		2	
	情報デザイン論	講義		2	
	情報デザイン演習	演習		2	
	感性科学	講義		2	
	ユーザーエクスペリエンス	講義		2	
	インテリアデザイン論	講義		2	
	インテリアデザイン演習	演習		2	
	インテリアコーディネート論	講義		2	
	インテリアコーディネート演習	演習		2	
	光環境デザイン	演習		2	
建築・住環境デザイン科目群	建築概論	講義		2	
	住居学	講義		2	
	住居デザイン論	講義		2	
	住環境デザイン論	講義		2	
	福祉住環境論	講義		2	
	生活空間計画	講義		2	
	建築デザイン論	講義		2	
	設計製図基礎	演習		2	
	空間造形基礎	演習		2	
	生活空間設計製図１	演習		2	
	生活空間設計製図２	演習		2	

	生活空間設計製図３	演習		2	
	建築ＣＡＤ	演習		2	
	建築構造	講義		2	
	建築・インテリア構法	講義		2	
	建築施工	講義		2	
	構法・構造演習	演習		2	
	材料力学	講義		2	
	生活環境工学	講義		2	
	住環境・設備学	講義		2	
	建築法規	講義		2	
総合デザイン科目群	コミュニティデザイン論ａ	講義		2	
	コミュニティデザイン論ｂ	講義		2	
	環境デザインプロジェクトａ	演習		2	
	環境デザインプロジェクトｂ	演習		2	
	ワークショップ演習	演習		2	
	コミュニティデザイン演習	演習		2	
	総合設計演習	演習		2	
オープン科目	環境デザイン特論ａ	講義		2	
	環境デザイン特論ｂ	講義		2	
関連科目群	調理学及び実習	実習		2	
	栄養学	講義		2	
	食物学	講義		2	
	衣料学	講義		2	
	衣料学演習	演習		2	
	被服実習ａ	実習		2	
	被服実習ｂ	実習		2	
	被服実習ｃ	実習		2	
	家庭経営学	講義		2	
	生活経済学	講義		2	
	家族関係学	講義		2	
	保育学	講義		2	
	育児学	講義		2	
	看護学	講義		2	

別表第８

第１６条別表第８　教職課程授業科目及び単位数

授　業　科　目		授業形態	単位数	備　考
教職入門		講義	2	
教育原理		講義	2	
教育原理（栄養）		講義	1	
発達・学習心理学		講義	2	
発達・学習理論		講義	2	
教育制度		講義	2	
教育制度（栄養）		講義	1	
教育課程論		講義	1	
特別支援教育論		講義	1	
特別支援教育概論		講義	2	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		講義	2	
教科教育法	国語科教育法（１）	講義	2	
	国語科教育法（２）	講義	2	
	国語科教育法（３）	講義	2	
	国語科教育法（４）	講義	2	
	書道科教育法（１）	講義	2	
	書道科教育法（２）	講義	2	
	英語科教育法（１）	講義	2	
	英語科教育法（２）	講義	2	
	英語科教育法（３）	講義	2	
	英語科教育法（４）	講義	2	
	美術科教育法（１）	講義	2	
	美術科教育法（２）	講義	2	
	美術科教育法（３）	講義	2	
	美術科教育法（４）	講義	2	
	家庭科教育法（１）	講義	2	
	家庭科教育法（２）	講義	2	
	家庭科教育法（３）	講義	2	
	家庭科教育法（４）	講義	2	
	社会科・公民科教育法（１）	講義	2	
	社会科・公民科教育法（２）	講義	2	
	社会科・公民科教育法（３）	講義	2	
	社会科・公民科教育法（４）	講義	2	
道徳教育指導論		講義	2	
道徳教育指導論（栄養）		講義	2	
教育方法・技術論（ICT 活用含む）		講義	2	
教育方法・技術論（栄養）		講義	1	

生徒・進路指導論	講義	2	
生徒指導論（栄養）	講義	2	
教育相談	講義	2	
教育実習Ａ	講義 実習	5	
教育実習Ｂ	講義 実習	3	
栄養教育実習	講義 実習	2	
教職実践演習(中・高)	演習	2	
教職実践演習(栄養)	演習	2	
介護支援基礎論	講義	1	
介護等体験	実習	1	
教職研究ａ	講義 演習	2	
教職研究ｂ	講義 演習	2	
教職研究ｃ	講義 演習	2	
教職研究ｄ	講義 演習	2	
教職研究ｅ	講義 演習	2	
児童・生徒栄養教育論(1)	講義	2	
児童・生徒栄養教育論(2)	講義	2	

別表第９

第１６条別表第９　図書館学課程授業科目

図書館司書	必　修　科　目			
	授業科目	授業形態	単位数	備考
	生涯学習概論	講義	2	
	図書館概論	講義	2	
	図書館情報技術論	講義	2	
	図書館制度・経営論	講義	2	
	図書館サービス概論	講義	2	
	情報サービス論	講義	2	
	児童図書館サービス論ａ	講義・演習	2	
	児童図書館サービス論ｂ	講義・演習	2	
	情報サービス演習ａ	演習	1	
	情報サービス演習ｂ	演習	1	
	図書館情報資源概論ａ	講義・演習	2	
	図書館情報資源概論ｂ	講義・演習	2	
	情報資源組織論ａ	講義	2	
	情報資源組織論ｂ	講義	2	
	情報資源組織演習ａ	演習	1	
	情報資源組織演習ｂ	演習	1	
	選　択　科　目			
	図書館基礎特論	講義	2	
	図書・図書館史	講義	2	
	図書館施設論	講義	2	
	図書館総合演習	講義・演習	2	
	図書館実習	講義・実習	2	
学校図書館司書教諭	必　修　科　目			
	学校経営と学校図書館	講義	2	
	学校図書館メディアの構成	講義	2	
	学習指導と学校図書館	講義	2	
	読書と豊かな人間性	講義	2	
	情報メディアの活用	講義・演習	2	
学校図書館サービス論		講義	2	
学校図書館情報サービス論		講義	2	
学校教育概論		講義	2	

別表第１０

第１６条別表第１０　博物館学芸員関係授業科目

必　修　科　目			
授業科目	授業形態	単位	備考
博物館学入門	講義	2	
博物館経営論	講義	2	
博物館資料論	講義	2	
博物館教育論	講義	2	
生涯学習概論	講義	2	
博物館情報・メディア論	講義	2	
博物館展示論	講義	2	
博物館資料保存論	講義	2	
博物館実習１ａ	実習	1	
博物館実習１ｂ	実習	1	
博物館実習２	実習	1	
選　択　科　目			
美術史概論ａ	講義	2	
美術史概論ｂ	講義	2	
工芸史概論ａ	講義	2	
工芸史概論ｂ	講義	2	
文化史概論ａ	講義	2	
文化史概論ｂ	講義	2	
知的財産研究	講義	2	
アート＆パブリッシング	講義	2	
パブリック・プログラム研究	講義	2	
保存修復ａ	講義	2	
保存修復ｂ	講義	2	
保存修復ｃ	講義	2	

別表第１１

第６１条別表第１１

外国人留学生特設科目

選　択　科　目			
授　業　科　目	授業形態	単位数	備　考
日　本　文　化　事　情　a	講義	2	
日　本　文　化　事　情　b	講義	2	
日　本　語　a	講義	2	
日　本　語　b	講義	2	
日　本　語　c	講義	2	
日　本　語　d	講義	2	

○実践女子大学教授会規程

改正　平成12年4月1日　平成17年4月1日
平成18年12月6日　平成26年4月1日改正
平成27年3月19日改正　2023年2月15日改正

第1条　教授会は、本学に所属する教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

第2条　教授会は、学部教授会と全学教授会とする。

第3条　学部教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第4条　学部教授会は、学部長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学部長がこれを委嘱する。

2　前項の規定にかかわらず、学部長は教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第5条　全学教授会は学長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学長がこれを委嘱する。

2　前項の規定にかかわらず、学長は全学教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第6条　学部教授会及び全学教授会は、構成員の3分の2以上の出席により成立する。

第7条　学部教授会及び全学教授会の議決は、出席者の過半数により決し、可否同数の場合は議長が議決する。

第8条　学部教授会及び全学教授会に幹事若干名を置く。幹事は、事務職員がこれに当たり、議長を助けて議事の進行に当たる。

第9条　学部教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1)　学部長の選任に関する事項
(2)　学則に関する事項
(3)　教授、准教授、講師、助教の任免、昇任、代講等異動に関する事項
(4)　学科・課程等の授業科目編成に関する事項
(5)　学生の入学及び卒業に関する事項
(6)　学位の授与に関する事項
(7)　学生の身分に関する事項
(8)　学生の賞罰に関する事項
(9)　その他学長が定めた重要な事項

2　学部教授会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議し、又は学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第10条　全学教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べることができる。

(1)　学長の候補者に関する事項
(2)　学則の制定に関する事項
(3)　教育研究に関する事項
(4)　学科・教育研究の施設に関する事項
(5)　その他学長が必要と認める事項

第11条　第9条第3号の教授の採用及び教授への昇任に関する事項は、教授をもって構成する教授会において審議するものとし、准教授の採用及び准教授への昇任については准教授を、講師の採用については講師を、助教の採用については助教を、それぞれ教授会の中に加えることができる。

第12条　学長は、大学・短期大学部の共通事項を審議するため、合同教授会を開催することができる。

2　合同教授会の運営方法は、全学教授会に準ずる。
第13条　この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定し、常任理事会が行う。

附　則(平成12年4月1日)
この改正規程は、平成12年4月1日から施行する。

附　則(平成17年4月1日)
この改正規程は、平成17年4月1日から施行する。

附　則(平成18年12月6日)
この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成26年4月1日改正)
この改正規程は、平成26年4月1日から施行する。

附　則(平成27年3月19日改正)
この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

附　則(2023年2月15日改正)
この改正規程は、2023年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

第１　設置の趣旨及び必要性　P. 3
　１．実践女子大学の沿革　P. 3
　２．環境デザイン学部設置等の経緯　P. 3
　３．環境デザイン学部設置の趣旨及び必要性　P. 4
　４．養成する人材像、教育上の目的　P. 5
　５．組織として研究対象とする中心的な学問分野　P. 10
第２　学部・学科等の特色　P. 11
第３　大学、学部・学科等の名称及び学位の名称　P. 11
第４　教育課程の編成の考え方及び特色　P. 11
　１．教育課程編成・実施の方針　P. 11
　２．教育課程及び科目区分の編成　P. 13
　３．科目構成とその理由　P. 14
　４．主要授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との相関　P. 18
第５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件　P. 20
　１．教育方法　P. 20
　２．卒業要件　P. 22
　３．履修指導、履修方法　P. 22
　４．履修モデル　P. 23
　５．学修成果の評価方法　P. 24
第６　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画　P. 25
第７　実習の具体的計画　P. 25
第８　取得可能な資格　P. 26
第９　入学者選抜の概要　P. 27
　１．アドミッション・ポリシー　P. 27
　２．入学者選抜の方法　P. 28
　３．入学者選抜の実施体制　P. 31
第 10　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色　P. 31
　１．教員組織編制の考え方　P. 31
　２．教員組織の特色と教員配置　P. 31
　３．教員組織の年齢構成　P. 32

第 11　研究の実施についての考え方、体制、取組　P. 33
第 12　施設、設備等の整備計画　P. 33
　１．校地、運動場の整備計画　P. 33
　２．校舎等施設の整備計画　P. 34
　３．図書等の資料及び図書館の整備計画　P. 36
第 13　管理運営　P. 37
　１．環境デザイン学部教授会　P. 38
　２．全学教授会　P. 38
　３．大学協議会　P. 38
　４．その他委員会　P. 39
　５．教学事務組織　P. 39
第 14　自己点検・評価　P. 40
　１．実施体制　P. 40
　２．自己点検・評価方法　P. 41
　３．認証評価　P. 42
第 15　情報の公表　P. 42
第 16　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　P. 45
　１．FD　P. 45
　２．SD　P. 45
第 17　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　P. 46
　１．教育課程内の取組　P. 46
　２．教育課程外の取組　P. 47
　３．適切な体制の整備　P. 49

第１　設置の趣旨及び必要性

１．実践女子大学の沿革

実践女子大学は、建学の精神として「女性が社会を変える、世界を変える」を掲げている。この建学の精神に基づき、昭和 24 年（1949 年）実践女子大学文家政学部として発足した。昭和 40 年（1965 年）に文学部、家政学部の 2 学部体制とし、平成 6 年（1994 年）家政学部を生活科学部に改めるなどの学部学科の改編を経て、平成 16 年（2004 年）に 3 つ目の学部人間社会学部人間社会学科を設置した。その後、人間社会学部に現代社会学科を設置、生活科学部に現代生活学科を設置、平成 26 年（2014 年）の渋谷キャンパス開設と時代が求める人材を輩出するために、学部学科の改編を進め、教育・研究を担ってきた。

本学は、平成 26 年（2014 年）の渋谷キャンパス開設により、文学部、人間社会学部において志願者増となったが、渋谷キャンパスの教育研究が落ち着くまで学部等の改編には着手してこなかった。また、日野キャンパスにおいても現代生活学科設置後の改編は行わなかった。この間には、特定地域内の収容定員の抑制、入学定員の厳格化など、大学全体の学生数を維持するための施策の実施が求められてきた。

令和 6 年（2024 年）4 月、本学の 4 学部目となる国際学部国際学科を渋谷キャンパスに開設するとともに、人間社会学部を改組し、新たに社会デザイン学科を設置し、合わせて現代社会学科の名称をビジネス社会学科に改めた。一方、実践女子大学短期大学部については令和 6 年度（2024 年度）からの学生募集を停止した。

日野キャンパスでは、平成 26 年度（2014 年度）の現代生活学科開設以後、改組等を行っていなかったため、学内にて令和 3 年（2021 年）から日野キャンパスの競争優位性に関して既存学部学科の再編を含めて協議を重ね、令和 7 年（2025 年）4 月に生活科学部生活環境学科を改組した環境デザイン学部（入学定員 81 名）の設置を計画した。

２．環境デザイン学部設置等の経緯

グローバル化が進展するとともに、情報化が普及しデジタル利用も一般化してきており、地球温室化による気候変動、さらには人間の生活環境も大きく変化してきている。また、グローバル化により様々な人がともに生活をする社会となってきており、それぞれの地域がそれぞれの特色を生かしながら共存する社会となっている。このような社会環境の変化により、人の生活習慣も変化してきており、また技術開発により新たな素材や材料が生産されてきている。

生活科学部生活環境学科では、衣環境、モノ環境、住環境から構成される生活環境に関する教育研究を行ってきており、その取り組みは、それぞれの時代に合った生活環境のあり方を検証しながら進めてきている。人間の生活に密着する衣食住のうち、衣と住およびその間をつなぐモノ（道具・家具等）の分野の教育研究を担う生活環境学科における教育は、本学においても、今後の社会においても必要不可欠なものであり、生活環境という名称自体は大学の家政学系学問分野として認知されているところである。しかしながら、ＳＤＧｓなどの

取組みが進む中で、「環境」という言葉のとらえ方も多様化し、生活科学部の中でも自然環境や環境破壊などを専門科目の中で取り扱うことも増えてきている。生活環境学科の名称が、その教育・研究内容を的確に示すものとして、社会、特に受験生に対する訴求力が小さくなってきた。生活科学部生活環境学科の教育・研究内容を社会や受験生に伝えるためにも、教育・研究の内容は生活環境学科を継承しつつ、学部学科の名称を環境デザイン学部、環境デザイン学科に改め、一学部一学科の新学部とすることとした。

環境デザイン学部は、生活科学部生活環境学科の教育研究の分野を踏襲し、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインの各分野に関し、より教育研究の内容を深めるとともに、新たに総合デザイン分野を創設し、これからの地域社会におけるコミュニティの活性化、およびよりよい社会生活の実現を目指し、衣環境、モノ環境、住環境の視点を踏まえて貢献できる人材の育成を進める。

３．環境デザイン学部設置の趣旨及び必要性

時代は「消費社会」から「情報社会」へ、そして「創造社会」へと変化していく、と言われている。「消費社会」とは、できるだけ多くのモノやサービスを消費することが、生活の豊かにつながる時代。「情報社会」とは、多くの人とコミュニケーションし、多様な関係を築くことが、生活の豊かさを表す時代。それに対して「創造社会」では、自分の求めるモノやコトを自分で創り出すこと、自分の周りの環境や社会を創りだし、自分の生き方を創り出すことが、生活の豊かさを示すことになる。

環境デザイン学部は、快適な生活環境を目指し、人間を中心に衣、モノ、住を構成要素とする人間を取り巻く身近な環境について、生活科学部生活環境学科の教育研究の分野を踏襲し、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインの各分野について深く学ぶとともに、社会を構成するヒト・モノ・コトのデザイン、および情報のデザインなどを含む、より幅広い内容を含むデザインを複合的に学ぶものである。これからの地域社会におけるコミュニティの活性化、およびよりよい社会生活の実現を目指し、衣環境、モノ環境、住環境の視点を踏まえ、これらを融合的に結びつけて提案する総合デザインの視点から、より豊かな環境づくりに貢献できる人材の育成を進めることとした。

そのために、既存の生活科学部生活環境学科を改組し、新たに環境デザイン学部として、その教育研究の目的や人材育成の目標を明確にし、社会や受験生に対して発信していくこととする。

「創造社会」における学びは、つくることを学ぶこと、つくることを通して学ぶことが重視される。環境デザイン学部ではこうした 21 世紀型の学びに対応すべく、「デザイン」を主軸に据えたカリキュラムを構築する。

環境デザイン学部の設置の目的は、現行の生活科学部生活環境学科を独立した学部とすることにより、既存生活科学部の食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科の 4 学科体制の再編の第一段階を担い、学部・学科の教育の目的を明確にするものであ

る。

生活科学部は 4 学科すべてが家政学の学問領域をそれぞれ担ってきた。なかでも生活環境学科は主に被服に関する領域、モノづくりに関する領域、住居に関する領域を担ってきており、ライフスタイル等を考慮したより良い社会生活の実現、および日常生活の質の向上を目指し、さらに地域コミュニケーションを考慮した新たな生活環境のあり方について教育・研究を進めるものとし、その内容として、被服、住居、モノづくり（道具・家具等）、およびコミュニティ形成に中心を置く。被服（衣環境）、住居（住環境）、道具・家具（モノ環境）、コミュニティ（地域環境）は、それぞれの人が生活をしていくうえで不可欠な生活環境を構成する要素であり、その教育課程は、これまでの生活環境学科の教育課程を踏襲しつつ、新たにより豊かなコミュニティ形成を目指す総合デザイン・共創デザイン関連を含める。これらの教育課程は、生活科学部となる以前の家政学部被服学科から名称変更並びに教育課程を時代の要請に合わせ見直してきており、さらに現代社会の要請に応えるものとして、環境デザイン学部を設置するものである。

環境デザイン学部の開設前の生活科学部生活環境学科は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインの 3 つの領域を学ぶ学科であり、令和 5 年度（2023 年度）入試においても志願者数 301 名、入学者数 89 名であり、入学定員を充足しており、全国的に家政分野の入学志願者が減少と言われる中、入学定員割れの状況にはなっていない。

しかしながら現代社会では、より豊かな社会生活の実現のためのモノの開発と生活空間の創造を目指す上で、また現代社会における複雑で多様な課題解決のために、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインの 3 領域を有機的に結びつけ、さまざまな主体と共創的に解決方法を提案できるような、総合的なデザイン力を修得した人材が求められる。そうしたことから、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境を基軸にしつつ、より幅広いデザインスキルを融合的・総合的に身につける教育課程を構想した。

４．養成する人材像、教育上の目的

環境デザイン学部では、アパレル・ファッション分野、プロダクト・インテリア分野、建築・住環境デザイン分野の各授業科目を学ぶことで、生活環境、都市環境、社会環境に関わる各分野の専門的な知識とデザイン力を培う。また、総合デザイン分野の科目を通じて、各分野で学んだ様々なスキルを活かし、地域・社会の中にある社会的な課題を対象に、課題発見力と問題解決のための提案力、そしてさまざまな主体と協働・共創する力を養成する。生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広い視点から環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解し、各分野で学んだ様々なスキルを総合的に用いて、モノ・ヒト・コトのデザインを含めたデザイン力によって社会課題を解決することができる人材を育成する。

この教育研究上の目的に基づく養成する人材は、モノやサービスを消費することで生活の豊かさにつなげる「消費社会」や人と多様な関係を築くことが生活の豊かさを表す「情報社会」から、求めるモノやコトを自分で創り出す「創造社会」へと変化していく時代において、「つくることを学ぶこと」「つくることを通して学ぶこと」を重視し、多様なデザインスキルを身につけ、社会における実践力を通して、自分の周りの環境や社会を創り出すことのできる人材である。

教育研究上の目的及び養成する人材像に基づき、環境デザイン学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のとおり定めている。

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

［環境デザイン学部］

環境デザイン学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを身につけ、社会課題などに応用することができる力を得て、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学）」の学位を授与します。

［環境デザイン学科］

環境デザイン学科では、全学ディプロマ・ポリシー及び環境デザイン学部ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の態度及び能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学）」の学位を授与します。

〈態度〉

多様性を受容し、俯瞰的な視点で行動する態度【国際的視野】

①国内外のデザイン事例を通して、美に対する多様性や共通性を認め、感性を磨く態度。

②学内外での活動の中から、多様なものの見方を取り入れ、俯瞰的な視点で物事をとらえる態度。

③自身の考えをデザインして、世界や社会に対して発信しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

①学修を通して知性を磨き、感性を高める態度。

②知的な関心を持ち、探究することによって、美を見出し、新たな知を創造（デザイン）する態度。

〈能力〉

学修により得た知識、技能を社会に役立て、かつ、自己成長する力【研鑽力】
①修得した知識や技術、デザインスキルを実践の場で応用することができる。
②アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなど生活環境に関する諸問題や社会課題を見出し、多様なデザインスキルを活かして解決することができる。
③デザインに関わる多様な学修を通して、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。
④学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を求め、学び続けることができる。

問題解決のために主体的に行動する能力【行動力】
①現状を正しく把握し、課題を発見できる。
②目標を設定して、計画立案、具体的な解決方法をデザインし実行ができる。
③様々なデザインスキルを統合し、問題や課題を主体的な行動により解決できる。

相手を活かして自らの役割を果たす能力【協働力】
①相手の意見を公正に判断し、取り入れることができる。
②自己や他者の役割を理解して、お互いに協力して行動することができる。
③多様な価値観を理解し、幅広い視野から協働的・共創的に課題を解決することができる。
④お互いを尊重し、信頼関係を築き、豊かな人間関係を構築することができる。

カリキュラム・ポリシー

［環境デザイン学部］
　環境デザイン学部は、ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性とデザインに関する幅広い学識を授け、社会における実践力を養うことで創造社会において活躍できる知識と能力の養成を目的として専門課程カリキュラムを編成します。

［環境デザイン学科］
　環境デザイン学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、アパレル・ファッション分野、プロダクト・インテリア分野、建築・住環境デザイン分野、総合デザイン分野に関する専門的な知識と多様なデザインスキルを学び、社会に貢献できる人材を育成することを目的に教育を実施します。そのために、教育課程編成、教育内容、教育方法及び評価方法について以下のとおり定めます。

教育課程の編成

①全学の必修科目である実践スタンダード科目と人文科学、社会科学、自然科学からなる共通教育科目、及び学科の専門性を学ぶ専門教育科目から成っています。

②専門科目は、共通の基盤を形成する学科共通科目、生活環境を形成する衣、モノ、住のそれぞれの分野の専門教育科目として、アパレル・ファッション科目群、プロダクト・インテリア科目群、建築・住環境デザイン科目群、それらを総合したコミュニティデザインに関わる分野としての総合デザイン科目群に分けて配置してあります。

③アパレル・ファッション系、プロダクト・インテリア系、建築・住環境デザイン系、総合デザイン系の各分野から、自由に履修科目を選択することができます。一つの分野について深く学ぶことも、各分野を横断して科目を履修し、複合的・総合的なデザイン手法を学ぶこともできます。

④スペシャリストの育成にも力を注ぎ、1 級衣料管理士（テキスタイルアドバイザー）取得に必要な科目を、アパレル・ファッション科目群を中心に配置し、一級建築士、二級建築士受験資格取得に必要な科目を、建築・住環境デザイン科目群を中心に配置しています。

⑤各科目群には中学校教諭 1 種免許（家庭）と高等学校教諭 1 種免許（家庭）を取得するのに必要な科目を配置しています。

教育内容

①共通教育科目では、実践スタンダード科目で大学教育のための導入教育と共に、学科のディプロマ・ポリシーに掲げた国際的視野、美の探求、研鑽力、行動力、協働力にあたる態度・能力を刺激し、選択科目で人文、社会、自然科学領域にわたる幅広い教養を培うことができ、広い知識を身につけることができます。

②1 年次には、各専門分野の科目を学ぶにあたって共通の基盤となる知識と技術を学ぶとともに、アパレル・ファッション系、プロダクト・インテリア系、建築・住環境デザイン系、総合デザイン系の各分野の導入となる知識と技術の修得が始まります。

③2 年次になると、各分野の専門性に沿った講義及び実験、演習によって、専門的な知識と技術を深めていきます。各専門分野を有機的に学ぶことにより、専門の知識や技能を実践の場で使える能力を培います。2 年次前期はプロジェクトタームとして、分野横断的なプロジェクト科目を配置し、地域や社会と関わりながら実践的かつ共創的に学ぶ機会とし、問題発見・解決能力を養います。

④3 年次には、各分野の専門知識をより深め、技術のレベルの向上を目指し、応用力を養います。さらに必修科目として「生活環境学セミナー」が配置され、研究室に所属して少人数で特色ある学修を行います。授業の中で演習をするだけではなく、年間を通して、学校行事への参加や企業との共同企画等に参加し、社会に貢献することから研鑽力、行動力、協働力を育てます。

⑤4 年次にも、引き続き専門教育科目や関連科目を履修して、各専門領域の知識や技術をさらに深め、諸問題を見出し、解決する能力、本質を見抜く力を付けます。4 年次には各研究室で、これまでの学びの集大成としての卒業研究（卒業論文や卒業制作）に取り組みます。在学中に培った、知を求め、美を育む態度を持ち、多様性を受容し、俯瞰的な視点で行動し、研鑽力、行動力、協働力を発揮して、独創的な卒業研究を遂行し、優れた成果を国内外で発表し、自身と国際性を身につけることができるようにします。

教育方法
①能動的な学修の充実を図るために、アクティブラーニング、演習、実習、実験やゼミなどの少人数教育を積極的に導入します。
②社会とつながる学修の充実を図るために、正課外の活動も含め、学外の組織や地域との連携の機会を取り入れます。
③すべての授業科目において、授業と連動した事前・事後学修の方法をシラバスに明示しています。授業内では積極的に課題を提出させ、活発な学修を促す教育を行います。

評価方法
①成績評価基準を履修要項に明示し、学生が自らの到達度を正確に把握できるようにします。
②客観的・総合的評価のために GPA 制度を用います。

アドミッション・ポリシー

［環境デザイン学部］
　環境デザイン学部は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に興味を持ち、デザインに対して意欲的に取り組み、創造社会において活躍できるデザインスキルとデザインマインドを身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、多様な視点からデザイン力を磨き、実践する意欲と行動力のある人を求めます。

［環境デザイン学科］
1. 求める人材・学生像
　環境デザイン学科は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野で深い専門性と幅広いデザインスキルを学び、身近な地域や社会における課題を発見し、具体的な解決方法をデザインし、提案することのできる能力を身につけた人材の育成を目指しています。
　そのため、チームの一員としても参画し、課題解決に向けて、多様な人たちと協働・共

創できる意欲的な人を求めます。

2. 入学時に求められる能力・水準等
①理解力、文章作成力、計算力等、専門科目を学ぶために必要な基礎的な力を身につけた人。
②アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に関心を持っている人。
③デザイン、作品制作、実験等に興味がある人。
④好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動でき、多様な文化・社会背景をもつ人々とコミュニケーションを図れる態度を身につけられる人。
⑤身につけた専門性を生かして、身近な生活環境の改善に取り組もうとする意欲のある人。
⑥入学前に履修・修得することを推奨する教科・科目として、国語（資料や文献を読み解き、論理的思考ができる)、理科（物理、化学、生物の基礎知識を習得し、生活の場面で応用することができる)、家庭（日常生活を総合的にとらえ、実践的なスキルがある)、芸術（芸術に関する感性を磨き、表現することができる)。なお、専門分野は相互に関連づけられるため、多くの科目をバランスよく履修することを推奨します。

3. 入学者選抜方針（入学希望者に求める水準・判定方法）
　入学者選抜においては、受験生の能力、意欲、興味・関心等を多面的に評価します。
①総合型選抜では、知識だけではなく、読解力、文章作成力、表現力を試験すると共に、面接を重視し、自分の考えを自身の言葉で述べる力を評価し、適性（入学者に求めるもの）を見ます。また、高等学校での成績と共に特技や秀でた活動等も考慮します。
②学校推薦型選抜等では、知識だけではなく、読解力、文章作成力、表現力を試験すると共に、面接を重視し、自分の考えを自身の言葉で述べる力を評価し、適性（入学者に求めるもの）を見ます。また、高等学校での成績等も考慮します。
③一般選抜では、学力試験を実施して、高等学校までの基礎学力を評価します。また、一般選抜の一部では、高等学校での成績と共に特技や秀でた活動、資格取得等も評価します。

５．組織として研究対象とする中心的な学問分野

　環境デザイン学部の目的は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン等の分野において、深い専門性と幅広いデザインスキルを学生に教授し、各分野で学んだ様々なスキルを総合的に用いて、実際の社会課題などに応用し、デザインの力で解決することができる人材の育成である。
　本学部の研究対象とする領域は、ファッションデザイン、テキスタイル管理学、材料工学、

流通・販売、プロダクトデザイン、人間工学、建築計画学、建築意匠、環境心理学、コミュニティデザインなどである。これらの各領域を横断的に環境デザイン学として取りまとめていく。

第２　学部・学科等の特色

環境デザイン学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像（答申）」（平成 17 年 1 月 28 日）における「高等教育の多様な個性・特色の明確化」に掲げられる 7 つの機能（1．世界的研究・教育拠点、2．高度専門職業人養成、3．幅広い職業人養成、4．総合的教養教育、5．特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、6．地域の生涯学習機会の拠点、7．社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等））のうち、「高度専門職業人養成」及び「幅広い職業人養成」を中心としながら、「総合的教養教育」「社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等)」とも深く関連させながら教育研究を実施する。

本学部は、アパレル・ファッション分野、プロダクト・インテリア分野、建築・住環境デザイン分野の各授業科目を学ぶことで、生活環境、都市環境、社会環境に関わる各分野の専門的な知識とデザイン力を培う。また、総合デザイン分野の科目を通じて、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのかを理解するとともに、多様なデザインスキルを活かし、地域・社会の中にある現実的な課題を捉える視点と課題解決のためのデザイン力を身につけ、多様な主体と協働・共創する力を養成する。このような教育・研究を通して、専門職業人養成にとどまらず、幅広い職業人の養成につながり、また、社会連携活動を通じて地域貢献にも資していく。

第３　大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

本学部は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを養い、各分野を通して得られた様々なスキルを総合的かつ共創的に用いて、実際の社会課題などに応用することができる人材の育成を目指す。これまで生活科学部生活環境学科と称してきたが、視覚・情報に関わるデザインを充実させるとともに、新たな分野として地域コミュニティにおける課題解決を目指した総合デザインに関する教育研究を拡充するところから、「環境デザイン学部」に改める。学部組織は、一学部一学科として教育課程を編成するとともに、教育組織としても運用していくので、学科を「環境デザイン学科」とする。また、本学部が授与する学位の分野は、学科系統分類において家政学関係にある「環境デザイン」を用い、「学士（環境デザイン学)」とする。

第４　教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程編成・実施の方針

環境デザイン学部の教育課程は、学部学科の目的及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリ

シー）を踏まえて、次のようにカリキュラム・ポリシーを定める。

＜教育課程の編成＞

①全学の必修科目である実践スタンダード科目と人文科学、社会科学、自然科学からなる共通教育科目、及び学科の専門性を学ぶ専門教育科目から成っています。
②専門科目は、共通の基盤を形成する学科共通科目、生活環境を形成する衣、モノ、住のそれぞれの分野の専門教育科目として、アパレル・ファッション科目群、プロダクト・インテリア科目群、建築・住環境デザイン科目群、それらを総合したコミュニティデザインに関わる分野としての総合デザイン科目群に分けて配置してあります。
③アパレル・ファッション系、プロダクト・インテリア系、建築・住環境デザイン系、総合デザイン系の各分野から、自由に履修科目を選択することができます。一つの分野について深く学ぶことも、各分野を横断して科目を履修し、複合的・総合的なデザイン手法を学ぶこともできます。
④スペシャリストの育成にも力を注ぎ、1 級衣料管理士（テキスタイルアドバイザー）取得に必要な科目を、アパレル・ファッション科目群を中心に配置し、一級建築士、二級建築士受験資格取得に必要な科目を、建築・住環境デザイン科目群を中心に配置しています。
⑤各科目群には中学校教諭 1 種免許（家庭）と高等学校教諭 1 種免許（家庭）を取得するのに必要な科目を配置しています。

＜教育内容＞

①共通教育科目では、実践スタンダード科目で大学教育のための導入教育と共に、学科のディプロマ・ポリシーに掲げた国際的視野、美の探求、研鑽力、行動力、協働力にあたる態度・能力を刺激し、選択科目で人文、社会、自然科学領域にわたる幅広い教養を培うことができ、広い知識を身につけることができます。
②1 年次には、各専門分野の科目を学ぶにあたって共通の基盤となる知識と技術を学ぶとともに、アパレル・ファッション系、プロダクト・インテリア系、建築・住環境デザイン系、総合デザイン系の各分野の導入となる知識と技術の修得が始まります。
③2 年次になると、各分野の専門性に沿った講義及び実験、演習によって、専門的な知識と技術を深めていきます。各専門分野を有機的に学ぶことにより、専門の知識や技能を実践の場で使える能力を培います。2 年次前期はプロジェクトタームとして、分野横断的なプロジェクト科目を配置し、地域や社会と関わりながら実践的かつ共創的に学ぶ機会とし、問題発見・解決能力を養います。
④3 年次には、各分野の専門知識をより深め、技術のレベルの向上を目指し、応用力を養います。さらに必修科目として「生活環境学セミナー」が配置され、研究室に所属して少人数で特色ある学修を行います。授業の中で演習をするだけではなく、年間を通して、学校行事への参加や企業との共同企画等に参加し、社会に貢献することから研鑽力、行動力、協働力

を育てます。
⑤4 年次にも、引き続き専門教育科目や関連科目を履修して、各専門領域の知識や技術をさらに深め、諸問題を見出し、解決する能力、本質を見抜く力を付けます。4 年次には各研究室で、これまでの学びの集大成としての卒業研究（卒業論文や卒業制作）に取り組みます。在学中に培った、知を求め、美を育む態度を持ち、多様性を受容し、俯瞰的な視点で行動し、研鑽力、行動力、協働力を発揮して、独創的な卒業研究を遂行し、優れた成果を国内外で発表し、自身と国際性を身につけることができるようにします。

＜教育方法＞
①能動的な学修の充実を図るために、アクティブラーニング、演習、実習、実験やゼミなどの少人数教育を積極的に導入します。
②社会とつながる学修の充実を図るために、正課外の活動も含め、学外の組織や地域との連携の機会を取り入れます。
③すべての授業科目において、授業と連動した事前・事後学修の方法をシラバスに明示しています。授業内では積極的に課題を提出させ、活発な学修を促す教育を行います。

＜評価方法＞
①成績評価基準を履修要項に明示し、学生が自らの到達度を正確に把握できるようにします。
②客観的・総合的評価のために GPA 制度を用います。

２．教育課程及び科目区分の編成

環境デザイン学部環境デザイン学科の教育課程は、学部学科の目的並びにカリキュラム・ポリシーを踏まえて全学共通の共通教育科目と環境デザイン学部の専門教育科目を編成している。【資料１】「環境デザイン学部環境デザイン学科カリキュラムマップ」

１）共通教育科目

共通教育科目は、令和 6 年（2024 年）から新たな教育課程を編成し、従来の共通教育科目をさらに充実することとした。共通教育科目は、全学部学科の学生が履修できるよう、学生数や履修希望者数等に応じて、クラス編成を工夫し、多くの学生が履修できるようにしているとともに、メディア授業なども取り入れ、学生の選択の幅を広げている。

共通教育科目は、幅広く深い教養を身につけ、専門の学問を修めるための基礎とするとともに、広い視野と思考力の育成や国際性を身につけることを目的としており、「実践スタンダード科目」、「実践アドバンスト科目」、「実践プロジェクト科目」および「教養教育科目」の四つの科目群が設定されている。「実践スタンダード科目」は実践力のある女性を育成するための基幹となる科目群、「実践アドバンスト科目」は「実践スタンダード科目」で身につけた能力を展開・発展させる科目群であり、「実践プロジェクト科目」は、能動的な学び

や社会と連携した学びを通じて行動力、協働力、問題解決能力等を身に付ける科目群、そして、「教養教育科目」は、幅広い教養とものの見方、考え方、価値観を養う科目である。

「実践スタンダード科目」は本学学生全員が履修する必修科目「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「Integrated English a」「Integrated English b」「データサイエンス入門」「情報リテラシー基礎」の 6 科目からなる。これらの実践スタンダード科目は、学科ごとのクラス編成を基本としている。

「実践アドバンスト科目」は、キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目からなり、学生時代また社会人として必要なスキルを身につける科目を配置しており、それぞれの授業科目に応じて履修上限人数を定めている。外国語教育科目には、英語以外のドイツ語、フランス語、中国語、コリア語、スペイン語などが開講される。

「教養教育科目」は、「ジェンダーについて学ぶ」「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」「健康な体を創る」「知を拓く」の科目区分にそれぞれ授業科目が配置されている。特に、「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」は学生の興味関心により選択ができるよう、各区分に 10～20 科目以上の授業科目を配置するなど、授業科目を増やし、環境デザイン学部の学生にとどまらず、既存の学部学科の学生にとっても教育内容を充実させている。

２）専門教育科目

環境デザイン学部の専門教育科目は、これまで生活科学部生活環境学科で実施してきた教育を踏襲しながら、さらに総合デザイン分野を設け、より豊かなコミュニティの形成に資するものとしていく。

専門教育科目は、学科共通科目群、アパレル・ファッション科目群、プロダクト・インテリア科目群、建築・住環境デザイン科目群、総合デザイン科目群、オープン科目及び関連科目群からなる。学科共通科目群には、全学生が履修する必修科目のほか、各科目群に共通する授業科目を配置する。アパレル・ファッション科目群、プロダクト・インテリア科目群、建築・住環境デザイン科目群、総合デザイン科目群は、各分野の基礎的科目から専門的科目までを配置し、学生の興味に応じて履修しつつ、各分野の専門性を深めていけるようにしている。オープン科目では環境デザインに関するトピックを取り扱う科目を配置し、関連科目群には、主に教職課程に関連する専門科目を配置している。

３）教職に関連する専門科目

境デザイン学部では、中学校教諭および高等学校教諭第 1 種免許状の取得ができるため、教員養成に必要な授業科目を、教職に関連する専門科目に配置する。教職に関連する専門科目には、法令で定められる科目のほか、本学独自の授業科目も配置する。

３．科目構成とその理由

１）共通教育科目

1-1)実践スタンダード科目

実践スタンダード科目は、いわゆる初年次教育科目として位置づけられる必修6科目計8単位からなる科目群である。

「実践入門セミナー」(2単位)は、大学生活を円滑にスタートさせ、「学びの目標」をみつけるとともに、「学びのスキル」を身につけることを目的として配置している。また、「実践キャリアプランニング」では、大学生活だけではなく、卒業後の将来を見据えた職業観・生き方を教授する。さらに社会でグローバルに活躍するために必要とされる英語力を養う「Integrated English a」(1単位)および「Integrated English b」(1単位)、数理・データサイエンス・AIに関する知識を得ることを目的とする「データサイエンス入門」(1単位)、そして情報の処理・活用に関する汎用的スキルを身につけるための基礎となる「情報リテラシー基礎」(1単位)を展開している。

1-2) 実践アドバンスト科目

「実践アドバンスト科目」は、「実践スタンダード科目」で身につけた能力を展開・発展させる科目であり、「キャリア教育科目」、「外国語教育科目」、「情報リテラシー教育科目」の3分野に関わる科目を配置する。

「キャリア教育」科目群には「キャリアデザイン」や「ライフデザイン」、「ビジネスのスキルとマナー」等の講義科目、「インターンシップ演習」「キャリア開発実践論」などの演習科目に加え、「長期インターンシップ」「短期インターンシップ」の単位認定科目を配置している。

「外国語教育科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、国際的視野を広げることを目的として配置している。英語については四技能を磨くための科目が、また英語以外の外国語(フランス語、ドイツ語、中国語、コリア語、スペイン語)については、年次ごとに段階的に学びを深められるように科目を配置している。その他、語学研修プログラムへの参加・修了をもって単位認定を行う「海外語学研修」を研修先にあわせて8種類用意すると共に、「海外長期インターンシップ」「海外短期インターンシップ」を配置している。

「情報リテラシー教育科目」は「情報スキル基礎」のほか、目的に応じてスキルを高めるための「情報リテラシー応用a～e」を配置している。

1-3)実践プロジェクト科目

「実践プロジェクト科目」は、能動的な学びや社会と連携した学びを通じて行動力、協働力、問題解決能力等を身に付ける科目群であり、学内外での活動を含んだ「実践プロジェクトa～c」、認定されたボランティア活動を単位化する「ボランティアプロジェクトa・b」を配置する。

1-4)教養教育科目

「教養教育科目」は、幅広い教養とものの見方、考え方、価値観を養う科目であり、「ジェンダーについて学ぶ」「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」「健康な体を創る」「知を拓く」の6群で構成されている。このうち、人文・社会・自然分野に対応する

「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の３区分には、幅広い教養を身に付けることを目的として最低修得単位数（各 2 単位以上）を定めている。

「ジェンダーについて学ぶ」では、現代社会において自立した女性としてどう生きるか一人一人に問いかけ、「健康な体を創る」では、健康管理の重要性を学び、運動（身体）能力を育む。「知を拓く」では、オムニバス授業やアクティブ・ラーイング系の授業などの多彩な授業を通じて、受講生の知的好奇心を刺激することを目指す。

２）専門教育科目

環境デザイン学部環境デザイン学科の専門教育科目は、本学部のディプロマ・ポリシーで定めるとおり、ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを身につけ、社会課題などに応用することができる力を身につけるために、それぞれの授業科目を「学科共通科目群」、「アパレル・ファッション科目群」「プロダクト・インテリア科目群」「建築・住環境デザイン科目群」「総合デザイン科目群」「オープン科目」「関連科目群」の各科目群を設けて、配置した。

全学生が履修する必修科目は、次に述べる学科共通科目群に置く「環境デザイン学入門」「環境デザイン学演習」など 4 科目にとどめ、他の授業科目は、学生の興味関心によりファッション、プロダクト、建築、コミュニティについて自由に学べるよう選択科目とした。ただし、各科目の学年配置や単位数は、学生が特定分野を計画的に履修できるようにしている。

2-1）学科共通科目群

「学科共通科目群」に必修科目として「環境デザイン学入門」（1 年次、2 単位）、「環境デザイン学演習」（2 年次、2 単位）、「環境デザイン学セミナー」（3 年次、2 単位）、「卒業研究」（4 年次、6 単位）を配置する。また、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン、および総合デザインの各分野に特化することなく、共通に求められる「基礎演習ａ」「基礎演習ｂ」「基礎演習ｃ」「デザイン基礎演習ａ」「デザイン基礎演習ｂ」などの基礎的演習科目、「統計の基礎」「色彩学」「マテリアル・デザイン」「人体生理学」「デザイン思考」「人間工学」などの講義科目、およびこれらの講義科目に関連する演習、実習などの授業科目を配置している。

2-2）アパレル・ファッション科目群

「アパレル・ファッション科目群」には、アパレル・ファッションに関する材料科学、染色加工・アパレル管理、ファッションデザイン・製作、企画・生産・流通などに関する授業科目を体系的に配置している。講義科目とともに、実習・実験・演習科目を配置し、合わせて履修することで 1 級衣料管理士の資格取得に対応した授業科目としている。

材料科学・アパレル管理関連として、1～3 年次にかけて、「繊維高分子材料学」「繊維高分子材料実験」「テキスタイル管理学」「テキスタイル管理実験」「テキスタイル材料学」「テキスタイル材料実験」と、講義と実験を連続的に配置し、科学の知識を効果的に修得・蓄積できるようにしている。3・4 年次には、より高度な知識のための講義科目として「染色加

工学」「生活環境科学」「機能材料学」「被服衛生学」を配置し、専門性を深めていく。

ファッションデザイン・製作関連として、1・2 年次に、「アパレル製作基礎演習」「アパレル製作実習」「アパレル製作基礎」「立体裁断」などの製作技術の基礎を培う講義・演習科目と、「ファッションデザイン論」「ファッションドローイング」「アパレル CAD a」などのデザイン・表現技術を高める講義・演習科目を配置し、3、4 年次に「ファッションデザイン演習 1」「ファッションデザイン演習 2」「アパレル CAD b」など、より高度な製作・デザインを学ぶ演習科目を配置する。

企画・生産・流通関連では、ビジネスの視点からファッションを学ぶ「ファッションビジネスの世界」「ファッションビジネス論」「アパレル生産」「ファッション企画論」「ファッションビジネス演習」を、現代の消費者側のニーズを探り新たな価値創造について学ぶ「消費生活学」「マーケティング論」「消費科学」「マーケティングリサーチ」などの科目を配置している。

2-3）プロダクト・インテリア科目群

「プロダクト・インテリア科目群」は、生活空間に置かれるモノのデザインについて、また現代社会における情報のデザインについて学ぶ専門科目を配置している。アパレル・ファッション科目群と同様に、講義科目と演習科目を段階的に配置し、習熟度を高められるようにしている。

プロダクトデザインとしては、1・2 年次にモノづくりの基礎として「プロダクトデザイン概論」「基礎造形論」「プロダクトデザイン論」など講義科目と「材料加工演習」「プロダクトデザイン演習 a」などの演習科目を配置している。3・4 年次にはより高度なデザインスキルを修得するため、「デザインマネジメント a」「デザインマネジメント b」「ユニバーサルデザイン論」などの講義科目と「プロダクト CAD」「プロダクトデザイン演習 b」などの演習科目を体系的に配置している。

視覚・情報デザインとして、「情報デザイン論」「感性科学」「ユーザーエクスペリエンス」の講義科目と「情報デザイン演習」「ビジュアルデザイン a」「ビジュアルデザイン b」の演習科目を配置し、知識と技術の両面から学修するようにしている。

インテリアデザインは、2 年次に「インテリアデザイン論」「インテリアデザイン演習」、3 年次に「インテリアコーディネート論」「インテリアコーディネート演習」「光環境デザイン」と、講義と演習をセットで配置して学びを深めていくようにしている。

2-4）建築・住環境デザイン科目群

「建築・住環境デザイン科目群」は、住環境や建築に係る専門的科目を配置し、建築士受験資格取得希望者にも対応した授業科目としている。建築の設計施工に関わる技術的な知識を学ぶ専門科目と、建築を計画しデザインするスキルを体得する専門科目を配置し、その両面から専門性を深められるようにしている。

建築技術としては、建築構造・構法に関わる「建築構造」「建築・インテリア構法」「建築施工」「構法・構造演習」「材料力学」、建築環境工学に関わる「生活環境工学」「住環境・設

備学」などの講義・演習科目を配置し、必要な知識習得に対応している。

計画・設計には、講義科目としては1、2年次に「建築概論」「住居学」「住居デザイン論」「住環境デザイン論」「福祉住環境論」「建築CAD」を、3，4年次に「生活空間計画」「建築デザイン論」などを配置し、建築計画・設計に必要な知識を得ながら、演習科目としては「設計製図基礎」「空間造形基礎」「生活空間設計演習1」「生活空間設計演習2」「生活空間設計演習3」と、年次に合わせてより高度な設計演習科目を配置して、習熟度を高められるようにしている。

2-5）総合デザイン科目群

「総合デザイン科目群」は、ファッション・アパレル、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインで学ぶとともに、専門教育科目で学んだ知識等を活用して社会に発信し協働するための総合デザイン力を培う。

具体的には、「コミュニティデザイン論ａ」「コミュニティデザイン論ｂ」の講義科目と、「ワークショップ演習」「コミュニティデザイン演習」の演習科目を配置している。さらに社会連携型のプロジェクトに取り組むための「環境デザインプロジェクトａ」、「環境デザインプロジェクトｂ」「総合設計演習」を配置している。

2-6）オープン科目

「オープン科目」は、環境デザインに関するトピック的事項を取り扱う選択科目として、講義科目であるが、都市環境、自然環境、社会環境など幅広く環境をとらえ、デザインについて議論を行う「環境デザイン特論ａ」「環境デザイン特論ｂ」の2科目を配置する。

2-7）関連科目群

「関連科目群」は、中学校教諭1種免許（家庭）と高等学校教諭1種免許（家庭）を取得するのに必要な科目のうち、上記各科目群に配置することができない授業科目を配置している。

３）教職に関連する専門科目

教職に関連する専門科目は、教育職員免許状の資格を取得するために必要な科目であり、教育の基礎的理解に関する科目として「教職入門」「教育原理」などの授業科目を、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目として「道徳教育指導論」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」などの授業科目を、教育実践に関する科目として「教育実習Ａ」「教職実践演習（中・高）」などの授業科目を配置している。また、本学独自の科目として「教職研究ａ」～「教職研究ｅ」なども配置している。

４　主要授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との相関

環境デザイン学部の主要授業科目は、学部ディプロマ・ポリシーで定める、ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを身につけるために、「アパレル・ファッション科目群」「プロダクト・インテリア科目群」「建

築・住環境科目群」「総合デザイン科目群」の専門科目を学ぶ上で、基礎的、基本的な講義科目、演習科目を設定した。また、必修科目である「学科共通科目群」の「環境デザイン学入門」など4科目も主要授業科目とした。

環境デザイン学部環境デザイン学科のカリキュラムは、学科ディプロマ・ポリシーを踏まえて構築している。【資料2】「環境デザイン学科　カリキュラムツリー」

［環境デザイン学科］

環境デザイン学科では、全学ディプロマ・ポリシー及び環境デザイン学部ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の態度及び能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学)」の学位を授与します。

〈態度〉

多様性を受容し、俯瞰的な視点で行動する態度【国際的視野】

①国内外のデザイン事例を通して、美に対する多様性や共通性を認め、感性を磨く態度。

②学内外での活動の中から、多様なものの見方を取り入れ、俯瞰的な視点で物事をとらえる態度。

③自身の考えをデザインして、世界や社会に対して発信しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

①学修を通して知性を磨き、感性を高める態度。

②知的な関心を持ち、探究することによって、美を見出し、新たな知を創造（デザイン）する態度。

〈能力〉

学修により得た知識、技能を社会に役立て、かつ、自己成長する力【研鑽力】

①修得した知識や技術、デザインスキルを実践の場で応用することができる。

②アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなど生活環境に関する諸問題や社会課題を見出し、多様なデザインスキルを活かして解決することができる。

③デザインに関わる多様な学修を通して、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。

④学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を求め、学び続けることができる。

問題解決のために主体的に行動する能力【行動力】

①現状を正しく把握し、課題を発見できる。

②目標を設定して、計画立案、具体的な解決方法をデザインし実行ができる。

③様々なデザインスキルを統合し、問題や課題を主体的な行動により解決できる。

相手を活かして自らの役割を果たす能力【協働力】

①相手の意見を公正に判断し、取り入れることができる。

②自己や他者の役割を理解して、お互いに協力して行動することができる。
③多様な価値観を理解し、幅広い視野から協働的・共創的に課題を解決することができる。
④お互いを尊重し、信頼関係を築き、豊かな人間関係を構築することができる。

第５　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

１．教育方法

環境デザイン学部の教育方法はカリキュラム・ポリシーで次のとおり定めている。

＜教育方法＞

①能動的な学修の充実を図るために、アクティブラーニング、演習、実習、実験やゼミなどの少人数教育を積極的に導入します。
②社会とつながる学修の充実を図るために、正課外の活動も含め、学外の組織や地域との連携の機会を取り入れます。
③すべての授業科目において、授業と連動した事前・事後学修の方法をシラバスに明示しています。授業内では積極的に課題を提出させ、活発な学修を促す教育を行います。

１）共通教育科目

共通教育科目は、「実践スタンダード科目」「実践アドバンスト科目」「実践プロジェクト科目」及び「教養教育科目」からなる。

1-1）実践スタンダード科目

実践スタンダード科目には、「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「Integrated English a」「Integrated English b」「データサイエンス入門」「情報リテラシー基礎」の 6 科目が必修科目として配置されている。

1 年次に配置され、大学での学びの基礎を学ぶために、「実践入門セミナー」は学部の専任教員が担当し、20 人 1 クラスで授業を行う。「情報リテラシー基礎」は大学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で必要な情報リテラシーを学ぶため 1 クラス 40 人で授業を行う。「Integrated English a」「Integrated English b」は、英語運用能力をつけ、専門科目の外国語科目と連動する科目であり、1 クラス 20 人で実施する。「実践キャリアプランニング」および「データサイエンス入門」は講義型授業であり、学科単位で授業を行う。

1-2）実践アドバンスト科目

実践アドバンスト科目は、「キャリア教育科目」「外国語教育科目」「情報リテラシー教育科目」からなる。

「キャリア教育科目」は、講義科目、演習科目、実習科目からなる。「キャリアデザイン」「ビジネスのスキルとマナー」などの講義科目は、履修人数の制限は設けていない一方、「グローバル・キャリアデザイン」などの演習型科目は 1 クラスの人数を 40 人以下とする。

「外国語教育科目」は、英語をはじめとした外国語を修得するための授業科目であるので、

授業効果を高めるために、1 クラスの上限人数を 20 人～30 人とする。

「情報リテラシー教育科目」は、PC を使用した演習型授業であるので、PC 演習室の収容人数を 1 クラスの人数とし、40 人規模とする。

1-3）実践プロジェクト科目

「実践プロジェクト科目」は、それぞれの授業科目でテーマを設けた課題解決型の授業を行うものであり、それぞれのテーマ、課題の方法により、クラス規模は異なる。

1-4）教養教育科目

教養教育科目は、「健康な体を創る」の実習型授業、「知を拓く」の実践教養講座の演習型授業科目以外は講義型授業科目であり、原則 1 クラスの上限人数は 120 人である。

２）専門教育科目

2-1）学科共通科目群

「学科共通科目群」では、「環境デザイン学入門」（1 年次、2 単位）にて環境デザイン学科の専任教員がオムニバスで各 1 回担当し、学科カリキュラムの学び方並びに各分野の位置づけなどを身につける。「環境デザイン学演習」（2 年次、2 単位）では、10 名以内の少人数クラスに分かれ、環境デザイン学科の専門領域を把握するために各専任教員の教育研究活動を体験する。「環境デザイン学セミナー」（3 年次、2 単位）は、専任教員の各研究室に分かれて履修するので 1 クラス 8～12 名程度で履修する。「卒業研究」（4 年次、6 単位）では、3 年次の環境デザイン学セミナーと原則同じ研究室に所属するので、1 クラス 8～12 名程度となる。

上記 4 科目のみが必修授業であり、それ以外の授業科目は、すべて学生が選択履修するので、履修人数の制限は原則設けない。一部機器等を使用する演習、実験・実習科目においては、履修人数を制限する場合があるが、できるかぎり学生の興味関心を減じないようにする。

2-2）アパレル・ファッション科目群

「アパレル・ファッション科目群」では、1 年次の「ファッションデザイン論」「ファッションドローイング」、2 年次の「アパレル製作実習」及び「ファッションデザイン演習２」が主要授業科目に設定されている。アパレル・ファッション分野を中心に学修をする者は、これらの主要授業科目を中心に、アパレル、ファッションに関する授業科目を履修する。特に 1 級衣料管理士の資格取得を目指す場合は、衣料管理士資格科目を履修する。

2-3）プロダクト・インテリア科目群

「プロダクト・インテリア科目群」では、1 年次の「プロダクトデザイン概論」、2 年次の「プロダクトデザイン論」「プロダクトデザイン演習ａ」、3 年次の「プロダクトデザイン演習ｂ」を主要授業科目としている。プロダクト・インテリア分野を学修する者は、これらの主要授業科目を中心に、プロダクト・インテリアに関する授業科目を履修する。特にモノを制作するための演習科目が多いため、それぞれの関心に応じて履修する。

2-4）建築・住環境デザイン科目群

「建築・住環境デザイン科目群」では、「建築概論」「設計製図基礎」「生活空間設計製図

１」「生活空間設計製図２」を主要授業科目としている。建築・住環境デザイン科目群では、建築等に関する知識の習得にとどまらず、イメージを具体的にデザインとして図面に記述できるスキルを身につける。

建築・住環境デザイン分野では、一級建築士、二級建築士を目指す場合は、資格取得に必要な授業科目を履修する。

2-5）総合デザイン科目群

「総合デザイン科目群」では、「コミュニティデザイン論ａ」「環境デザインプロジェクトａ」、「環境デザインプロジェクトｂ」「コミュニティデザイン演習」を主要授業科目とし、少人数の演習科目では、地域連携／社会連携プロジェクトをとおし社会課題に取り組み、フィールドワーク、グループワーク、グループディスカッションなどを通し、課題発見力等を身につける。

2-6）関連科目群

中学校教諭 1 種免許（家庭）、高等学校教諭 1 種免許（家庭）の取得を希望するものは、関連科目群に配置する教科に関する専門的事項の授業科目である、「調理学及び実習」「栄養学」「衣料学」「家庭経営学」「保育学」などの授業科目を履修する。

２．卒業要件

環境デザイン学部の卒業要件は、次のとおりである。

①共通教育科目：必修科目 8 単位、選択必修科目 8 単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各 2 単位以上、「情報リテラシー教育科目」から 2 単位以上）、合計 28 単位

②専門教育科目：必修科目 12 単位、選択必修科目 30 単位以上、合計 82 単位

③その他：①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計 20 単位以上

①、②、③の要件を満たし、合計 130 単位以上

①の共通教育科目の選択必修は、教養教育科目を満遍なく学ぶために設定した履修要件であり、卒業要件としている。また、②の専門教育科目の選択必修科目は、各科目群からの習得を要件とした。

３．履修指導、履修方法

大学に入学した 1 年次に対し、大学での学びの全体像、4 年間の学びの流れ、卒業までに必要な単位数等、授業科目の構成などを掲載した『履修要項』を電子媒体で配布するとともに、履修オリエンテーションを行い、履修指導を行う。また、学生総合支援センター学生総合サポート部には、カリキュラムアドバイザーを配置し、学生の履修相談等に対応する。

またシラバスには、授業のテーマ、授業における到達目標、授業の内容、事前・事後の学修、教科書・教材等、成績評価の方法・基準とフィードバック、参考書が記載されており、学生

の授業科目選択の参考として活用している。
各セメスターの履修単位の上限は 22 単位である。CAP 制には緩和要件は設けていないが、卒業要件に含まれない資格科目（教職に関する専門科目）の履修は CAP 外としている。

４．履修モデル

環境デザイン学部では、学科の目指す人材育成像と教育課程より、5 つのモデルを策定し、さらに学生の履修希望をカリキュラムアドバイザーや学部の助手などと相談しながら、履修計画を立てていく。具体的な履修モデルについては、環境デザイン学部の教育目標を踏まえ、環境デザイン学部の特徴を生かした進路を想定し、5 種類を示す。これらの履修モデルは、入学時のオリエンテーションや履修ガイダンスをはじめとする履修指導の機会に学生に提示し、大学の学びを将来の進路と関連付け将来設計をしながら履修計画ができるようにする。

【履修モデル】
１）アパレル・ファッション系【資料 3】「履修モデル：アパレル・ファッション系」
アパレル・ファッション系は、衣服の素地をなす材料科学、染色・洗浄などの基礎を土台とし、アパレル製作基礎、アパレル製作実習、テキスタイル管理実験などの演習・実習、さらにマーケティング論やファッション企画論を通じて、流通を含めた、アパレルの制作に関する体系的な知識と技術を体得する。卒業後の進路としては、衣服・雑貨の企画・設計、展示・販売、消費者対応、品質管理を想定している。
２）プロダクト・インテリア系【資料 4】「履修モデル：プロダクト・インテリア系」
プロダクト・インテリア系は、生活の場にあるモノについて、その機能、造形、周囲との調和などに関して学ぶとともに、人間を中心としたデザインの方法、問題発見・解決のためのデザイン思考など、それらをデザインするための基本的知識、技能を修得する。また、生活空間との調和を学ぶために、住環境デザインに関する科目も合わせて履修する。卒業後の進路は、家具・寝具、照明・設備メーカー、企画・設計、展示・販売などを想定している。
３）建築・住環境デザイン系【資料 5】「履修モデル：建築・住環境デザイン系」
建築・住環境デザイン系では、建築士として必要な構造・環境・施工などの基礎的知識・技術を学びながら、住環境計画・建築計画に関わる知識をベースに、生活空間設計製図などの演習を通して、多様な用途の建築デザイン技術を計画的に学ぶ。同時に、生活空間におけるインテリアに関する知識も修得を目指す。卒業後の進路は、建築・住宅の設計・施工・販売、不動産、建材、リフォームなどを想定している。
４）総合デザイン系【資料 6】「履修モデル：総合デザイン系」
総合デザイン系では、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインにおける知識をもとに生活の場における衣、モノ、住に関する基本的知識を修得するとともに、社会的課題を解決し、よりよい生活をするための総合デザイン・共創デザイン

の知識・知識を身につけるため、ワークショップや演習科目を履修する。卒業後の進路は、地方公共団体、公益法人、都市コンサルタント、コミュニティビジネスなどを想定する。

５）教職（家庭）系　【資料 7】「履修モデル：教職（家庭）」

中学校、高等学校の教員を目指す場合、本学科の専門科目を学ぶとともに、教職専門科目を履修しなければならない。教職に必要な専門科目は、学科共通科目群、アパレル・ファッション科目群、プロダクト・インテリア科目群、建築・住環境デザイン科目群に配置するとともに、関連科目群でも開講している。主な進路としては、教員はもちろんのこと、広く教育産業、地方公共団体などを想定している。

５．学修成果の評価方法

環境デザイン学部の評価方法はカリキュラム・ポリシーで、次のとおり定めている。

①成績評価基準を履修要項に明示し、学生が自らの到達度を正確に把握できるようにします。

②客観的・総合的評価のために GPA 制度を用います。

1）成績評価基準を履修要項に明示し、学生が自らの到達度を正確に把握できるようにする

成績評価のための、授業における到達目標、成績評価の方法・基準とフィードバックを各授業科目のシラバスに明示し、学生が到達度を正確に把握できるようにするとともに、レポートや小テストなどに対するフィードバックを適切に行い、学生の到達目標への到達を目指し、学生と教員との相互理解を深めるようにする。

学修到達目標には、当該授業科目で身につける内容やレベル、ディプロマ・ポリシーに定める能力、態度をどのように身につけるのかが記載され、成績評価の方法では、課題提出、授業内テストなどの割合が示されており、この基準により評価を行う。

また、課題やテストをどのように学生にフィードバックするのかもシラバスに記載し、学修成果を高めることとしている。

2）客観的・総合的評価のために GPA を活用する。

本学の成績評価基準

表記	点数基準	合否	GPA
＋A	100 点～91 点	合格	4
A	90 点～80 点	合格	3
B	79 点～70 点	合格	2
C	69 点～60 点	合格	1
D	59 点以下	不合格	0

また、上記表記とは別に、「合格」「単位認定」等の評価も用いている。

第６　多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる方法として、一部授業科目をオンデマンド型として実施することとする。

本学で行うオンデマンド型授業は、「毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの」のうち、当該授業を行う教員が当該授業の終了後すみやかに設問回答当による指導を行う形態とする。

具体的には、オンデマンド型の授業教材を学習管理システム（Learning Management System。以下、LMS）内に置き、履修学生がその教材にて学習し、不明点などを教員に質問する方式とする。LMS を活用することで、学習状況を把握することもでき、研究倫理に留意しながら学習データ分析により、授業デザインの標準化、最適化も目指す。またオンデマンド型授業により、学生及び授業担当教員は授業実施の場所を教室に定める必要がなくなり、自由度が高まる。特に、本学では BYOD（Bring Your Own Device）を実施していることから、オンデマンド型にすることにより履修目標とする学年で学ぶことができ、体系的な学びを実現しやすくなっている。そのほか、プログラミングに関する授業やデータ分析に関する授業においては、情報スキルの個人差が大きい場合もあり、オンデマンドで繰り返し、自分のペースで学習することも可能である。

第７　実習の具体的計画

環境デザイン学部では、中学校教諭および高等学校教諭第１種免許状の取得ができる。

教職免許状取得に必要な教育実習は、次のとおり実施する。

ア 実習の目的

教育の現場にて教科指導はもとより、学級経営、生徒指導、教職員間の関係構築などを体験することにより、教員としての心構え、指導方法、態度、スキルなどを身につけることを目的とする。

イ 実習先の確保の状況

教育実習は、原則として併設学校である実践女子学園中学校高等学校で行う。

【資料 8】「教育実習受入れ承諾書」

ウ 実習先との契約内容

教育実習先である実践女子学園中学校高等学校とは、実習中の事故防止、個人情報の取り扱いなどについて協議を行うものとする。

エ 実習水準の確保の方策

教育実習実施にあたっては、教育実習内容を歌え、授業参加、授業担当、研究授業、教材

研究などに要する時間を定めるとともに、実習中に教育実習担当教員が訪問し、学生指導を行う。

オ 実習先との連携体制

実習先である実践女子学園中学校高等学校とは、本学教職センターが中心となり、実習前の協議、実習実施時の連絡体制、実習における指導の方針などを事前に確認するなどの連携体制を構築している。

カ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

・感染予防に関する対策，保険加入などの安全確保の状況について説明してください。また，実習中に知り得た情報に関する守秘義務や SNS の利用に係る注意点など，学生への留意事項等についても記載してください。

キ 事前・事後における指導計画

事前・事後指導では、次の項目を取り扱う。

事前指導　教育実習の目的と意義、教育実習の準備と心得、教員の服務・勤務と学校組織、教育実習の実際、授業参観・授業観察の意義とポイント、学級経営・学校運営

事後指導　教育実習の体験発表および討論、生徒理解・生徒指導から見た評価・反省
学級経営・学校運営からみた評価・反省、教師に求められるもの

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習期間中は、教職センター教員が

ケ 実習施設における指導者の配置計画

実習先には、家庭科の教員 2 名を含め 84 名の教員が在籍する。

クラス担任および副担任、学年主任、教科主任の指導のもと、教育実習を実施する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

育実習の評価は、教育実習校の「教育実習成績評価報告書」や教育実習授業担当教員による「事前・事後指導」の評価に基づき、教職課程研究室会議で審議し単位の認定を行う。

第８　取得可能な資格

環境デザイン学部環境デザイン学科で取得可能な資格は次のとおりである。

資格・免許の種類	取得条件等（ア：国家資格もしくは民間資格　イ：資格取得可能もしくは受験資格取得可能　ウ：取得の要件）
1 級衣料管理士	ア：民間資格　イ：資格取得可能 ウ：卒業要件単位に含まれる科目だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
一級建築士	ア：国家資格　イ：受験資格取得可能 ウ：卒業要件単位に含まれる科目だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
二級建築士	ア：国家資格　イ：受験資格取得可能

	ウ：卒業要件単位に含まれる科目だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
インテリアプランナー	ア：民間資格　イ：登録により資格取得可能 ウ：卒業要件単位に含まれる科目だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
中学・高校教員１種（家庭）	ア：国家資格　イ：資格取得可能 ウ：卒業要件単位に含まれる科目のほか、教職に関する科目の履修が必要だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

第９　入学者選抜の概要

１．アドミッション・ポリシー

環境デザイン学部のアドミッション・ポリシーは次のとおりである。

環境デザイン学部は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に興味を持ち、デザインに対して意欲的に取り組み、創造社会において活躍できるデザインスキルとデザインマインドを身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、多様な視点からデザイン力を磨き、実践する意欲と行動力のある人を求めます。

［環境デザイン学科］

1. 求める人材・学生像

環境デザイン学科は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野で深い専門性と幅広いデザインスキルを学び、身近な地域や社会における課題を発見し、具体的な解決方法をデザインし、提案することのできる能力を身につけた人材の育成を目指しています。

そのため、チームの一員としても参画し、課題解決に向けて、多様な人たちと協働・共創できる意欲的な人を求めます。

2. 入学時に求められる能力・水準等

①理解力、文章作成力、計算力等、専門科目を学ぶために必要な基礎的な力を身につけた人。

②アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に関心を持っている人。

③デザイン、作品制作、実験等に興味がある人。

④好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動でき、多様な文化・社会背景をもつ人々とコミュニケーションを図れる態度を身につけられる人。

⑤身につけた専門性を生かして、身近な生活環境の改善に取り組もうとする意欲のある

人。
⑥入学前に履修・修得することを推奨する教科・科目として、国語（資料や文献を読み解き、論理的思考ができる)、理科（物理、化学、生物の基礎知識を習得し、生活の場面で応用することができる)、家庭（日常生活を総合的にとらえ、実践的なスキルがある)、芸術（芸術に関する感性を磨き、表現することができる)。なお、専門分野は相互に関連づけられるため、多くの科目をバランスよく履修することを推奨します。

3. 入学者選抜方針（入学希望者に求める水準・判定方法）
　入学者選抜においては、受験生の能力、意欲、興味・関心等を多面的に評価します。
①総合型選抜では、知識だけではなく、読解力、文章作成力、表現力を試験すると共に、面接を重視し、自分の考えを自身の言葉で述べる力を評価し、適性（入学者に求めるもの）を見ます。また、高等学校での成績と共に特技や秀でた活動等も考慮します。
②学校推薦型選抜等では、知識だけではなく、読解力、文章作成力、表現力を試験すると共に、面接を重視し、自分の考えを自身の言葉で述べる力を評価し、適性（入学者に求めるもの）を見ます。また、高等学校での成績等も考慮します。
③一般選抜では、学力試験を実施して、高等学校までの基礎学力を評価します。また、一般選抜の一部では、高等学校での成績と共に特技や秀でた活動、資格取得等も評価します。

２．入学者選抜の方法

　環境デザイン学部の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーを踏まえ、次の選抜方法で、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適正等を多面的・総合的に評価・判定する。

１）【一般選抜】募集人員 32 名

　アドミッション・ポリシーに定めたとおり、一般選抜では、学力試験を実施して、高等学校までの基礎学力を評価するとともに、一般選抜の一部では、志願者本人が記載する資料により「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。また、高等学校での成績と共に特技や秀でた活動、資格取得等を評価する選抜も実施する。アドミッション・ポリシーでは、履修を推奨する科目を明示しているが、必ずしもアドミッション・ポリシーで定める教科のすべての学力を判定するものではない。本学が作成する試験問題により各教科の基礎学力と英語運用能力を中心に合否を判定する入試方式である。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期の 3 回に分け実施する。

【Ⅰ期】(2 科目型、3 科目型、3 科目型外部試験利用方式)

・2 科目型：英語と選択科目（国語、日本史、世界史、生物、化学、数学）の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。
・3 科目型：英語と選択科目（国語、日本史、世界史、生物、化学、数学）の筆記試験を

課すことにより、特定の科目に偏ることなく、バランスよく各教科の基礎学力が身についているかを評価する。

・外部試験利用：本学の指定する英語資格・検定試験の成績（スコア）を得点化し英語の筆記試験を受験する場合にはいずれか高得点の方を英語の得点とする。これに加え 3 科目型入試の選択科目の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。

【Ⅱ期】（2 科目型、3 科目型、3 科目型外部試験利用方式）

・2 科目型：英語と選択科目（国語、日本史、世界史、生物、化学、数学）の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。

・3 科目型：英語と選択科目（国語、日本史、世界史、生物、化学、数学）の筆記試験を課すことにより、特定の科目に偏ることなく、バランスよく各教科の基礎学力が身についているかを評価する。

・外部試験利用方式：本学の指定する英語資格・検定試験の成績（スコア）を得点化し英語の筆記試験を受験する場合にはいずれか高得点の方を英語の得点とする。これに加え 3 科目型入試の選択科目の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。

【Ⅲ期】（2 科目型、高校時代活動評価方式）

・2 科目型：選択科目（国語、英語、数学）の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力を評価する。

・高校時代活動評価方式：高校時代の活動（部活動、ボランティア等）を点数化（50 点満点）し、選択科目（国語、英語、数学）のうち 2 科目を選択させ、主体性・多様性・協働力と各教科の基礎学力を評価する。

２）【大学入学共通テスト利用選抜】募集人員 15 名

大学入学共通テストにより、高等学校までの基礎学力を中心に合否を判定する入学方式であり、アドミッション・ポリシーに定めた一般選抜と同様に高等学校までの基礎学力を評価する。なお、必ずしもアドミッション・ポリシーで定める教科のすべての学力を判定するものではない。

【Ⅰ期】（2 科目型、2 科目型外部試験利用方式、3 科目型、3 科目型外部試験利用方式）

・2 科目型：大学入学共通テスト出題教科から選択科目（外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学、情報【各 100 点に換算】）6 科目から高得点 2 科目を採用し、計 200 点で合否を判定する。

・3 科目型：大学入学共通テスト出題教科から選択科目（地歴・公民、理科、数学、情報【各 100 点】）6 科目から高得点 3 科目を採用し、計 300 点で合否を判定する。

・外部試験利用方式：本学の指定する英語資格・検定試験の成績（スコア）を得点化し、大学入学共通テストの外国語（英語）といずれか高得点の方を英語の得点とする。これに加え 2、3 科目型入試の外国語以外の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力

や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅱ期】

大学入学共通テスト出題教科から選択科目（外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学、情報【各 100 点に換算】）6 科目から高得点 2 科目を採用し、計 200 点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅲ期】

大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学、情報【各 100 点に換算】6 科目から高得点 2 科目を採用し、計 200 点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅳ期】

大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学、情報【各 100 点に換算】6 科目から高得点 2 科目を採用し、計 200 点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

３）【学校推薦型選抜】募集人員 14 名

学校推薦型選抜は、指定校推薦、公募推薦、内部（併設校）推薦、卒業生・在学生推薦 がある。どちらも「読解力、文章作成力、表現力」を試験、面接にて「自分の考えを自身の言葉で述べる力」及び「適性」（入学者に求めるもの）を見る。特に「主体的に学習に取り組む態度」を重視する。

・指定校・公募推薦は、本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持つ学業・人物とも優秀な生徒を広く全国から募ることを目的とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて合否を判定する。

調査書の評定平均値が本学の定める水準以上であることを出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保していく。

・内部（併設校）推薦は、本学の一貫教育の理念に共感して本学への入学を強く希望する者を対象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）を用いて合否を判定する。一定の成績基準を満たした者を学校長が推薦することにより、相応の学力水準の担保を図る。

・卒業生・在学生推薦は、本学の教育理念に共感して本学への入学を強く希望する卒業生の子女、在学生の姉妹を対象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて合否を判定する。調査書の評定平均値が本学の定める水準以上であることが出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保する。

４）【総合型選抜】募集人員 20 名

本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持ち、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働力」を有する者を受け入れるべく、入試として総合型選抜を実施する。志願者が 4 つの方式（総４合評価方式、探究学習・プレゼンテーション方式、高校時代活動アピール方式、基礎学力試験方式）から選択して受験する。各方式における選考方法に

加え、出願書類（調査書・エントリーシート）と面接・口頭試問により合否を判定する。

３．入学者選抜の実施体制

大学協議会（議長学長）のもとに入試対策委員会を置き、入学者選抜の全学的な方針の策定、入学試験の全般的な実務の調査及び実施にあたっている。合格者の決定は、学部教授会の議を経て、学長が行う。

一般選抜の入試問題作成及び採点業務については、大学協議会のもとにおかれる入試問題作成委員会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定し、学長が委嘱する。出題及び採点にあたっては、予め定められた手順に則り業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性・公共性の確保に努めている。

第 10　教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

１．教員組織編制の考え方

環境デザイン学部の教育研究上の目的である、生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広く環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解し、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを学ぶとともに、各分野で学んだ様々なスキルを総合的に用いて、実際の社会課題などをデザインの力で解決することができる人材育成を推進するために、「組織として研究対象とする中心的な学問分野」に掲げた分野を中心に幅広い専門知識を教授できる教員組織を編成し、10 名の基幹教員を配置する。

環境デザイン学科の教育課程は、「アパレル・ファッション」「プロダクト・インテリア」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」である。10 名の基幹教員をそれぞれの科目区分に 1 名以上を配置し、特に学生の希望が高いと想定される、「アパレル・ファッション」「建築・住環境デザイン」には複数の教員配置とした。

基幹教員 10 名は、いずれも生活科学部生活環境学科からの異動であり、令和 7 年（2025 年）4 月に 10 名が着任する。

２．教員組織の特色と教員配置

環境デザイン学部の教員組織は、いずれの教員も被服学、材料学、人間工学、住環境学、デザイン学等に関する高い研究能力を有しており、学生の教育はもとより研究活動につても高度なレベルでの発表等が行える点に特色がある。またそれぞれ各系の分野の科目だけを担当するのではないが、以下に主に担当する系の教員として教員配置を示す。

1）ファッション・アパレル分野

氏名	研究分野	研究分野のキーワード
大川　知子	流通・販売、経営学	ファッションビジネス、マーケ

		ティング
加藤木　秀章	材料科学、繊維工学	高分子材料、エコマテリアル、複合材料工学
塩原　みゆき	生活科学、整理・染色	テキスタイル管理、品質評価
滝澤　愛	被服設計・製作、被服構成学	ファッションデザイン、服飾文化

2）プロダクト・インテリア分野

氏名	研究分野	研究分野のキーワード
安齋　利典	生活デザイン、ものづくり	人間中心設計、デザインマネジメント
佐藤　健	人間工学、感性情報学	人体生理学、認知科学

3）建築・住環境デザイン分野

氏名	研究分野	研究分野のキーワード
橘　弘志	住居学、建築計画	環境行動学、福祉住環境
内藤　将俊	建築設計、建築意匠	建築・インテリアデザイン
槙　究	色彩計画、環境・設備工学	環境心理学、環境評価

4）総合デザイン分野

氏名	研究分野	研究分野のキーワード
一色　ヒロタカ	参加型まちづくり、コミュニティデザイン	共創デザイン、ワークショップ

建築・住環境デザイン分野では、1 級建築士の資格を有する教員が 3 名、そのうち建築設計等の実務経験者として教授 1 名、准教授 1 名を置く。

３．教員組織の年齢構成

環境デザイン学部の教員組織構成は、設置時には教授 7 名、准教授 3 名であり、その年齢構成は、60 代 4 名、50 代 3 名、40 代 3 名である。本学教育職員就業規則第 22 条に「教員の定年は 70 歳とし、定年に達した月の属する会計年度の末日を以て退職とする。」と規定されている。環境デザイン学部において、完成年度までに定年となる教員は 2 名いるが、この 2 名の教員は専門分野における教育・研究者として十分な実績がある。本学教育職員就業規則の附則にて「第 22 条の規定にかかわらず、学部・学科改組のために理事長が特に必要と認めた教育職員については、当該学部・学科の完成年度までの間、定年を延長することができる。」と定め、令和 5 年度（2023 年度）第 38 回常任理事会にて 2 名の教員について環境

デザイン学部の完成年度までの定年延長を決定している。なお、定年延長をする教員の専門分野は、プロダクトデザインとファッションデザインであり、後任には業績並びに年齢構成を考慮した適切な人材の採用を行っていく。

【資料 9】「実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育職員就業規則（抜粋）」

完成年度となる令和 10 年度（2028 年度）末の時点では、70 代が 2 名のほか、60 代が 4 名、50 代が 1 名、40 代が 2 名である。教育研究の継続性の観点から、定年延長となる教員の後任は若手教員の採用などを計画し、中期的に見ても継続的に教育研究を実施できる体制とする。

第 11　研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、教員の研究活動を積極的に支援するために、実践女子大学研究推進機構（機構長は副学長）を設置し、事務組織として研究推進室研究推進課がある。

また研究推進機構のもとには、本学の教育研究の理念を実現するために、文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所の 3 つの研究組織を設け、それぞれに専任教員を配置している。

研究活動の実施するための施策等を検討、決定する研究推進機構会議があり、機構会議の構成員は、学長、副学長、各学部長、各研究所長、研究推進室部長である。

教員の研究活動を支援するための補助制度として、プロジェクト研究所、国内国外研修制度、学術研究図書出版助成などの他、研究活動支援のための研究費制度を設けており、研究推進課が所掌している。

また、科学研究費補助金の獲得に向けた支援も積極的に行い、不採択であっても翌年度の再申請に向け研究補助を行っている。

現在、URA は配置していないが、研究活動の支援や他機関との共同研究や受託研究などの取り扱いは研究推進室が、また学外諸機関との連携を進める際には、学園経営企画室内にある社会連携推進室がサポートを行っている。

第 12　施設、設備等の整備計画

１．校地、運動場の整備計画

本学の校地、運動場については、日野キャンパス及び渋谷キャンパスがあり、日野キャンパスには、本学部及び生活科学部が教育研究を行う校舎等を置くとともに、大学全体の運動施設として、運動場、テニスコートの他体育館を設置している。

日野キャンパスは、東京都日野市にあり大坂上校地（43,035 ㎡）と神明校地（22,659 ㎡）とからなる。

校舎がある大坂上校地では、主に本学部及び生活科学部の教育研究に使われるとともに、運動施設として体育館、グランド及びテニスコートを有している。また、神明校地には教育

倉庫の他、運動場としてソフトボール等を行う人工芝グランドと、サッカーやラクロスなどに供する通常芝のグランドを有している。

一方、文学部、人間社会学部及び国際学部が教育を行う渋谷キャンパスは、校地面積 4,707 ㎡に、地上 17 階、地下 1 階の高層棟の校舎（校舎面積 24,527.28 ㎡）を設置している。

２．校舎等施設の整備計画

本学部を設置する本学日野キャンパスには、本館、1 館、3 館、4 館、5 館、6 館、7 館、香雪記念館、桜ホール（食堂）、事務センターの各校舎が配置され、講義室 43 室、PC 演習室 3 室、一般演習室 8 室並びに、各学科の教育に資する実習室などが整備されている。

大学設置基準で定める、学長室、会議室、事務室は、主に事務センターに配置し、会議室の一部は香雪記念館に配置する。図書館、学生自習室、保健室などは本館に、学生相談センターを香雪記念館に配置し、研究室および教室は、本館をはじとした各校舎に配置している。

環境デザイン学部の学生が主として使用するのは、本館となる。本館には、各授業等の専門性を高め、それぞれの授業に適した、実習室や演習室を整備している。【資料 10】「環境デザイン学部授業時間割表」

アパレル・ファッション系では、生活材料学実験室（本館 229）、恒温恒湿室（本館 230）、テキスタイル実験・実習室（本館 224）、整理染色学実験室（本館 231）、アパレルデザイン実習室（本館 330）、アパレル CAD 室（本館 325）などを整備し、さまざまな実験・実習科目に対応した実験器具や実習用具が設置されている。

生活材料学実験室（本館 229）および恒温恒湿室（本館 230）には、小型疲労試験機、摩耗試験機、破裂試験機、静的万能材料試験機、圧縮試験機、引張りせん断試験機、純曲げ試験機など、素材の物性測定の機器、表面粗さ測定器、ピリング試験機、検撚機、ドレープテスター、通気性試験機、保温性試験機、接触冷温感計測装置、防炎性試験機など、繊維製品の性能測定の機器、定温乾燥機、ドラフトチャンバー、窒素ガス付き電気炉、水冷付きプレス機など、素材加工に関わる機器、超高速・高精度寸法測定器、密度勾配管装置、光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡、電子天びん、比重計、色差計、照度計、サーモグラフィカメラなどの検査機器類が設置され、また環境科学機器室（本館 225 室）にも走査型電子顕微鏡、フーリエ変換型赤外分光光度計、示差走査熱量計などが設置され、これらは「高分子材料実験」「テキスタイル材料実験」などの科目で、布の風合いや強度特性、摩耗特性、ドレープ特性、繊維の引張特性、布地の厚さ、通気性などの測定で使用される。テキスタイル実験・実習室（本館 224）では、各実験で得られたデータ出力・整理、数値処理などの演算、デジタルでの刺繍デザイン、布地の表面加工法の評価、繊維・バイオポリマーの創製・評価などを行っている。

整理染色学実験室（本館 231）には、洗浄試験機、吸光光度計、染色堅牢性試験のための回転ポット式染色機、摩擦試験機、耐候性試験機が設置され、「テキスタイル管理実験」において、繊維の染色・洗浄に関わる実験が行われる。さらに環境科学機器室（本 225）には、

分光測色計，デジタルマイクロスコープ，走査型電子顕微鏡，ニオイ識別装置、アパレル管理機器室（本 226）には、キセノンウェザーメーター，原子吸光スペクトル分析装置などが設置され、繊維製品の洗浄性能・堅牢度性能に対するより詳しい評価が可能となっている。

アパレルデザイン実習室（本 330）には、実習用の 24 台備わり、ミシン 54 台（工業用ミシン 1 台、職業用ミシン 4 台、家庭用ミシン 40 台、ロックミシン 9 台）が設置され、「アパレル制作基礎演習」「アパレル制作実習」「パターン設計論」「ファッションデザイン演習 1」「ファッションデザイン演習 2」など、実際に被服製作を行う演習科目が行われる。

PC 演習室（本館 3 階）には設計開発用 CAD ソフトがインストールされた 16 台のパソコンが設置され、アパレル CAD 室（本館 325）には、同ソフトがインストールされた 1 台のパソコンとプロッターが設置され、主に「アパレル CAD a」「アパレル CAD b」で使用される。

プロダクト・インテリア系では、ものつくり工房 A（本館 260）、造形・デザイン実習室（本館 430）、生理衛生機能実験室（本館 331）を整備し、学生の実習に活用できる。

ものつくり工房 A（本館 260）は「材料加工演習」「プロダクトデザイン演習 a」「プロダクトデザイン演習 b」などで使用する。パネルソー（大型電動鋸）やテーブルソー（中型電動鋸）、ボール盤などの機器や、万力やペンチなどの基本的な工具類を備え、木材やプラスティック、金属などを素材として、それぞれの加工法を学び、さまざまな道具や家具のモックアップ作成を行う。

生理衛生機能実験室（本館 331）には、心電図計や脳波計、温度・湿度センサーロガーなどの実験器具、加速度計や３D スキャナ、酸素摂取量などの測定器具を備え、「人間工学実験」「人体生理学実験」などの、ヒトを対象とした実験科目で活用する。人間の生理現象を客観的にとらえ、様々な特定の課題に対するパフォーマンスを評価する手法を学ぶことができる。特に、寒冷型人工気候室は、温熱環境からマイナス 30 度までの寒冷条件を設定することができ、寒冷条件でのヒトのパフォーマンス測定評価、手袋・寒冷地作業服の作業性評価、熱中症対策の衣服条件の在り方、建設作業員の健康・安全管理に関係する基礎研究など、幅広く活用することが可能である。

造形・デザイン実習室（本館 430）、環境デザイン立体造形実習室（本館 431）などは、「インテリアデザイン演習」「インテリアコーディネート演習」「光環境デザイン」などの制作作業を伴う演習科目で利用する。それぞれ 40 人程度まで収容可能である。

建築・住環境系では、製図室 1（本館 536）、製図室 2（本館 534）、製図室 3（本館 533）、造形・デザイン実習室（本館 430）、環境デザイン立体造形実習室（本館 431）などを整備し、図面制作や、模型作成などに活用する。

造形・デザイン実習室（本館 430）、環境デザイン立体造形実習室（本館 431）は、「設計製図基礎」「空間造形基礎」「色彩設計演習」などの、製図や模型制作の作業を伴う演習で使用する。それぞれ 40 名程度が同時に作業できる。製図板（平行定規）は 46 台を準備室（本

館 426）に常備し、授業中あるいは学生の作業時には貸し出して使用する。製図室１（本館 536)、製図室 2（本館 534)、製図室 3（本館 533）は、「生活空間設計製図 1」「生活空間設計製図 2」「生活空間設計製図 3「総合設計演習」などの設計演習で使用する。製図室 1～3 合わせて 64 人分の作業机があり、授業以外の時間も学生が自由に作業できる。

PC 演習室（本館 342）には、建築用 CAD ソフトが 30 台インストールされ、「建築 CAD」で使用される。

総合デザイン系では主に、造形・デザイン実習室（本館 430)、環境デザイン立体造形実習室（本館 431）などを利用し、「グループワーク演習」「コミュニティデザイン演習」「総合設計演習」において、グループワークや模型・図面などのプレゼンテーション資料の作成に活用する。生活デザイン学実験室（本館 421）は、授業以外の時間にも自主的にグループワーク活動の場として活用する。

また、環境デザイン学部の各基幹教員には、それぞれ 1 人 1 室の個人研究室があり、個人研究室は関連する実験室、実習室に隣接もしくはその近くに設置されている。また、研究室は平均 50 ㎡あり、ゼミ所属学生のグループ指導も可能である。

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

１）図書館の規模、機能

本学図書館は、日野キャンパス図書館及び渋谷キャンパス図書館の 2 館からなる。

図書館の開館は、通常授業期間の平日は 8 時 30 分～19 時 30 分、土曜日は 8 時 30 分～17 時である。授業時間は平日が 9 時～18 時 40 分、土曜日は 9 時～12 時 35 分（一部の科目が 14 時 55 分まで）であり、授業開始 30 分前から開館するとともに、授業時間終了後も利用できる。

平成 26 年（2014 年）4 月に渋谷キャンパスに文学部、人間社会学部及び実践女子大学短期大学部が移転し、教育展開を始める際に、それまで日野キャンパス及び短期大学図書館（日野市）にあった図書館資料のうち、渋谷キャンパス図書館に収蔵可能な範囲で資料を移転した。渋谷キャンパスに移転できなかった資料については、日野キャンパス図書館に保管している。

日野キャンパスと渋谷キャンパスの間は 1 日 1 往復の学内便による移送を行っており、利用者が他キャンパスの資料を予約し取り寄せることが可能となっている。

本学図書館は原則開架式であり、すべての学生が自由に書架に出入りし、資料の閲覧が可能となっている。

２）図書の整備 整備冊数

図書館の蔵書は、日野キャンパス、渋谷キャンパスを合わせた図書館全体で、日本語図書資料が 76 万冊ある。日野キャンパス図書館の総収蔵書数は約 40 万冊であり、図書館 1 階には、自然科学、技術・工学、産業、芸術・美術関係の図書、百科事典・語学辞典などの参

考図書、美術書や地図などの大型図書本、教員が授業等に関して指定した指定図書などが配架されている。1 階には建設工学、土木工事、建築学、機械工学、家政学、生活科学、工芸を中心に自然科学、技術工学関係の図書、書誌、新書などを配架している。地下 1 階には和書（言語学）と洋書、地下 2 階には比較的出版年の古い図書、雑誌のバックナンバーが配架されている。さらに、出版年の古い本を保存する集密書庫がある。環境デザイン学部は、アパレル・ファッション分野、プロダクトインテリア分野、建築・住環境デザイン分野、総合デザイン分野に関わる幅広いデザインスキルと思考力を養う点から、これらの分野に関する基本的図書 1 千冊を完成年度までに整備する（令和 5 年（2023 年）度から令和 9 年（2027 年)度まで各年 200 冊)。外国語図書についても既存資料の活用の他今後は紙資料ではなく、最新の図書 20 万冊が入替・追加されながら提供されるサブスクリプション型の電子書籍サービス（候補：ProQuest eBook Central、EBSCO eBooks 等）を年間購読し提供していく予定である。

３）学術雑誌、データベース、電子ジャーナル等の整備計画

環境デザイン学部は、既存の生活科学部生活環境学科を発展的に独立するものであり、主な教育研究分野は既存学科を踏襲するため、これまでの蓄積並びに現行の学術雑誌の導入方法を継承することとする。外国語雑誌については、単独誌を所有するのではなく、エルゼビア社、ネイチャー社、主要出版社の雑誌については論文単位で購読可能なチケット制を導入し、さらにアグリゲータ 3 社（ProQuest、EBSCO、Gale）が提供する万単位の雑誌コンテンツを収録するデータベースを年間購読し対応する。【資料 11】「主な学術洋雑誌（環境デザイン関係)」

４）図書館の閲覧室、閲覧隻数

日野キャンパス図書館は、閲覧座席数は、343 席（PC ルーム、グループ学習室を含む。）である。PC ルームにはパソコンが 30 台設置されており、プレゼンテーション等にも利用できる。グループ学習室には、テーブル付の可動式椅子を 20 脚設置し、図書館資料を用いてのグループ学習を可能としている。

５）他の大学との協力

本学図書館では、近隣の明星大学をはじめとして複数の大学と相互利用協定を締結して、相互の蔵書を利用することができるとともに、渋谷キャンパスの近隣大学との協定を締結しており、渋谷 4 大学図書館協定では、國學院大學、青山学院大学、聖心女子大学と連携協定を締結し、また同様に渋谷地区の、清泉女子大学と相互利用協定を締結して、相互の蔵書を利用できる。

第 13　管理運営

本学では、各学部教授会の他、各学部教授会構成員全員からなる全学教授会を設置しており、それぞれの役割を実践女子大学教授会規程及び実践女子大学環境デザイン学部教授会運営内規で定めている。

１．環境デザイン学部教授会

１）構成員 環境デザイン学部に所属する教授、准教授、専任講師及び助教。教授会が必要と認めたときは、構成員以外の教職員を出席させることができる。

２）開催日 原則として毎月第２木曜日（夏期休業期間を除く毎月）

３）審議事項 実践女子大学教授会規程において、学部教授会は次の事項を審議し、学長に意見を述べると規定されている。

(1)　学部長の選任に関する事項
(2)　学則に関する事項
(3)　教授、准教授、講師、助教の任免、昇任、代講等異動に関する事項
(4)　学科・課程等の授業科目編成に関する事項
(5)　学生の入学及び卒業に関する事項
(6)　学位の授与に関する事項
(7)　学生の身分に関する事項
(8)　学生の賞罰に関する事項
(9)　その他学長が定めた重要な事項

【資料 12】「実践女子大学教授会規程」
【資料 13】「実践女子大学環境デザイン学部教授会運営内規（案）」

２．全学教授会

１）構成員 学部の全専任教授。必要ある場合は、准教授、専任講師、助教及びその他の職員を加えることができる。

２）開催日 年間３回～4 回程度（年度初め、年度末、その他重要事項審議時）

３）審議事項 全学教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べることができる。

(1) 学長の候補者に関する事項
(2) 学則の制定に関する事項
(3) 教育研究に関する事項
(4) 学科・教育研究の施設に関する事項
(5) その他学長が必要と認める事項

【資料 12】「実践女子大学教授会規程」

３．大学協議会

本学の教学関係管理・運営に関する事項を審議し、学長が教学の重要事項を決定するに当たり、教授会等の意見を聴き、十分に協議を行うために実践女子大学協議会を置く。

１）構成員 学長、副学長、各学部長、各研究科委員長、大学教育研究センター長、学生総合支援センター長、教学事務局長、学長室部長、学生総合支援センター副センター長、国際交流推進部長、研究推進室部長、その他学長が必要と認めた者

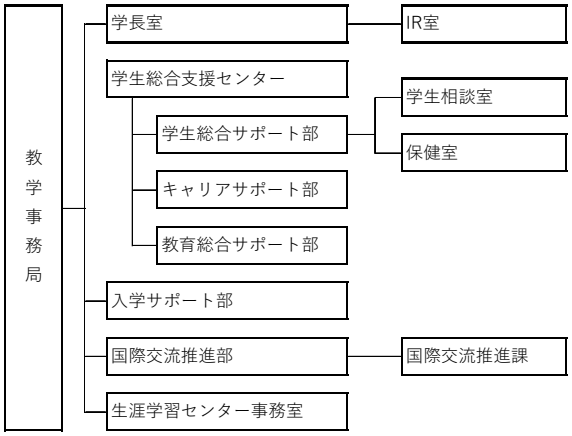
２）開催日 原則、毎週水曜日
３）審議事項
(1)理事会付議事項である学部・学科・研究科・専攻の設置及び廃止並びに定員に関する事項
(2)理事会付議事項である学則の改廃に関する事項
(3)常任理事会付議事項である教学関係規程の制定及び改廃に関する事項
(4)教員人事計画及び教員の採用・昇任に関する事項
(5)学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(6)奨学金に関する事項
(7)授業の内容及び授業方法の改善と向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
(8)教育研究活動等の効果的な運営のための、教職員の能力及び資質の向上を目的としたスタッフ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
(9)前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、学長が予め教授会等の意見を聴取することが必要と認めた事項
(10)第 1 号から第 8 号に掲げるもののほか、教授会等が審議し学長に提出された意見のうち、学長が審議が必要と認めた事項
４）決定 学長は、大学協議会で審議された事項を参酌し、決定する。
【資料 14】「実践女子大学協議会規程」

４．その他委員会

学生の教育、学生支援に関する重要事項を決定するために、教授会のほかに下記委員会等を置く。
・大学教育研究センター委員会
・学生生活支援委員会
・入試対策委員会
・言語文化教育研究センター運営委員会
・図書委員会
・自己点検・評価委員会

５．教学事務組織

教学事務組織は、学長室、学生総合支援センター、入学サポート部、国際交流推進部、生涯学習センター事務室からなる。
学生総合支援センターは、学生総合サポート部、キャリアサポート部及び教育総合サポート部を統治する。
［事務組織図］



第 14　自己点検・評価

自己点検・評価については、大学学則第 2 条に、「本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。」、さらに第 2 条第 2 項にて「前項の点検、評価の方法等については、別に定める。」と規定し、「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」を定めている。また、自己点検及び評価を行った結果を、教育研究の水準の向上に向けた指標の作成や達成状況、改善に向けて取り組む。【資料 15】「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」

実践女子大学自己点検・評価に関する規程で、自己点検・評価の組織として大学自己点検・評価委員会を置くとともに、本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保するために、学外有識によって組織する外部評価・助言委員会を置く。

１．実施体制

１）大学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価全体を統括し、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)自己点検・評価の基本方針及び実施要領の策定に関する事項

(2)自己点検・評価の実施に関する事項

(3)各学部及び大学院各研究科等の自己点検・評価委員会（以下「部門会議」という。）への連絡、調整に関する事項

(4)各部門会議の自己点検・評価結果の総括及び大学全体の自己点検・評価報告書の作成に関する事項

(5)前号に基づく実践女子学園自己点検・評価委員会（以下「学園自己点検・評価委員会」という。）及び大学協議会への報告

(6)その他本学の自己点検・評価に関する事項

２）各学部自己点検・評価委員会（部門会議）

部門会議の構成は、次のとおりとする。なお、環境デザイン学部設置後は、環境デザイン学部自己点検・評価委員会を設ける。
(1)文学部自己点検・評価委員会
(2)生活科学部自己点検・評価委員会
(3)人間社会学部自己点検・評価委員会
(4)国際学部自己点検・評価委員会
(5)大学院文学研究科自己点検・評価委員会
(6)大学院生活科学研究科自己点検・評価委員会
(7)大学院人間社会研究科自己点検・評価委員会
また、部門会議は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)各学部（課程・研究所を含む。以下同じ）及び各研究科等の自己点検・評価の実施
(2)自己点検・評価結果の報告書の作成及び大学自己点検・評価運営委員会への提出
(3)自己点検・評価結果に基づく検証及び活用
(4)その他各学部及び各研究科等の自己点検・評価の実施に関すること

３）外部評価・助言委員会

本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させることを目的として実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会を置く。

外部評価・助言委員会は、本学の教育・研究活動等の現状を把握し、将来の発展のために、次の事項について、評価・助言を行う。
(1)本学の教育活動に関する事項
(2)本学の研究活動に関する事項
(3)本学の社会貢献活動に関する事項
(4)その他学長から諮問された事項

【資料 16】「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程」

２．自己点検・評価方法

各学部自己点検評価委員会は、大学自己点検評価委員会の定める方針に基づき、毎年自己点検・評価を行う。
①点検・評価項目ごとの現状説明（新たな取組の有無、継続している取組の成果などを含む。）
②評価が上がっている事項
③改善すべき事項
④達成目標、目標達成の指標及び進捗状況

各学部自己点検評価委員会の評価内容を大学自己点検評価委員会が確認するとともに、外部評価助言委員会の報告し、評価・助言を得、大学の教育研究水準の向上に活用する。

３．認証評価

本学がこれまで実施してきた自己点検・評価に関する報告書の公表実績は次のとおりである。

・平成 18 年（2006 年）度　財団法人大学基準協会　相互評価
・平成 25 年（2013 年）度　公益財団法人大学基準協会　大学評価（認証評価）
・令和 2 年（2020 年）度　公益財団法人大学基準協会　大学評価（認証評価）

令和 2 年の大学評価の評価結果は、「適合」判定で、提言として長所が 2 点、改善課題が 5 点が付され、是正勧告はなかった。

主な長所は、「J-TAS」による学生支援の取組、教育研究等の機会を広く提供し、広範な研究成果につながる取組であった。

改善課題としては、教育課程の編成・実施方針に教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていない、学習成果の把握・評価が多角的かつ適切な実施、人間社会学部の入学者数比率が高い、大学院の定員管理を徹底する、大学院の FD を適切に実施することが提示された。

第 15　情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条，学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動の基本情報について、本学ウェブサイト上の「情報公表」に取りまとめ、公表するとともに、それぞれ必要な情報を Web に公開している。

ア 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

大学の教育研究上の目的は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞実践女子大学の教育研究上の目的　に掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html

大学の建学の精神並びに教育の理念に関しては、大学案内>建学の精神と教育理念　に掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/spirit/index.html

また、大学全体の 3 つの方針については、大学案内>3 つの方針　に掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/policy/index.html

各学部学科の 3 つの方針は、それぞれの学部の HP の「3 つの方針（ポリシー）」の下に各学科の方針にリンクが貼られている。

イ 教育研究上の基本組織に関すること

基本組織は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞設置学校・学部・学科・大学院研究科等［PDF］ に掲載している。

ウ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員組織に関しては、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞教員組織および教員の学位（実践女子大学）［PDF］ に掲載している。

また教員の業績については、教員組織に関しては、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞研究者情報データベース（実践女子大学・実践女子大学短期大学部）からアクセスできる。

http://gyoseki.jissen.ac.jp/search/index.html

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学の 3 つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）のもとに、各学部学科の入学方針を掲載している。

収容定員及び在学する学生の数は、大学案内＞学生・生徒の在籍状況、収容定員充足率、社会人学生数教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）に掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/data/index.html

卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関することは、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（2）学生に関する情報＞卒業者数、学位授与数に各年度の卒業生数、学位授与数を掲載している。

進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関することは、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（2）学生に関する情報＞進路データに掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/career/data/index.html

オ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関することは、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学、大学院及び短期大学部で開設している科目のシラバス（教育内容・方法、授業計画、成績評価方法等を含む。）＞科目一覧及び講義概要（シラバス）からそれぞれ科目区分、学部学科の授業科目について閲覧することができる。

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること　に掲載している。

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞施設案内からアクセスすることができる。

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞学費・奨学金からアクセスすることができる。

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生支援に関することは、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（2）学生に関する情報＞学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援から学習サポート、就職・キャリア、身体とこころのサポートにアクセスすることができる。

コ 学位論文に係る評価に当たっての基準

学位論文に係る評価に当たっての基準は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学院研究科の３つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）＞審査基準からアクセスすることができる。

サ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果 等）

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学、短期大学部の教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報に掲載している。

・学則等各種規程は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞(1) 教育研究体制＞に学則及び学位に関する規程を掲載する。また、その他の規程等は、学園例規集として、掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/reiki/

設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書は、情報公表＞１学園の基本情報＞設置認可申請書・設置届出書・履行状況報告書として掲載している。

自己点検・評価報告書，認証評価の結果は、情報公表＞7．自己点検・評価及び外部評価に

関する情報＞大学評価　のもとに掲載している。
https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

第 16　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、大学教育研究センターを設置し、全学の教育に係る諸施策の立案及びその推進を図り、共通教育の企画・運営を行っており、合わせて、当センターが本学の教育内容及び授業方法等の改善と向上を目的として、大学協議会の方針に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を推進する。（大学教育研究センター規程　第 2 条）

人材育成の目標と取組を次のように毎年度定め、計画的に FD・SD を実施する。

１．ＦＤ

①社会で活躍できる基礎力をもち、社会を変革していくチャレンジ精神を持った学生の育成を目指し、授業方法や授業内容の改善のための取組みを進める。
②授業アンケートを実施し、授業内容等を点検し学生へのフィードバックを行う。
③本学のアセスメント・ポリシーを踏まえ、適正な成績評価が行われているか検証し、あるべき評価方法について検討する取組みを進める。

２．ＳＤ

①中期計画に掲げる学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に基づき、今後のキャリア形成についての施策について教職員で共有し、取り組みを促進する。また、悩みを抱えている学生からの相談応対等、多様な学生の支援を充実させる。
②科研費等の外部資金獲得のための取組みを進める共に、研究の信頼性・公正性を担保するためのコンプライアンス・研究倫理に関する取組みを進める。
③本学の内部質保証の一層の推進を図る（第 3 期認証評価結果の指摘に関する改善と点検・評価）。また、教育プロジェクトの成果報告により、新たな取組を共有して教育全体の質向上をはかる。
④本学での社会連携について、現状を報告するとともに、具体事例を紹介し、連携を促進する。
⑤大短・中高の教職員が交流する機会を設定することにより、中高大短の交流機会を拡大し、高大連携を活性化する。
⑥その他、情報セキュリティの向上等の取り組みを進める。

上記を踏まえ、具体的には次のような取組を行う。

・授業改善：学生の主体的な学びの促進【FD①③：ＦＤワーキンググループ】（対象：全教員、関係職員）
・授業アンケート【FD②：大学教育研究センター、短期大学部運営委員会、教務課】（対象：授業担当教員）
・キャリア形成支援【SD①：学生総合支援センター】（対象：全教職員）

・多様な学生支援【SD①：学生総合支援センター】（対象：全教職員）
・研究費マニュアル説明会【SD②：研究推進室】（対象：新任教員・研究者および希望者）
・教員業績システム説明会【SD②：研究推進室】（対象：新任教員および希望者）
・科研費申請に関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教員・研究員）
・コンプライアンスに関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教職員・研究員）
・知的財産権に関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教職員）
・内部質保証の推進（改善と点検・評価について）【SD③：学長室】
（対象：学部長・学科課程主任、センター長および事務部門の管理職）
・教育プロジェクト報告会【SD③：学長室】（対象：全教職員）
・社会連携【SD④：社会連携推進室】（対象：全教職員）
・高大連携【SD⑤：学長室・中高総務部】（対象：全教職員 ※中高教員含む）
・情報セキュリティ（情報漏えいリスク等）【SD⑥：情報センター】（対象：全教職員）

第 17　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１．教育課程内の取組

本学の教育課程は、学部学科の所属に関わらず全学学生が履修する共通教育科目と、各学部学科の専門教育科目からなる。
本学共通教育科目は、「実践スタンダード科目」「実践アドバンスト科目」「教養教育科目」からなり、社会的・職業的自立を図るための授業科目として、「実践スタンダード科目」に置く「実践キャリアプランニング」を全学生が 1 年次に履修する必修科目としており、授業科目の内容は、次のとおりである。

これまでの社会を形成してきた、女性を取り巻く環境の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、これからの時代における仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていく。大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの大きなライフイベントにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければならない。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていく。

また、「実践アドバンスト科目」には選択科目として「キャリアデザイン」「グローバル・キャリアデザイン」「短期インターンシップ」「長期インターンシップ」「ビジネスのスキルとマナー」「国際理解とキャリア形成」「女性とキャリア形成」「キャリア・ショーケース」「ライフデザイン」「実践企業分析論」「実践企業分析論演習」を配置している。さらに、海外インターンシップを奨励することから、「海外短期インターンシップ」「海外長期インターンシップ」の科目を配置している。

これらの授業科目の運営には、文学部国文学科及び英文学科に所属するキャリア教育を

専門とする教員と、大学教育研究センターの特別任用教員1名が中心となっている。

環境デザイン学部の専門教育科目には、キャリア教育に関する授業科目は設置していないが、「アパレル・ファッション」「プロダクト・インテリア」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」の各科目群における概論的授業科目において、それぞれの分野の学修が社会とどのように関連をもち、各分野で活躍できる人材について講義を行うことにより、大学での学びと社会における関係を教授できるようにする。

２．教育課程外の取組

本学では、「学生の自信を高め、成長を実感できる支援の実現」するために、J-TAS（Jissen Total Advanced Support）を導入し、入学前から卒業後まで、学生一人ひとりの個性を大切にした個別支援体制を構築している。

１）学生の成長支援

〇学生が主体となって行動・経験する「アクション総量を増やす」

J-TASの特徴の一つとして、全学を挙げて学生の実践的な成長機会の提供を行っている。これら正課内外の活動に学生が主体的に参加することで、特に低学年からのアクション総量を増やすことを目指している。

本学のこれまでに次のようなプロジェクトを用意し、学生の参画を促してきた。

●まちの居場所研究所
●東京2020オリンピック・パラリンピックプロジェクト
●実践女子大学の学生が選んだ本
●「日野レッドドルフィンズ」サポーターマスコットの企画
●公益財団法人日本相撲協会公式グッズデザイン開発
●空港インターンシップ（科目外）
●最先端プリンタを活用した創発事業の開発
●多世代交流かるたプロジェクト
●高大連携プログラムの開発
●近隣小学校英語レッスン
●栄養相談ボランティア
●J-ミッション
●J-STAFF
●渋谷のラジオ出演
●顧客視点を取り入れた「観光・レジャー施設」の改善策
●国連大学研修生と市民交流
●コロナ禍の化粧品開発

〇行動を振り返り次につなげる「リフレクションと教職員のフィードバック」
J-TAS の 2 つ目の特徴として行動・経験したことを、自分の履修やライフプランに落とし込むための、リフレクション（振り返り）を重視している。自分自身の目標に照らして行動できたか、次の課題・目標は何か、今回成長したポイントは何かなど、自分自身の行動や経験から得られた「成長実感」をアウトプット（言語化）することを支援している。各学生のリフレクションに対して、教職員によるフィードバックを行っている。

２）低学年からのキャリア志向

成長診断テスト（PROG テスト）の実施
自分の強み、弱みなどを客観的に知るために、成長診断テストで社会から求められるジェネリックスキルを定期的に測定し、自身の今を確かめ、これから必要な力を理解する。

３）社会連携活動

社会の様々な問題を解決するための取り組みを学生とともに行っている。大学の所在地である渋谷区や日野市と連携した地域活性化を図る活動や自治体との連携による研究、企業との連携による新商品開発など、実社会で学びを発展させる活動を実施している。
例）東京都日野市、東京都渋谷区、岐阜県恵那市、岩手県久慈市、京都府京都市、富士ゼロックス株式会社、株式会社東京サマーランド、公益財団法人日本相撲協会

４）学科別就職ガイダンス

大学 3 年生を対象とした、全員参加型の学科別就職ガイダンスを実施している。学部・学科の特性に応じた就職活動の進め方をレクチャーし、より効果的かつ効率的な就職活動ができるようサポートを行っている。

５）OG 懇談会

在学生を対象に、卒業生を学内に招き「OG 懇談会」を開催している。卒業生の就職活動の経験談、現在の仕事のやりがい、働くことで得た価値観などの話を通じ、仕事や社会についての理解を深めている。

６）就職支援講座

キャリアサポート部では、就職支援として様々な講座を企画し、実施している。
進路を考える
・仕事体験講座
・一日企業見学会
・学科別就職ガイダンス
・自己分析講座

仕事を考える
・良い企業の見分け方
・OG 懇談会
就職を考える
・就職ガイダンス（全 5 回）
・筆記試験対策
・マナー講座
・履歴書・エントリーシート対策
・面接対策講座
・学内企業セミナー
・業界研究講座
・オリエンテーション
・個別相談
・学内企業セミナー
・フォローアップ講座
・ハローワーク求人紹介会
・求人紹介会
・学内選考会

７）UIJ ターン就職へのサポート

本学では地方出身者も多く在学し、UIJ ターン就職を希望する学生も数多くおり、また地方都市では、首都圏の大学を卒業して地元で就職する学生へのニーズが存在している。本学ではそのような地方自治体と協定を結び、就職を希望する学生の活動を支援している。

現在、就職包括協定を締結している自治体等は次のとおりである。
山梨県、群馬県、長野県、新潟県、栃木県、福島県、札幌市、福岡県、愛知県、静岡県
サポート内容は、地方の企業が参加する、学内での合同就職面接会の開催や、面接時の交通費・宿泊費の補助などがあります。

３．適切な体制の整備

学生の社会的・職業的自立を図るため、以下の取組を行っている。

１）学内にキャリア教育を主とする専任教員の配置

キャリア教育担当教員として、文学部に 2 名（国文学科 1 名、英文学科 1 名）の専任教員を配置するとともに、特別任用教員として大学教育研究センターにキャリア教育担当として 1 名を配置している。キャリア教育担当教員（文学部 2 名、大学教育研究センター1 名）は、全学の共通教育科目のキャリア教育科目の編成、実施に係るものであり、国際学部のキャリア教育も担当する。

２）大学教育研究センター

大学全体の教育課程の編成や授業方法等を審議する大学教育研究センターのもとに、全学共通教育科目のカリキュラム、担当教員等を協議する共通教育ワーキングを設置している。共通教育ワーキングには、キャリア教育を担当する専任教員も構成員となり、科目構成、授業内容等を検討している。

３）学生総合サポート部、キャリアサポート部、教育総合サポート部

大学の事務組織に学生総合サポート部、キャリアサポート部及び教育総合サポート部を置き、教育課程の編成は教育総合サポート部、学生のキャリア支援はキャリアサポート部が担当し、相互に連携をとり、学生の指導に当たっている。

設置の趣旨等を記載した書類　資料

目次

資料１	「環境デザイン学部環境デザイン学科カリキュラムマップ」	P. 2
資料２	「環境デザイン学科　カリキュラムツリー」	P. 7
資料３	「履修モデル：アパレル・ファッション系」	P. 8
資料４	「履修モデル：プロダクト・インテリア系」	P. 9
資料５	「履修モデル：建築・住環境デザイン系」	P. 10
資料６	「履修モデル：総合デザイン系」	P. 11
資料７	「履修モデル：教職（家庭)」	P. 12
資料８	「教育実習受入れ承諾書」	P. 13
資料９	「実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育職員就業規則（抜粋)」	P. 14
資料 10	「環境デザイン学部環境デザイン学科　授業時間割（2028 年)」	P. 15
資料 11	「主な学術洋雑誌（環境デザイン関係)」	P. 22
資料 12	「実践女子大学教授会規程」	P. 26
資料 13	「実践女子大学環境デザイン学部教授会運営内規（案)」	P. 28
資料 14	「実践女子大学協議会規程」	P. 30
資料 15	「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」	P. 33
資料 16	「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程」	P. 36

資料1

環境デザイン学部　環境デザイン学科　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー

環境デザイン学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、ファッション、プロダクト、建築、コミュニティ等の分野において深い専門性と幅広いデザインスキルを身につけ、社会課題などに応用することができる力を得て、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学）」の学位を授与します。
環境デザイン学科では、全学ディプロマ・ポリシー及び環境デザイン学部ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の態度及び能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（環境デザイン学）」の学位を授与します。

【国際的視野】多様性を受容し、俯瞰的な視点で行動する態度
①国内外のデザイン事例を通して、美に対する多様性や共通性を認め、感性を磨く態度。
②学内外での活動の中から、多様なものの見方を取り入れ、俯瞰的な視点で物事をとらえる態度。
③自身の考えをデザインして、世界や社会に対して発信しようとする態度。

【美の探求】知を求め、心の美を育む態度
①学修を通して知性を磨き、感性を高める態度。
②知的な関心を持ち、探究することによって、美を見出し、新たな知を創造（デザイン）する態度。

【研鑽力】学修により得た知識、技能を社会に役立て、かつ、自己成長する力
①修得した知識や技術、デザインスキルを実践の場で応用することができる。
②アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなど生活環境に関する諸問題や社会課題を見出し、多様なデザインスキルを活かして解決することができる。
③デザインに関わる多様な学修を通して、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。
④学ぶ楽しさを知り、生涯にわたり知を求め、学び続けることができる。

【行動力】問題解決のために主体的に行動する能力
①現状を正しく把握し、課題を発見できる。
②目標を設定して、計画立案、具体的な解決方法をデザインし実行ができる。
③様々なデザインスキルを統合し、問題や課題を主体的な行動により解決できる。

【協働力】相手を活かして自らの役割を果たす能力
①相手の意見を公正に判断し、取り入れることができる。
②自己や他者の役割を理解して、お互いに協力して行動することができる。
③多様な価値観を理解し、幅広い視野から協働的・共創的に課題を解決することができる。
④お互いを尊重し、信頼関係を築き、豊かな人間関係を構築することができる。

科目区分			授業科目名	主要授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 （◎＝特に重視するもの ○＝重視するもの）					備考
								態度		能力			
								国際的視	美の探究	研鑽力	行動力	協働力	
	実践スタンダード科目		実践入門セミナー	○	2	1	必修			○	○	○	
			実践キャリアプランニング		2	2	必修		○	○		○	
			Integrated English a		1	1	必修	○			○		
			Integrated English b		1	1	必修	○			○		
			データサイエンス入門		1	1	必修	○		○	◎		
			情報リテラシー基礎		1	1	必修	○		○	◎		
	実践アドバンスト科目	キャリア教育科目	キャリアデザイン		2	3	選択			○	○	○	
			グローバル・キャリアデザイン		2	3	選択	◎		○		○	
			短期インターンシップ		1	3	選択			○	○	○	
			長期インターンシップ		2	3	選択			○	○	○	
			キャリア開発実践論		2	3	選択			○	○	○	
			ビジネスのスキルとマナー		2	3	選択		○	○	○		
			国際理解とキャリア形成		2	2	選択	◎		○		○	
			女性とキャリア形成		2	2	選択			○	◎	○	
			キャリア・ショーケース		2	2	選択		○	○		○	
			ライフデザイン		2	3	選択			○	○		
			実践企業分析論		2	2	選択			◎	○		
			実践企業分析論演習		2	2	選択			○		○	
		外国語教育科目	Effective Writing		1	1	選択	○			○		
			Effective Speaking		1	1	選択	○			○		
			Active Reading		1	1	選択	○			○		
			Active Listening		1	1	選択	○			○		
			CEFR BI		1	1	選択	○			○		
			Global Studies a		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies b		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies c		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies d		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies e		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies f		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies g		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies h		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies i		2	1	選択	◎		○			
			Global Studies j		2	1	選択	◎		○			
			フランス語1a		1	1	選択	○			○		
			フランス語1b		1	1	選択	○			○		
			ドイツ語1a		1	1	選択	○			○		
			ドイツ語1b		1	1	選択	○			○		
			中国語1a		1	1	選択	○			○		
			中国語1b		1	1	選択	○			○		
			コリア語1a		1	1	選択	○			○		
			コリア語1b		1	1	選択	○			○		
			スペイン語1a		1	1	選択	○			○		
			スペイン語1b		1	1	選択	○			○		
			フランス語2a		1	2	選択	○			○		
			フランス語2b		1	2	選択	○			○		
			ドイツ語2a		1	2	選択	○			○		
			ドイツ語2b		1	2	選択	○			○		
			中国語2a		1	2	選択	○			○		
			中国語2b		1	2	選択	○			○		
			コリア語2a		1	2	選択	○			○		
			コリア語2b		1	2	選択	○			○		
			スペイン語2a		1	2	選択	○			○		
			スペイン語2b		1	2	選択	○			○		
共通教育科目			海外語学研修a		2	1	選択	◎			○		
			海外語学研修b		2	1	選択	◎			○		
			海外語学研修c		2	1	選択	◎			○		
			海外語学研修d		2	1	選択	◎			○		
			海外語学研修 e		1	1	選択	◎			○		
			海外語学研修 f		1	1	選択	◎			○		
			海外語学研修 g		1	1	選択	◎			○		
			海外語学研修 h		1	1	選択	◎			○		
			海外短期インターンシップ		1	1	選択	◎			○		
			海外長期インターンシップ		2	1	選択	◎			○		
		情報リテラシー科目	情報スキル基礎		1	1	選択	○		○	◎		
			情報リテラシー応用a		2	1	選択	○		○	◎		
			情報リテラシー応用b		2	1	選択	○		○	◎		
			情報リテラシー応用c		2	1	選択	○		○	◎		
			情報リテラシー応用d		2	1	選択	○		○	◎		
			情報リテラシー応用e		2	1	選択	○		○	◎		
		実践プロジェクト	実践プロジェクトa		2	1	選択	○			○	◎	
			実践プロジェクトb		2	2	選択	○			○	◎	
			実践プロジェクトc		2	2	選択	◎	○	○			
			ボランティアプロジェクトa		1	1	選択	○			○	◎	

科目区分		授業科目名	主要授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 （◎＝特に重視するもの ○＝重視するもの）					備考
							態度		能力			
							国際的視	美の探究	研鑽力	行動力	協働力	
教養教育科目	科目	ボランティアプロジェクトb		1	1	選択	○			○	◎	
	ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門		2	1	選択	○		◎		○	
		女性の歴史		2	1	選択	○		◎		○	
		女性の健康		2	1	選択		○		○	◎	
		文学とジェンダー		2	1	選択		○	○			
		国際社会とジェンダー		2	1	選択	◎		○		○	
		女性教育とジェンダー		2	1	選択			○		○	
		ジェンダーと心理		2	1	選択		◎	○		○	
	人間を究める	哲学入門		2	1	選択	○	◎	○			
		現代の思想		2	1	選択	○	◎	○			
		言語学入門		2	1	選択	○	◎	○			
		倫理学入門		2	1	選択	○	◎	○			
		生命と環境の倫理		2	1	選択	○	◎	○			
		社会思想入門		2	1	選択	○	◎	○			
		東洋思想入門		2	1	選択	○	◎	○			
		世界の宗教		2	1	選択	○	◎	○			
		日本の古典文学		2	1	選択	○	○	○			
		日本の近現代文学		2	1	選択	○	○	○			
		西洋の文学		2	1	選択	○	○	○			
		児童文学入門		2	1	選択		○	○			
		文化人類学入門		2	1	選択	○	○	○			
		美術の世界		2	1	選択	○	○	○			
		音楽の世界		2	1	選択	○	○	○			
		映像文化論		2	1	選択	○		○			
		日本の伝統文化		2	1	選択	◎		○			
		心理学入門		2	1	選択	○	○				
		人間関係の心理学		2	1	選択	○	○				
		心の健康		2	1	選択			○	○		
		日本のポップカルチャー		2	1	選択	○	○	○			
		ファッションの世界		2	1	選択	○	○	○			
		世界のファンタジー		2	1	選択	○	○	○			
	社会を捉える	地域研究a		2	1	選択	○		○			
		地域研究b		2	1	選択	○		○			
		食文化論		2	1	選択	◎	○	○			
		衣文化論		2	1	選択	◎	○				
		生活とデザイン		2	1	選択	○	◎				
		社会とデザイン		2	1	選択	○	◎		○		
		メディア論		2	1	選択			○	○		
		サブカルチャー論		2	1	選択	○		○			
		教育学		2	1	選択	○		○			
		日本国憲法		2	1	選択			○	◎		
		法学入門		2	1	選択			○	◎		
		日本の政治		2	1	選択	○			◎		
		国際政治の基礎		2	1	選択	○			◎		
		日本の経済		2	1	選択	○	○				
		国際経済の基礎		2	1	選択	◎	○		○		
		日本史		2	1	選択	◎			○		
		西洋史		2	1	選択	◎			○		
		東洋史		2	1	選択	◎			○		
		地理学		2	1	選択	◎			○		
		社会学入門		2	1	選択		○	○			
		社会保障論		2	1	選択	○		○			
		日常生活と法		2	1	選択	○		○			
		金融リテラシー入門		2	1	選択	◎			○		
	自然と環境を探る	数学的思考		2	1	選択		○	○			
		統計的思考		2	1	選択			○	○		
		くらしの化学		2	1	選択		○		○		
		くらしの人間工学		2	1	選択			○	○		
		生活環境の科学		2	1	選択			○			
		生命の科学		2	1	選択		○				
		身体の科学		2	1	選択		○				
		宇宙の科学		2	1	選択		◎				
		地球と環境の科学		2	1	選択	○	○				
		科学技術と人間		2	1	選択	○	○				
		農業と食料		2	1	選択	○	○				
		バイオの世界		2	1	選択	○	○	○			
		防災の科学		2	1	選択		○	○	○		
	健康な体を創	身体運動の科学a		2	1	選択			○	○		
		身体運動の科学b		2	1	選択			○	○		
		スポーツ文化論		2	1	選択	○		○			
		健康運動実習a		1	1	選択			◎		○	
		健康運動実習b		1	1	選択			◎		○	
		基礎スポーツ実習a		1	1	選択			◎		○	

科目区分		授業科目名	主要授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 （◎＝特に重視するもの ○＝重視するもの）					備考
							態度		能力			
							国際的視	美の探究	研鑽力	行動力	協働力	
	る	基礎スポーツ実習b		1	1	選択			◎		○	
		基礎スポーツ実習c		1	1	選択			◎		○	
		基礎スポーツ実習d		1	1	選択			◎		○	
		健康体力科学演習		1	1	選択			○		○	
		ヘルスプロモーション実践実習a		1	1	選択			○		○	
		ヘルスプロモーション実践実習b		1	1	選択			○		○	
		アダプテットスポーツ		1	1	選択			○		○	
		スポーツ応用科学実習		1	1	選択			○		○	
	知を拓く	実践教養講座a		2	2	選択						
		実践教養講座b		2	1	選択						
		実践教養講座c		2	1	選択						
		実践教養講座d		2	1	選択						
		実践教養講座e		2	1	選択						
		実践教養講座f		2	1	選択						
		実践教養講座g		2	1	選択						
		実践教養講座h		2	1	選択						
		実践教養講座i		2	1	選択						
		オープン講座a		2	1	選択						
		オープン講座b		2	1	選択						
		オープン講座c		2	1	選択						
		クォーターオープン講座a		1	1	選択						
		クォーターオープン講座b		1	1	選択						
		クォーターオープン講座c		1	1	選択						
専門教育科目	学科共通科目群	環境デザイン学入門	○	2	1	必修	○	◎	○			
		環境デザイン学演習	○	2	2	必修			○	○	○	
		環境デザイン学セミナー	○	2	3	必修			○	○	◎	
		卒業研究	○	6	4	必修			◎	○	○	
		基礎演習a		2	1	選択			◎			
		基礎演習b		2	1	選択			◎			
		基礎演習c		2	1	選択			◎			
		統計の基礎		2	1	選択			◎			
		デザイン基礎演習a		2	1	選択		○	◎			
		デザイン基礎演習b		2	1	選択		○	◎			
		色彩学		2	1	選択	○	○	◎			
		色彩設計演習a		2	2	選択		○	○	○		
		色彩設計演習b		2	2	選択		○	○	○		
		デザイン史		2	3	選択	◎	○	○			
		デザイン思考		2	2	選択			○	○	◎	
		マテリアル・デザイン		2	1	選択	○	○	◎			
		生活材料学		2	3	選択	○		◎	○		
		人体生理学		2	1	選択	○		◎			
		人体生理学実験		2	2	選択	○		○		◎	
		人間工学		2	2	選択	○		◎			
		人間工学実験		2	2	選択	○		○		◎	
		環境心理学		2	2	選択			◎	○		
	アパレル・ファッション科目群	繊維高分子材料学		2	1	選択			◎			
		繊維高分子材料実験		2	2	選択				◎	○	
		テキスタイル材料学		2	2	選択		○	◎			
		テキスタイル材料実験		2	3	選択				◎	○	
		機能材料学		2	3	選択			◎			
		テキスタイル管理学		2	2	選択			◎			
		テキスタイル管理実験		2	2	選択				◎	○	
		染色加工学		2	3	選択		○	◎			
		生活環境科学		2	3	選択			◎			
		被服衛生学		2	4	選択			◎	○		
		衣料管理実習		1	3	選択			○	◎	○	
		アパレル製作基礎演習		2	1	選択			○	◎		
		アパレル製作基礎		2	2	選択			◎			
		アパレル製作実習	○	2	2	選択						
		ファッションデザイン論	○	2	1	選択	◎	○	○			
		ファッションドローイング		2	1	選択		○	◎			
		ファッションデザイン演習1		2	3	選択		○	○	◎		
		ファッションデザイン演習2	○	2	3	選択	○	○		◎		
		立体裁断		2	2	選択			◎	○		
		アパレルCAD a		2	2	選択		○		◎		
		アパレルCAD b		2	3	選択		○		◎		
		伝統衣服実習		2	3	選択				◎	○	
		ファッションビジネスの世界		2	1	選択	○		○	◎		
		ファッションビジネス論		2	2	選択	○		◎			
		ファッションビジネス演習		2	4	選択	○		○	◎		
		ファッション文化論		2	3	選択	◎	○	○			
		アパレル生産		2	2	選択			◎	○		
		消費生活学		2	2	選択			◎	○		

科目区分		授業科目名	主要授業科目	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 （◎＝特に重視するもの ○＝重視するもの）					備考
							態度		能力			
							国際的視	美の探究	研鑽力	行動力	協働力	
		マーケティング論		2	3	選択			◎			
		マーケティングリサーチ		2	3	選択			○	◎	○	
		ファッション企画論		2	3	選択	○		◎	○		
		消費科学		2	4	選択			◎			
	プロダクト・インテリア科目群	プロダクトデザイン概論	○	2	1	選択	○	◎	○			
		基礎造形論		2	1	選択		○	◎	○		
		材料加工演習		2	1	選択			○	◎		
		プロダクトデザイン論	○	2	2	選択		○	○	◎		
		プロダクトデザイン演習a	○	2	2	選択		○	○	◎		
		プロダクトデザイン演習b	○	2	3	選択		○	◎	○		
		デザインマネジメントa		2	3	選択		○	◎		○	
		デザインマネジメントb		2	4	選択	○		◎			
		プロダクトCAD		2	3	選択		○	○	◎		
		ユニバーサルデザイン論		2	3	選択	○		◎			
		ビジュアルデザインa		2	2	選択		○	○	◎		
		ビジュアルデザインb		2	3	選択		○	○	◎		
		情報デザイン論		2	1	選択	○		◎	○		
		情報デザイン演習		2	2	選択	○		○	◎		
		感性科学		2	3	選択			○	○		
		ユーザーエクスペリエンス		2	3	選択		○	◎	○		
		インテリアデザイン論		2	2	選択		○	◎	○		
		インテリアデザイン演習		2	2	選択		○	○	◎		
		インテリアコーディネート論		2	3	選択		○	◎	○		
		インテリアコーディネート演習		2	3	選択		○	○	◎		
		光環境デザイン		2	3	選択		◎	○	○		
	建築・住環境デザイン科目群	建築概論	○	2	1	選択	○	◎	○			
		住居学		2	1	選択		○	◎	○		
		住居デザイン論		2	1	選択		○	◎	○		
		住環境デザイン論		2	2	選択	◎	○	○			
		福祉住環境論		2	2	選択	○		◎	○		
		生活空間計画		2	3	選択	○	○	◎			
		建築デザイン論		2	3	選択	◎	○	○			
		設計製図基礎	○	2	1	選択		○	○	◎		
		空間造形基礎		2	2	選択		○	○	◎		
		生活空間設計製図1	○	2	2	選択		○	○	◎		
		生活空間設計製図2	○	2	3	選択		○	○	◎		
		生活空間設計製図3		2	3	選択		○	○	◎		
		建築CAD		2	2	選択		○	○	◎		
		建築構造		2	1	選択			◎	○		
		建築・インテリア構法		2	2	選択		○	◎	○		
		建築施工		2	2	選択		○	◎	○		
		構法・構造演習		2	3	選択		○		◎	○	
		材料力学		2	3	選択			◎	○		
		生活環境工学		2	1	選択	○		◎	○		
		住環境・設備学		2	3	選択			◎	○		
		建築法規		2	4	選択			◎	○		
	総合デザイン科目群	コミュニティデザイン論a	○	2	2	選択			◎	○	○	
		コミュニティデザイン論b		2	3	選択			◎	○	○	
		環境デザインプロジェクトa	○	2	2	選択			○	○	◎	
		環境デザインプロジェクトb	○	2	2	選択			○	○	◎	
		ワークショップ演習		2	1	選択			○	○	◎	
		コミュニティデザイン演習	○	2	3	選択			○	◎	○	
		総合設計演習		2	4	選択		○		◎	○	
	オープン科目	環境デザイン特論a		2	1	選択		○		○	○	
		環境デザイン特論b		2	1	選択		○		○	○	
	関連科目群	調理学及び実習		2	3	選択				◎	○	
		栄養学		2	1	選択			○			
		食物学		2	3	選択			○			
		衣料学		2	2	選択		○	○			
		衣料学演習		2	2	選択				○		
		被服実習a		2	2	選択	○	○	○			
		被服実習b		2	2	選択	○	○		○		
		被服実習c		2	2	選択		○	◎			
		家庭経営学		2	1	選択				○		
		生活経済学		2	1	選択				○		
		家族関係学		2	3	選択			○	○	○	
		保育学		2	3	選択			○			
		育児学		2	3	選択				○		
		看護学		2	2	選択	○			○		

資料２

環境デザイン学科　カリキュラムツリー

DP3　＜研鑽力＞
生活環境に関わる知識・技能を学び、広い視野と洞察力、実践の場への応用力を身につける。

DP4　＜行動力＞
生活環境に関わる現状を把握し、課題を発見し、解決のための計画立案、実行する力を身につける。

DP5　＜協働力＞
生活環境に関わる問題解決のため、互いの意見と立場・役割を理解し、協力して行動する力を身につける。

DP1　＜国際的視野＞
学内外での活動の中から、多様なものの見方を取り入れ、俯瞰的な視点で物事をとらえる態度を身につける。

DP2　＜美の探求＞
生活環境に関わる美の感覚を研ぎ澄まし 、知性を磨き、美を理解し、美をはぐくむ態度を身につける。

卒　業　研　究

	デザイン基礎	アパレル・ファッション			プロダクト・インテリア			建築・住環境デザイン			総合デザイン
		材料・管理	設計・製作	企画・生産・流通	プロダクト	視覚・情報	インテリア	建築技術	計画・設計	協働・共創	
4年次					総合設計演習						
		被服衛生学		ファッションビジネス演習	デザインマネジメントb			建築法規			
				消費科学							
3年次		生活環境科学		ファッション企画論	プロダクトデザイン演習b				生活空間設計製図3		
		機能材料学	ファッションデザイン演習2	マーケティングリサーチ		ユーザーエクスペリエンス	インテリアコーディネート演習	住環境・設備学		コミュニティデザイン論b	
		衣料管理実習		マーケティング論	ユニバーサルデザイン論				建築デザイン論		
	デザイン史	染色加工学	ファッションデザイン演習1		プロダクトCAD	ビジュアルデザインb	光環境デザイン	構法・構造演習	生活空間設計製図2		
			アパレルCAD b	ファッション文化論						コミュニティデザイン演習	
	生活材料学	テキスタイル材料実験	伝統衣服実習		デザインマネジメントa	感性科学	インテリアコーディネート論	材料力学	生活空間計画		
2年次	デザイン思考	テキスタイル材料学	立体裁断	アパレル生産	プロダクトデザイン演習a	情報デザイン演習	インテリアデザイン演習	建築施工	生活空間設計製図1	コミュニティデザイン論a	
	人体生理学実験								建築CAD		
	人間工学実験	テキスタイル管理実験	アパレルCAD a						福祉住環境論		
	色彩設計演習a										
	色彩設計演習b	環境デザインプロジェクトa・b									
	環境心理学	テキスタイル管理学	アパレル製作基礎	消費生活学	プロダクトデザイン論	ビジュアルデザインa	インテリアデザイン論	建築・インテリア構法	空間造形基礎		
	人間工学	繊維高分子材料実験	アパレル製作実習	ファッションビジネス論					住環境デザイン論		
1年次	人体生理学		ファッションドローイング		材料加工演習				設計製図基礎		
	色彩学	繊維高分子材料学		ファッションビジネスの世界	基礎造形論			建築構造	住居デザイン論	ワークショップ演習	
			アパレル製作基礎演習								
	マテリアル・デザイン		ファッションデザイン論		プロダクトデザイン概論	情報デザイン論		生活環境工学	住居学		
									建築概論		

環境デザイン学セミナー

環境デザイン学演習

環境デザイン学入門

基礎学力　基礎演習a　基礎演習b　基礎演習c　デザイン基礎演習a　デザイン基礎演習b　統計の基礎　Integrated English　情報リテラシー基礎　データサイエンス入門　実践入門セミナー

資料3

履修モデル：アパレル・ファッション系

卒業後の進路：衣服・雑貨の企画・設計、展示・販売、消費者対応、品質管理

		実践スタンダート科目		共通教育科目		学科共通科目群		アパレル・ファッション科目群		プロダクト・インテリア科目群		建築・住環境デザイン科目群		総合デザイン科目群		関連科目群	
1年次	前期	実践入門セミナー	2	情報リテラシー応用c	2	環境デザイン学入門	2	ファッションデザイン論	2	プロダクトデザイン概	2						
		Integrated English a	1	実践教養講座e	2	マテリアル・デザイン	2										
		Integrated English b	1	日本の伝統文化	2	基礎演習b	2										
		情報リテラシー基礎	1														
	21		5		6		6		2		2		0		0		0
	後期	データサイエンス入門	1	衣文化論	2	デザイン基礎演習a	2	繊維高分子材料学	2								
						基礎演習c	2	アパレル製作基礎演習	2								
						色彩学	2	ファッションドローイング	2								
						人体生理学	2	ファッションビジネスの世界	2								
						統計の基礎	2										
	21		1		2		10		8		0		0		0		0
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	くらしの化学	2			繊維高分子材料実験	2					環境デザインプロジェクトb	2		
				統計的思考	2			テキスタイル管理学	2								
								アパレル製作基礎	2								
								アパレル製作実習	2								
								ファッションビジネス論	2								
								消費生活学	2								
	20		2		4		0		12		0		0		2		0
	後期			食文化論	2	環境デザイン学演習	2	テキスタイル材料学	2								
				心の健康	2	色彩設計演習b	2	テキスタイル管理実験	2								
						人体生理学実験	2	立体裁断	2								
								アパレルCAD a	2								
								アパレル生産	2								
	20		0		4		6		10		0		0		0		0
3年次	前期			女性と国際社会	2	環境デザイン学セミナー	2	テキスタイル材料実験	2	ビジュアルデザインb	2						
				キャリアデザイン	2			染色加工学	2								
								ファッションデザイン演習1	2								
								アパレルCAD b	2								
								伝統衣服実習	2								
								ファッション文化論	2								
	20		0		4		2		12		2		0		0		0
	後期			生命と環境の倫理	2	生活材料学	2	機能材料学	2								
								生活環境科学	2								
								ファッションデザイン演習2	2								
								マーケティング論	2								
								マーケティングリサー	2								
								ファッション企画論	2								
	16		0		2		2		12		0		0		0		0
4年次	前期					卒業研究	6	被服衛生学	2								
								ファッションビジネス演習	2								
								消費科学	2								
	12		0		0		6		6		0		0		0		0
	後期																
	0		0		0		0		0		0		0		0		0
	130		8		22		32		62		4		0		2		0

専門科目合計	100
必修	12
選択必修	32
選択	55

授業科目名 は、必修科目。　　授業科目名 は、選択必修科目。

資料4

履修モデル：プロダクト・インテリア系

卒業後の進路：家具・寝具、照明・設備メーカー、企画・設計、展示・販売

		実践スタンダート科目		共通教育科目		学科共通科目群		アパレル・ファッション科目群		プロダクト・インテリア科目群		建築・住環境デザイン科目群		総合デザイン科目群		関連科目群	
1年次	前期	実践入門セミナー	2	日本国憲法	2	環境デザイン学入門	2			プロダクトデザイン概論	2	住居学	2				
		Integrated English a	1	健康運動実習a	1	マテリアル・デザイン	2			情報デザイン論	2	生活環境工学	2				
		Integrated English b	1			基礎演習a	2										
		情報リテラシー基礎	1														
	22		5		3		6		0		4		4		0		0
	後期	データサイエンス入門	1	情報リテラシー応用b	2	デザイン基礎演習a	2			基礎造形論	2	住居デザイン論	2	ワークショップ演習	2		
				Business English	1	デザイン基礎演習b	2			材料加工演習	2	設計製図基礎	2				
						色彩学	2										
						人体生理学	2										
	22		1		3		8		0		4		4		2		0
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	映像文化論	2	人間工学	2	消費生活学	2	インテリアデザイン論	2			環境デザインプロジェクトb	2		
				倫理学入門	2			ファッションビジネス論	2	プロダクトデザイン論	2						
										ビジュアルデザインa	2						
	20		2		4		2		4		6		0		2		0
	後期			生活デザイン論	2	環境デザイン学演習	2			インテリアデザイン演習	2	福祉住環境論	2				
				農業と職業	2	デザイン思考	2			プロダクトデザイン演習a	2						
						色彩設計演習b	2			情報デザイン演習	2						
						人間工学実験	2										
	20		0		4		8		0		6		2		0		0
3年次	前期			キャリアデザイン	2	環境デザイン学セミナー	2			デザインマネジメントa	2						
				地球と環境の科学	2	デザイン史	2			プロダクトCAD	2						
										ビジュアルデザインb	2						
										感性科学	2						
										インテリアコーディネート論	2						
										光環境デザイン	2						
	20		0		4		4		0		12		0		0		0
	後期			ビジネスのスキルとマナー	2	生活材料学	2	マーケティング論	2	プロダクトデザイン演習b	2						
								マーケティングリサーチ	2	ユニバーサルデザイン論	2						
										インテリアコーディネート演習	2						
										ユーザーエクスペリエンス	2						
	16		0		2		2		4		8		0		0		0
4年次	前期					卒業研究	6			デザインマネジメントb	2			総合設計演習	2		
	10		0		0		6		0		2		0		2		0
	後期																
	0		0		0		0		0		0		0		0		0
	130		8		20		36		8		42		10		6		0

専門科目合計	102
必修	12
選択必修	36
選択	54

授業科目名 は、必修科目。　　授業科目名 は、選択必修科目。

資料5

履修モデル：建築・住環境デザイン系

卒業後の進路：建築・住宅の設計・施工・販売、不動産、建材、リフォーム

		実践スタンダート科目		共通教育科目		学科共通科目群		アパレル・ファッション科目群		プロダクト・インテリア科目群		建築・住環境デザイン科目群		総合デザイン科目群		関連科目群	
1年次	前期	実践入門セミナー	2	児童文学入門	2	環境デザイン学入門	2			プロダクトデザイン概論	2	建築概論	2				
		Integrated English a	1	実践教養講座g	2					情報デザイン論	2	住居学	2				
		Integrated English b	1									生活環境工学	2				
		情報リテラシー基礎	1														
	21		5		4		2		0		4		6		0		0
	後期	データサイエンス入門	1	情報リテラシー応用e	2	デザイン基礎演習a	2					住居デザイン論	2	ワークショップ演習	2		
				生活デザイン論	2	デザイン基礎演習b	2					設計製図基礎	2				
				メディア論	2	色彩学	2					建築構造	2				
	21		1		6		6		0		0		6		2		0
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	人間関係の心理学	2	環境心理学	2			インテリアデザイン論	2	住環境デザイン論	2	環境デザインプロジェクトa	2		
				生活環境の科学	2					プロダクトデザイン論	2	空間造形基礎	2				
										ビジュアルデザインa	2	建築・インテリア構法	2				
	22		2		4		2		0		6		6		2		0
	後期			科学技術と人間	2	環境デザイン学演習	2			インテリアデザイン演習	2	生活空間設計製図1	2	コミュニティデザイン論a	2		
						デザイン思考	2			情報デザイン演習	2	建築CAD	2				
						色彩設計演習a	2					建築施工	2				
												福祉住環境論	2				
	22		0		2		6		0		4		8		2		0
3年次	前期			女性と国際社会	2	環境デザイン学セミナー	2			光環境デザイン	2	生活空間計画	2	コミュニティデザイン演習	2		
						デザイン史	2			インテリアコーディネート論	2	生活空間設計製図2	2				
												構法・構造演習	2				
												材料力学	2				
	20		0		2		4		0		4		8		2		0
	後期			地域研究a	2	生活材料学	2	マーケティング論	2	インテリアコーディネート演習	2	建築デザイン論	2				
												生活空間設計製図3	2				
												住環境・設備学	2				
	14		0		2		2		2		2		6		0		0
4年次	前期					卒業研究	6					建築法規	2	総合設計演習	2		
	10		0		0		6		0		0		2		2		0
	後期																
	0		0		0		0		0		0		0		0		0
	130		8		20		28		2		20		42		10		0

専門科目合計	102
必修	12
選択必修	36
選択	54

授業科目名 は、必修科目。　　授業科目名 は、選択必修科目。

資料6

履修モデル：総合デザイン系

卒業後の進路：地方公共団体、公益法人、都市コンサルタント、コミュニティビジネス

		実践スタンダート科目		共通教育科目		学科共通科目群		アパレル・ファッション科目群		プロダクト・インテリア科目群		建築・住環境デザイン科目群		総合デザイン科目群		関連科目群	
1年次	前期	実践入門セミナー	2	情報リテラシー応用a	2	環境デザイン学入門	2	ファッションデザイン論	2	プロダクトデザイン概論	2	建築概論	2				
		Integrated English a	1			マテリアル・デザイン	2			情報デザイン論	2	住居学	2				
		Integrated English b	1														
		情報リテラシー基礎	1														
	21		5		2		4		2		4		4		0		0
	後期	データサイエンス入門	1	日本国憲法	2	デザイン基礎演習a	2	ファッションドローイング	2			住居デザイン論	2	ワークショップ演習	2		
				生活環境の科学	2	デザイン基礎演習b	2	ファッションビジネスの世界	2			設計製図基礎	2				
						色彩学	2										
	21		1		4		6		4		0		4		2		0
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	美術の世界	2	環境心理学	2	消費生活学	2	インテリアデザイン論	2	住環境デザイン論	2	環境デザインプロジェクトa	2		
										プロダクトデザイン論	2	空間造形基礎	2	環境デザインプロジェクトb	2		
										ビジュアルデザインa	2						
	22		2		2		2		2		6		4		4		0
	後期			心理学入門	2	環境デザイン学演習	2			インテリアデザイン演習	2	生活空間設計製図1	2	コミュニティデザイン論a	2		
				ジェンダー論入門	2	デザイン思考	2			プロダクトデザイン演習a	2	建築CAD	2				
						色彩設計演習a	2			情報デザイン演習	2						
	22		0		4		6		0		6		4		2		0
3年次	前期			実践教養講座d	2	環境デザイン学セミナー	2			光環境デザイン	2	生活空間計画	2	コミュニティデザイン演習	2		
				サブカルチャー論	2	デザイン史	2			デザインマネジメントa	2	生活空間設計製図2	2				
												構法・構造演習	2				
	20		0		4		4		0		4		6		2		0
	後期			数学的思考	2			マーケティング論	2	プロダクトデザイン演習b		建築デザイン論	2	コミュニティデザイン論b	2		
				文化人類学入門	2			マーケティングリサーチ	2	ユーザーエクスペリエンス	2						
	14		0		4		0		4		2		2		2		0
4年次	前期					卒業研究	6			デザインマネジメントb	2			総合設計演習	2		
	10		0		0		6		0		2		0		2		0
	後期																
	0																
	130		8		20		28		12		24		24		14		0

専門科目合計	102
必修	12
選択必修	40
選択	50

授業科目名 は、必修科目。　　授業科目名 は、選択必修科目。

資料7

履修モデル：教職（家庭）

卒業後の進路：教員、教育産業、地方公共団体

		実践スタンダート科目		共通教育科目		学科共通科目群		アパレル・ファッション科目群		プロダクト・インテリア科目群		建築・住環境デザイン科目群		総合デザイン科目群		関連科目群		教職専門科目	
1年次	前期	実践入門セミナー	2	日本国憲法	2	環境デザイン学入門	2	ファッションデザイン論	2	プロダクトデザイン概	2	住居学	2						
		Integrated English a	1	基礎スポーツ実習c	1	基礎演習a	2			情報デザイン論	2								
		Integrated English b	1			デザイン基礎演習a	2												
		情報リテラシー基礎	1																
	22		5		3		6		2		4		2		0		0		0
	22																		
	後期	データサイエンス入門	1	くらしの人間工学	2	統計の基礎	2	繊維高分子材料学	2			住居デザイン論	2	ワークショップ演習	2	栄養学	2	教職入門	2
				Essential Listening	1	色彩学	2	アパレル製作基礎演習	2							家族経営学	2	教育原理	2
								ファッションドローイング	2										
	22		1		3		4		6		0		2		2		4		4
	26																		
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	心理学入門	2	デザイン基礎演習b	2	テキスタイル管理学	2	ビジュアルデザインa	2	住環境デザイン論	2	環境デザインプロジェクトa	2			発達・学習理論	2
						人間工学	2	アパレル製作基礎	2	プロダクトデザイン論	2							教育制度	2
								アパレル製作実習	2									教育課程論	1
																		家庭科教育法（1）	2
	22		2		2		4		6		4		2		2		0		7
	29																		
	後期			児童文学入門	2	環境デザイン学演習	2	テキスタイル材料学	2	情報デザイン演習	2					看護学	2	特別支援教育論	1
				女性と教育	2	人間工学実験	2	アパレル生産	2							家庭工学	2	家庭科教育法（2）	2
				情報リテラシー応用a	2	色彩設計演習b	2											教育方法・技術論	2
																		介護支援基礎論	1
	22		0		6		6		4		2		0		0		4		6
	28																		
3年次	前期			実践教養講座g	2	環境デザイン学セミナー	2	伝統衣服実習	2	ビジュアルデザインb	2			コミュニティデザイン演習	2	食物学	2	家庭科教育法（3）	2
				生活環境の科学	2					光環境デザイン	2					家族関係学	2	道徳教育指導論	2
																育児学	2	生徒・進路指導論	2
																		介護等体験	1
	20		0		4		2		2		4		0		2		6		7
	27																		
	後期			身体運動の科学b	2			マーケティング論	2	ユニバーサルデザイン論	2					保育学	2	教育相談	2
				生命の科学	2			マーケティングリサーチ	2	ユーザーエクスペリエンス	2					調理学及び実習	2	特別活動及び総合的な学修の時間の指導法	2
	16		0		4		0		4		4		0		0		4		4
	20																		
4年次	前期					卒業研究	6											教育実習A	5
	6		0		0		6		0		0		0		0		0		5
	11																		
	後期																	教職実践演習（中・高）	2
	0																		2
	2																		
	130		8		22		28		24		18		6		6		18		35
	165																		

授業科目名 は、必修科目。　　授業科目名 は、選択必修科目。

※下段は、卒業単位に含まれない授業科目の単位数を含む単位数。

専門科目合計	100
必修	12
選択必修	32
選択	58

資料８

教育実習受入れ承諾書一覧

学校名	免許状の種類	受入人数
実践女子学園中学校高等学校	中学校教諭　　一種免許状（家庭） 高等学校教諭　一種免許状（家庭）	81 人

資料９

○実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育職員就業規則（抜粋）

改正　　平成23年5月27日　　平成24年5月25日改正
平成26年3月22日改正　　2024年2月10日改正

第1章　総則

（目的）

第1条　この規則は、労働基準法（以下「労基法」という。）に基づき、学校法人実践女子学園（以下「学園」という。）が設置する実践女子大学及び実践女子大学短期大学部（以下「大学等」という。）に勤務する期間の定めのない教育職員（以下「教員」という。）の労働条件、服務規律その他就業に関する事項を定めることを目的とする。

（略）

（定年）

第22条　教員の定年は70歳とし、定年に達した月の属する会計年度の末日をもって退職とする。

（略）

（改廃）

第48条　この規則の改廃は、常任理事会の議を経て、理事会が行う。

附　則

1　この規則は昭和45年4月1日から施行する。

2　昭和35年10月1日施行の、実践女子大学、実践女子学園短期大学教官勤務規則及び附属規程はこれを廃止する。

3　この規則施行に伴う細則は別に定めるところによる。

（略）

附　則（2024年2月10日改正）

1　この改正規則は、2024年4月1日から施行する。

2　第22条の規定にかかわらず、学部・学科改組のために理事長が特に必要と認めた教育職員については、当該学部・学科の完成年度までの間、定年を延長することができる。

資料１０

環境デザイン学部環境デザイン学科　授業時間割（2028年）

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
月	1	情報リテラシー基礎	◎	前期	1	共通大学1	本351
月	1	フランス語１ａ		前期	1～	共通大学1～	Ⅲ321
月	1	国際社会とジェンダー		前期	1～	共通大学1～	本361
月	1	生活環境の科学		前期	1～	共通大学1～	本347
月	1	健康運動実習ａ		前期	1～	共通大学1～	*,Ⅵ621
月	1	基礎演習ａ		前期	1	環境3	Ⅳ435
月	1	生活空間設計製図２		前期	環境3(B)	環境3	本533,本534,本536
月	1	教育制度		前期	環境2,心理2,現生2	教職2	本345
月	1	スペイン語１ｂ		後期	1	共通大学1	本350
月	1	フランス語１ｂ		後期	1～	共通大学1～	Ⅲ321
月	1	科学技術と人間		後期	1～	共通大学1～	本362
月	1	人体生理学実験		後期	2	環境2	本331
月	1	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		後期	環境3,心理3,現生3	教職3	Ⅲ323
月	2	情報リテラシー基礎	◎	前期	1	共通大学1	本350
月	2	ジェンダーと心理		前期	1	共通大学1～	本343
月	2	世界の宗教		前期	1～	共通大学1～	本346
月	2	オープン講座ａ		前期	1～	共通大学1～	本351,本344
月	2	フランス語２ａ		前期	2～	共通大学2～	Ⅲ321
月	2	環境デザイン学入門	◎	前期	1	環境1	Ⅳ423,Ⅳ436
月	2	デザインマネジメントａ		前期	3	環境2	本361
月	2	生活空間設計製図２		前期	環境3(B)	環境3	本533,本534,本536
月	2	デザイン史		前期	3	環境3	本442
月	2	情報リテラシー応用ｅ		後期	1	共通大学1	本353
月	2	国際政治の基礎		後期	1～	共通大学1～	本346
月	2	オープン講座ｂ		後期	1～	共通大学1～	本351,本344
月	2	フランス語２ｂ		後期	2～	共通大学2～	Ⅲ321
月	2	人体生理学		後期	1	環境1	本444
月	2	アパレル生産		後期	2	環境2	Ⅳ424
月	2	人体生理学実験		後期	2	環境2	本331
月	3	実践プロジェクトａ		前期	1～	共通大学1～	Ⅲ341
月	3	教育学		前期	1～	共通大学1～	本361
月	3	スポーツ文化論		前期	1～	共通大学1～	Ⅳ421
月	3	基礎演習ｂ		前期	1	環境3	本231
月	3	住居学		前期	1	環境1	本445
月	3	アパレル製作実習		前期	2	環境2	本330
月	3	法学入門		後期	1～	共通大学1～	本362
月	3	基礎演習ｃ		後期	1	環境3	本231
月	3	栄養学		後期	環1・幼2・心2・現2	大専共有1・2	本444
月	3	調理学及び実習		後期	食3・環3	大専共有3	Ⅴ511
月	4	日本国憲法		前期	1～	共通大学1～	本442
月	4	キャリア・ショーケース		前期	2～	共通大学3	Ⅳ411
月	4	アパレル製作実習		前期	2	環境2	本330
月	4	住環境デザイン論		前期	2	環境2	本444
月	4	建築法規		前期	4	環境4	Ⅳ423
月	4	情報リテラシー応用ｅ		後期	1	共通大学1	本351
月	4	日本国憲法		後期	1～	共通大学1～	本442
月	4	ファッションビジネスの世界		後期	1	環境1	Ⅳ423
月	4	建築ＣＡＤ		後期	環境2(B)	環境2	Ⅳ435
月	4	調理学及び実習		後期	食3・環3	大専共有3	Ⅴ511
月	5	情報リテラシー基礎	◎	前期	1	共通大学1	本351
月	5	日本の政治		前期	1～	共通大学1～	本347
月	5	オープン講座ｃ		前期	1～	共通大学1～	本343
月	5	実践キャリアプランニング	◎	前期	2	共通大学2	本442
月	5	家族関係学		前期	食2・環2・心2・現3	大専共有2・3	本444
月	5	ファッションビジネス演習		前期	4	環境3	Ⅲ322
月	5	現代の思想		後期	1～	共通大学1～	本349
月	5	文化人類学入門		後期	1～	共通大学1～	本343
月	5	建築ＣＡＤ		後期	環境2(A)	環境2	Ⅳ435
月	5	調理学及び実習		後期	食3・環3	大専共有3	Ⅴ511
月	9	データサイエンス入門	◎	後期	環境1(A)	共通大学1	オ(日)
月	9	色彩学		後期	1	環境1	オ(日)
火	1	児童文学入門		前期	1～	共通大学1～	本341

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
火	1	くらしの人間工学		前期	1〜	共通大学1〜	本348
火	1	建築概論		前期	1	環境1	本445
火	1	テキスタイル管理学		前期	2	環境2	本361
火	1	プロダクトデザイン論		前期	2	環境2	本430,本343
火	1	プロダクトＣＡＤ		前期	3	環境3	本350
火	1	ファッションデザイン演習１		前期	3	環境3	本330
火	1	食物学		前期	環3・心3・現3	食物3	IV437
火	1	家庭科教育法（３）		前期	環境3,心理3,現生3	教職3	本429
火	1	教職研究ｂ		前期	教職2〜	教職2〜	本450
火	1	地域研究ａ		後期	1〜	共通大学1〜	本342
火	1	ワークショップ演習		後期	1	環境1	本421,本430
火	1	生活空間設計製図１		後期	環境2(A)	環境2	本533,本534,本536
火	2	音楽の世界		前期	1〜	共通大学1〜	本343
火	2	アダプテットスポーツ		前期	1〜	共通大学1〜	*
火	2	キャリアデザイン		前期	3	共通大学3	III323
火	2	デザイン基礎演習ａ		前期	環境1(B)	環境1	本430,本431
火	2	マテリアル・デザイン		前期	1	環境1	本346
火	2	アパレルＣＡＤ　ｂ		前期	3	環境3	本321
火	2	ファッションデザイン演習１		前期	3	環境3	本330
火	2	人間関係の心理学		後期	1〜	共通大学1〜	本344
火	2	農業と食料		後期	1〜	共通大学1〜	本348
火	2	アダプテットスポーツ		後期	1〜	共通大学1〜	*
火	2	材料加工演習		後期	1	環境1	本430,本260
火	2	生活空間設計製図１		後期	環境2(A)	環境2	本533,本534,本536
火	2	マーケティング論		後期	3	環境3	本362
火	3	日本の経済		前期	1〜	共通大学1〜	本344
火	3	基礎スポーツ実習ｃ		前期	1〜	共通大学1〜	*
火	3	国際理解とキャリア形成		前期	2〜	共通大学2〜	本361
火	3	デザイン基礎演習ａ		前期	環境1(A)	環境1	本430、本431
火	3	ファッションビジネス論		前期	2	環境2	III321
火	3	教育実習Ａ		前期	環境4,心理4,現生4	教職4	本429
火	3	教育実習Ｂ		前期	環境4,心理4,現生4	教職4	本429
火	3	日本の伝統文化		後期	1〜	共通大学1〜	本348
水	3	日常生活と法		後期	1〜	共通大学1〜	本341
火	3	ヘルスプロモーション実践実習ｂ		後期	1〜	共通大学1〜	*
火	3	立体裁断		後期	2	環境2	本330
火	3	プロダクトデザイン演習ｂ		後期	環境3	環境3	本430,本260
火	3	生活空間設計製図３		後期	環境3	環境3	本533,本534,本536
火	3	教職実践演習（中・高）		後期	食食4,環境4,心理4,現生4	教職4	本345
火	4	Global Studies g		前期	1〜	共通大学1〜	本343
火	4	地理学		前期	1〜	共通大学1〜	本343
火	4	ヘルスプロモーション実践実習ａ		前期	1〜	共通大学1〜	*
火	4	ファッションデザイン論		前期	1	環境1	III331
火	4	被服衛生学		前期	4	環境4	III321
火	4	被服実習ｂ		前期	食環2　心現3	現生2・3	本330,本431
火	4	Global Studies h		後期	1〜	共通大学1〜	本343
火	4	社会思想入門		後期	1〜	共通大学1〜	本342
火	4	生命の科学		後期	1〜	共通大学1〜	本345
火	4	健康運動実習ａ		後期	1〜	共通大学1〜	*
火	4	材料加工演習		後期	1	環境1	本430,本260
火	4	デザイン思考		後期	2	環境2	III331
火	4	プロダクトデザイン演習ｂ		後期	環境3	環境3	本430,本260
火	4	生活空間設計製図３		後期	環境3	環境3	本533,本534,本536
火	4	教職研究ｃ		後期	教職2〜	教職2〜	本443
火	5	社会学入門		前期	1〜	共通大学1〜	本342
火	5	クォーターオープン講座a		前期	1〜	共通大学1〜	本344
火	5	消費科学		前期	4	環境4	III323
火	5	被服実習ｂ		前期	食環2　心現3	現生2・3	本330,本431
火	5	女性の健康		後期	1〜	共通大学1〜	本345
火	5	数学的思考		後期	1〜	共通大学1〜	本347
火	5	教育原理		後期	環境1,心理1,現生1	教職1	本343
火	5	色彩設計演習ａ		後期	2	環境2	本430,IV435
火	9	ファッション文化論		前期	3	環境3	オ(日)
火	9	住居デザイン論		後期	1	環境1	オ(日)

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
火	9	建築施工		後期	2	環境2	オ(日)
水	1	Active Listening		前期	1～	共通大学1～	III323
水	1	Global Studies b		前期	1～	共通大学1～	本441
水	1	スペイン語１ａ		前期	1～	共通大学1～	本349
水	1	心の健康		前期	1～	共通大学1～	本342
水	1	人間関係の心理学		前期	1～	共通大学1～	本343
水	1	ファッションの世界		前期	1～	共通大学1～	本343
水	1	東洋史		前期	1～	共通大学1～	本346
水	1	健康運動実習ｂ		後期	1～	共通大学1～	*
水	1	健康運動実習ｂ		前期	1～	共通大学1～	*
水	1	染色加工学		前期	3	環境3	IV432
水	1	Integrated English a	◎	後期	環境1(3,4)	共通大学1	本343
水	1	Integrated English a	◎	後期	環境1(1,2)	共通大学1	本348
水	1	食文化論		後期	1～	共通大学1～	本342
水	1	アパレル製作基礎演習		後期	環境1	環境1	本330
水	1	アパレルＣＡＤ　ａ		後期	環境2	環境2	本350
水	1	プロダクトデザイン演習ａ		後期	2	環境2	本430,本260
水	1	生活環境科学		後期	3	環境3	IV433
水	1	人間工学実験		後期	2	環境2	本331
水	1	生活空間設計製図１		後期	環境2(B)	環境2	本533,本534,本536
水	1	教職研究ｄ		後期	教職2～	教職2～	本429
水	2	衣文化論		前期	1～	共通大学1～	本361
火	2	日本史		前期	1～	共通大学1～	本344
水	2	宇宙の科学		前期	1～	共通大学1～	本346
水	2	基礎スポーツ実習ａ		前期	1～	共通大学1～	*
水	2	スペイン語２ａ		前期	2	共通大学2～	本349
水	2	実践企業分析論		前期	2～	共通大学1～	III323
水	2	建築・インテリア構法		前期	2	環境2	本445
水	2	家庭科教育法（２）		後期	2	教職3	本429
水	2	Global Studies f		後期	1～	共通大学1～	本342
水	2	日本の古典文学		後期	1～	共通大学1～	本346
水	2	日本のポップカルチャー		後期	1	共通大学1	本348
水	2	基礎スポーツ実習ａ		後期	1～	共通大学1～	*
水	2	スペイン語２ｂ		後期	2	共通大学2～	本349
水	2	アパレル製作基礎演習		後期	環境1	環境1	本330
水	2	人間工学実験		後期	2	環境2	本331
水	2	プロダクトデザイン演習ａ		後期	2	環境2	本430,本260
水	2	生活空間設計製図１		後期	環境2(B)	環境2	本533,本534,本536
水	2	教育方法・技術論（ICT活用含む）		後期	環境2,現生2	教職2	本345,本351
水	2	教育相談		後期	環境3,心理3,現生3	教職3	本344
水	3	CEFR B1		前期	1～	共通大学1～	III323
水	3	中国語１ａ		前期	1～	共通大学1～	本361
水	3	ジェンダー論入門		前期	1～	共通大学1～	本362
水	3	生活とデザイン		前期	1～	共通大学1～	本344
水	3	基礎スポーツ実習ｂ		前期	1～	共通大学1～	*
水	3	デザイン基礎演習ｂ		前期	環境1(B)	環境1	本430,本431
水	3	繊維高分子材料実験		前期	環境2(A)	環境2	本229
水	3	伝統衣服実習		前期	3	環境3	本330
水	3	CEFR B1		後期	1～	共通大学1～	III323
水	3	中国語１ｂ		後期	1～	共通大学1～	本361
水	3	社会とデザイン		後期	1	共通大学1	本350
水	3	生命と環境の倫理		後期	1～	共通大学1～	本341
水	3	基礎スポーツ実習ａ		後期	1～	共通大学1～	*
水	3	ライフデザイン		後期	3・4	共通大学3・4	本347
水	3	コミュニティデザイン論ｂ		後期	3	環境3	本229
水	3	特別支援教育論		後期	環境2,心理2,現生2	教職2	本343
水	3	介護支援基礎論		後期	環境2,心理2,現生2	教職2	本343
水	4	Active Reading		前期	1～	共通大学1～	III323
水	4	倫理学入門		前期	1～	共通大学1～	本348
水	4	日本史		前期	1～	共通大学1～	本344
水	4	基礎スポーツ実習ａ		前期	1～	共通大学1～	*
水	4	中国語２ａ		前期	2～	共通大学2～	本361
水	4	デザイン基礎演習ｂ		前期	環境1(A)	環境1	本430,本431
水	4	繊維高分子材料実験		前期	環境2(A)	環境2	本229

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
水	4	ファッションビジネス演習		前期	4	環境4	本431
水	4	伝統衣服実習		前期	3	環境3	本330
水	4	Active Reading		後期	1～	共通大学1～	III323
水	4	女性の歴史		後期	1～	共通大学1～	本362
水	4	女性とキャリア形成		後期	2～	共通大学2～	本348
水	4	基礎スポーツ実習ｂ		後期	1～	共通大学1～	*
水	4	クォーターオープン講座ｃ		後期	1～	共通大学1～	本342
水	4	中国語２ｂ		後期	2～	共通大学2～	本361
水	4	環境デザイン特論ｂ		後期	1	環境1	本229
水	4	インテリアデザイン演習		後期	環境2	環境2	本431
水	4	コミュニティデザイン論ａ		後期	2	環境2	本345
水	4	教職入門		後期	環境1,心理1	教職1	本349
水	5	Global Studies ｉ		前期	1～	共通大学1～	本348
水	5	映像文化論		前期	1～	共通大学1～	本349
水	5	西洋史		前期	1～	共通大学1～	本347
水	5	実践プロジェクトｂ		前期	2～	共通大学2～	本343
水	5	クォーターオープン講座ｂ		前期	1～	共通大学1～	本342
水	5	消費生活学		前期	2	環境2	本353
水	5	Global Studies ｊ		後期	1～	共通大学1～	本348
水	5	心の健康		後期	1～	共通大学1～	本344
水	5	くらしの化学		後期	1～	共通大学1～	本349
水	5	生活材料学		後期	3	環境3	本345
水	5	育児学		後期	食3・環3・心3・現3	大専共有3	IV433
水	9	教育課程論		前期	2	教職3	オ(日)
水	9	家庭経営学		後期	1	環境1	オ(日)
木	1	実践入門セミナー	◎	前期	環境1(A)	共通大学1	本431
木	1	実践入門セミナー	◎	前期	環境1(B)	共通大学1	本430
木	1	実践入門セミナー	◎	前期	環境1(C)	共通大学1	本330
木	1	実践入門セミナー	◎	前期	環境1(D)	共通大学1	本346
木	1	Global Studies a		前期	1～	共通大学1～	本344
木	1	女性教育とジェンダー		前期	1～	共通大学1～	本348
木	1	保育学		後期	食3・環3・幼心3・現3	大専共有3	Ⅰ124,保育演習室,図画工作室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室,本452
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	本535
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	環境デザイン学演習	◎	後期	2	環境2	研究室
木	1	地球と環境の科学		後期	1～	共通大学1～	本443
木	2	Effective Speaking		前期	1～	共通大学1～	本362
木	2	哲学入門		前期	1～	共通大学1～	本348
木	2	文学とジェンダー		前期	1～	共通大学1～	本344
木	2	基礎スポーツ実習ｂ		前期	1～	共通大学1～	*
木	2	発達・学習理論		前期	環境2,心理2	教職2	本345
木	2	Global Studies d		後期	1～	共通大学1～	III322
木	2	Global Studies e		後期	1～	共通大学1～	本443
木	2	情報スキル基礎		後期	1～	共通大学1～	IV436
木	2	統計的思考		後期	1～	共通大学1～	本343
木	2	基礎スポーツ実習ｂ		後期	1～	共通大学1～	*
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	本330,研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	本535
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室,本349
木	2	環境デザイン学セミナー	◎	通年	3	環境3	研究室
木	2	看護学		後期	食2・環2・心幼3・現2	大専共有2・3	本445

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
木	3	Effective Writing		前期	1〜	共通大学1〜	本350
木	3	情報リテラシー応用ｂ		前期	1〜	共通大学1〜	Ⅳ436
木	3	日本の近現代文学		前期	1〜	共通大学1〜	本361
木	3	基礎スポーツ実習ｄ		前期	1〜	共通大学1〜	*
木	3	生徒・進路指導論		前期	環境3,心理3,現生3	教職3	本345
木	3	Effective Speaking		後期	1〜	共通大学1〜	本362
木	3	情報リテラシー応用ｂ		後期	1〜	共通大学1〜	Ⅳ436
木	3	情報スキル基礎		後期	1〜	共通大学1〜	本351
木	3	サブカルチャー論		後期	1〜	共通大学1〜	本349
木	3	基礎スポーツ実習ｄ		後期	1〜	共通大学1〜	*
木	3	グローバル・キャリアデザイン		後期	3	共通大学3	Ⅲ323
木	3	ファッションドローイング		後期	1	環境1	本350
木	3	看護学		後期	食2・環2・心幼3・現2	大専共有2・3	Ⅲ332
木	3	家庭科教育法（４）		後期	環境3,現生3	教職3	本429
木	4	Global Studies ｃ		前期	1〜	共通大学2〜	本350
木	4	情報リテラシー応用ａ		前期	1〜	共通大学1〜	本353
木	4	地域研究ｂ		前期	1〜	共通大学1〜	本342
木	4	基礎スポーツ実習ｄ		前期	1〜	共通大学1〜	*
木	4	実践教養講座ａ		前期	2〜	共通大学2〜	本361
木	4	インテリアコーディネート論		前期	3	環境3	本348
木	4	ビジュアルデザインａ		前期	2	環境2	本430,Ⅳ435
木	4	教職研究ａ		前期	教職2〜	教職2〜	本443
木	4	Active Listening		後期	1〜	共通大学1〜	本362
木	4	情報スキル基礎		後期	1〜	共通大学1〜	本351
木	4	情報リテラシー応用ａ		後期	1〜	共通大学1〜	Ⅳ436
木	4	メディア論		後期	1〜	共通大学1〜	本442
木	4	実践教養講座ｅ		後期	1〜	共通大学1〜	本342
木	4	基礎スポーツ実習ｄ		後期	1〜	共通大学1〜	*
木	4	実践教養講座ａ		後期	2〜	共通大学2〜	本361
木	4	衣料学演習		後期	食2・環2・心2・現2	大専共有2	本231
木	4	情報デザイン演習		後期	2	環境2	本350
木	4	教職研究ｅ		後期	教職3〜	教職3・4	本443
木	5	情報スキル基礎		前期	1〜	共通大学1〜	本353
木	5	身体の科学		前期	1〜	共通大学1〜	本344
木	5	生活環境工学		前期	1	環境1	本350
木	5	情報スキル基礎		後期	1〜	共通大学1〜	本353
木	5	東洋思想入門		後期	1〜	共通大学1〜	本346
木	5	実践教養講座ｃ		後期	1〜	共通大学1〜	本347
木	5	衣料学		後期	食2・環2・心2・現2	食物2	本444
木	5	衣料学演習		後期	食2・環2・心2・現2	大専共有2	本231
木	5	インテリアコーディネート演習		後期	3	環境3	本431
木	5	マーケティングリサーチ		後期	3	環境3	本350,本344
木	9	情報リテラシー応用ｃ		前期	1〜	共通大学1〜	オ(日)
木	9	インテリアデザイン論		前期	2	環境2	オ(日)
木	9	情報リテラシー応用ｃ		後期	1〜	共通大学1〜	オ(日)
金	1	世界のファンタジー		前期	1〜		本442
金	1	コリア語１ａ		前期	1〜	共通大学1〜	Ⅲ332
金	1	身体運動の科学ａ		前期	1〜	共通大学1〜	本361
金	1	アパレル製作基礎		前期	2	環境2	Ⅲ342
金	1	空間造形基礎		前期	環境2(A)	環境2	本430,本431
金	1	環境デザインプロジェクトａ		前期	2	環境2	本444
金	1	コミュニティデザイン演習		前期	3	環境3	本421,本430
金	1	保育学		前期	食3・環3・幼心3・現3	生文3	Ⅰ121,保育演習室,図画工作室
金	1	コリア語１ｂ		後期	1〜	共通大学1〜	Ⅲ332
金	1	国際経済の基礎		後期	1〜	共通大学1〜	本342
金	1	テキスタイル材料学		後期	2	環境2	Ⅳ422
金	1	住環境・設備学		後期	3	環境3	Ⅲ341
金	1	ユニバーサルデザイン論		後期	3	環境3	本331
金	2	心理学入門		前期	1〜	共通大学1〜	本344
金	2	健康運動実習ｂ		前期	1〜	共通大学1〜	*
金	2	コリア語２ａ		前期	2〜	共通大学2〜	Ⅲ332
金	2	情報デザイン論		前期	1	環境1	Ⅲ321
金	2	環境デザインプロジェクトａ		前期	2	環境2	本444
金	2	コミュニティデザイン演習		前期	3	環境3	本421,本430

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
金	2	家庭科教育法（１）		前期	環境2,現生2	教職2	本429
金	2	心理学入門		後期	1～	共通大学1～	本341
金	2	健康運動実習ａ		後期	1～	共通大学1～	*
金	2	コリア語２ｂ		後期	2～	共通大学2～	III332
金	2	繊維高分子材料学		後期	1	環境1	本442
金	2	設計製図基礎		後期	1(A)	環境1	本430,本431
金	3	ドイツ語１ａ		前期	1～	共通大学1～	本341
金	3	社会保障論		前期	1～	共通大学1～	本345
金	3	実践教養講座ｄ		前期	1～	共通大学1～	IV423
金	3	プロダクトデザイン概論		前期	1	環境1	本442
金	3	空間造形基礎		前期	環境2(B)	環境2	本430,本431
金	3	感性科学		前期	環境3(A)	環境3	本229
金	3	ドイツ語１ｂ		後期	1～	共通大学1～	本341
金	3	美術の世界		後期	1～	共通大学1～	本343
金	3	基礎スポーツ実習ｃ		後期	1～	共通大学1～	*
金	3	健康体力科学演習		後期	1～	共通大学1～	*,VI621
金	3	ビジネスのスキルとマナー		後期	3	共通大学3	本345
金	3	基礎造形論		後期	1	環境1	本430,本431
金	3	福祉住環境論		後期	2	環境2	IV422
金	3	テキスタイル管理実験		後期	環境2	環境2	本231
金	3	ファッションデザイン演習２		後期	3	環境3	本330
金	4	健康運動実習ａ		前期	1～	共通大学1～	*
金	4	健康体力科学演習		前期	1～	共通大学1～	*,VI621
金	4	ドイツ語２ａ		前期	2～	共通大学2～	本341
金	4	生活空間計画		前期	3	環境3	本442
金	4	テキスタイル材料実験		前期	環境3	環境3	本229
金	4	総合設計演習		前期	4	環境4	本533,本534,本536
金	4	西洋の文学		後期	1～	共通大学1～	本343
金	4	ドイツ語２ｂ		後期	2～	共通大学2～	本341
金	4	ビジネスのスキルとマナー		後期	3	共通大学3	本347
金	4	色彩設計演習ｂ		後期	2	環境2	本430,IV435
金	4	テキスタイル管理実験		後期	環境2	環境2	本231
金	4	ユーザーエクスペリエンス		後期	3	環境3	本260,研究室
金	4	ファッションデザイン演習２		後期	3	環境3	本330
金	5	環境デザイン特論ａ		前期	1	環境2・3	本345
金	5	テキスタイル材料実験		前期	環境3	環境3	本229
金	5	総合設計演習		前期	4	環境4	本533,本534,本536
金	5	デザインマネジメントｂ		前期	4	環境4	本430,本342
金	5	道徳教育指導論		前期	環境3,心理3	教職3	本343
金	5	言語学入門		後期	1～	共通大学1～	本362
金	5	金融リテラシー入門		後期	1	共通大学1～	本350
金	5	身体運動の科学ｂ		後期	1～	共通大学1～	本343
金	5	建築構造		後期	1	環境1	本442
金	5	設計製図基礎		後期	1(B)	環境1	本430,本431
金	5	ファッション企画論		後期	3	環境3	本345
金	9	情報リテラシー応用ｄ		後期	1～	共通大学1～	オ(日)
金	9	環境心理学		前期	2	環境2	オ(日)
土	1	環境デザインプロジェクトｂ		前期	2	環境2	本343
土	1	ビジュアルデザインｂ		前期	3	環境3	本430,IV435
土	1	生活空間設計製図２		前期	環境3(A)	環境3	本533,本534,本536
土	1	被服実習ａ		前期	食環2　心現3	食物2・3	本330,本431
土	1	Effective Writing		後期	1～	共通大学1～	本347
土	1	バイオの世界		後期	1	共通大学1	本353
土	1	統計の基礎		後期	1	環境1	本343
土	1	被服実習ｃ		後期	食環2　心現3	大専共有2・3	本330,本431
土	2	Integrated English b	◎	前期	環境1(1)	共通大学1	本342
土	2	Integrated English b	◎	前期	環境1(2)	共通大学1	本361
土	2	Integrated English b	◎	前期	環境1(3)	共通大学1	本349
土	2	Integrated English b	◎	前期	環境1(4)	共通大学1	本345
土	2	実践教養講座ｆ		前期	1～	共通大学1～	本344
土	2	スポーツ応用科学実習		前期	1～	共通大学1～	*
土	2	環境デザインプロジェクトｂ		前期	2	環境2	本343
土	2	生活空間設計製図２		前期	環境3(A)	環境3	本533,本534,本536
土	2	被服実習ａ		前期	食環2　心現3	食物2・3	本330,本431

曜日	時限	授業名称（2025教育課程）	必修	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
土	2	防災の科学		後期	1	共通大学1	本353
土	2	スポーツ応用科学実習		後期	1～	共通大学1～	*
土	2	実践教養講座ｈ		後期	1～	共通大学1～	本344
土	2	建築デザイン論		後期	3	環境3	本442
土	2	被服実習ｃ		後期	食環2　心現3	大専共有2・3	本330,本431
土	3	実践教養講座ｇ		前期	1～	共通大学1～	本341
土	3	人間工学		前期	2	環境2	本445
土	3	構法・構造演習		前期	環境3	環境3	本430
土	3	実践教養講座ｉ		後期	1～	共通大学1～	本341
土	3	機能材料学		後期	3	環境3	本331
土	3	光環境デザイン		前期	環境3	環境3	本431
土	9	生活経済学		前期	食1・環1	大専共有1	オ(日)
土	9	材料力学		前期	3	環境3	オ(日)
他	9	実践教養講座ｂ		後期	1～	共通大学1～	
他	9	衣料管理実習		後期	3	環境3	
他	9	キャリア開発実践論		通年	3	共通大学3	
他	9	介護等体験		通年	食食3,環境3,心理3,現生3	教職3	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	卒業研究	◎	通年	4	環境4	
他	9	短期インターンシップ		通年	3	共通大学3	
他	9	長期インターンシップ		通年	3	共通大学3	
他	9	実践企業分析論演習		前期	2～	共通大学2～	
他	9	海外語学研修ａ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｂ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｃ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｄ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｅ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｆ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｇ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修ｈ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外短期インターンシップ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	海外長期インターンシップ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	実践プロジェクトｃ		通年	2～	共通大学2～	
他	9	ボランティアプロジェクトａ		通年	1～	共通大学1～	
他	9	ボランティアプロジェクトｂ		通年	1～	共通大学1～	

資料11　主な学術洋雑誌（環境デザイン関係）

No.	Title	ISSN	eISSN
1	Access by design : the journal of the Centre for Accessible Environments	0003-8504	
2	Advanced Textile Technology	1724-9686	
3	Applied ergonomics		1872-9126
4	Architect designed houses	0113-4566	
5	Architectural design	1028-3072	1554-2769
6	Architectural digest (Los Angeles, Calif.)	0328-1337	2163-3819
7	Architectural engineering and design management	1359-1355	
8	Architectural heritage : the journal of the Architectural Heritage Society of Scotland	0258-591X	
9	Architectural history	0006-0151	2059-5670
10	Architectural record	0007-215X	2470-1513
11	Architectural review (London)	1296-4077	
12	Architectural science review	1000-6982	1758-9622
13	Architectural theory review	1528-2864	1755-0475
14	Architecture and culture	2007-1639	2050-7836
15	Architecture Australia	0590-1987	
16	Architecture New Zealand	0142-694X	
17	Architecture of Israel	1614-4600	
18	Architektur.aktuell	0263-2772	
19	Archivos de arquitectura antillana: AAA	1549-9715	
20	Arq (London, England)	2203-2541	1474-0516
21	Arquitecturas del sur	2058-8321	
22	Assemblage	1355-6207	2326-4691
23	Basic Sciences Journal of Textile Universities	1138-5596	
24	Beijing Textile Journal		
25	Chemical Fiber & Textile Technology		
26	China Textile (China)	0719-0700	
27	China Textile Economy	2171-6897	
28	China Textile Leader	2171-6897	
29	China Textiles Design	2171-6897	
30	Chinese Foreign Fashion	1357-4809	
31	Chinese Journal of Ergonomics		
32	Chuan bo gong cheng	0143-3768	
33	Classicist (New York, N.Y.)	2356-9654	
34	Clothing and textiles research journal		1940-2473
35	Construction Robotics (Online)	0951-8339	2509-8780
36	Cotton Textile Technology		
37	Critical studies in fashion & beauty	1357-4809	2040-4425
38	Daidalos	0104-6098	
39	Dearquitectura	1677-7395	2215-969X
40	Design quarterly (Minneapolis, Minn.)	1518-9554	2325-5358
41	Detail (Munchen English ed.)	2307-4485	1868-3843
42	Digital Fashion		
43	Dimensions (Ann Arbor, Mich.)	1340-8984	
44	DOCOMOMO journal	1657-0308	2773-1634
45	Early homes	0716-8772	
46	Ergonomics		1366-5847

No.	Title	ISSN	eISSN
47	Ergonomics Human Factors and Safety		
48	Ergonomics in Design: The Quarterly of Human Factors Applications		
49	Evolo	1052-6765	
50	Facilities (Bradford, West Yorkshire, England)	1754-4661	1758-7131
51	Fashion & Beauty		
52	Fashion Baby		
53	Fashion Beijing		
54	Fashion China		
55	Fashion Colour	0025-2913	
56	Fashion guide	0951-8339	
57	Fashion Home		
58	Fashion practice		1756-9389
59	Fashion theory		1751-7419
60	Furniture & Interior Decoration	0047-2328	
61	Garden design	0305-5477	
62	Geotextiles and Geomembranes		
63	GreenSource	2975-0466	
64	Grey room	1229-2761	1536-0105
65	Home cultures	1361-2026	1751-7427
66	Hospitality design	2656-5005	
67	Human factors and ergonomics in manufacturing & service industries		1520-6564
68	Human Factors: The Journal of the Human Factors and Ergonomics Society		
69	IIE transactions on occupational ergonomics and human factors	1475-9756	2157-7331
70	IISE transactions on occupational ergonomics and human factors	1475-9756	2472-5846
71	Interior architecture	1322-9400	
72	Interior Architecture of China	1322-9400	
73	Interior design	0008-3887	0020-5508
74	Interior Design Construction		
75	Interiors : design, architecture, culture	0020-5508	2041-9120
76	International Fashion & Fabric Direction		
77	International journal of architectural computing	2769-0512	2048-3988
78	International journal of fashion design, technology and education		1754-3274
79	International Journal of Human Factors and Ergonomics		
80	International journal of industrial ergonomics		1872-8219
81	International journal of occupational safety and ergonomics		2376-9130
82	International shipbuilding progress	0368-4636	1566-2829
83	Issues in architecture, art and design	0048-2757	
84	İTÜ dergisi/a, (Mimarlık, planlama ve tasarım)	2534-4595	
85	IUP journal of architecture	2394-2592	
86	Jiangsu Textile	1052-6765	
87	Journal of architectural conservation	1490-8530	2326-6384
88	Journal of architectural education (1984)	0040-5213	1531-314X
89	Journal of architectural engineering	2739-6088	1943-5568
90	Journal of architecture (London, England)	2452-4859	1466-4410
91	Journal of Canadian art history	2156-941X	
92	Journal of Chengdu Textile College		
93	Journal of child and family studies		1573-2843
94	Journal of consumer studies and home economics		1365-2737

No.	Title	ISSN	eISSN
95	Journal of Dandong Textile College		
96	Journal of environmental planning and management	1080-3548	1360-0559
97	Journal of family studies		1839-3543
98	Journal of fashion marketing and management		1758-7433
99	Journal of GLBT family studies		1550-4298
100	Journal of Global Fashion Marketing: Bridging Fashion and Marketing	0731-0455	
101	Journal of Henan Textile College		
102	Journal of Home Economics of Japan		
103	Journal of industrial textiles	0041-0020	1530-8057
104	Journal of interior design	0020-5508	1939-1668
105	Journal of interpretation research	2714-7010	2692-9376
106	Journal of marine engineering and technology	1359-9364	2056-8487
107	Journal of Nagoya Womens University Home Economics?Natural Science Humanities?Social Science		
108	Journal of Nantong Textile Vocational Technology College		
109	Journal of planning education and research	1464-536X	1552-6577
110	Journal of Suzhou Institute of Silk Textile Technology		
111	Journal of textile design, research and practice	1357-5317	2051-1795
112	Journal of Textile Research		
113	Journal of the American Planning Association	1062-1024	1939-0130
114	Journal of the Society of Architectural Historians	1672-2167	2150-5926
115	Journal of the Textile Institute (2004)		1754-2340
116	Journal of the Textile Institute Proceedings		
117	Journal of the Textile Institute Transactions		
118	Journal of urban design	2041-9112	1357-4809
119	Journal of Zhejiang Textile & Fashion College		
120	Journal of Zhengzhou Textile Institute		
121	Landscape architecture Australia	2582-9491	
122	Landscape design/build		1544-9041
123	Landscape history		2160-2506
124	Landscape journal		1553-2704
125	Landscape research		1469-9710
126	Light & Textile Industries of Fujian		
127	Marg	0003-8520	
128	Marine structures		1873-4170
129	Megaron (Istanbul, Turkey)	0066-622X	1309-6915
130	Metropolis (New York, N.Y.)	0003-861X	1938-2820
131	Mimar (Singapore)	0003-861X	
132	Music Fashion Humanism Inaugurate Cinema Youth Culture Photo Art		
133	Nexus network journal		1522-4600
134	Occupational ergonomics : the journal of the International Society for Occupational Ergo	0040-5175	1875-9092
135	Physics of the earth and planetary interiors	0164-8470	1872-7395
136	Places (Cambridge, Mass.)	0889-3012	2164-7798
137	Proceedings of the human factors and ergonomics society (number) annual meeting (year) : human factors and		
138	Proceedings of the Human Factors and Ergonomics Society Annual Meeting		
139	Proceedings of the International Symposium of Human Factors and Ergonomics in Healthcare		
140	Progress in Textile Science & Technology		
141	Prostor (Zagreb, Croatia)	2153-053X	1333-9117
142	Quaderni della ri-vista. Ricerche per la progettazione del paesaggio		1824-3541

No.	Title	ISSN	eISSN
143	Ramie Textile Science Technology		
144	Randosukēpu kenkyū		
145	Research Journal of Textile and Apparel		
146	Review of human factors and ergonomics		2163-3134
147	Ri-vista. Ricerche per la progettazione del paesaggio		1724-6768
148	Sage family studies abstracts		
149	Seni Kikai Gakkaishi (Journal of the Textile Machinery Society of Japan)	1362-704X	
150	Shandong Textile Economy	1362-704X	
151	Shandong Textile Science & Technology		
152	Shanghai Textile Science & Technology		
153	Sichuan Textile Technology		
154	Structural design of tall buildings	1742-3716	1099-1794
155	Studies in the history of gardens & designed landscapes		1943-2186
156	TCI (New York, N.Y.)		2162-1144
157	TD&T (New York, N.Y.)		
158	Technical textiles		
159	Technology architecture + design		2475-143X
160	Textile : the journal of cloth and culture		1751-8350
161	Textile Accessories		
162	Textile and quality standards		
163	Textile Auxiliaries		
164	Textile Dyeing and Finishing Journal		
165	Textile Education		
166	Textile history		1743-2952
167	Textile Industry Accounting Review		
168	Textile Information Weekly		
169	Textile machinery		
170	Textile Museum journal		2475-8825
171	Textile progress		1754-2278
172	Textile research journal		1746-7748
173	Textile Research Lands		
174	Textile Science Research	0971-0426	
175	Textile Technology Overseas	2693-7344	
176	TEXTILE: Cloth and Culture		
177	Theoretical Issues in Ergonomics Science Online		
178	Time-based architecture international	1303-7005	
179	Town planning review		
180	UME (Parkville)	1046-4883	
181	Urban design international (London, England)	1346-7581	1468-4519
182	Urban forestry & urban greening		1610-8167
183	Vernacular architecture		
184	Vernacular architecture newsletter		
185	Werk, Bauen + Wohnen (Swiss ed.)		
186	Wool Textile Journal		
187	World Fashion Dynamics		
188	WORLD TEXTILE ABSTRACTS	0040-5043	
189	Xin jian zhu		
190	Zentralblatt für Arbeitsmedizin Arbeitsschutz und Ergonomie		

資料12

○実践女子大学教授会規程

改正　平成12年4月1日　平成17年4月1日
平成18年12月6日　平成26年4月1日改正
平成27年3月19日改正　2023年2月15日改正

第1条　教授会は、本学に所属する教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

第2条　教授会は、学部教授会と全学教授会とする。

第3条　学部教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第4条　学部教授会は、学部長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学部長がこれを委嘱する。

2　前項の規定にかかわらず、学部長は教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第5条　全学教授会は学長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学長がこれを委嘱する。

2　前項の規定にかかわらず、学長は全学教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第6条　学部教授会及び全学教授会は、構成員の3分の2以上の出席により成立する。

第7条　学部教授会及び全学教授会の議決は、出席者の過半数により決し、可否同数の場合は議長が議決する。

第8条　学部教授会及び全学教授会に幹事若干名を置く。幹事は、事務職員がこれに当たり、議長を助けて議事の進行に当たる。

第9条　学部教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1)　学部長の選任に関する事項
(2)　学則に関する事項
(3)　教授、准教授、講師、助教の任免、昇任、代講等異動に関する事項
(4)　学科・課程等の授業科目編成に関する事項
(5)　学生の入学及び卒業に関する事項
(6)　学位の授与に関する事項
(7)　学生の身分に関する事項
(8)　学生の賞罰に関する事項
(9)　その他学長が定めた重要な事項

2　学部教授会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議し、又は学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第10条　全学教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べることができる。

(1)　学長の候補者に関する事項
(2)　学則の制定に関する事項
(3)　教育研究に関する事項
(4)　学科・教育研究の施設に関する事項
(5)　その他学長が必要と認める事項

第11条　第9条第3号の教授の採用及び教授への昇任に関する事項は、教授をもって構成する教授会において審議するものとし、准教授の採用及び准教授への昇任については准教授を、講師の採用については講師を、助教の採用については助教を、それぞれ教授会の中に加えることができる。

第12条　学長は、大学・短期大学部の共通事項を審議するため、合同教授会を開催することができる。

2　合同教授会の運営方法は、全学教授会に準ずる。
第13条　この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定し、常任理事会が行う。

附　則(平成12年4月1日)
この改正規程は、平成12年4月1日から施行する。

附　則(平成17年4月1日)
この改正規程は、平成17年4月1日から施行する。

附　則(平成18年12月6日)
この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附　則(平成26年4月1日改正)
この改正規程は、平成26年4月1日から施行する。

附　則(平成27年3月19日改正)
この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

附　則(2023年2月15日改正)
この改正規程は、2023年4月1日から施行する。

資料 13

○実践女子大学環境デザイン学部教授会運営内規（案）

(根拠)

第 1 条　実践女子大学教授会規程第 3 条の規定により、環境デザイン学部教授会運営内規を次のとおり定める。

(構成員)

第 2 条　環境デザイン学部教授会(以下「教授会」という。)は、実践女子大学環境デザイン学部に所属する教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

2　教授会が必要と認めたときは、構成員以外の教職員を出席させ、意見を求めることができる。

(議長)

第 3 条　教授会の議長は、学部長がこの任にあたる。

2　学部長に事故有るときは、予め指名された教員が議長の任にあたる。

(招集)

第 4 条　教授会は、学部長が招集する。

2　構成員の 3 分の 1 以上によって請求があった場合、学部長は、その請求があった日から 7 日以内に教授会を招集しなければならない。

3　教授会の招集は、少なくともその開催の 7 日前までに、その会議の目的たる事項、日時及び場所を構成員に書面又は電磁的方法により通知しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りではない。

(定足数)

第 5 条　教授会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。

2　休職中の者又は理事長職若しくは学長職若しくは副学長職についた者の当該任期中は構成員数に含めない。

3　前号の規定にかかわらず学長職又は副学長職についた者から申し出があった場合は構成員数に含めることができる。

(議決)

第 6 条　構成員は、教授会において、各 1 個の表決権を有する。

2　教授会の議事は、他に特別の定めのある場合を除き、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(特別議決事項)

第 7 条　教員の採用及び昇任に係る事項は、別に定める内規によってその議決方法を定める。

(議事録)

第 8 条　教授会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2　議事録は、議長及び学科主任が署名しなければならない。ただし、署名人欠席の場合は、議

長が出席者の中から署名人を指名する。

3　議事録は、事務局に保管し、教授会構成員から請求があった場合は閲覧させなければならない。

(委員会)

第９条　教授会の運営を円滑に行うために、委員会を置くことができる。委員会については、教授会の議決を経て、別に定める。

(事務局)

第 10 条　教授会の事務は、教育総合サポート部が行う。

(雑則)

第 11 条　この内規に規定されない教授会の運営についての細部は、その都度、教授会において定める。

(改廃)

第 12 条　この内規の改廃は、教授会の議を経なければならない。

附　則

この内規は、2025 年 4 月 1 日から施行する。

資料14

○実践女子大学協議会規程

（平成27年3月19日制定）

改正　平成28年3月23日改正　平成28年4月13日改正
平成29年4月26日改正　2019年3月13日改正
2022年6月1日改正

（目的）

第1条　実践女子大学及び実践女子大学大学院（以下「本学」という。）の教学関係管理・運営に関する事項を審議するために、実践女子大学協議会（以下「大学協議会」という。）を置く。

2　大学協議会は、学長が教学の重要事項を決定するに当たり、教授会及び研究科委員会（以下「教授会等」という。）の意見を聴き、十分に協議を行う。

3　大学協議会は、本学の教育課程の編成に関する全学的な方針を策定し、その検証・評価を行う。

4　大学協議会は、本学の教育の質保証の責任を担い、自己点検・評価等の検証結果を改善・改革に反映するための方針を協議する。

（審議事項）

第2条　大学協議会は、次の事項を審議する。

(1)　理事会付議事項である学部・学科・研究科・専攻の設置及び廃止並びに定員に関する事項
(2)　理事会付議事項である学則の改廃に関する事項
(3)　常任理事会付議事項である教学関係規程の制定及び改廃に関する事項
(4)　教員人事計画及び教員の採用・昇任に関する事項
(5)　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
(6)　奨学金に関する事項
(7)　授業の内容及び授業方法の改善と向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
(8)　教育研究活動等の効果的な運営のための、教職員の能力及び資質の向上を目的としたスタッフ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
(9)　前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、学長が予め教授会等の意見を聴取することが必要と認めた事項
(10)　第1号から第8号に掲げるもののほか、教授会等が審議し学長に提出された意見のうち、学長が審議が必要と認めた事項

2　前項第8号の審議にあたっては、事前に人事担当理事と協議するものとする。

（構成員）

第3条　大学協議会の構成員は、次のとおりとする。

(1)　学長
(2)　副学長
(3)　各学部長
(4)　各研究科委員長
(5)　大学教育研究センター長
(6)　学生総合支援センター長
(7)　教学事務局長
(8)　学長室部長
(9)　学生総合支援センター副センター長（事務職員）
(10)　国際交流推進部長
(11)　研究推進室部長
(12)　その他学長が必要と認めた者

（招集・議長）
第4条　大学協議会は、学長が招集し、議長となる。
2　学長に事故あるとき又は学長が欠けたときは、副学長がその職務を代行する。
（成立）
第5条　大学協議会は、構成員の３分の２以上の出席をもって成立する。
2　学長は、必要に応じて構成員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
（学長の決定）
第6条　学長は、第2条に定める審議事項について、前条の規定により審議された事項を参酌し、決定する。
2　学長は、大学協議会における再審議が必要と認めたときは、改めて大学協議会にて審議を行うことができる。
（決定事項の報告等）
第7条　学長は、大学協議会で審議した理事会付議事項及び常任理事会付議事項について、常任理事会に付議する。
2　学長は、前条で決定した事項のうち、学園の経営にかかわる重要事項について、常任理事会に報告し、承認を得るものとする。
3　学部長は、大学協議会で協議し、学長が決定した学部運営上必要な事項を学部教授会に報告するものとする。
4　研究科委員長は、大学協議会で協議し、学長が決定した研究科運営上必要な事項を研究科委員会に報告するものとする。
（任期）
第8条　第3条第12号の構成員の任期は1年とする。
2　前項以外の構成員の任期は、役職の任期とする。
（事務）
第9条　大学協議会の事務は、学長室が行う。
（大学短大協議会）
第10条　学長は、大学・短期大学部の共通事項を審議するため、実践女子大学短期大学部協議会と合同で開催することができる。
2　前項の合同で行う協議会を「大学短大協議会」と称し、その運営は、大学協議会に準ずる。
（改廃）
第11条　この規程の改廃については、大学協議会の議を経て、学長が決定し、常任理事会に付議する。

附　則
この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附　則（平成28年3月23日改正）
この改正規程は、平成28年4月1日から施行する。

附　則（平成28年4月13日改正）
この改正規程は、平成28年4月13日から施行する。

附　則（平成29年4月26日改正）
この改正規定は、平成29年4月26日から施行する。

附　則（2019年3月13日改正）

この改正規程は、2019年4月1日から施行する。

附　則(2022年6月1日改正)

この改正規程は、 2022年6月1日から施行する。

資料15

○実践女子大学自己点検・評価に関する規程

（平成17年6月1日制定）

改正　平成22年3月24日　平成26年4月1日改正
2019年3月13日改正　2019年5月22日改正
2022年6月1日改正　2024年2月14日改正

（目的）

第1条　この規程は、「実践女子大学学則」第2条及び「実践女子大学大学院学則」第2条に基づき、実践女子大学及び実践女子大学大学院（以下「本学」という。）の自己点検・評価に関する必要な事項を定める。

（自己点検・評価の組織）

第2条　本学は、自己点検・評価を円滑に実施するため、大学自己点検・評価委員会を置く。

2　前項に定めるもののほか、本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保するため、学外有識者によって組織する外部評価・助言委員会を置く。

3　前項の外部評価・助言委員会については、別に定める「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程」による。

（大学自己点検・評価委員会）

第3条　大学自己点検・評価委員会は、本学の自己点検・評価全体を統括し、次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　自己点検・評価の基本方針及び実施要領の策定に関する事項
(2)　自己点検・評価の実施に関する事項
(3)　各学部及び大学院各研究科等の自己点検・評価委員会（以下「部門会議」という。）への連絡、調整に関する事項
(4)　各部門会議の自己点検・評価結果の総括及び大学全体の自己点検・評価報告書の作成に関する事項
(5)　前号に基づく実践女子学園自己点検・評価委員会(以下「学園自己点検・評価委員会」という。)及び大学協議会への報告
(6)　その他本学の自己点検・評価に関する事項

2　大学自己点検・評価委員会は、次の委員をもって構成する。

(1)　副学長
(2)　学部長
(3)　大学院研究科委員会委員長
(4)　大学教育研究センター長
(5)　学生総合支援センター長
(6)　学長室部長
(7)　学生総合支援センター副センター長（事務職員）
(8)　研究推進室部長
(9)　その他副学長が必要と認める者

3　前項第9号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

4　大学自己点検・評価委員会は、必要に応じて構成員以外の者に出席を求め意見を徴することができる。

5　委員会に委員長及び副委員長を置く。

6　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

7　大学自己点検・評価委員会の委員長は、副学長がこれにあたる。副委員長は、副学長が選任する。

8　大学自己点検・評価委員会は、自己点検・評価報告書を、学園自己点検・評価委員会の承認を得て、公表することができる。
9　大学自己点検・評価委員会の事務は、学長室が所管する。
（各学部自己点検・評価委員会）
第4条　部門会議の構成は、次のとおりとする。
(1)　文学部自己点検・評価委員会
(2)　生活科学部自己点検・評価委員会
(3)　人間社会学部自己点検・評価委員会
(4)　国際学部自己点検・評価委員会
(5)　大学院文学研究科自己点検・評価委員会
(6)　大学院生活科学研究科自己点検・評価委員会
(7)　大学院人間社会研究科自己点検・評価委員会
（部門会議の業務）
第5条　部門会議は、次の各号に掲げる業務を行う。
(1)　各学部（課程・研究所を含む。以下同じ）及び各研究科等の自己点検・評価の実施
(2)　自己点検・評価結果の報告書の作成及び大学自己点検・評価運営委員会への提出
(3)　自己点検・評価結果に基づく検証及び活用
(4)　その他各学部及び各研究科等の自己点検・評価の実施に関すること
2　部門会議は、各学部長及び各研究科委員会委員長が委員長となり、各学部及び各研究科の専任教員若干名を委員とする。
3　前項の委員は、各学部長及び各研究科委員会委員長が選任し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
（改廃）
第6条　この規程の改廃については、大学自己点検・評価委員会の議を経て、学長が決定し、常任理事会に付議する。

附　則
1　この規程は、平成17年6月1日から施行する。
2　平成5年10月1日施行の実践女子大学自己評価委員会規程及び平成5年11月1日施行の実践女子大学大学院自己評価委員会規程は廃止する。

附　則（平成22年3月24日）
この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。

附　則（平成26年4月1日改正）
この改正規程は、平成26年4月1日から施行する。

附　則（2019年3月13日改正）
この改正規程は、2019年4月1日から施行する。

附　則（2019年5月22日改正）
この改正規程は、2019年5月22日から施行する。

附　則（2022年6月1日改正）
この改正規定は、2022年6月1日から施行する。

附　則(2024年2月14日改正)

この改正規程は、2024年4月1日から施行する。

資料16

○実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程

（平成28年7月20日制定）

（趣旨）

第1条　この規程は、実践女子大学学則第2条、実践女子大学大学院学則第2条及び実践女子大学短期大学部学則第2条に基づき、実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部（以下「本学」という。）の自己点検・評価の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させることを目的として設置する外部評価･助言委員会（以下「委員会」という。）に関する必要な事項を定める。

（構成）

第2条　委員会は、学外有識者による委員をもって構成する。

2　前項の外部評価委員については、次条で定める。

（外部評価委員）

第3条　外部評価委員は、人格識見が高く、かつ本学の振興と発展に関心と理解のある学外者とする。

2　外部評価委員は、6名以上12名以内とする。

3　外部評価委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

4　外部評価委員の選任及び任命は、大学協議会及び短期大学部協議会の議を経て学長が行う。

（委員長及び副委員長）

第4条　委員会に委員長及び副委員長をおく。

2　委員長及び副委員長は、委員の中から互選する。

3　副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（評価・助言項目）

第5条　委員会は、本学の教育・研究活動等の現状を把握し、将来の発展のために、次の各号に定める事項について、評価・助言を行う。

(1) 本学の教育活動に関する事項

(2) 本学の研究活動に関する事項

(3) 本学の社会貢献活動に関する事項

(4) その他学長から諮問された事項

（委員会の運営）

第6条　委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2　委員会は、原則として年に1回以上開催する。

3　委員会は、評価・助言の結果及び改善を求める提言事項を報告書にまとめ、学長に提出する。

4　委員会は、必要に応じて、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（専門部会）

第7条　委員会は、大学・大学院・短期大学部ごとに、又は第5条各号に定める事項ごとに、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2　専門部会の長は、委員長が指名する。

3　専門部会の委員の選任等、部会の運営に関する事項は、委員会の議を経て別に定める。

4　専門部会の長は、専門部会の業務推進状況を適宜委員会に報告する。

（報告書の活用）
第8条　学長は、第6条3項により提出された報告書を受理し、「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」に定める大学自己点検・評価委員会及び「実践女子大学短期大学部自己点検・評価に関する規程」に定める短期大学部自己点検・評価委員会に提案する。
2　自己点検・評価に関する各委員会は、報告書を尊重し、点検・評価活動に反映させるものとする。
（守秘義務）
第9条　委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項について、守秘義務を順守しなければならない。かつ、任期終了後も他に漏らしてはならない。
（事務）
第10条　委員会の事務は、学長室が所管する。
（改廃）
第11条　本規程の改廃は、委員会の意見を踏まえて、学長が決定し、常任理事会が行う。

附　則
1　この規程は、平成28年7月20日から施行する。
2　第3条第3項の定めにかかわらず、平成28年度に就任した外部評価委員の任期は、平成28年度末までとする。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

（１）新設組織の概要 P.2
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員)、収容定員、所在地） P.2
②新設組織の特色 P.2
（２）人材需要の社会的な動向等 P.2
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 P.2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 P.3
③新設組織の主な学生募集地域 P.4
④既設組織の定員充足の状況 P.5
（３）学生確保の見通し P.5
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 P.5
ア　既設組織における取組とその目標 P.5
イ　新設組織における取組とその目標 P.6
ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 P.7
②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）
P.7
ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 P.7
イ　競合校の入学志願者動向 P.8
ウ　学生納付金等の金額設定の理由 P.9
③先行事例分析 P.9
④学生確保に関するアンケート調査 P.10
⑤人材需要に関するアンケート調査等 P.13
（４）新設組織の定員設定の理由 P.16

（1）新設組織の概要

①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

本学は、令和 7 年 4 月に日野キャンパスに既設の生活科学部生活環境学科を改組して、新たな学部を設置する。

新設学部は、環境デザイン学部と称し、学科構成は、環境デザイン学科 1 学科、入学定員を 81 名、収容定員 324 名とする。

日野キャンパスは、東京都日野市にあり、生活科学部食生活科学科、生活文化学科、現代生活学科と共有する。

＜図表１＞

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地（教育研究を行うキャンパス）
実践女子大学 環境デザイン学部環境デザイン学科	81	－	324	東京都日野市大坂上 4－1－1

②新設組織の特色

環境デザイン学部は、快適な生活環境を目指し、人間を中心に衣、モノ、住を構成要素とする人間を取り巻く身近な環境について、生活科学部生活環境学科の教育研究の分野を踏襲し、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザインの各分野について深く学ぶとともに、社会を構成するヒト・モノ・コトのデザイン、および情報のデザインなどを含む、より幅広い内容を含むデザインを複合的に学ぶものである。これからの地域社会におけるコミュニティの活性化、およびよりよい社会生活の実現を目指し、衣環境、モノ環境、住環境の視点を踏まえ、これらを融合的に結びつけて提案する総合デザインの視点から、より豊かな環境づくりに貢献できる人材の育成を進めることとした。

環境デザイン学部は、既存の生活科学部生活環境学科を廃止し、新たな学部として設置する。環境デザイン学部の教育・研究分野は、生活環境学科を踏襲するものである。

（2）人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

環境デザイン学部では、アパレル・ファッション分野、プロダクト・インテリア分野、建築・住環境デザイン分野の各授業科目を学ぶことで、生活環境、都市環境、社会環境に関わる各分野の専門的な知識とデザイン力を培う。また、総合デザイン分野の科目を通じて、各分野で学んだ様々なスキルを活かし、地域・社会の中にある社会的な課題を対象に、課題発見力と問題解決のための提案力、そしてさまざまな主体と協働・共創する力を養成する。生活環境、都市環境、社会環境などにわたって幅広い視点から環境を捉え、デザイン行為によって環境にどのような改善をもたらすことができるのか、その影響や相互関係を多様な視点から理解し、各分野で学んだ様々なスキルを総合的に用いて、モノ・ヒト・コトのデザインを含めたデザイン力によって社会課題を解決することができる人材を育成する。

現代社会においては、地方のみならず都市圏においてもコミュニティ活動の重要性が問

われており、持続可能な生活圏の再構築のための地域コミュニティの再生として、地方の自治会等のみならず、都市におけるコミュニティの再生がうたわれている。【資料 1】「国土形成計画（全国計画）令和 5 年 7 月 28 日閣議決定」

本学部の養成する人材像は、生活に密着した、アパレル・ファッション分野、プロダクト・インテリア分野、建築・住環境デザイン分野を学ぶとともに、地域・社会の中にある社会的な課題を対象に、課題発見力と問題解決のための提案をできる人材を養成すことであり、各専門分野での活躍のみならず、地域での活躍も想定できる。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学が立地する東京都は、日本最大の人口を擁するとともに、大学進学率でみても 69.8%と高い。さらに、大学進学時には、他県から東京の大学に進学する人数も多い。本学は、文学部、人間社会学部、国際学部を設置する渋谷キャンパスと、生活科学部を設置する日野キャンパスの 2 キャンパスであるが、環境デザイン学部は日野キャンパスに設置する。令和 5 年(2023 年)度の大学全体の入学者数 1,032 名の出身都道府県では、東京都 363 名(34.8%)、埼玉県 183 名（17.6%)、神奈川県 143 名（13.7%)、千葉県 91 名（8.7%）の 4 都県で全体の 4 分の 3 にあたっている。日野キャンパスに所在する生活科学部入学者 462 名の出身都道府県では、東京都 177 名（38.3%)、埼玉県 80 名（17.3%)、神奈川県 46 名（10.0%)、千葉県 20 名（4.3%）であり、4 都県で全体の 70%であるが、山梨県 20 名、福島県 18 名などからの入学者もある。【資料 2】「令和 5 年度（2023 年度）実践女子大学・短期大学部出身都道府県別入学者数」

東京都は他の地域からの受験生や入学生も毎年一定程度あるが、日本全国で人口が減少しているので、ここでは、本学が所在する東京都を中心として、中期的な 18 歳人口の動向を、国勢調査結果を参考として検証する。

令和 2 年（2020 年）の国勢調査によると、女子の人口は 15 歳が全国で 514,877 人、東京都は 47,019 人、埼玉県 29,449 人、千葉県 25,400 人、神奈川県 36,733 人であり、4 都県で全体の 27%の人口を有する。また、10 歳の女子の人口は全国で 508,384 人、東京都 49,864 人、埼玉県 28,983 人、千葉県 24,827 人、神奈川県 36,941 人であり、4 都県で全国の 27.7%の人口を有している。さらに、5 歳の女子の人口においても全国で 478,571 人、東京都 52,123 人、埼玉県 27,212 人、千葉県 23,298 人、神奈川県 34,792 人であり、4 都県で全国の 28.7%であり、全国の減少率に対して減少率も若干小さい数値を示している。

将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的には本学が入学者を確保するには十分な 18 歳人口があると考える。

＜図表２＞

地域別女子の人口

地域名	総数	0歳		5歳		10歳		15歳	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
全国	62,465,616	397,871		478,571		508,384		514,877	
埼玉県	3,539,406	22,580	5.7	27,212	5.7	28,983	5.7	29,449	5.7
千葉県	3,042,017	19,292	4.8	23,298	4.9	24,827	4.9	25,400	4.9
東京都	6,740,800	46,831	11.8	52,123	10.9	49,864	9.8	47,019	9.1
神奈川県	4,470,478	29,082	7.3	34,792	7.3	36,941	7.3	36,733	7.1

（令和2年国勢調査人口等基本集計より作成）

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来人口推計（平成 30 年)」の都道府県別 0－14 歳人口の指数によれば、日本全国では、平成 27 年（2015 年）に対し、令和 12 年（2030 年）の 0 歳～14 歳の人口は 82.9 であるのに対し、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の 4 都県の値は千葉県が 83.2、埼玉県 85.2、神奈川県 85.3、東京都 96.6 でいずれも高い。さらに平成 57 年（2045 年）の 0 歳～14 歳の人口は全国では 71.4 であるのに対して、東京都が 92.4 のほか、一番低い千葉県でも 74.1 など東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県は全国よりも高く、中期的にみても受験対象者層の人数は十分にあると考える。

＜図表３＞

都道府県別0-14歳人口と指数(平成27(2015)年＝100)

地域	総人口(1,000人)							指数(平成27(2015)年＝100)	
	平成27年(2015)	平成32年(2020)	平成37年(2025)	平成42年(2030)	平成47年(2035)	平成52年(2040)	平成57年(2045)	平成42年(2030)	平成57年(2045)
全国	15,945	15,075	14,073	13,212	12,457	11,936	11,384	82.9	71.4
埼玉県	914	871	819	779	744	723	698	85.2	76.5
千葉県	768	724	675	639	608	589	569	83.2	74.1
東京都	1,523	1,534	1,508	1,471	1,443	1,432	1,408	96.6	92.4
神奈川県	1,145	1,092	1,028	977	937	917	891	85.3	77.8

注) 指数とは、平成27(2015)年の0-14歳人口を100としたときの0-14歳人口の値のこと。

※データは男女合計の数値である。男女比はおおよそ50対50。

※都道府県別0-14歳人口と指数から、4都県を抽出

③新設組織の主な学生募集地域

【資料 3】「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」の「出身高校の所在地県別の入学者数の構成比」にあるとおり、本学の入学者の割合が多い都道府県は、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県であり、これに日野キャンパスの特徴として福島県、新潟県、山梨県、静岡県からの出身者もそれぞれ数%を占める。

出身者の多い都県の中でも、東京都が入学者の 35%を占めており、東京都を学生募集地域の重点地域とするとともに、埼玉県、神奈川県の高校などにも新学部の案内を積極的に行う。

生活科学部の出身都道府県をもとに、環境デザイン学部の各都県からの入学者数を、東京都 31 名、埼玉県 14 名、神奈川県 8 名、千葉県 3 名と想定する。上記 4 都県を除く関東圏から 6 名とし、残り 19 名を福島県、新潟県、山梨県、静岡県及びその他の地域からの志願者で確保する。

山梨県は日野キャンパスから中央本線で直接行くことができ、また福島県、新潟県、静岡県については、地方入試を行うもしくは近接している地域なので、学生募集地域としても十分広報活動が可能である。

④既設組織の定員充足の状況

実践女子大学日野キャンパスでは生活科学部食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科及び現代生活学科の 4 学科で教育を展開している。なお、渋谷キャンパスでは、文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科及び人間社会学部人間社会学科、現代社会学科が教育を展開している。

本学の既存学部の過去 5 年間の志願者、合格者、入学者数は【資料 4】「既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）」のとおりであり、志願者数は減少の傾向を示しているが、入学定員を上回る合格者を出し、毎年入学定員を充足している。

環境デザイン学部においては、既存の学部としては生活科学部生活環境学科を改組して設置するものであり、生活環境学科は過去 5 年間の志願者数が減少はしてきているが、直近令和 5 年度（2023）においても入学定員 80 名に対し 301 名の志願者があるため、新学部においても入学者の確保が十分にできると考える。

なお、令和 5 年度（2023 年度）入試において、大学全体では入学定員 920 名に対し 4,208 名の志願者があり、生活科学部食生活科学科食物科学専攻のみ入学者数が定員を下回りはしたが、食生活科学科全体では、定員を確保できており、今後も既設学部学科においても、入学定員の確保はできる。

（3）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア　既設組織における取組とその目標

既設学部として生活科学部生活環境学科における主な取組は、【資料 5】「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」のとおりである。

1）オープンキャンパス

令和 4 年度（2022 年度）入試に向けて実施したオープンキャンパスで生活環境学科を希望した来場者は 329 名、うち受験者は 91 名、入学者が 71 名あった。令和 5 年度（2023 年度）に実施したオープンキャンパスでも 287 名の来場、うち受験者 62 名であり、受験生のうち 8 割に当たる 56 名が入学した。

2）大学案内送付

大学案内として、大学案内、入試ガイド、イベントちらし、学科情報リーフレット等を資料請求者とともにオープンキャンパス来場者、進学相談会等で資料送付希望があったものに郵送する。

令和 4 年度（2021 年度）入試では 18,048 件の送付を行い、生活環境学科の希望者として 132 名が受験対象者であり、79 名が受験、30 名が入学した。令和 5 年度（2023 年度）入試でも 18,883 件送付し、129 名の希望者のうち、57 名が受験し、28 名の入学者につながった。

3)大学進学相談会（会場ガイダンス）

関東を中心に会場型進学相談会に参加し、大学の特色・学科の優位性等について説明を行う。進学相談会の受験対象者数、受験者数、入学者数の数値はとれないが、オープンキャンパスや資料請求等とは異なり、受験生が多数の参加大学から大学説明を受けられ、志望校を絞る事が出来る場である。令和 4 年度は総数 378 名の本学ブースへの来場があり、令和 5 年度では総数 604 名と大幅増となった。本学への認知度が低い受験生に対してもアピールできることから受験者の獲得にむけて効果がある。

4）大学進学相談会（校内ガイダンス）

高等学校内で実施する進学相談会等に積極的に参加している。高等学校内で行う事で、高等学校推薦の大学となり、生徒たちは興味を持って聴講いただける。受験対象者の数値は取れないが、本学の認知度を高めるために効果がある。特に高校側からの依頼を受けて実施するものであるので、ある程度大学の概要を知ってはいても、各学科の教育の特色などを伝えることができる。令和 4 年度は総数 699 名の来場があり、令和 5 年度は総数 823 名と大幅増となっている。

イ 新設組織における取組とその目標

１）オープンキャンパス

例年オープンキャンパスは 3 月から 9 月に実施しており、2024 年度も 3 月から開始し、9 月までに日野キャンパスでは 9 回（3 月 24 日、4 月 28 日、5 月 26 日、6 月 16 日、7 月 21 日、8 月 3 日、8 月 10 日、8 月 24 日、9 月 16 日）の開催を予定している。

オープンキャンパスでは、毎回来場目標数を設定している。環境デザイン学部は、日野キャンパスでの広報を中心として行うが、渋谷キャンパスにおいても参加し、新学部紹介として、受験生への周知を高めるようにする。来場目標数は、昨年度を超す来場数を目標値とし、来場者に対しては積極的に新学部をＰＲしていく。

各オープンキャンパスでは、各学部学科の学科説明会や、模擬授業、入試対策講座、在学生との交流、入学者選抜や学費等の相談などを実施する。

2）大学案内送付

大学案内の郵送は、受験生からの登録に従い郵送している。

現在、募集要項を web 上に掲載し、出願は web より行っている。大学案内などを希望する場合はフォームからの申し込み、各種媒体より請求を行うことにより、発送を行っている。

発送を希望した方には、大学案内・学科別案内パンフレット・オープンキャンパス一覧・新学部パンフレット・入試ガイド等を直接届けられ、本学への認知及び環境デザイン学科の周知に繋がっている。

大学案内は全体で 30,000 部作成し、大学案内の送付として 10,000 部を予定している。

3）大学進学相談会（会場ガイダンス）

令和 6 年度の会場型進学相談会への参加は、4 月から 10 月にかけて 25 会場への参加を計画している。さらに今年度は新学部の PR を中心に、栃木・埼玉・東京・神奈川・茨城・長野・静岡の会場を増強している。

入学サポート部の職員が参加する対面型が中心であるが、資料配布のみとする会場もある。多くの会場を新規で増強する事で、新学部環境デザイン学部に関するＰＲを接触的に行っていく。

4）大学進学相談会（高校ガイダンス）

各高校のスケジュールにより参加依頼が行われるため、参加数は計画できないが、参加依頼があれば積極的に参加し、新学部の広報を中心に行っていく。令和 5 年度の参加実績としては、総数 131 回の相談会へ参加している。

ウ　当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記取組を行うことにより、環境デザイン学部の入学定員 81 名を確保する。イに示す取り組みのうち、特にオープンキャンパスの参加者が受験した場合の入学率が高いため、年 9 回のオープンキャンパスにおける広報活動を積極的に行うこととする。また、大学案内の送付は、本学に興味関心が高い受験生からの希望であるので、大学案内とともに学科案内などを同送するなどし、受験並びに入学につなげていく。このような取り組みのもと、入学定員である 81 名の入学者の確保を見込む。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア　競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

環境デザイン学部の競合校には、東京都及びその近県に所在する大学で、本学部の教育内容である「アパレル・ファッション」「プロダクト・インテリア」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」に関する教育を行う女子大学及び学力層が本学の上位となる中堅共学大学などの学部学科を想定している。

競合校と設定したのは、次の大学である。

昭和女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（210 人）東京都世田谷区

日本女子大学　建築デザイン学部建築デザイン学科（100 人）東京都文京区

東京家政大学　家政学部造形表現学科（120 人）東京都板橋区

共立女子大学　建築・デザイン学部建築・デザイン学科（100 人）東京都千代田区
多摩美術大学　美術学部環境デザイン学科（80 人）東京都八王子市
芝浦工業大学　建築学部建築学科（240 人）東京都江東区
東洋大学　理工学部建築学科（146 人）埼玉県川越市

上記の各大学を競合校として設定したのは、次のとおりである。昭和女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科、東京家政大学家政学部造形表現学科は、いずれも女子大学の家政系学部の学科をもとにしたデザイン系、建築系の学部学科である。多摩美術大学美術学部環境デザイン学科は、本学部の名称と同一であり、デザインとコミュニティを関連づけた教育研究を行っている。芝浦工業大学建築学部建築学科、東洋大学理工学部建築学科は、本学環境デザイン学部の教育の柱の一つである建築に関して共学大学で、本学の上位に学力層があることから想定した。

これらの競合校に対して、本学環境デザイン学部の教育の特色は、「アパレル・ファッション」「プロダクト・インテリア」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」の 4 領域を、「ファッションデザイン」「インテリアデザイン」「プロダクトデザイン」「建築・住環境デザイン」「コミュニティデザイン」「情報・視覚デザイン」6 つの分野から自分にあったものを自由に選んで学ぶことができるシステムを有している点である。

競合校はいずれも一級建築士の受験資格を取得できる点が共通しているが、本学部では中学校・高校の教育職員免許（家庭）や衣料管理士など家政学ならではの資格取得も可能である。さらに、学納金を比較すると、生活科学系（家政学系）の学納金は他のデザイン系、工学建築系に比較すると低額になっており、本学の学納金は共立女子大学、東京家政大学よりは若干高くなっているが、2 大学以外の他大学に比すと低額に設定している。

これらのことから本学部は競合校に対する優位性を有している。

イ　競合校の入学志願者動向

本学の環境デザイン学部の学問分野は家政学関係である一方、学部名称に「デザイン」が付き、学問領域として「建築」「総合デザイン」と多様であることから、競合する大学は生活科学、工学系建築、デザイン系を学べる東京都及び近県にある女子大学及び偏差値帯が本学と重なる上位の中堅共学校とした。

具体的には、昭和女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科、東京家政大学家政学部造形表現学科、共立女子大学建築・デザイン学部建築・デザイン学科、多摩美術大学美術学部環境デザイン学科、芝浦工業大学建築学部建築学科、東洋大学理工学部建築学科などを想定している。

これらの大学の志願状況等をみると、2023 年度入試において家政系デザイン、建築等を学ぶ学科においては、昭和女子大学環境デザイン学科 6.4 倍、日本女子大学住居学科 7.5 倍、東京家政大学造形表現学科 2.1 倍、共立女子大学建築・デザイン学科 7.7 倍、また工学

系建築学科では、芝浦工業大学建築学科 22.5 倍、東洋大学建築学科 12.1 倍であり、デザイン系の多摩美術大学環境デザイン学科 5.3 倍など、いずれも志願者を確保しており、各大学入学定員を充足している。また、生活科学系、デザイン系、工学建築系の各大学の志願者総数はそれぞれ 7,491 名、10,525 名、29,923 名であり、男女共学であるとしても、本学が環境デザイン学部を設置した場合の志願者数が相当数あり、入学者を確保できる。

【資料 6】「環境デザイン学部　志願者と倍率」

以上のことから、本学環境デザイン学部においても十分入学者を確保できると考える。

ウ　学生納付金等の金額設定の理由

環境デザイン学部の授業料は、年間 790,000 円とする。本学の入学金は、240,000 円、施設設備費は 320,000 円、実験実習費は 40,000 円、その他納付金 37,010 円であり、授業料を合わせた環境デザイン学部の初年度納入金は 1,427,010 円である。

環境デザイン学部の学費は、日野キャンパスの他学部・学科と比較すると、授業料は食生活科学科管理栄養士専攻及び生活文化学科幼児保育専攻の 810,000 円よりも 20,000 円/年安く、生活科学部の他学科・他専攻と同額としている。食生活科学科には管理栄養士専攻、生活文化学科には幼児保育専攻を置き、それぞれ厚生労働省の定める管理栄養士並びに保育士の養成施設であり、養成施設として教員を他の学科等に比べて多く配置しているが、環境デザイン学部には該当しなく、教員を大幅に増員する要因がないため、他学科と同額が適切である。また環境デザイン学部においては実験実習室を活用した授業運営が多くあり、それらの実験器具等の維持のために実験実習費を徴収するが、その額は施設維持に必要なものであり、食生活科学科の各専攻の施設維持と教材等の購入を合わせた実験実習費よりも低額としたものであり、適切である。

他大学との比較においては、本学環境デザイン学部の初年度納付金 1,427,010 円は、競合校として掲げた、日本女子大学、昭和女子大学の建築、デザイン系学部の初年度納付金額よりも低く、東京家政大学の 1,417,500 円とほぼ同額である。さらに競合大学の工学建築系では、1,595,000 円～1,794,880 円で本学の学費は低額となっており、競争力の観点から優位と言える。

③先行事例分析

本学と同様に、家政系学部か住居、建築系学科を独立した学部にした先行事例として、競合校でもある昭和女子大学、共立女子大学、日本女子大学がある。

1）昭和女子大学

昭和女子大学生活科学部生活環境学科を、令和 2 年（2020 年）4 月に環境デザイン学部環境デザイン学科に改め設置届出により設置した。

昭和女子大学環境デザイン学部の過去 3 年間の志願倍率は、令和 3 年 5.7 倍、令和 4 年 6.3 倍、令和 5 年 6.4 倍。

2）共立女子大学

共立女子大学家政学部建築・デザイン学科を、令和5年（2023年）4月に建築・デザイン学部建築・デザイン学科に改め設置届出により設置した。

共立女子大学家政学部建築・デザイン学科及び建築・デザイン学部の志願倍率は、令和3年4.7倍、令和4年4.0倍、令和5年7.7倍。

3）日本女子大学

日本女子大学家政学部住居学科を、令和6年（2024年）4月に建築デザイン学部建築デザイン学科に改め設置届出により設置した。

日本女子大学家政学部住居学科の志願倍率は、令和3年6.3倍、令和4年8.4倍、令和5年7.5倍であった。

以上のとおり、先行事例となる3大学はそれぞれ東京に所在する女子大学であり、家政系学部に設置していた住環境分野を有する学科から主に住環境およびそれに近接する学問領域を独立した学部・学科としている。日本女子大学においては令和6年4月開設のため志願者、入学者は不明ではあるが、他2大学ともに志願状況、入学状況ともに入学定員を上回り、入学定員の確保ができている。

④学生確保に関するアンケート調査

学生確保の見通しの調査結果

環境デザイン学部の設置にあたり、同学部への入学意向を把握するために、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に所在し、本学に進学実績のある高等学校を中心に、令和7年度（2025年度）の進学者である高校2年生の女子生徒を対象に、第三者機関である「株式会社日本ドリコム」を介してアンケートを実施した。

なお、既設の生活科学部入学者では、東京圏のほか山梨県、福島県からも一定数の入学者があるが、本調査では主に東京圏の高校を対象とし、一部福島県、福岡県の高校にて実施した。【資料7】「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：構想中）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」

調査は令和5年（2023年）10月～12月の期間で行った。また、令和5年（2023年）7月から9月の本学オープンキャンパスにおいても先行して調査を行った。

調査方法は、高等学校171校に対してアンケートの依頼を行い（【資料7】「実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：構想中）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」資料1「調査対象とした高等学校名の一覧（順不同）」）、協力校にアンケート用紙と実践女子大学環境デザイン学部のリーフレット（【資料7】「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：構想中）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」資料3「環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）」）を送付し、対象者が直接アンケート用紙（【資料7】「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：構想中）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」資料 2「実践女子大学環境デザイン学

部環境デザイン学科（仮称・設置構想中）に関するアンケート」）に記入する方法並びに一部高等学校にはWebでの回答を併用して実施した。なお、アンケートの回答用紙は、高校から直接第三者機関である日本ドリコム社に郵送してもらい、その集計を日本ドリコムが行った。

また、オープンキャンパスにおいては、生活科学部生活環境学科を希望して来場した高校2年生を対象に、概要の説明並びにアンケート用紙を配布して実施した。

アンケートの実施にあたっては、興味のある学問分野や新学部学科での教育内容、本学への受験意向、合格後の入学意向、入学したい学部学科を問う形にした。

アンケート用紙を送付した高校には共学校も多くあり、回答用紙の回収6,483件に対し、高校2年生、女子に限ると有効回答数は6,124件となった。

さらに高校卒業後の希望進路として、「大学」を選択したものは、5,227件（85.4%）であったので、5,227件を対象に集計処理を行い分析した。

○関心がある学びの分野（複数回答）

アンケートQ6で、回答者全体に質問した興味関心のある分野では、高校2年生の秋の実施だったため、ある程度の志望分野は絞っていると思われるが、「大学」を選択したもの5,227件においては、文学、社会学、医学、美術への関心が高く、環境デザイン学部に関する分野としては、生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係が768件(14.7%)、美術・デザイン・音楽関係が840件（6.5%）などであった。

そのうち、進学を希望する場合の大学等の設置者にて「私立」を回答し、且つ興味のある学問分野について「生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係」を回答した720件について集計して分析を行った。

興味のある学問分野と設置者のクロス集計

【MA】 件数（N）　（720）	設置者		
	国立	公立	私立
文学・歴史学・哲学・心理学関係	22	31	163
社会学・法学・政治学・経済学関係	13	21	111
物理学・数学・化学・生物学関係	8	9	27
機械・電気通信・建築学・情報学関係	7	6	28
農林水産学・獣医学関係	8	10	36
医学・歯学・薬学・看護学・保健衛生関係	13	26	79
生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係	73	104	720
教育学・体育学関係	17	24	114
美術・デザイン・音楽関係	20	28	172
その他	1	1	13

分からない	0	0	0

〇環境デザイン学部環境デザイン学科の特色について関心が持てるもの

環境デザイン学部環境デザイン学科では、「アパレル・ファッション」「プロダクツ・インテリア」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」を専門教育の柱とするとともに、各授業科目の履修は学生の将来構想により自主的に選択が出来るとこととしており、アンケートでも興味がある領域を自由に履修できることに対して半数以上の回答を得ている。

また、高い専門性を身につけられることに対する回答率も高い。

「興味がある領域を自由履修できること」390（54.2%)、「高い専門性を身につけられること」314（43.6%)、「企業や地域とコラボするプロジェクト」215（29.9%)、「総合的な問題解決にチャレンジできる」174（24.2%）

〇受験意向

環境デザイン学部の受験意向として、720名のうち、第一志望として受験すると回答したのは116名（16.1%）であり、「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を合計した受験するは、219名（30.4%）であった。

受験意向：設問番号（Q8）

	件数(N)	割合
全体	**(720)**	
第一志望として受験する	116	16.1%
第二志望として受験する	24	3.3%
第三志望以降として受験する	79	11.0%

〇入学意向

環境デザイン学部の入学意向にて「入学する」と回答したものは120名であったが、「第一志望で受験する」「第二志望で受験する」「第三志望以降として受験する」とのクロス集計をしたところ、「第一志望として受験する」「入学する」の回答は入学定員を超える109名であった。

受験意向と入学意向とのクロス集計

	入学する
第一志望として受験する	109
第二志望として受験する	8
第三志望以降として受験する	3

以上のとおり、東京圏を中心とした、環境デザイン学部環境デザイン学科への入学意向調査において、学生確保が十分に行える回答を得た。

さらに、今回のアンケートが東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の回答数が 5,545（90.5%）、関東地方（東京圏及び茨城県、栃木県、群馬県）では 5,576 件（91.1%）となった。

本学日野キャンパスへの入学者の割合は、東京圏の出身者が 70%強、東京圏以外の出身者が 30%弱であるので、受容性調査の結果からも、入学定員を十分確保できる。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

卒業生の採用意向の調査結果

環境デザイン学部環境デザイン学科を設置するにあたり、社会的ニーズを客観的かつ定量的に把握するために、環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査（企業）を行った。

○調査概要

調査の目的　環境デザイン学部環境デザイン学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数を調査。

調査期間　令和 5 年（2023 年）11 月 21 日～12 月 22 日

調査方法　卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者
オンライン回答フォームと質問紙による調査

有効回答数　86 件

集計会社　株式会社日本ドリコム

調査方法は、本学が環境デザイン学部の就職先と想定される企業・団体に対して、協力依頼のメールにて実践女子大学環境デザイン学部のリーフレット（【資料 8】「実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業）」資料 2「環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）」）を送付するとともに、オンライン回答フォーム（【資料 8】「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業）」資料 1「実践女子大学新学部「環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称）」設置に関するアンケート調査へのご協力のお願い」）に返信いただく方法で実施した。なお、アンケートの依頼は本学キャリア支援センターから行い、回答フォームの集計を日本ドリコムが行った。

アンケートにおける調査対象は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される東京都に所在する企業・団体を中心に行い、86 の企業・団体より有効な回答を得た。

今回の調査では、所在する都道府県、業種、従業員数、新卒者を採用する際の重視する能

力、人材の過不足の状況、直近の新卒者の採用人数、今後の新卒採用の計画を尋ね、そのうえで環境デザイン学部環境デザイン学科の社会的ニーズ、環境デザイン学部環境デザイン学科の卒業生の採用意向を調査した。【資料 8】「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業)」

○業種

今回の調査に回答のあった企業・団体の業種は次のとおりである。この回答状況は、既設の生活科学部生活環境学科における卒業生の就職先であった、建設業、製造業、卸売・小売業、不動産業のほか、情報通信業からの回答であり環境デザイン学部の卒業生の就職先とほぼ一致すると考えられる。

業種　MA

N＝86

業種	回答数	割合
１．農林漁業・鉱業・建設	7	8.1%
２．製造業	18	20.9%
３．情報通信業	20	23.3%
４．運輸業・卸売業・小売業	24	27.9%
５．金融・保険・不動産業	6	7.0%
６．宿泊・飲食サービス業	6	7.0%
７．医療・福祉業	0	0.0%
８．対個人サービス業	2	2.3%
９．他事業所サービス業	2	2.3%
10．電気・ガス・熱供給・水道業	3	3.5%
11．その他	8	9.3%

○新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか（複数回答）

今回の調査に回答により、環境デザイン学科のニーズが高いと回答した企業・団体の採用する際の重視する能力は次のとおりであり、「コミュニケーション能力」、「協調性」、「主体性」「柔軟性・素直さ」が上位であった。

新卒者を採用する際に重視する能力　MA

N＝86

重視する能力	回答数	割合
1 コミュニケーション能力	84	97.7%
8 協調性	69	80.2%
7 主体性	63	73.3%

13 柔軟性.素直さ	63	73.3%
15 チャレンジ精神	53	61.6%
4 協働力	48	55.8%
9 責任感	43	50.0%
16 ストレス耐性	40	46.5%
12 成長力	34	39.5%
6 課題解決能力	33	38.4%
2 思考力	32	37.2%
3 実践力	29	33.7%
10 リーダーシップ	24	27.9%
14 創造性	18	20.9%
5 ホスピタリティマインド	17	19.8%
11 専門性	8	9.3%
17 取得資格	6	7.0%
19 学業成績.一般常識	6	7.0%
20 外国語力（英語力）	4	4.7%
18 出身学部.学科	3	3.5%
21 海外経験、留学経験	2	2.3%
22 社会貢献活動	2	2.3%
23 その他	0	0 0%

○環境デザイン学部環境デザイン学科が養成する人材の社会的ニーズ

環境デザイン学部環境デザイン学科が養成する人材の社会的ニーズについて「ニーズは高い」(50.0%)、「どちらかといえばニーズは高い」(48.8%) と 98%にあたる 85 の企業・団体から回答があった。また 86 社・団体のうち「採用したい」は 42 件 48.8%。採用を検討したいが 30 件 34.9%であった。さらに、環境デザイン学部環境デザイン学科の卒業生の今後の採用想定人数を合計すると最も少なく見積もった場合 92 人、最も多く見積もった場合 111 人となり、人材の需要は十分に高い。

養成する人材の社会的ニーズ

N＝86

社会的ニーズ	回答数	割合
1. 高い	43	50.0%
2. どちらかといえば高い	42	48.8%
3. どちらかといえば低い	1	1.2%
4. 低い	0	0.0%

○採用想定人数

採用したいと回答した企業・団体において、採用想定人数を最も少なく見積もった場合においても入学定員を超えた想定採用人数（92 名）となっている。また、採用を検討したいと回答した企業・団体も含め、且つ最も多く見積もった場合には 153 名の採用想定人数となり入学定員の約 1.9 倍となっている。

単位：人

	採用想定人数		
	最も少なく見積もった場合	平均的な値で見積もった場合	最も多く見積もった場合
１．採用したい	92	101.5	111
２．採用を検討したい	37	39.5	42
３．どちらとも言えない	0	0	0
４．採用しない	0	0	0

なお、受容性調査における自由記述においても次の意見等があった。これらの意見は、環境デザイン学部が教育課程の柱としている「アパレル・ファッション」「インテリア・プロダクツ」「建築・住環境デザイン」「総合デザイン」の必要性を就職の現場でも求めていることであり、環境デザイン学部が行う教育内容が人材育成にもつながり、就職先でも必要とされていると考えられる。

・課題解決ができる人材は弊社でも活躍場面が多くあるため、弊社とマッチする学生さんに出会えるのではないかと期待しています
・環境デザイン学部環境デザイン学科のコミュニティデザインで学べるものが弊社としては特に興味深く、この学部学科で学んだことを発揮してもらえる場面はたくさんあるのではないかと考えます。
・創造社会への変化、自ら環境をつくりだそうと考えるデザインマインドを身につけることを目指というのに非常に共感できた。
・住まいに関する事業活動を行っており、建築に関する専門知識、顧客対応のための幅広い知識をお持ちの人材に非常に興味がございます。
・衣食住環境の内、衣住の業界に優秀な人材を輩出するイメージ
・コミュニティデザインの講義を通して、多くの人と協同することで身につくと予測されるコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップは非常に需要も高く、多種多様な企業で活躍できると思います。

(4)新設組織の定員設定の理由

環境デザイン学部は、既存の生活科学部生活環境学科の教育研究内容を深め、受験生にとって分かりやすい学部学科名称とするものであり、生活環境学科の入学定員 80 名、編入学

定員（3 年次）2 名、収容定員 324 名をもとに、収容定員を維持することとした。編入学定員については、志願者も減少しており、2 名の定員を満たさない年度もあったことから、編入学定員を設けないこととし、環境デザイン学部では、入学定員 81 名、収容定員 324 名とした。

本学部の入学定員の設定にあたっては、既設の生活科学部生活環境学科における学生募集地域や学生募集方法、本学入学者の地域的特徴、競合校の入学定員などを参考に構想したものであり、入学定員 81 名は適切である。さらに入学定員 81 名の定員確保においても、生活科学部生活環境学科にて定員を確保してきた実績があり、新学部となったのちも、これまでの入学試験における広報活動や、高校訪問数、オープンキャンパス来場者数、実際の出願者数などを考慮しても、十分志願者を集められる人数である。

また、環境デザイン系の他大学においても昭和女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（入学定員 210 名）、共立女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科（入学定員 100 名）、日本女子大学建築デザイン学部建築デザイン学科（入学定員 100 名）など、家政系学科では比較的 100 名程度の入学定員に対し、志願者倍率も 3 倍～8 倍であり、また、工学建築系の学科の場合、競合校の東洋大学理工学部建築学科（入学定員 146 名）、芝浦工業大学建築学部建築学科（入学定員 240 名）に対して 12 倍～24 倍ほどの志願倍率となっており、志願者の確保は十分見込まれることから、環境デザイン学部環境デザイン学科の入学定員 81 名は適切であると考える。【資料 6】「環境デザイン学部　志願者と倍率」（再掲）

学生確保の見通し等を記載した書類　資料

目次

資料１　「国土形成計画（全国計画）」（抜粋）　2023 年（令和 5 年）7 月 28 日閣議決定　P.　2
資料２　「令和 5 年度（2023 年度）実践女子大学出身都道府県別入学者数」　P.　3
資料３　「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」　P.　4
資料４　「既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）」　P.　5
資料５　「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」　P. 16
資料６　「環境デザイン学部　志願者と倍率」　P. 17
資料７　「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）設置に関する受容性調査結果報告書【高校生】」　P. 18
資料８　「実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）設置に関する受容性調査結果報告書【企業】」　P. 32

【資料 1】　「国土形成計画（全国計画）」（抜粋）　2023 年（令和 5 年）7 月 28 日閣議決定

第２章 目指す国土の姿－第２節 国土構造の基本構想－２．重層的な国土構造における地域整備の方向性

「新時代に地域力をつなぐ国土」の形成に向け、「シームレスな拠点連結型国土」の構築を図ることにより、広域レベルの高次の都市機能から、生活に身近な地域のコミュニティ機能まで、重層的な生活・経済圏域の形成を通じて、持続可能な形で機能や役割が発揮される国土構造の実現を目指す。

特に、四方を海に囲まれ、北海道・本州・四国・九州・沖縄本島の主要五島と多数の島々から成る南北に細長い日本列島の上で、津々浦々に人々の暮らしが営まれている国土において、人口減少が加速する中にあっても、人々が生き生きと安心して暮らし続けていける、持続可能で多様性に富む強靱な国土の形成を図っていく必要がある。このためには、時間距離の短縮や多重性・代替性の確保等を図る質の高い交通やデジタルのネットワーク強化を通じ、国土全体におけるシームレスな連結を強化して、日本海側と太平洋側の二面を効果的に活用しつつ、内陸部を含めた連結を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成を図り、活発にヒト・モノが流動し、イノベーションが促進されるとともに、災害時のリダンダンシーを確保することが重要である。

こうした観点も含め、国土全体にわたって、広域レベルでは人口や諸機能が分散的に配置されることを目指しつつ、各地域において重層的に各種サービス機能の集約拠点の形成とそのネットワーク化を図る必要がある。

広域レベルにおいては、広域的な機能の分散と連結強化の観点から、①中枢中核都市等を核とした広域圏の自立的発展、日本海側・太平洋側二面活用等の広域圏内・広域圏間の連結強化を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成を図るとともに、②三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成を通じて地方活性化、国際競争力強化を図る。

また、日常的な生活のレベルにおいては、持続可能な生活圏を再構築する観点から、③小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生を通じて生活に身近な地域コミュニティを再生するとともに、④地方の中心都市を核とした市町村界にとらわれない新たな発想からの地域生活圏の形成を図る。「新時代に地域力をつなぐ国土」の形成に向けた「シームレスな拠点連結型国土」の構築により、広域的な機能の分散と連結強化を図るとともに、持続可能な生活圏の再構築を図ることを通じて、重層的な国土構造、地域構造を形づくることで、各地域の固有の自然、文化、産業等の独自の個性を活かした、デジタルとリアルが融合するこれからの時代にふさわしい「国土の均衡ある発展」を実現することにつながっていく。

こうした重層的な国土構造を通じて、国境離島を含め、全国津々浦々において地域社会を維持することにより、安全保障の観点を含めた国土の適切な保全・管理を図る。

なお、北方領土については、国土全体の一環として開発、整備が進められるよう計画されなければならないが、現在、特殊な条件の下におかれているため、条件が整った後、地域整備の基本的方向を示すこととする。

【資料２】

令和5年度（2023年度）　実践女子大学　出身都道府県別入学者数

地域・都道府県別		文学部		生活科学部		人間社会学部		合計	
		入学者数	割合	入学者数	割合	入学者数	割合	入学者数	割合
北海道		5	1.4	7	1.5	2	0.9	14	1.3
東北	青森県	0	0.0	1	0.2	1	0.5	2	0.2
	岩手県	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	宮城県	2	0.5	2	0.4	3	1.4	7	0.7
	秋田県	1	0.3	1	0.2	0	0.0	2	0.2
	山形県	2	0.5	5	1.1	3	1.4	10	1.0
	福島県	5	1.4	18	3.9	3	1.4	26	2.5
関東	茨城県	15	4.1	13	2.8	6	2.8	34	3.3
	栃木県	3	0.8	13	2.8	4	1.9	20	1.9
	群馬県	13	3.6	9	1.9	2	0.9	24	2.3
	埼玉県	66	18.1	80	17.3	37	17.1	183	17.6
	千葉県	39	10.7	20	4.3	32	14.8	91	8.7
	東京都	118	32.4	177	38.3	68	31.5	363	34.8
	神奈川県	61	16.8	46	10.0	36	16.7	143	13.7
中部	新潟県	3	0.8	4	0.9	3	1.4	10	1.0
	富山県	0	0.0	1	0.2	1	0.5	2	0.2
	石川県	1	0.3	1	0.2	0	0.0	2	0.2
	福井県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	山梨県	6	1.6	20	4.3	4	1.9	30	2.9
	長野県	5	1.4	14	3.0	3	1.4	22	2.1
	岐阜県	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	静岡県	5	1.4	12	2.6	4	1.9	21	2.0
	愛知県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
近畿	三重県	1	0.3	2	0.4	0	0.0	3	0.3
	滋賀県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	京都府	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	大阪府	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	兵庫県	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.1
	奈良県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	和歌山県	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
中国	鳥取県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	島根県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	岡山県	0	0.0	2	0.4	1	0.5	3	0.3
	広島県	1	0.3	1	0.2	0	0.0	2	0.2
	山口県	1	0.3	1	0.2	0	0.0	2	0.2
四国	徳島県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	香川県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	愛媛県	0	0.0	2	0.4	1	0.5	3	0.3
	高知県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
九州	福岡県	1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
	佐賀県	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.1
	長崎県	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	熊本県	0	0.0	3	0.6	0	0.0	3	0.3
	大分県	0	0.0	1	0.2	0	0.0	1	0.1
	宮崎県	0	0.0	2	0.4	0	0.0	2	0.2
	鹿児島県	1	0.3	1	0.2	1	0.5	3	0.3
	沖縄県	4	1.1	1	0.2	1	0.5	6	0.6
その他		1	0.3	0	0.0	0	0.0	1	0.1
合計		364		462		216		1042	

【資料３】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	東京都	54,268人	34.5%
2	埼玉県	18,327人	11.7%
3	神奈川県	23,390人	14.9%
4	千葉県	14,112人	9.0%
5	茨城県	5,375人	3.4%
	全　　体	157,086人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	東京都	100.85%	103.48%	103.46%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和３年度	令和４年度	令和５年度
1	家政学	94.11%	95.28%	89.01%
2	家政学（生活科学部）	107.90%	104.49%	107.31%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

【資料４】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１

大学学部学科等名：文学部国文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		10人	7人	7人	7人	8人	8人
	延べ人数	志願者数	15人	40人	18人	6人	13人	18人
		受験者数	15人	3人	17人	6人	10人	10人
		合格者数	15人	3人	8人	5人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	15人	40人	18人	6人	13人	18人
		受験者数	15人	3人	17人	6人	10人	10人
		合格者数	15人	3人	8人	5人	7人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		15人	3人	8人	5人	7人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		35人	36人	37人	27人	26人	32人
	延べ人数	志願者数	111人	112人	122人	96人	85人	105人
		受験者数	111人	112人	122人	96人	85人	105人
		合格者数	105人	99人	116人	94人	85人	99.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	実　人　数	志願者数	111人	112人	122人	96人	85人	105.2
		受験者数	111人	112人	122人	96人	85人	105.2
		合格者数	105人	99人	116人	94人	85人	99.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	入学者数		103人	95人	116人	91人	83人	97.6
一般選抜	募集人数		40人	44人	42人	52人	52人	46
	延べ人数	志願者数	620人	558人	277人	161人	198人	362.8
		受験者数	570人	484人	241人	132人	175人	320.4
		合格者数	62人	91人	34人	80人	94人	72.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	16人	0人	3.2
		辞退者数	3人	9人	0人	6人	7人	5
	実　人　数	志願者数	620人	558人	277人	161人	198人	362.8
		受験者数	570人	484人	241人	132人	175人	320.4
		合格者数	62人	91人	34人	80人	94人	72.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	16人	0人	3.2
		辞退者数	3人	9人	0人	6人	7人	5
	入学者数		23人	24人	7人	19人	31人	20.8
共通テスト利用入試	募集人数		25人	23人	24人	24人	24人	24
	延べ人数	志願者数	379人	308人	181人	76人	136人	216
		受験者数	379人	308人	181人	76人	136人	216
		合格者数	73人	60人	34人	49人	69人	57
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	12人	0人	2.4
		辞退者数	11人	2人	2人	3人	3人	4.2
	実　人　数	志願者数	379人	308人	181人	76人	136人	216
		受験者数	379人	308人	181人	76人	136人	216
		合格者数	73人	60人	34人	49人	69人	57
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	12人	0人	2.4
		辞退者数	11人	2人	2人	3人	3人	4.2
	入学者数		6人	2人	1人	4人	7人	4
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	志願者数	1125人	1018人	598人	339人	432人	702人
		受験者数	1075人	907人	561人	310人	406人	652人
		合格者数	255人	253人	192人	228人	255人	237人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	28人	0人	6人
		辞退者数	14人	11人	2人	9人	11人	9人
	実　人　数	志願者数	1125人	1018人	598人	339人	432人	702人
		受験者数	1075人	907人	561人	310人	406人	652人
		合格者数	255人	253人	192人	228人	255人	237人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	28人	0人	6人
		辞退者数	14人	11人	2人	9人	11人	9人
	入学者数		147人	124人	132人	119人	128人	130人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入学定員充足率	1.34	1.13	1.20	1.08	1.16	1.18
歩留率	0.58	0.49	0.69	0.52	0.50	0.56

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２

大学学部学科等名：文学部英文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		4人	2人	2人	4人	9人	4人
	延べ人数	志願者数	3人	11人	9人	11人	15人	10人
		受験者数	3人	2人	9人	11人	15人	8人
		合格者数	3人	2人	9人	10人	15人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	11人	9人	11人	15人	10人
		受験者数	3人	2人	9人	11人	15人	8人
		合格者数	3人	2人	9人	10人	15人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	2人	9人	10人	15人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		26人	28人	26人	27人	28人	27人
	延べ人数	志願者数	66人	88人	71人	60人	50人	67人
		受験者数	66人	88人	70人	60人	50人	67人
		合格者数	64人	83人	70人	59人	50人	65.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	66人	88人	71人	60人	50人	67
		受験者数	66人	88人	70人	60人	50人	66.8
		合格者数	64人	83人	70人	59人	50人	65.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		60人	79人	68人	58人	49人	62.8
一般選抜	募集人数		55人	55人	57人	57人	54人	55.6
	延べ人数	志願者数	634人	612人	317人	229人	244人	407.2
		受験者数	586人	548人	276人	206人	206人	364.4
		合格者数	122人	156人	143人	162人	164人	149.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	29人	5人	6.8
		辞退者数	9人	12人	10人	14人	9人	10.8
	実人数	志願者数	634人	612人	317人	229人	244人	407.2
		受験者数	586人	548人	276人	206人	206人	364.4
		合格者数	122人	156人	143人	162人	164人	149.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	29人	5人	6.8
		辞退者数	9人	12人	10人	14人	9人	10.8
	入学者数		52人	39人	38人	39人	52人	44
共通テスト利用入試	募集人数		25人	25人	25人	22人	19人	23.2
	延べ人数	志願者数	348人	246人	219人	138人	183人	226.8
		受験者数	348人	246人	219人	138人	182人	226.6
		合格者数	94人	86人	102人	100人	133人	103
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	6人	8人	5人	4.6
	実人数	志願者数	348人	246人	219人	138人	183人	226.8
		受験者数	348人	246人	219人	138人	182人	226.6
		合格者数	94人	86人	102人	100人	133人	103
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	6人	8人	5人	4.6
	入学者数		11人	6人	10人	10人	7人	8.8
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	志願者数	1051人	957人	616人	438人	492人	711人
		受験者数	1003人	884人	574人	415人	453人	666人
		合格者数	283人	327人	324人	331人	362人	325人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	33人	5人	8人
		辞退者数	13人	12人	16人	22人	14人	15人
	実人数	志願者数	1051人	957人	616人	438人	492人	711人
		受験者数	1003人	884人	574人	415人	453人	666人
		合格者数	283人	327人	324人	331人	362人	325人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	33人	5人	8人
		辞退者数	13人	12人	16人	22人	14人	15人
	入学者数		126人	126人	125人	117人	123人	123人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入学定員充足率	1.15	1.15	1.14	1.06	1.12	1.12
歩留率	0.45	0.39	0.39	0.35	0.34	0.38

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－３

大学学部学科等名：文学部美学美術史学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		15人	12人	11人	11人	11人	12人
	延べ人数	志願者数	29人	26人	26人	34人	32人	29人
		受験者数	29人	11人	26人	34人	31人	26人
		合格者数	29人	11人	19人	32人	27人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	29人	26人	26人	34人	32人	29人
		受験者数	29人	11人	26人	34人	31人	26人
		合格者数	29人	11人	19人	32人	27人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		27人	11人	19人	31人	27人	23人
学校推薦型選抜	募集人数		23人	23人	22人	17人	17人	20人
	延べ人数	志願者数	44人	32人	43人	36人	57人	42人
		受験者数	44人	32人	43人	35人	57人	42人
		合格者数	41人	30人	42人	35人	56人	40.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
	実　人　数	志願者数	44人	32人	43人	36人	57人	42.4
		受験者数	44人	32人	43人	35人	57人	42.2
		合格者数	41人	30人	42人	35人	56人	40.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
	入学者数		38人	28人	42人	35人	52人	39
一般選抜	募集人数		30人	33人	35人	43人	43人	36.8
	延べ人数	志願者数	380人	413人	314人	195人	177人	295.8
		受験者数	351人	366人	266人	169人	144人	259.2
		合格者数	76人	123人	97人	87人	65人	89.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	5人	4人	1.8
		辞退者数	9人	14人	12人	5人	3人	8.6
	実　人　数	志願者数	380人	413人	314人	195人	177人	295.8
		受験者数	351人	366人	266人	169人	144人	259.2
		合格者数	76人	123人	97人	87人	65人	89.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	5人	4人	1.8
		辞退者数	9人	14人	12人	5人	3人	8.6
	入学者数		24人	46人	30人	20人	23人	28.6
共通テスト利用入試	募集人数		22人	22人	22人	19人	19人	20.8
	延べ人数	志願者数	368人	263人	247人	140人	157人	235
		受験者数	366人	262人	247人	140人	157人	234.4
		合格者数	68人	101人	129人	79人	79人	91.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	8人	11人	11人	8人	7人	9
	実　人　数	志願者数	368人	263人	247人	140人	157人	235
		受験者数	366人	262人	247人	140人	157人	234.4
		合格者数	68人	101人	129人	79人	79人	91.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	8人	11人	11人	8人	7人	9
	入学者数		14人	14人	12人	12人	11人	12.6
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	821人	734人	630人	405人	423人	603人
		受験者数	790人	671人	582人	378人	389人	562人
		合格者数	214人	265人	287人	233人	227人	245人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	11人	4人	3人
		辞退者数	19人	26人	23人	13人	10人	18人
	実　人　数	志願者数	821人	734人	630人	405人	423人	603人
		受験者数	790人	671人	582人	378人	389人	562人
		合格者数	214人	265人	287人	233人	227人	245人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	11人	4人	3人
		辞退者数	19人	26人	23人	13人	10人	18人
	入学者数		103人	99人	103人	98人	113人	103人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90
入学定員充足率	1.14	1.10	1.14	1.09	1.26	1.15
歩留率	0.48	0.37	0.36	0.42	0.50	0.43

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－４

大学学部学科等名：生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	3人	5人	7人	3人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	32人	30人	54人	23人
		受験者数	0人	0人	32人	30人	54人	23人
		合格者数	0人	0人	11人	15人	23人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	32人	30人	54人	23人
		受験者数	0人	0人	32人	30人	54人	23人
		合格者数	0人	0人	11人	15人	23人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	11人	14人	23人	10人
学校推薦型選抜	募集人数		23人	21人	18人	16人	16人	19人
	延べ人数	志願者数	40人	37人	37人	33人	49人	39人
		受験者数	40人	37人	37人	33人	49人	39人
		合格者数	24人	33人	33人	32人	40人	32人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	40人	37人	37人	33人	49人	39.2
		受験者数	40人	37人	37人	33人	49人	39.2
		合格者数	24人	33人	33人	32人	40人	32.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		24人	33人	33人	32人	40人	32人
一般選抜	募集人数		28人	30人	30人	32人	31人	30.2
	延べ人数	志願者数	388人	339人	287人	272人	240人	305人
		受験者数	347人	291人	229人	221人	197人	257人
		合格者数	108人	84人	57人	84人	43人	75人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	19人	0人	3.8
		辞退者数	9人	8人	4人	7人	3人	6.2
	実人数	志願者数	388人	339人	287人	272人	240人	305.2
		受験者数	347人	291人	229人	221人	197人	257
		合格者数	108人	84人	57人	84人	43人	75.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	19人	0人	3.8
		辞退者数	9人	8人	4人	7人	3人	6.2
	入学者数		42人	35人	24人	23人	17人	28人
共通テスト利用入試	募集人数		19人	19人	19人	17人	16人	18
	延べ人数	志願者数	248人	222人	174人	138人	106人	178人
		受験者数	244人	221人	173人	138人	104人	176人
		合格者数	86人	62人	56人	38人	20人	52人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	2人	2人	1人	2人	3.2
	実人数	志願者数	248人	222人	174人	138人	106人	177.6
		受験者数	244人	221人	173人	138人	104人	176
		合格者数	86人	62人	56人	38人	20人	52.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	2人	2人	1人	2人	3.2
	入学者数		6人	7人	8人	4人	2人	5人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		70人	70人	70人	70人	70人	70人
	延べ人数	志願者数	676人	598人	530人	473人	450人	545人
		受験者数	631人	549人	471人	422人	405人	496人
		合格者数	218人	179人	157人	169人	126人	170人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	19人	0人	4人
		辞退者数	18人	10人	6人	8人	5人	9人
	実人数	志願者数	676人	598人	530人	473人	450人	545人
		受験者数	631人	549人	471人	422人	405人	496人
		合格者数	218人	179人	157人	169人	126人	170人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	19人	0人	4人
		辞退者数	18人	10人	6人	8人	5人	9人
	入学者数		72人	75人	76人	73人	82人	76人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70
入学定員充足率	1.03	1.07	1.09	1.04	1.17	1.08
歩留率	0.33	0.42	0.48	0.43	0.65	0.46

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－５

大学学部学科等名：生活科学部食生活科学科食物科学専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		9人	9人	10人	10人	12人	10人
	延べ人数	志願者数	9人	13人	16人	31人	21人	18人
		受験者数	9人	11人	16人	30人	21人	17人
		合格者数	9人	11人	14人	24人	18人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	9人	13人	16人	31人	21人	18人
		受験者数	9人	11人	16人	30人	21人	17人
		合格者数	9人	11人	14人	24人	18人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		9人	11人	14人	24人	18人	15人
学校推薦型選抜	募集人数		36人	33人	31人	21人	21人	28人
	延べ人数	志願者数	46人	37人	50人	61人	46人	48人
		受験者数	46人	37人	50人	61人	46人	48人
		合格者数	46人	37人	50人	57人	46人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	46人	37人	50人	61人	46人	48
		受験者数	46人	37人	50人	61人	46人	48
		合格者数	46人	37人	50人	57人	46人	47.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		46人	37人	50人	57人	46人	47人
一般選抜	募集人数		17人	20人	21人	31人	30人	23.8
	延べ人数	志願者数	210人	190人	158人	123人	74人	151人
		受験者数	194人	160人	127人	102人	62人	129人
		合格者数	92人	109人	65人	36人	41人	69人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2.4
		辞退者数	10人	8人	9人	2人	11人	8
	実人数	志願者数	210人	190人	158人	123人	74人	151
		受験者数	194人	160人	127人	102人	62人	129
		合格者数	92人	109人	65人	36人	41人	68.6
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2.4
		辞退者数	10人	8人	9人	2人	11人	8
	入学者数		20人	21人	9人	9人	9人	14人
共通テスト利用入試	募集人数		13人	13人	13人	13人	12人	12.8
	延べ人数	志願者数	219人	135人	131人	83人	53人	124人
		受験者数	215人	134人	129人	83人	53人	123人
		合格者数	93人	90人	62人	32人	28人	61人
		うち追加合格者数	0人	0人	16人	0人	0人	3.2
		辞退者数	6人	3人	2人	0人	1人	2.4
	実人数	志願者数	219人	135人	131人	83人	53人	124.2
		受験者数	215人	134人	129人	83人	53人	122.8
		合格者数	93人	90人	62人	32人	28人	61
		うち追加合格者数	0人	0人	16人	0人	0人	3.2
		辞退者数	6人	3人	2人	0人	1人	2.4
	入学者数		7人	5人	3人	1人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	志願者数	484人	375人	355人	298人	194人	341人
		受験者数	464人	342人	322人	276人	182人	317人
		合格者数	240人	247人	191人	149人	133人	192人
		うち追加合格者数	0人	0人	28人	0人	0人	6人
		辞退者数	16人	11人	11人	2人	12人	10人
	実人数	志願者数	484人	375人	355人	298人	194人	341人
		受験者数	464人	342人	322人	276人	182人	317人
		合格者数	240人	247人	191人	149人	133人	192人
		うち追加合格者数	0人	0人	28人	0人	0人	6人
		辞退者数	16人	11人	11人	2人	12人	10人
	入学者数		82人	74人	76人	91人	74人	79人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75
入学定員充足率	1.09	0.99	1.01	1.21	0.99	1.06
歩留率	0.34	0.30	0.40	0.61	0.56	0.44

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－６

大学学部学科等名：生活科学部食生活科学科健康栄養専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		4人	4人	6人	6人	7人	5人
	延べ人数	志願者数	4人	10人	20人	15人	16人	13人
		受験者数	4人	5人	20人	15人	16人	12人
		合格者数	4人	5人	13人	12人	12人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	10人	20人	15人	16人	13人
		受験者数	4人	5人	20人	15人	16人	12人
		合格者数	4人	5人	13人	12人	12人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	5人	13人	12人	12人	9人
学校推薦型選抜	募集人数		17人	15人	12人	10人	10人	13人
	延べ人数	志願者数	14人	8人	22人	22人	18人	17人
		受験者数	14人	8人	22人	22人	18人	17人
		合格者数	12人	8人	19人	22人	18人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	14人	8人	22人	22人	18人	16.8
		受験者数	14人	8人	22人	22人	18人	16.8
		合格者数	12人	8人	19人	22人	18人	15.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		12人	8人	19人	22人	18人	16人
一般選抜	募集人数		13人	15人	16人	18人	17人	15.8
	延べ人数	志願者数	176人	148人	148人	102人	76人	130人
		受験者数	154人	129人	115人	91人	64人	111人
		合格者数	69人	103人	68人	40人	41人	64人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0.4
		辞退者数	6人	3人	3人	3人	0人	3
	実人数	志願者数	176人	148人	148人	102人	76人	130
		受験者数	154人	129人	115人	91人	64人	110.6
		合格者数	69人	103人	68人	40人	41人	64.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0.4
		辞退者数	6人	3人	3人	3人	3人	3.6
	入学者数		20人	23人	8人	8人	10人	14人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	6人	6人	6人	6人	6
	延べ人数	志願者数	103人	96人	88人	63人	50人	80人
		受験者数	102人	93人	86人	62人	49人	78人
		合格者数	47人	62人	43人	25人	28人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	2人	0人	1人	0.8
	実人数	志願者数	103人	96人	88人	63人	50人	80
		受験者数	102人	93人	86人	62人	49人	78.4
		合格者数	47人	62人	43人	25人	28人	41
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	2人	0人	1人	0.8
	入学者数		5人	4人	0人	3人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数			0人	0人	1人	0人	0人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	297人	262人	278人	203人	160人	240人
		受験者数	274人	235人	243人	191人	147人	218人
		合格者数	132人	178人	143人	100人	99人	130人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
		辞退者数	7人	3人	5人	3人	1人	4人
	実人数	志願者数	297人	262人	278人	203人	160人	240人
		受験者数	274人	235人	243人	191人	147人	218人
		合格者数	132人	178人	143人	100人	99人	130人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
		辞退者数	7人	3人	5人	3人	4人	4人
	入学者数		41人	40人	40人	46人	41人	42人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.03	1.00	1.00	1.15	1.03	1.04
歩留率	0.31	0.22	0.28	0.46	0.41	0.34

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－７

大学学部学科等名：生活科学部生活環境学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		14人	14人	12人	12人	15人	13人
	延べ人数	志願者数	25人	40人	36人	30人	28人	32人
		受験者数	25人	26人	33人	25人	26人	27人
		合格者数	25人	26人	26人	22人	20人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	25人	40人	36人	30人	28人	32人
		受験者数	25人	26人	33人	25人	26人	27人
		合格者数	25人	26人	26人	22人	20人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		25人	26人	26人	21人	20人	24人
学校推薦型選抜	募集人数		19人	18人	20人	19人	20人	19人
	延べ人数	志願者数	30人	42人	55人	56人	56人	48人
		受験者数	30人	42人	54人	56人	56人	48人
		合格者数	26人	40人	52人	55人	54人	45.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	30人	42人	55人	56人	56人	47.8
		受験者数	30人	42人	54人	56人	56人	47.6
		合格者数	26人	40人	52人	54人	54人	45.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		26人	40人	52人	52人	54人	44.8
一般選抜	募集人数		33人	34人	34人	35人	33人	33.8
	延べ人数	志願者数	269人	276人	179人	151人	126人	200.2
		受験者数	250人	251人	153人	135人	115人	180.8
		合格者数	75人	63人	53人	64人	40人	59
		うち追加合格者数	0人	0人	15人	8人	0人	4.6
		辞退者数	10人	5人	3人	2人	6人	5.2
	実人数	志願者数	269人	276人	179人	151人	126人	200.2
		受験者数	250人	251人	153人	135人	115人	180.8
		合格者数	75人	63人	53人	64人	40人	59
		うち追加合格者数	0人	0人	15人	8人	0人	4.6
		辞退者数	10人	5人	3人	2人	6人	5.2
	入学者数		32人	22人	12人	18人	13人	19.4
共通テスト利用入試	募集人数		14人	14人	14人	14人	12人	13.6
	延べ人数	志願者数	149人	141人	109人	80人	91人	114
		受験者数	149人	141人	109人	80人	91人	114
		合格者数	43人	47人	32人	32人	35人	37.8
		うち追加合格者数	0人	0人	10人	1人	0人	2.2
		辞退者数	0人	2人	1人	3人	4人	2
	実人数	志願者数	149人	141人	109人	80人	91人	114
		受験者数	149人	141人	109人	80人	91人	114
		合格者数	43人	47人	32人	32人	35人	37.8
		うち追加合格者数	0人	0人	10人	1人	0人	2.2
		辞退者数	0人	2人	1人	3人	4人	2
	入学者数		4人	7人	4人	3人	2人	4
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	473人	499人	379人	317人	301人	394人
		受験者数	454人	460人	349人	296人	288人	369人
		合格者数	169人	176人	163人	173人	149人	166人
		うち追加合格者数	0人	0人	25人	9人	0人	7人
		辞退者数	10人	7人	4人	6人	10人	7人
	実人数	志願者数	473人	499人	379人	317人	301人	394人
		受験者数	454人	460人	349人	296人	288人	369人
		合格者数	169人	176人	163人	172人	149人	166人
		うち追加合格者数	0人	0人	25人	9人	0人	7人
		辞退者数	10人	7人	4人	6人	10人	7人
	入学者数		87人	95人	94人	94人	89人	92人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入学定員充足率	1.09	1.19	1.18	1.18	1.11	1.15
歩留率	0.51	0.54	0.58	0.54	0.60	0.55

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－８

大学学部学科等名：生活科学部生活文化学科生活心理専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		6人	6人	6人	6人	10人	7人
	延べ人数	志願者数	13人	18人	17人	15人	25人	18人
		受験者数	13人	13人	17人	15人	24人	16人
		合格者数	13人	13人	16人	14人	20人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	13人	18人	17人	15人	25人	18人
		受験者数	13人	13人	17人	15人	24人	16人
		合格者数	13人	13人	16人	14人	20人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		13人	13人	16人	14人	20人	15人
学校推薦型選抜	募集人数		9人	9人	8人	8人	8人	8人
	延べ人数	志願者数	20人	31人	29人	27人	23人	26人
		受験者数	20人	31人	29人	27人	22人	26人
		合格者数	19人	29人	29人	27人	22人	25人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	20人	31人	29人	27人	23人	26
		受験者数	20人	31人	29人	27人	22人	25.8
		合格者数	19人	29人	29人	27人	22人	25.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	入学者数		17人	28人	28人	24人	21人	24人
一般選抜	募集人数		19人	20人	21人	21人	17人	19.6
	延べ人数	志願者数	264人	229人	135人	91人	58人	155人
		受験者数	248人	211人	114人	79人	47人	140人
		合格者数	46人	47人	32人	32人	23人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	2人	4人	4人	4人	2人	3.2
	実人数	志願者数	264人	229人	135人	91人	58人	155.4
		受験者数	248人	211人	114人	79人	47人	139.8
		合格者数	46人	47人	32人	32人	23人	36
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	2人	4人	4人	4人	2人	3.2
	入学者数		20人	9人	5人	5人	8人	9人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	5人	5人	5人	5人	5.2
	延べ人数	志願者数	196人	147人	72人	47人	44人	101人
		受験者数	196人	147人	72人	47人	44人	101人
		合格者数	31人	28人	21人	20人	13人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		辞退者数	1人	2人	0人	2人	1人	1.2
	実人数	志願者数	196人	147人	72人	47人	44人	101.2
		受験者数	196人	147人	72人	47人	44人	101.2
		合格者数	31人	28人	21人	20人	13人	22.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
		辞退者数	1人	2人	0人	2人	1人	1.2
	入学者数		6人	3人	0人	2人	1人	2人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	実人数	志願者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	1人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	493人	425人	254人	181人	150人	301人
		受験者数	477人	402人	233人	169人	137人	284人
		合格者数	109人	117人	99人	94人	78人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	1人
		辞退者数	3人	6人	5人	7人	3人	5人
	実人数	志願者数	493人	425人	254人	181人	150人	301人
		受験者数	477人	402人	233人	169人	137人	284人
		合格者数	109人	117人	99人	94人	78人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	1人
		辞退者数	3人	6人	5人	7人	3人	5人
	入学者数		56人	53人	49人	45人	50人	51人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.40	1.33	1.23	1.13	1.25	1.27
歩留率	0.51	0.45	0.49	0.48	0.64	0.52

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－９

大学学部学科等名：生活科学部生活文化学科幼児保育専攻

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		6人	6人	6人	6人	10人	7人
	延べ人数	志願者数	17人	29人	13人	30人	30人	24人
		受験者数	17人	19人	12人	30人	29人	21人
		合格者数	17人	19人	12人	28人	25人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	17人	29人	13人	30人	30人	24人
		受験者数	17人	19人	12人	30人	29人	21人
		合格者数	17人	19人	12人	28人	25人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	19人	12人	28人	25人	20人
学校推薦型選抜	募集人数		11人	11人	10人	10人	10人	10人
	延べ人数	志願者数	13人	15人	18人	20人	27人	19人
		受験者数	13人	15人	18人	20人	27人	19人
		合格者数	12人	13人	18人	20人	26人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	13人	15人	18人	20人	27人	18.6
		受験者数	13人	15人	18人	20人	27人	18.6
		合格者数	12人	13人	18人	20人	26人	17.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		12人	13人	18人	20人	26人	18人
一般選抜	募集人数		22人	22人	23人	23人	19人	21.8
	延べ人数	志願者数	141人	151人	77人	69人	43人	96人
		受験者数	118人	131人	67人	57人	35人	82人
		合格者数	43人	49人	58人	16人	10人	35人
		うち追加合格者数	0人	0人	22人	0人	0人	4.4
		辞退者数	7人	5人	4人	0人	0人	3.2
	実人数	志願者数	141人	151人	77人	69人	43人	96.2
		受験者数	118人	131人	67人	57人	35人	81.6
		合格者数	43人	49人	58人	16人	10人	35.2
		うち追加合格者数	0人	0人	22人	0人	0人	4.4
		辞退者数	7人	5人	4人	0人	0人	3.2
	入学者数		15人	15人	13人	3人	5人	10人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	6人	6人	6人	6人	6
	延べ人数	志願者数	54人	143人	51人	50人	20人	64人
		受験者数	54人	143人	51人	50人	20人	64人
		合格者数	20人	30人	38人	10人	4人	20人
		うち追加合格者数	0人	0人	14人	0人	0人	2.8
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	実人数	志願者数	54人	143人	51人	50人	20人	63.6
		受験者数	54人	143人	51人	50人	20人	63.6
		合格者数	20人	30人	38人	10人	4人	20.4
		うち追加合格者数	0人	0人	14人	0人	0人	2.8
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0.4
	入学者数		3人	0人	0人	0人	1人	1人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		45人	45人	45人	45人	45人	45人
	延べ人数	志願者数	225人	338人	159人	169人	120人	202人
		受験者数	202人	308人	148人	157人	111人	185人
		合格者数	92人	111人	126人	74人	65人	94人
		うち追加合格者数	0人	0人	36人	0人	0人	7人
		辞退者数	8人	5人	5人	0人	0人	4人
	実人数	志願者数	225人	338人	159人	169人	120人	202人
		受験者数	202人	308人	148人	157人	111人	185人
		合格者数	92人	111人	126人	74人	65人	94人
		うち追加合格者数	0人	0人	36人	0人	0人	7人
		辞退者数	8人	5人	5人	0人	0人	4人
	入学者数		47人	47人	43人	51人	57人	49人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	45人	45人	45人	45人	45人	45
入学定員充足率	1.04	1.04	0.96	1.13	1.27	1.09
歩留率	0.51	0.42	0.34	0.69	0.88	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１０

大学学部学科等名：生活科学部現代生活学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		9人	7人	7人	7人	10人	8人
	延べ人数	志願者数	5人	11人	5人	4人	3人	6人
		受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4人
		合格者数	5人	4人	3人	4人	3人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	11人	5人	4人	3人	6人
		受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4人
		合格者数	5人	4人	3人	4人	3人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	4人	3人	4人	3人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		10人	10人	9人	9人	11人	10人
	延べ人数	志願者数	33人	35人	36人	30人	36人	34人
		受験者数	33人	35人	36人	30人	36人	34人
		合格者数	31人	32人	36人	30人	36人	33人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	33人	35人	36人	30人	36人	34
		受験者数	33人	35人	36人	30人	36人	34
		合格者数	31人	32人	36人	30人	36人	33
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		31人	31人	35人	30人	36人	33人
一般選抜	募集人数		29人	31人	32人	32人	27人	30.2
	延べ人数	志願者数	268人	269人	190人	122人	133人	196人
		受験者数	256人	243人	169人	107人	116人	178人
		合格者数	77人	99人	89人	102人	88人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	8人	0人	1.6
		辞退者数	8人	8人	10人	11人	11人	9.6
	実人数	志願者数	268人	269人	190人	122人	133人	196.4
		受験者数	256人	243人	169人	107人	116人	178.2
		合格者数	77人	99人	89人	102人	88人	91
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	8人	0人	1.6
		辞退者数	8人	8人	10人	11人	11人	9.6
	入学者数		23人	29人	18人	16人	17人	21人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	12人	12人	12人	12人	12
	延べ人数	志願者数	217人	164人	125人	105人	180人	158人
		受験者数	217人	164人	125人	105人	180人	158人
		合格者数	72人	78人	77人	102人	154人	97人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	10人	2人	2人	6人	4人	4.8
	実人数	志願者数	217人	164人	125人	105人	180人	158.2
		受験者数	217人	164人	125人	105人	180人	158.2
		合格者数	72人	78人	77人	102人	154人	96.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	4人	0人	0.8
		辞退者数	10人	2人	2人	6人	4人	4.8
	入学者数		10人	9人	5人	9人	13人	9人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	523人	479人	356人	261人	352人	394人
		受験者数	511人	446人	334人	246人	335人	374人
		合格者数	185人	213人	205人	238人	281人	224人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	12人	0人	2人
		辞退者数	18人	10人	12人	17人	15人	14人
	実人数	志願者数	523人	479人	356人	261人	352人	394人
		受験者数	511人	446人	334人	246人	335人	374人
		合格者数	185人	213人	205人	238人	281人	224人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	12人	0人	2人
		辞退者数	18人	10人	12人	17人	15人	14人
	入学者数		69人	73人	61人	59人	69人	66人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60
入学定員充足率	1.15	1.22	1.02	0.98	1.15	1.10
歩留率	0.37	0.34	0.30	0.25	0.25	0.30

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
　本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１１

大学学部学科等名：人間社会学部

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		5人	4人	4人	4人	10人	5人
	延べ人数	志願者数	5人	57人	52人	50人	48人	42人
		受験者数	5人	5人	43人	48人	45人	29人
		合格者数	5人	5人	10人	11人	11人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	57人	52人	50人	48人	42人
		受験者数	5人	5人	43人	48人	45人	29人
		合格者数	5人	5人	10人	11人	11人	8人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	5人	10人	10人	11人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		80人	77人	70人	68人	69人	73人
	延べ人数	志願者数	217人	206人	214人	184人	172人	199人
		受験者数	217人	206人	214人	184人	171人	198人
		合格者数	212人	200人	201人	183人	162人	192人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	0人	0.4
	実人数	志願者数	217人	206人	214人	184人	172人	198.6
		受験者数	217人	206人	214人	184人	171人	198.4
		合格者数	212人	200人	201人	183人	162人	191.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	0人	0人	0人	0人	0.4
	入学者数		180人	182人	191人	178人	158人	178人
一般選抜	募集人数		65人	69人	76人	78人	71人	71.8
	延べ人数	志願者数	924人	806人	649人	445人	565人	678人
		受験者数	867人	741人	585人	384人	498人	615人
		合格者数	73人	104人	96人	134人	152人	112人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	0.6
		辞退者数	9人	18人	15人	14人	19人	15
	実人数	志願者数	924人	806人	649人	445人	565人	677.8
		受験者数	867人	741人	585人	384人	498人	615
		合格者数	73人	104人	96人	134人	152人	111.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	0.6
		辞退者数	9人	18人	15人	14人	19人	15
	入学者数		28人	29人	22人	38人	36人	31人
共通テスト利用入試	募集人数		50人	50人	50人	50人	50人	50
	延べ人数	志願者数	761人	366人	391人	222人	348人	418人
		受験者数	759人	365人	390人	222人	348人	417人
		合格者数	61人	78人	78人	92人	112人	84人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	6人	9人	0人	7人	6人	5.6
	実人数	志願者数	761人	366人	391人	222人	348人	417.6
		受験者数	759人	365人	390人	222人	348人	416.8
		合格者数	61人	78人	78人	92人	112人	84.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	6人	9人	0人	7人	6人	5.6
	入学者数		7人	10人	4人	15人	11人	9人
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	0人	3人	1人	0人	1人	1
		受験者数	0人	2人	1人	0人	1人	0.8
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	3人	1人	0人	1人	1
		受験者数	0人	2人	1人	0人	1人	0.8
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		200人	200人	200人	200人	200人	200人
	延べ人数	志願者数	1907人	1438人	1307人	901人	1134人	1337人
		受験者数	1848人	1319人	1233人	838人	1063人	1260人
		合格者数	351人	387人	385人	420人	438人	396人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	17人	27人	15人	21人	25人	21人
	実人数	志願者数	1907人	1438人	1307人	901人	1134人	1337人
		受験者数	1848人	1319人	1233人	838人	1063人	1260人
		合格者数	351人	387人	385人	420人	438人	396人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	17人	27人	15人	21人	25人	21人
	入学者数		220人	226人	227人	241人	216人	226人

２．入学定員充足率

	H31年度入学者	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	平　均
入学定員	200人	200人	200人	200人	200人	200
入学定員充足率	1.10	1.13	1.14	1.21	1.08	1.13
歩留率	0.63	0.58	0.59	0.57	0.49	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。
人間社会学部は、学部一括入試のため、人間社会学科、現代社会学科それぞれの表は作成できない。

【資料5】

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙３

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：生活環境学科のオープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	3563人	3679人	①取組概要 ・総合ガイダンス、学科紹介、模擬授業、在学生との懇談、教員との懇談、キャンパスツアー、入試ガイダンス、学生によるトークイベント、個別相談（教職員）、オンラインイベント R4開催：17回開催　R5開催：22回開催 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R4、R5年の動向、受験率・入学率より、定員（80名）に対してオープンキャンパス参加者の割合は88%と大多数がオープンキャンパスを見たうえで入学してくる事がわかる。
うち受験対象者数(b)	329人	287人	
うち受験者数(c)	91人	62人	
うち入学者数(d)	71人	56人	
（受験率 c/b）	0.28人	0.22人	
（入学率 d/b）	0.22人	0.20人	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学案内送付

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	18048人	18883人	①取組概要 大学案内・入試ガイド・イベントチラ・学科情報リーフ等の送付 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 資料請求者は多くの場合、興味喚起のツールとして捉えるが、イベント接触等を通して入学者につながった割合は、22%である為、資料請求を起点として様々な接触媒体を通して、入学に至る事がわかる。
うち受験対象者数(b)	132人	129人	
うち受験者数(c)	79人	57人	
うち入学者数(d)	30人	28人	
（受験率 c/b）	0.60人	0.44人	
（入学率 d/b）	0.23人	0.22人	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学進学相談会（会場ガイダンス）

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	378人	604人	物理的に受験対象者以下の数値はとれません。 ①取組概要 関東を中心に19か所の会場での進学相談会をおこなった。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R4に比べ、R5年は約2倍の高校生との接触をはたしている。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：大学進学相談会（校内ガイダンス）

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	699人	823人	物理的に受験対象者以下の数値はとれません ①取組概要 高校からの依頼により、各高校の校内進学相談会に参加した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R4に比べ、R5年は約1.2倍の高校生との接触をはたしている。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
（受験率 c/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	
（入学率 d/b）	#DIV/0!	#DIV/0!	

【資料6】

環境デザイン学部　志願者と倍率

大学	学部	学科	令和3年度(2021年度)					令和4年度(2022年度)					令和5年度(2023年度)				
			入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率
実践女子大学	生活科学部	生活環境学科	80	328	4.1	94	1.18	80	267	3.3	94	1.18	80	250	3.1	89	1.11
日本女子大学	家政学部	住居学科	92	575	6.3	104	1.13	92	770	8.4	96	1.04	92	693	7.5	90	0.98
	建築デザイン学部	建築デザイン学科(2024年4月開設)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
昭和女子大学	環境デザイン学部	環境デザイン学科	210	1193	5.7	212	1.01	210	1324	6.3	235	1.12	210	1345	6.4	220	1.05
東京家政大学	家政学部	造形表現学科	120	377	3.1	133	1.11	120	356	3.0	143	1.19	120	257	2.1	126	1.05
共立女子大学	家政学部	建築・デザイン学科	100	473	4.7	118	1.18	100	404	4.0	118	1.18	−	−	−	−	−
	建築・デザイン学部	建築・デザイン学科(2023年4月開設)	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	100	768	7.7	108	1.08
多摩美術大学	美術学部	環境デザイン学科	80	350	4.4	88	1.10	80	398	5.0	84	1.05	80	422	5.3	87	1.09
東洋大学	理工学部	建築学科	146	2,019	13.8	152	1.04	146	2,303	15.8	151	1.03	146	1,762	12.1	158	1.08
芝浦工業大学	建築学部	建築学科	240	5,548	23.1	256	1.07	240	5,884	24.5	270	1.13	240	5,391	22.5	245	1.02

【資料７】

実践女子大学

環境デザイン学部 環境デザイン学科

（仮称：設置構想中）

設置に関する受容性調査

結果報告書

【高校生】

株式会社日本ドリコム

令和６年１月

■　目次

１　調査概要　・・・・・・・・・　４
２　調査のサマリー　・・・・・・・・・　５
３　集計結果　・・・・・・・・・　６

資料１　調査対象とした高等学校名の一覧
資料２　アンケート用紙（調査に用いた調査票様式）
資料３　リーフレット　（調査回答者に提示した新設組織に関する資料）

■１　調査概要

（１） 調査目的

高校生を対象に進学受容性を調査し、実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）の設置構想における検討資料とすることを目的とする。

（２） 調査期間

・高等学校への依頼による調査

令和 5 年 10 月 31 日～令和 5 年 12 月 27 日

・実践女子大学の既存の学部学科のオープンキャンパス参加者への調査

令和 5 年 7 月 23 日、8 月 6 日、8 月 20 日、9 月 17 日

（３） 調査対象・方法

高等学校に在籍する高校 2 年生の女子生徒を対象とし、高等学校にアンケートの実施を依頼した。また、併せて実践女子大学のオープンキャンパス参加者にも同様のアンケートを依頼した。回答方式は質問用紙もしくはオンライン回答フォームの併用とした。

（４）回答数　6,483 件

調査対象とした高等学校名等の一覧は資料１に記載

（５） 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

（６） 調査項目

資料２（アンケート用紙）に記載

（７） 調査結果の見方

- 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
- 基数となる実数はＮとして掲載し、各表の比率は Ｎを母数とした割合を示す。
- 1 人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示している。

■２　調査のサマリー

（１）アンケート依頼の対象

想定される学生募集地域等に合致し、且つより信頼性の高い情報を得るため、実践女子大学の併設の高等学校、実践女子大学に入学実績を有する高等学校及びオープンキャンパス参加者に絞ってアンケート調査の協力を依頼し 6,483　件の回収を得た。その内、集計対象となる開設時期等に該当する高校２年生・女子生徒の有効回答は 6,124　件であった。

（２）回答者の属性（設置構想中の学部等に該当する進路先・設置者・学問分野）

有効回答 6,124 件の内、「私立」の「大学」への進学を希望し、且つ設置構想中の学部の受験者層として想定できる「生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係分野」に関心があると回答したものは 720 件であった。

（３）受験意向・入学意向

設置構想中の学部の受験者層として想定できる 720 件について、受験意向の選択肢「第一志望として受験する」「 第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」ごとに、入学意向の選択肢「入学する」、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」とのクロス集計を行った。その結果、「第一希望として受験する」を選択肢し、且つ「入学する」選択したのは 109 件であった。

（４）新設組織の学生定員の設定の妥当性及び定員充足

予定されている入学定員に対して充分な入学意向者数が確認できることから、新設組織の学生定員の設定の妥当性及び開設した場合の定員充足の可能性について、本調査の結果において支持できる。

■３　集計結果

高等学校の所在都道府県：設問番号（Q3）

	件数(N)	割合
全体	(6124)	
東京都	1880	30.7%
神奈川県	1067	17.4%
埼玉県	2113	34.5%
千葉県	485	7.9%
茨城県	16	0.3%
栃木県	4	0.1%
群馬県	11	0.2%
その他	548	8.9%

卒業後の希望進路：設問番号（Q4）

【MA】	件数(N)	割合
全体	(6124)	
大学	5227	85.4%
短期大学	464	7.6%
専門職大学	184	3.0%
専門職短期大学	63	1.0%
専門学校	977	16.0%
就職	128	2.1%
その他	40	0.7%

以下、希望進路「大学」5,227 件について集計を実施

進学を希望する場合の大学等の設置者：設問番号（Q5）

【MA】	件数(N)	割合
全体	(5227)	
国立	933	17.8%
公立	995	19.0%
私立	4546	87.0%
その他	31	0.6%

興味のある学問分野：設問番号（Q6）

【MA】	件数(N)	割合
全体	(5227)	
文学・歴史学・哲学・心理学関係	1608	30.8%
社会学・法学・政治学・経済学関係	1418	27.1%
物理学・数学・化学・生物学関係	361	6.9%
機械・電気通信・建築学・情報学関係	321	6.1%
農林水産学・獣医学関係	233	4.5%
医学・歯学・薬学・看護学・保健衛生関係	1080	20.7%
生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係	768	14.7%
教育学・体育学関係	644	12.3%
美術・デザイン・音楽関係	840	16.1%
その他	342	6.5%
分からない	127	2.4%

以下、進学を希望する場合の大学等の設置者にて「私立」を回答し、且つ興味のある学問分野について「生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係」を回答した720 件について集計を実施

実践女子大学 環境デザイン学部環境デザイン学科の特色について関心が持てるもの

：設問番号（Q7）

【MA】	件数(N)	割合
全体	（720）	
様々なデザイン領域を学べ、興味がある領域を自由に履修できること	390	54.2%
モノづくりだけでなく、ヒトづくり、コトづくりまで含んだ、総合的な問題解決にチャレンジできること	174	24.2%
企業や地域とコラボするプロジェクトを通して実践的に学べること	215	29.9%
様々な資格取得に対するサポートがあり、高い専門性を身に付けられること	314	43.6%

参考：興味のある学問分野と設置者のクロス集計

【MA】	設置者		
件数（N）　（720）	国立	公立	私立
文学・歴史学・哲学・心理学関係	22	31	163
社会学・法学・政治学・経済学関係	13	21	111
物理学・数学・化学・生物学関係	8	9	27
機械・電気通信・建築学・情報学関係	7	6	28
農林水産学・獣医学関係	8	10	36
医学・歯学・薬学・看護学・保健衛生関係	13	26	79
生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係	73	104	720
教育学・体育学関係	17	24	114
美術・デザイン・音楽関係	20	28	172
その他	1	1	13
分からない	0	0	0

受験意向：設問番号（Q8）

	件数(N)	割合
全体	(720)	
第一志望として受験する	116	16.1%
第二志望として受験する	24	3.3%
第三志望以降として受験する	79	11.0%

※「受験しない」、無回答は、割合の算出母数（N）に含まれているが表の記載は割愛

参考：特色と受験意向のクロス集計

第一志望として受験すると回答したものの中で、最も回答が多かった関心が持てる特色は、様々なデザイン領域を学べ、興味がある領域を自由に履修できること（66.4%）であった。

N＝720

	回答数	様々なデザイン領域を学べ、興味がある領域を自由に履修できること	モノづくりだけでなく、ヒトづくり、コトづくりまで含んだ、総合的な問題解決にチャレンジできること	企業や地域とコラボするプロジェクトを通して実践的に学べること	様々な資格取得に対するサポートがあり、高い専門性を身に付けられること
第一志望として受験する	116	66.4%	37.1%	29.3%	33.6%
第二志望として受験する	24	66.7%	20.8%	37.5%	54.2%
第三志望以降として受験する	79	63.3%	25.3%	35.4%	48.1%

※表側の受験意向について「受験しない」、無回答は表から割愛

入学意向：設問番号（Q9）

	件数(N)	割合
全体	(219)	
入学する	120	54.8%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	91	41.6%
入学しない	8	3.7%

受験意向と入学意向とのクロス集計

	入学する	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
第一志望として受験する	109	7
第二志望として受験する	8	16
第三志望以降として受験する	3	68

資料1

調査対象とした高等学校名の一覧（順不同）

選定の根拠

実践女子大学への入学実績、並びに高等学校訪問等を定期的に実施している高等学校を選定し、協力依頼を実施した。

■東京都 77 校

青梅総合高等学校、飛鳥高等学校、跡見学園高等学校、石神井高等学校、江戸川高等学校、ＮＨＫ学園高等学校、大森学園高等学校、神代高等学校、神田女学園高等学校、関東第一高等学校、共立女子第二高等学校、清瀬高等学校、京華女子高等学校、啓明学園高等学校、工学院大学附属高等学校、麹町学園女子高等学校、佼成学園女子高等学校、国立音楽大学附属高等学校、小平高等学校、小平西高等学校、小平南高等学校、実践学園高等学校、実践女子学園高等学校、下北沢成徳高等学校、十文字高等学校、淑徳巣鴨高等学校、上水高等学校、翔陽高等学校、昭和第一学園高等学校、女子聖学院高等学校、白梅学園高等学校、新宿山吹高等学校、杉並学院高等学校、杉並高等学校、総合芸術高等学校、大成高等学校、拓殖大学第一高等学校、立川女子高等学校、田無高等学校、玉川聖学院高等部、多摩大学附属聖ケ丘高等学校、多摩大学目黒高等学校、調布南高等学校、田園調布高等学校、東海大学菅生高等学校、東京家政大学附属女子高等学校、東京純心女子高等学校、東京成徳大学高等学校、東京電機大学高等学校、桐朋女子高等学校、東洋大学京北高等学校、豊島高等学校、豊島学院高等学校、日本工業大学駒場高等学校、日本大学鶴ケ丘高等学校、八王子実践高等学校、晴海総合高等学校、東大和高等学校、東大和南高等学校、日野高等学校、藤村女子高等学校、富士森高等学校、府中高等学校、府中東高等学校、文化学園大学杉並高等学校、文京学院大学女子高等学校、文教大学付属高等学校、宝仙学園高等学校、保谷高等学校、南平高等学校、明星学園高等学校、三輪田学園高等学校、武蔵丘高等学校、武蔵野大学高等学校、目黒星美学園高等学校、目白研心高等学校、雪谷高等学校

■神奈川県 31 校

麻布大学附属高等学校、麻溝台高等学校、伊志田高等学校、海老名高等学校、神奈川学園高等学校、上溝南高等学校、鵠沼高等学校、向上高等学校、港北高等学校、相模女子大学高等部、桜丘高等学校、座間高等学校、湘南学院高等学校、松陽高等学校、新城高等学校、西湘高等学校、聖セシリア女子高等学校、捜真女学校高等学部、相洋高等学校、高津高等学校、戸塚高等学校、秦野高等学校、東高等学校、三浦学苑高等学校、みなと総合高等学校、元石川高等学校、横浜栄高等学校、横浜商科大学高等学校、横浜女学院高等学校、横浜翠陵高等学校、横浜創英高等学校

■埼玉県 36 校

秋草学園高等学校、上尾高等学校、岩槻高等学校、浦和学院高等学校、浦和北高等学校、浦和実業学園高等学校、浦和東高等学校、浦和南高等学校、大宮北高等学校、大宮光陵高等学校、大宮南高等学校、春日部女子高等学校、春日部東高等学校、川口高等学校、川口市立高等学校、川越南高等学校、久喜高等学校、越ケ谷高等学校、越谷南高等学校、埼玉栄高等学校、栄北高等学校、坂戸高等学校、西武台高等学校、聖望学園高等学校、東京農業大学第三高等学校、所沢高等学校、所沢西高等学校、獨協埼玉高等学校、細田学園高等学校、本庄高等学校、本庄第一高等学校、松山女子高等学校、山村学園高等学校、山村国際高等学校、与野高等学校、和光国際高等学校

■千葉県 23 校

柏中央高等学校、柏南高等学校、鎌ケ谷高等学校、敬愛学園高等学校、国府台高等学校、国分高等学校、佐倉高等学校、佐原白楊高等学校、昭和学院高等学校、匝瑳高等学校、千葉英和高等学校、千葉女子高等学校、千葉西高等学校、千葉日本大学第一高等学校、津田沼高等学校、東京学館高等学校、成田国際高等学校、二松学舎大学附属柏高等学校、日出学園高等学校、日本体育大学柏高等学校、松戸国際高等学校、流通経済大学付属柏高等学校、和洋国府台女子高等学校

■福島県 3 校

安積高等学校,いわき湯本高等学校,磐城桜が丘高等学校

■福岡県 1 校

福岡女子高等学校

資料2

実践女子大学　環境デザイン学部　環境デザイン学科（仮称・設置構想中）に関するアンケート

実践女子大学では、2025年（令和7年）4月に生活科学部生活環境学科を改組して、環境デザイン学部環境デザイン学科の設置を計画しています。
このアンケート調査は、実践女子大学　環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称・設置構想中）の設置に関する検討資料とするものです。
環境デザイン学部の概要はリーフレットに記載していますので、リーフレットを御覧になりながら、アンケートにご回答ください。
なお、このアンケートは、現在高校2年生の女子を対象として行いますが、高校2年生以外の方もご回答いただけます。
また、このアンケートの回答内容があなたの今後の進学（受験・入学等）に影響することはありません。
※本調査の実施・回収・集計は株式会社日本ドリコムに委託しております。

■質問の答えとなる番号に○をつけてください。

Q1）あなたの性別をお答えください。

1　男性　　2　女性

Q2）あなたの学年をお答えください。

1　高校３年生　　2　高校2年生　　3　高校1年生　　4　その他

Q3）あなたの高校の所在都道府県をお答えください。

1　東京都　　2　神奈川県　　3　千葉県　　4　埼玉県　　5　茨城県　　6　栃木県　　7　群馬県
8　その他（　　道府県）

Q4）卒業後の進路として検討している選択肢を全てお答えください。（複数回答可）

1　大学　　2　短期大学　　3　専門職大学　　4　専門職短期大学　　5　専門学校　　6　就職
7　その他（　　）

Q5）進学を希望する場合の大学等の設置者

Q4で１～４と回答した人への質問です。志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

1　国立　　2　公立　　3　私立　　4　その他（　　）

Q6）高校を卒業後、学びたいと考えている興味関心のある学問分野をすべて選択してください。（複数回答可）

1　文学・歴史学・哲学・心理学関係　　2　社会学・法学・政治学・経済学関係　　3　物理学・数学・化学・生物学関係
4　機械・電気通信・建築学・情報学関係　　5　農林水産学・獣医学関係　　6　医学・歯学・薬学・看護学・保健衛生関係
7　生活科学・家政学・被服学・住居学・食物学・児童学関係　　8　教育学・体育学関係
9　美術・デザイン・音楽関係　10　その他（　　）　　11　分からない

Q7以降の質問は、一緒に配布した学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。

Q7）実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科の特色について、関心が持てるものをすべて回答してください。（複数回答可）

1　様々なデザイン領域を学べ、興味がある領域を自由に履修できること
2　モノづくりだけでなく、ヒトづくり、コトづくりまで含んだ、総合的な問題解決にチャレンジできること
3　企業や地域とコラボするプロジェクトを通して実践的に学べること
4　様々な資格取得に対するサポートがあり、高い専門性を身に付けられること

Q8）実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科が開設された場合、受験を希望しますか。一つ選択してください。

1　第一志望で受験する　　2　第二志望で受験する　　3　第三志望以降で受験する　　4　受験しない

Q8で、１，２，３のいずれかで「受験する」を選択した方にお聞きします。

Q9）実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。一つ選択してください。

1　入学する　　2　志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する　　3　入学しない

Q10）　実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科について、印象や感想、要望等があれば自由に記載してください。

Q11）2023年7月から現在までの間に、実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科に関する同じ内容のアンケート調査（インターネットアンケートを含む。）に回答したことがありますか。

1　回答したことはない　　2　回答したことがある

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。なお、学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更されることがあります。

資料3

学びの特長

01 様々なデザイン領域の中から興味・関心に合わせて自由に履修できます。

最初から専門分野を限定する必要はありません。それぞれのデザイン領域を自分の興味・関心に応じて自由に履修することが可能です。いろいろなデザイン手法に触れることで、自分の新しい関心や能力を見出し、デザインの引き出しを増やして将来の可能性を広げていきます。

02 モノづくりだけではなくヒトづくり・コトづくりも。社会の総合的な問題解決にチャレンジします。

実社会（コミュニティ）の課題に対して、モノづくりからヒトづくり、コトづくりまで含め、環境や社会の価値を高めるのがコミュニティデザインです。その場に関係する地域・社会・生活者・消費者・ユーザー・運営者など多様なヒトを巻き込みながら、協働・共創によって実践します。

03 企業や地域とコラボするプロジェクト活動に挑戦。身につけた知識とスキルを活かして実践します。

2年次および4年次には、分野を超えたチームで社会課題に取り組む「社会連携プロジェクト科目」を設けており、これまでに学んだデザインスキルを統括して挑戦します。本学科には、様々な社会連携プロジェクトに携わってきた教員が数多く在籍しているのも強みです。

04 将来に活かせる様々な資格取得をサポート。高い専門性が身につきます。

「衣・住」に関わる資格から中・高の教員免許まで幅広い分野の資格取得が可能です。また、国家資格である一・二級建築士試験にも毎年多くの卒業生が合格しています。自分のやりたいことをしっかり見据え、必要な資格にチャレンジしよう。

取得可能な資格・取得支援資格

■取得可能な資格（予定）

高等学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（家庭）／司書教諭（要教員免許）／1級衣料管理士／一級建築士試験受験資格／二級建築士試験受験資格／インテリアプランナー登録資格

■取得支援資格

インテリア設計士2級／商業施設士／プロダクトデザイン検定／色彩検定／商品装飾展示技能検定（VMD検定）3級／接客販売技能検定3級

■就職・資格取得実績（2023年3月 生活環境学科卒業生）

就職率※1	一級建築士 試験受験資格※2	二級建築士 試験受験資格※2	インテリアプランナー 登録資格※2	1級衣料 管理士	中学校教諭 一種免許	高等学校教諭 一種免許
98.7% （就職者：71名）	15名	32名	40名	13名	3名	3名

※1 就職率＝（就職者／就職希望者）　※2 要実務経験

入賞実績

卒業生※たちは外部の卒業制作展に出品して、毎年様々な賞を受賞しています。



第45回 学生設計優秀作品展「レモン賞」受賞



第23回 卒業設計コンクール展「埼玉県知事賞」受賞

※生活環境学科卒業生

想定される将来像

- 就職の自由度は高く、デザインスキルとマインドを持った人は分野を超えた活躍が期待できます。
- 学んだ分野の専門性を活かし、企画・設計、展示・販売、品質評価などの現場での活躍も可能です。

■2021～2023年 生活環境学科卒業生実績

〈アパレル・繊維関連〉（株）ユナイテッドアローズ／（株）ストライプインターナショナル／（株）ビームス／（株）ファーストリテイリング／ユザワヤ商事（株）／ルイ・ヴィトンジャパン（株）
〈住宅・建設・不動産〉（株）木下工務店／積水ハウスリフォーム（株）／住友林業ホームテック（株）／（株）大京／大成建設（株）／タマホーム（株）／東急リバブル（株）
〈プロダクト・インテリア〉（株）カインズ／クリナップ（株）／タカラスタンダード（株）／（株）島忠／（株）ニトリ／パナソニックリビング（株）／（株）三越伊勢丹プロパティ・デザイン／（株）ドウシシャ
〈その他〉埼玉県教育委員会／山梨県庁／川崎市役所／下田市役所／明治安田生命保険（相）／（株）山梨中央銀行 等

納付金について

■初年度納付金（予定）

環境デザイン学部
¥1,427,010
（入学金、授業料、施設設備費を含む）

参考：2023・2024年度入学者納付金

日本女子大学 建築デザイン学部 ¥1,555,860（2024年度）
昭和女子大学 環境デザイン学部 ¥1,448,000（2024年度）
東京家政大学 家政学部 造形表現学科 ¥1,417,500円（2023年度）
多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 ¥1,965,000（2023年度）
芝浦工業大学 建築学部 ¥1,794,880（2023年度）
東洋大学 理工学部 建築学科 ¥1,595,000（2024年度）



日野キャンパス

アクセス

［日野駅から］
- 徒歩約12分
- 日野駅発日野市ミニバス［豊田駅北口行］約2分＋「実践女子大学」下車、徒歩1分（60分に1～2本運行しています）

［高幡不動駅から］
- 京王バス「日野駅行（日02）」約15分＋「日野市役所」下車、徒歩約5分
- 京王バス「日野駅行（日03）」約13分＋「日野市役所東」下車、徒歩約10分

お問い合わせ

学生総合支援センター 入学サポート部
［日野］〒191-8510 東京都日野市大坂上 4-1-1 TEL 042-585-8820
https://www.jissen.ac.jp

新学部の情報は大学HPで順次、公開予定です。ぜひ、ご覧ください。

実践女子大学



環境デザイン学部
環境デザイン学科

（仮称・設置構想中）

時代は大きく変化しています。モノやサービスを消費することで生活の豊かさにつなげる「消費社会」や人と多様な関係を築くことが生活の豊かさを表す「情報社会」を経て、これからは、求めるモノやコトを自分で創り出す「創造社会」へ変化していくと言われています。自分の周りの環境や社会を創り出し、そして自分の生き方を創り出すことで生活の豊かさを示す。それが「創造社会」です。このような時代に対応すべく、2025年4月から生活環境学科は「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」として新たに生まれ変わります。「つくることを学ぶこと」「つくることを通して学ぶこと」を重視し、多様なデザインスキルを身につけ社会における実践力を養い、自ら環境をつくりだそうとするデザインマインドを身につけることを目指します。　※学部・学科の情報は構想中のため変更になる場合があります。

実践女子大学

環境デザイン学部の学び領域

ファッション、プロダクト、建築、そして地域まで幅広いデザインスキルを身につけよう。

Architecture and Living Environment Design

建築・住環境デザイン




一級／二級建築士の
受験資格取得に対応したカリキュラムで、
設計製図、建築計画、環境工学、建築構造など
建築士に必要な知識・技術を網羅しています。

Interior Design

インテリアデザイン




インテリアのデザインは建築的な空間内部、
家具や道具、照明やファブリックなど
多様な要素で成り立っており、素材や色彩、
光環境や音環境など総合的に学びます。

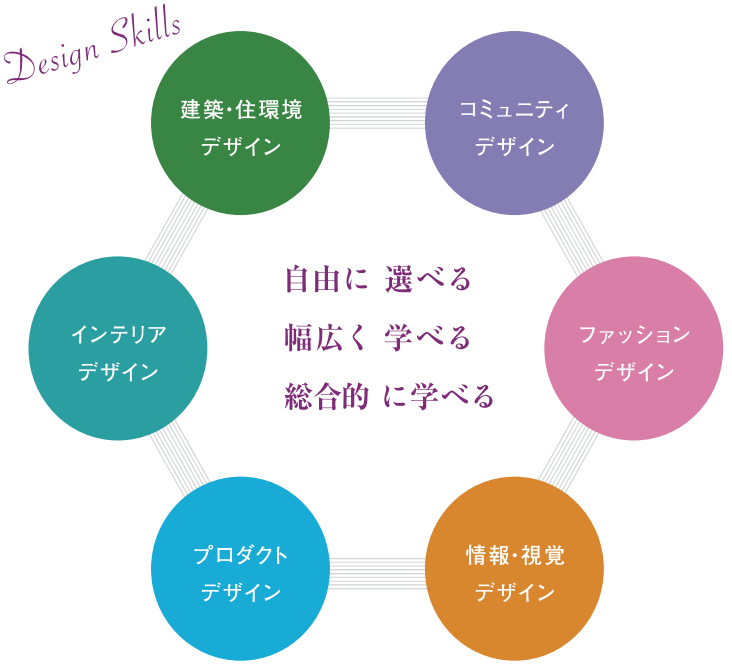
Product Design

プロダクトデザイン





私たちの生活を支えている
様々な製品デザインに取り組み、デザインの基礎から
実際のものづくり、製品として完成させるマネジメントまで
体系的に学んでいきます。



Community Design

コミュニティデザイン




各分野で学んだデザインスキルを用いて
社会的な課題に応用します。多くの人たちと一緒に
問題を発見・分析し、協働して解決方法を提案する
総合的・実践的なスキルを身につけます。

Fashion Design

ファッションデザイン




1級衣料管理士の資格取得に沿ったカリキュラムで、
衣服の製作・販売、素材の評価・開発、
品質管理・染色加工等、被服に関するトータルな技術と
知識を身につけることができます。

Information and Visual Design

情報・視覚デザイン




ICT技術をデザインに活かしながら
情報を整理・編集し、発信するための情報デザイン
および視覚的な手段で効果的に相手に伝わるための
スキルを磨くビジュアルデザインを学びます。

環境デザイン学部のポイント

Point 1 カリキュラムはコース制ではなく、
それぞれのデザイン領域は興味に応じて自由に履修可能。

Point 2 幅広く学びな がら、少しずつ自分の興味・関心を
絞り込むレイ トスペシャライゼーションに対応。

Point 3 複数の領域を組み合わせて学ぶことで提案力や表現力がつき、
オリジナルのスキルを修得。将来の可能性が広がる。

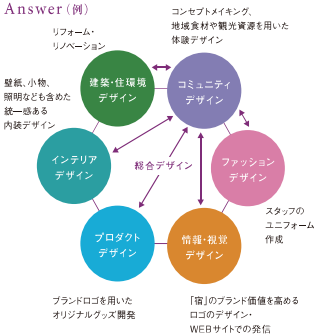
「総合デザイン」の課題にチャレンジ

Question:

豊富な海の幸に恵まれた漁港。
その海辺に面した一軒の
「温泉宿」を題材として、
新たな観光客を呼び寄せるための
施策を考えてみましょう。

「総合デザイン」の考え方　たとえば、ある一軒の「温泉宿」にもっと客を呼びたいという課題。建物をお洒落に建て替えるほどの資金はありません。「総合デザイン」は、チーム協働で取り組みます。この土地の魅力や宿を営む人々の思いなど多くの人と話し合い、インテリア、小物、制服など、様々なデザインを組み合わせて提案し、さらにWEBなどを通じてその魅力を発信するところまで、総合的にプロデュースすることを目指します。

Answer（例）



TOPICS

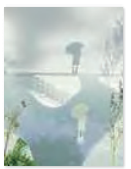
「PBL型 社会連携プロジェクト」

2年生・4年生の時に分野を横断して社会の課題に取り組む社会連携プロジェクト科目を設けています。授業で培ったデザイン力を実社会で実践できる場があるのも本学の特長のひとつです。



「デザイン基礎演習」

自分で考えた形・イメージについて、まずはスケッチを中心とした2次元で表現し、図面や模型を作成するために必要となる3次元のデザインを検討できるところまで手を動かしながら修得。デザイン未経験の方でも安心して取り組める内容になっています。



アドミッション・ポリシー

環境デザイン学部は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン、コミュニティなどの分野に興味を持ち、デザインに対して意欲的に取り組み、創造社会において活躍できるデザインスキルとデザインマインドを身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、多様な視点からデザイン力を磨き、実践する意欲と行動力のある人を求めます。

求める人物像

- アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に関心を持っている人
- デザイン、作品制作、実験等に興味がある人
- 好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動でき、多様な文化・社会背景をもつ人々とコミュニケーションを図れる態度を身につけられる人
- 身につけた専門性を生かして、地域・社会の中にある課題解決に向けて取り組もうとする意欲のある人

【資料８】

実践女子大学
環境デザイン学部 環境デザイン学科
（仮称：設置構想中）

設置に関する受容性調査
結果報告書

【企業】

株式会社日本ドリコム
令和6年1月

■　目次

１　調査概要	・・・・・・・・・	４
２　調査のサマリー	・・・・・・・・・	５
３　集計結果	・・・・・・・・・	７
４　印象やご意見等（自由記述）	・・・・・・・・・	13

資料１　アンケート項目（調査に用いた WEB 回答フォーム）
資料２　リーフレット　（調査回答者に提示した新設組織に関する資料）

■１　調査概要

（１）調査目的

本調査は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数等を尋ねたものであり、実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）における検討資料とすることを目的とする。

（２）調査期間

令和5年11月21日～令和5年12月22日

（３）調査対象 方法

当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者を対象とし、オンライン回答フォームによる回答を依頼した。

（４）有効回答数

86件

（５）調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

（６）調査項目

資料1　アンケート項目に記載

（７）調査結果の見方

・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。
・基数となる実数はNとして掲載し、各表の比率は Nを母数とした割合を示す。
・1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示している。

■２　調査のサマリー

（１）概要

本調査は、実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）の新設に伴う社会的ニーズの把握を目的として実施した。当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体より86件の回答を得た。

（２）人材の過不足状況

人材の過不足について、非常に不足、もしくは不足と回答した企業・団体は75.6%であり、7割以上の企業・団体が人材不足と回答している。また、過剰、もしくは非常に過剰と回答した企業・団体は0件であり、0.0%であった。

N＝86

過不足状況	回答数	割合
１．非常に不足	12	14.0%
２．不足	53	61.6%
３．適正	21	24.4%
４．過剰	0	0.0%
５．非常に過剰	0	0.0%

（３）今後の採用計画

今後の採用計画について、積極的に採用を増やしたい、もしくは若干は採用を増やしたいと回答した企業・団体は59.3%であり、半数以上の企業・団体が今後の採用について、増やしたいと回答している。また、現状のままと回答した33件についても現在の採用を行っている。採用を減らしたい、もしくは採用しないと回答した企業・団体は0件であり、0.0%であった。

N＝86

採用計画	回答数	割合
１．積極的に採用を増やしたい	36	41.9%
２．若干は採用を増やしたい	15	17.4%
３．現状のまま	33	38.4%
４．採用は減らしたい	0	0.0%
５．採用しない	0	0.0%
６．未定	2	2.3%

（４）養成する人材の社会的ニーズ

養成する人材の社会的ニーズの高さについて、98.8%の企業・団体から肯定的な回答（「高い」、「どちらかといえば高い」）を得た。

N＝86

社会的ニーズ	回答数	割合
１．高い	43	50.0%
２．どちらかといえば高い	42	48.8%
３．どちらかといえば低い	1	1.2%
４．低い	0	0.0%

（５）採用意向

実践女子大学環境デザイン学部環境デザイン学科（仮称：設置構想中）が養成する人材について、採用したいと回答した企業・団体は、48.8%であった。

N＝86

採用意向	回答数	割合
１．採用したい	42	48.8%
２．採用を検討したい	30	34.9%
３．どちらとも言えない	14	16.3%
４．採用しない	0	0.0%

採用したいと回答した企業・団体について、採用想定人数を最も少なく見積もった場合においても入学定員を超えた想定採用人数（92名）となった。また、採用を検討したいと回答した企業・団体も含め、且つ最も多く見積もった場合には153名の採用想定人数となり、入学定員の約1.9倍となっている。入学定員に対して充分な社会的ニーズがあるものと推定される。

単位：人

	採用想定人数		
	最も少なく見積もった場合	平均的な値で見積もった場合	最も多く見積もった場合
１．採用したい	92	101.5	111
２．採用を検討したい	37	39.5	42
３．どちらとも言えない	0	0	0
４．採用しない	0	0	0

※採用想定人数の集計方法については、11ページに記載

■３　集計結果

（１） 本社または主たる事業所等の所在地（都道府県）

N＝86

都道府県	回答数	割合
東京都	73	84.9%
埼玉県	3	3.5%
神奈川県	3	3.5%
愛知県	2	2.3%
大阪府	2	2.3%
千葉県	1	1.2%
岐阜県	1	1.2%
兵庫県	1	1.2%

※回答数に対して降順

（２） 業種　MA

N＝86

業種	回答数	割合
１．農林漁業・鉱業・建設	7	8.1%
２．製造業	18	20.9%
３．情報通信業	20	23.3%
４．運輸業・卸売業・小売業	24	27.9%
５．金融・保険・不動産業	6	7.0%
６．宿泊・飲食サービス業	6	7.0%
７．医療・福祉業	0	0.0%
８．対個人サービス業	2	2.3%
９．他事業所サービス業	2	2.3%
10．電気・ガス・熱供給・水道業	3	3.5%
11．その他	8	9.3%

（３） 従業員数、職員数の規模

N＝86

従業員数、職員数	回答数	割合
１．50人未満	0	0.0%
２．50～100人未満	2	2.3%
３．100～500人未満	23	26.7%
４．500～1,000人未満	23	26.7%
５．1,000人以上	38	44.2%

（４） 新卒者を採用する際に重視する能力　MA

N＝86

重視する能力	回答数	割合
1. コミュニケーション能力	84	97.7%
8. 協調性	69	80.2%
7. 主体性	63	73.3%
13. 柔軟性・素直さ	63	73.3%
15. チャレンジ精神	53	61.6%
4. 協働力	48	55.8%
9. 責任感	43	50.0%
16. ストレス耐性	40	46.5%
12. 成長力	34	39.5%
6. 課題解決能力	33	38.4%
2. 思考力	32	37.2%
3. 実践力	29	33.7%
10. リーダーシップ	24	27.9%
14. 創造性	18	20.9%
5. ホスピタリティマインド	17	19.8%
11. 専門性	8	9.3%
17. 取得資格	6	7.0%
19. 学業成績・一般常識	6	7.0%
20. 外国語力（英語力）	4	4.7%
18. 出身学部・学科	3	3.5%
21. 海外経験、留学経験	2	2.3%
22. 社会貢献活動	2	2.3%
23. その他	0	0.0%

※回答数に対して降順

（５） 人材の過不足状況

N＝86

過不足状況	回答数	割合
１．非常に不足	12	14.0%
２．不足	53	61.6%
３．適正	21	24.4%
４．過剰	0	0.0%
５．非常に過剰	0	0.0%

（６） 直近の新卒採用状況(2023年4月)

N＝86

採用状況	回答数	割合
１．採用した	84	97.7%
２．採用活動の結果、採用しなかった	2	2.3%

（７） 直近(2023年4月）の新卒採用人数
（「採用した」を回答した84社・団体）

単位：人

合計	4,516

平均値	57.9
中央値	26.5
最大値	600
最小値	1

※「若干名」の回答は1名として集計

■代表値の補足説明

・平均値：極端に多い値等も含めすべての回答を考慮した数値が反映。
・中央値：データを大きい順に並べた時の中央の値。極端に大きな数値、極端に小さな数値の影響が少ない。
・最大値：最も大きい値
・最小値：最も小さい値

※この項目では、600人という極端に大きな回答数値が平均を大きく引き上げている。
そのため、全体を代表する（真ん中の）数値を把握するため、平均値と共に中央値も記載した。

（８） 今後の新卒採用計画

N＝86

採用計画	回答数	割合
１．積極的に採用を増やしたい	36	41.9%
２．若干は採用を増やしたい	15	17.4%
３．現状のまま	33	38.4%
４．採用は減らしたい	0	0.0%
５．採用しない	0	0.0%
６．未定	2	2.3%

（９） 養成する人材の社会的ニーズ

N＝86

社会的ニーズ	回答数	割合
１．高い	43	50.0%
２．どちらかといえば高い	42	48.8%
３．どちらかといえば低い	1	1.2%
４．低い	0	0.0%

参考：従業員数、職員数の規模とのクロス集計

1,000人以上の従業員数、職員数の規模の会社・団体は、57.9%が新学科の社会的ニーズは高いと回答しており、大規模な会社・団体において新学科の社会的ニーズが比較的高く感じられる傾向がある。

N＝86

		回答数	社会的ニーズ			
			1．高い	2．どちらかといえば高い	３．どちらかといえば低い	4．低い
従業員数、職員数の規模	１．50人未満	0	-	-	-	-
	２．50～100人未満	2	-	100.0% (2)	-	-
	３．100～500人未満	23	43.5% (10)	56.5% (13)	-	-
	４．500～1,000人未満	23	47.8% (11)	52.2% (12)	-	-
	５．1,000人以上	38	57.9% (22)	39.5% (15)	2.6% (1)	-

（１０）新学科が養成する人材の採用意向

N＝86

採用意向	回答数	割合
１．採用したい	42	48.8%
２．採用を検討したい	30	34.9%
３．どちらとも言えない	14	16.3%
４．採用しない	0	0.0%

（１１）採用想定人数

採用したいと回答した企業・団体において、採用想定人数を最も少なく見積もった場合においても入学定員を超えた想定採用人数（92名）となっている。また、採用を検討したいと回答した企業・団体も含め、且つ最も多く見積もった場合には153名の採用想定人数となり入学定員の約1.9倍となっている。

単位：人

	採用想定人数		
	最も少なく見積もった場合	平均的な値で見積もった場合	最も多く見積もった場合
１．採用したい	92	101.5	111
２．採用を検討したい	37	39.5	42
３．どちらとも言えない	0	0	0
４．採用しない	0	0	0

■回答人数が１つの数値ではない場合（例；1～2名）の集計と表への記載について

・最も少なく見積もった場合：最も少ない場合の回答人数を採用して集計を実施
（例：回答が「1～2名」の場合は１名として集計）
・平均的な値で見積もった場合：回答人数の平均を採用して集計を実施
（例：回答が「1～2名」の場合は1.5名として集計）
・最も多く見積もった場合：最も多い場合の回答人数を集計して実施
（例：回答が「1～2名」の場合は２名として集計）

※「若干名」の回答は1名として集計

参考：採用意向と業種とのクロス集計

N＝86

業種	採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない
１．農林漁業・鉱業・建設	4	2	1
２．製造業	8	6	4
３．情報通信業	11	6	3
４．運輸業・卸売業・小売業	10	10	4
５．金融・保険・不動産業	4	2	0
６．宿泊・飲食サービス業	3	2	1
７．医療・福祉業	0	0	0
８．対個人サービス業	2	0	0
９．他事業所サービス業	0	1	1
10．電気・ガス・熱供給・水道業	2	0	1
11．その他	5	2	1

参考：採用意向と従業員数、職員数の規模とのクロス集計

N＝86

従業員数、職員数	採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない
１．50人未満	0	0	0
２．50～100人未満	1	1	0
３．100～500人未満	10	7	6
４．500～1,000人未満	10	9	4
５．1,000人以上	21	13	4

■４　印象やご意見等（自由記述）

※表記は原文ママ

（１） 新学科が養成する人材の採用意向で「採用したい」と回答した企業・団体

様々なデザインについて学べ、学生さんご本人の興味関心により自由に履修できる授業体系であるため、主体性を持つ方が多い学部学科になるのではないかと感じました。また、課題解ができる人材は弊社でも活躍場面が多くあるため、弊社とマッチする学生さんに出会えるのではないかと期待しています。
弊社の募集する職種として、事務職以外に「施工管理職」「技術営業職」「メンテナンス職」がございます。学生時代に建築に関して学ばれている事は弊社にとって大変嬉しい事で、環境デザイン学部が新設される事によって、事務職以外にも、技術職として興味を持って頂ける学生様が増えたらと期待しております。
弊社のスタッフは、お客様に満足を超えた感動を与えられるお客様対応をするために、スタッフ同士で日々考え、達成に向けて取り組んでおります。なので御校の環境デザイン学部環境デザイン学科のコミュニティデザインで学べるものが弊社としては特に興味深く、この学部学科で学んだことを発揮してもらえる場面はたくさんあるのではないかと考えます。
日頃大変お世話になっております。この度は環境デザイン学部設置構想に関するご連絡を賜りまして誠にありがとうございます。 「環境デザイン」という言葉はあまり聞きなじみがないため、どんなことを学んでいるのか聞きたくなるという点で学生とのコミュニケーションの１つになると感じます。 様々なテーマを扱う点が魅力的ですし、「デザインされた商品・アイデア」は「使う人を想って」作られるものばかりだと思います。「人を支えるため」という共通点が当社ともあると感じましたので、もし学部が設置されましたら、是非学生様とお会いできればと存じます。 引き続き何卒宜しくお願い申し上げます。
当学科では、学生は俯瞰して状況を捉え、課題を見抜き、ハードおよびソフトの観点から解決できる人材を養成する学科と考えました。
創造社会への変化、自ら環境をつくりだそうと考えるデザインマインドを身につけることを目指というのに非常に共感できた。防衛省自衛隊でも生かせる職種があるので是非採用したいと思った。
是非、採用させていただきたいと考えております。ご縁を繋げることができるよう、尽力してまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。
身近なサンプルから学びやすい、また応用がしやすい勉学内容だと思います。
情報・視覚デザインの授業は興味深いです
住まいに関する事業活動を行っており、建築に関する専門知識、顧客対応のための幅広い知識をお持ちの人材に非常に興味がございます。
自由度が高く、履修内容を自分で文字通りデザイン出来る学部・学科だと感じました。我々IT分野の企業でもそうした力を発揮して存分に活躍いただけるのではないかと思います。
時代にあっていると感じた。今後に生きる教育内容であれば活躍する人材が育つと感じる。

私自身が生活環境学科の出身ですが、当時は住環境をメインに学んでおりました。しかし社会に出てみると、衣料の授業で学んだことが役に立ったり、色彩学の授業での知識を活かせたりと、幅広く学べたこそ活かせている知識や経験がたくさんあると感じております。今回のパンフレット等を拝見し、より専門性を持ちつつも多角的に学べる学科だと感じ、学生の中にある可能性を伸ばせる学科なのではと思います。ぜひご縁がございましたら弊社の採用選考活動にてお会いさせていただきたいと感じました。
今後ご縁がありましたら大変幸いです。
今の時代にあった学部だと思います。
空間、ファッション、情報等をデザインで考えるということで、今までの生活環境学科に比べて分かりやすく、学生にとっても柔らかく、魅力として映ると感じました。建材メーカーとして一商材だけを考えず、環境をトータルで考えなければならない時代となり、当社の考えとも一致する点が多くあると感じました。
学ばれる学問だけではなく、コミュニケーション力など、社会人として必要不可欠な能力においても身につけられる環境が備わっていると、更に魅力的に感じます。(現在そういった環境が無いということではないですので、その点予めご理解いただけますと幸いでございます)
衣食住環境の内、衣住の業界に優秀な人材を輩出するイメージ
デザインの力を改めて、考えさせられました。こちらの学科で学び、人を明るくする、温かく前向きな気持ちにさせる――そのような思考を持った学生さんと出会えますことを楽しみにしております。
デザインの知識は弊社の販促資料を作成している部署で実際に生かされると感じました。また、コミュニティデザインの講義を通して、多くの人と協同することで身につくと予測されるコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップは非常に需要も高く、多種多様な企業で活躍できると思います。
デザインに関連する多様性を感じました。幅広い発想力が醸成される学科なのかなと期待しています。
ぜひ積極的に採用させていただきたいです。楽しみにしております。
いつもお世話になっております。建築・住環境デザイン」コースで学んだ方であれば当社の業務内容とマッチする方がいるかと思いますので、ぜひ今後も御縁を深められればと思います。

（２） 新学科が養成する人材の採用意向で「採用を検討したい」と回答した企業・団体

様々な分野のデザインを自分で選んで学ぶことが出来るというのは、本人の考えの幅も広がる施策だと感じました。広い分野で活躍する人材の育成になるとの印象を受けております。
弊社のコア業務であるCommunication Produce の点とコミュニティデザインの観点は類似点を感じます。物事へのデザイン思考は学生に求める素質の一つでもあるので、非常によい学びだと感じます。
弊社サービスは、企業や地域・自治体向けに企画提案させていただくこともありますため、社会課題解決も絡めた知識、スキルも身に付けられる貴校の学生様にとっても、ご活躍いただけるフィールドをご用意できるかと思います。

弊社が携わるのは食品ですが、商品設計やイベントなどにおいてデザイン性はとても重要です。デザインの勉強をしながら食への興味もある学生さんがいらっしゃればと考えます。
総合的に学ぶことで、多様な考え方や知識の取得が期待できそう
総合職の採用人材となりますが、当社の業種では学生のニーズが低いと想像しています。
想像力や挑戦する気持ちをもって行動できるイメージです。
消費者起点でサービスを創造する力がつくことは、今後の社会にて必要になってくると思い、魅力的な学部に感じます。
出過ぎたことを申しますが、ものづくり、情報、ICT技術などワードだけ見ると活躍いただけそうなのですが、弊社の事業内容・領域と一致するかと考えると難しいこともあり、学生の方の就職先として選択肢に入るには厳しく感じております。
就職に強い印象を受けました。
社会的に幅広い需要があるスキル・視点を持った人材が育成されると感じます。 当社は食品インフラ業であるため、デザインスキルやものづくりを直接活かせる仕事は正直無いのですが、 広い視野で、食品の流通システムや食品保管に関する環境改善に力を発揮していただきたいと考えます。
時代にあっている学び
今後学ばせていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
今後ますますモノに対するデザインは利便性や多様性が求められていく時代になるため専門的に学び、それを社会で発揮する場面は多くなると思います。そのため今回の新学部創設の必要性は高いのではないかと感じました。
今の時代に合っている印象
楽しそうに思いました
BtoC寄りな学科に感じるので、BtoB分野の比重を増やして頂けると就職へ繋がりやすいと思います。

（３） 新学科が養成する人材の採用意向で「どちらとも言えない」と回答した企業・団体

専門分野において創造力を発揮できるように学べる機会が得られることは非常に有難いことと感じます。
専門性の高い事を学習されるのだと思います。その分野で活躍される学生さんを期待します。
今後社会のニーズに応え、活躍する人材の輩出が見込めると感じる
学科で総称されてしまい、何をやっているかよくわからない

資料１

実践女子大学 新学部「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」設置に関するアンケート調査へのご協力のお願い

実践女子大学では、2025年（令和7年）4月に「生活科学部 生活環境学科」を改組して、「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」の設置を構想しております。
このアンケート調査は、企業の皆さまから「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」の設置についての率直な意見をお聞きし、学部学科設置の検討資料とするものです。
「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」の概要は紹介リーフレットをご覧いただき、アンケートにご回答ください。
本調査結果は、新学部新学科設置のための資料として使用させていただきます。個別の企業名等が公表されることはありません。
ご多忙の折大変お手数ではございますが、本調査の趣旨をご理解のうえ、何卒ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
※学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更されることがあります。

* 必須の質問です

1。 メールアドレス *

2。 会社名 *

3。 本社または主たる事業所等の所在地（都道府県） *

4。 回答者のお名前 *

5。 お名前のふりがな *

6。 貴部署名 *

7。 ご連絡先住所 *

8。 ご連絡先電話番号 *

9。 回答者のご担当をお答えください。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ 1．人事・採用担当者
- ◯ 2．人事・採用決定者
- ◯ 3．その他

10。 上のご担当で「3．その他」と回答した場合は、内容をご記入ください。

_____

11。 問1　業種をお答えください。（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 1．農林漁業・鉱業・建設
- ☐ 2．製造業
- ☐ 3．情報通信業
- ☐ 4．運輸業・卸売業・小売業
- ☐ 5．金融・保険・不動産業
- ☐ 6．宿泊・飲食サービス業
- ☐ 7．医療・福祉業
- ☐ 8．対個人サービス業
- ☐ 9．他事業所サービス業
- ☐ 10．電気・ガス・熱供給・水道業
- ☐ 11．その他

12。 問2　問1で「11．その他」と回答した場合は、内容をご記入ください。

_____

13。 問3　従業員数、職員数の規模をお答えください。（支店や支社を含めた数） *

1 つだけマークしてください。

- ◯ 1．50人未満
- ◯ 2．50～100人未満
- ◯ 3．100～500人未満
- ◯ 4．500～1,000人未満
- ◯ 5．1,000人以上

14。 問４　新卒者を採用する際、どのような能力等を重視するかをお答えください。（複数回答可） *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] １．コミュニケーション能力
- [ ] ２．思考力
- [ ] ３．実践力
- [ ] ４．協働力
- [ ] ５．ホスピタリティマインド
- [ ] ６．課題解決能力
- [ ] ７．主体性
- [ ] ８．協調性
- [ ] ９．責任感
- [ ] 10．リーダーシップ
- [ ] 11．専門性
- [ ] 12．成長力
- [ ] 13．柔軟性・素直さ
- [ ] 14．創造性
- [ ] 15．チャレンジ精神
- [ ] 16．ストレス耐性
- [ ] 17．取得資格
- [ ] 18．出身学部・学科
- [ ] 19．学業成績・一般常識
- [ ] 20．外国語力（英語力）
- [ ] 21．海外経験、留学経験
- [ ] 22．社会貢献活動
- [ ] 23．その他

15。 問５　問４で「23．その他」と回答した場合は、内容をご記入ください。

_____

16。 問６　現在の人材の過不足状況をお答えください。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ １．非常に不足
- ◯ ２．不足
- ◯ ３．適正
- ◯ ４．過剰
- ◯ ５．非常に過剰

17。 問７　直近(2023年4月) の新卒採用の状況についてお答えください。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ １．採用した
- ◯ ２．採用活動の結果、採用しなかった
- ◯ ３．採用活動・採用ともに実施しなかった

18。 問８　問７で「１．採用した」を選択された場合、採用人数をご記入ください。（◯人）

_____

19。 問９　今後の新卒採用の計画についてお答えください。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ １．積極的に採用を増やしたい
- ◯ ２．若干は採用を増やしたい
- ◯ ３．現状のまま
- ◯ ４．採用は減らしたい
- ◯ ５．採用しない
- ◯ ６．未定

以下は、実践女子大学 環境デザイン学部 環境デザイン学科の紹介リーフレットをご覧いただきお答えください。

20。 問10　本学の「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」が養成する人材は、社会的ニーズが高いと思います か。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ 1．高い
- ◯ 2．どちらかといえば高い
- ◯ ３．どちらかといえば低い
- ◯ ４．低い

以下、問11,問12における採用意向・人数に関する回答は、実際の採用人数をお約束いただくものではありません。ご担当部署もしくはご担当者様ご自身のお考えに最も近いものをお答えください。

21。 問11　本学の「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」が養成する人材の、今後の採用意向についてお答え ください。 *

1 つだけマークしてください。

- ◯ １．採用したい
- ◯ ２．採用を検討したい
- ◯ ３．どちらとも言えない
- ◯ ４．採用しない

22。 問12　問11で「１．採用したい」「２．採用を検討したい」を選んだ場合、お答えください。
今後、本学の「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」から採用を想定いただける人数をご記入ください。
（◯人）

23。 問13　本学の「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」について、印象やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

資料2

学びの特長

01 様々なデザイン領域の中から興味・関心に合わせて自由に履修できます。

最初から専門分野を限定する必要はありません。それぞれのデザイン領域を自分の興味・関心に応じて自由に履修することが可能です。いろいろなデザイン手法に触れることで、自分の新しい関心や能力を見出し、デザインの引き出しを増やして将来の可能性を広げていきます。

02 モノづくりだけではなくヒトづくり・コトづくりも。社会の総合的な問題解決にチャレンジします。

実社会（コミュニティ）の課題に対して、モノづくりからヒトづくり、コトづくりまで含め、環境や社会の価値を高めるのがコミュニティデザインです。その場に関係する地域・社会・生活者・消費者・ユーザー・運営者など多様なヒトを巻き込みながら、協働・共創によって実践します。

03 企業や地域とコラボするプロジェクト活動に挑戦。身につけた知識とスキルを活かして実践します。

2年次および4年次には、分野を超えたチームで社会課題に取り組む「社会連携プロジェクト科目」を設けており、これまでに学んだデザインスキルを統括して挑戦します。本学科には、様々な社会連携プロジェクトに携わってきた教員が数多く在籍しているのも強みです。

04 将来に活かせる様々な資格取得をサポート。高い専門性が身につきます。

「衣・住」に関わる資格から中・高の教員免許まで幅広い分野の資格取得が可能です。また、国家資格である一・二級建築士試験にも毎年多くの卒業生が合格しています。自分のやりたいことをしっかり見据え、必要な資格にチャレンジしよう。

取得可能な資格・取得支援資格

■取得可能な資格（予定）

高等学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（家庭）／司書教諭（要教員免許）／1級衣料管理士／一級建築士試験受験資格／二級建築士試験受験資格／インテリアプランナー登録資格

■取得支援資格

インテリア設計士2級／商業施設士／プロダクトデザイン検定／色彩検定／商品装飾展示技能検定（VMD検定）3級／接客販売技能検定3級

■就職・資格取得実績（2023年3月 生活環境学科卒業生）

就職率※1	一級建築士 試験受験資格※2	二級建築士 試験受験資格※2	インテリアプランナー 登録資格※2	1級衣料 管理士	中学校教諭 一種免許	高等学校教諭 一種免許
98.7% （就職者：71名）	15名	32名	40名	13名	3名	3名

※1 就職率＝（就職者／就職希望者）　※2 要実務経験

入賞実績

卒業生※たちは外部の卒業制作展に出品して、毎年様々な賞を受賞しています。



第45回 学生設計優秀作品展「レモン賞」受賞



第23回 卒業設計コンクール展「埼玉県知事賞」受賞

※生活環境学科卒業生

想定される将来像

- 就職の自由度は高く、デザインスキルとマインドを持った人は分野を超えた活躍が期待できます。
- 学んだ分野の専門性を活かし、企画・設計、展示・販売、品質評価などの現場での活躍も可能です。

■2021～2023年 生活環境学科卒業生実績

〈アパレル・繊維関連〉（株）ユナイテッドアローズ／（株）ストライプインターナショナル／（株）ビームス／（株）ファーストリテイリング／ユザワヤ商事（株）／ルイ・ヴィトンジャパン（株）
〈住宅・建設・不動産〉（株）木下工務店／積水ハウスリフォーム（株）／住友林業ホームテック（株）／（株）大京／大成建設（株）／タマホーム（株）／東急リバブル（株）
〈プロダクト・インテリア〉（株）カインズ／クリナップ（株）／タカラスタンダード（株）／（株）島忠／（株）ニトリ／パナソニックリビング（株）／（株）三越伊勢丹プロパティ・デザイン／（株）ドウシシャ
〈その他〉埼玉県教育委員会／山梨県庁／川崎市役所／下田市役所／明治安田生命保険（相）／（株）山梨中央銀行 等

納付金について

■初年度納付金（予定）

環境デザイン学部
¥1,427,010
（入学金、授業料、施設設備費を含む）

参考：2023・2024年度入学者納付金

日本女子大学 建築デザイン学部 ¥1,555,860（2024年度）
昭和女子大学 環境デザイン学部 ¥1,448,000（2024年度）
東京家政大学 家政学部 造形表現学科 ¥1,417,500円（2023年度）
多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 ¥1,965,000（2023年度）
芝浦工業大学 建築学部 ¥1,794,880（2023年度）
東洋大学 理工学部 建築学科 ¥1,595,000（2024年度）



日野キャンパス

アクセス

［日野駅から］
- 徒歩約12分
- 日野駅発日野市ミニバス［豊田駅北口行］約2分＋「実践女子大学」下車、徒歩1分（60分に1～2本運行しています）

［高幡不動駅から］
- 京王バス「日野駅行（日02）」約15分＋「日野市役所」下車、徒歩約5分
- 京王バス「日野駅行（日03）」約13分＋「日野市役所東」下車、徒歩約10分

お問い合わせ

学生総合支援センター 入学サポート部
［日野］〒191-8510 東京都日野市大坂上 4-1-1 TEL 042-585-8820
https://www.jissen.ac.jp

新学部の情報は大学HPで順次、公開予定です。ぜひ、ご覧ください。

実践女子大学



資料3

デザインの力で
よりよい社会に
変えていく。

環境デザイン学部
環境デザイン学科

（仮称・設置構想中）

時代は大きく変化しています。モノやサービスを消費することで生活の豊かさにつなげる「消費社会」や人と多様な関係を築くことが生活の豊かさを表す「情報社会」を経て、これからは、求めるモノやコトを自分で創り出す「創造社会」へ変化していくと言われています。自分の周りの環境や社会を創り出し、そして自分の生き方を創り出すことで生活の豊かさを示す。それが「創造社会」です。このような時代に対応すべく、2025年4月から生活環境学科は「環境デザイン学部 環境デザイン学科（仮称）」として新たに生まれ変わります。「つくることを学ぶこと」「つくることを通して学ぶこと」を重視し、多様なデザインスキルを身につけ社会における実践力を養い、自ら環境をつくりだそうとするデザインマインドを身につけることを目指します。

※学部・学科の情報は構想中のため変更になる場合があります。

実践女子大学

環境デザイン学部の学び領域

ファッション、プロダクト、建築、そして地域まで幅広いデザインスキルを身につけよう。

Architecture and Living Environment Design

建築・住環境デザイン




一級／二級建築士の
受験資格取得に対応したカリキュラムで、
設計製図、建築計画、環境工学、建築構造など
建築士に必要な知識・技術を網羅しています。

Interior Design

インテリアデザイン




インテリアのデザインは建築的な空間内部、
家具や道具、照明やファブリックなど
多様な要素で成り立っており、素材や色彩、
光環境や音環境など総合的に学びます。

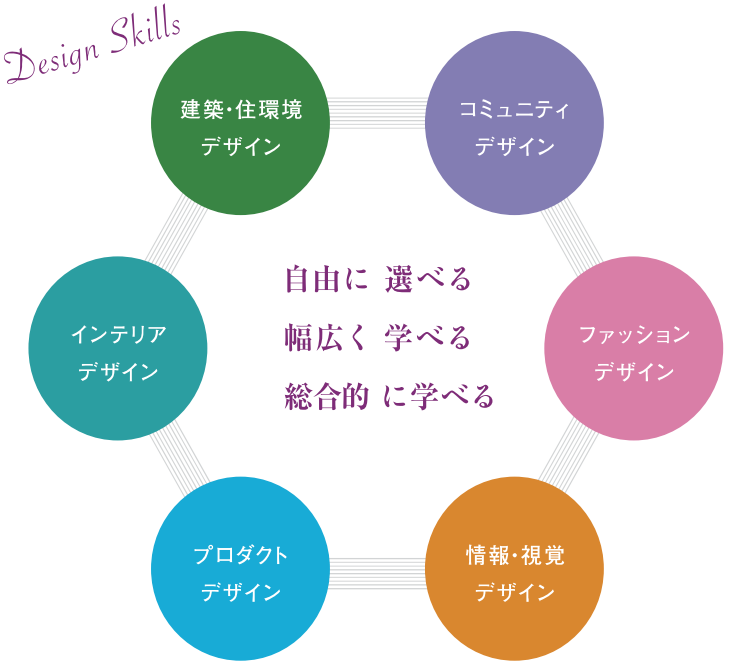
Product Design

プロダクトデザイン





私たちの生活を支えている
様々な製品デザインに取り組み、デザインの基礎から
実際のものづくり、製品として完成させるマネジメントまで
体系的に学んでいきます。



Community Design

コミュニティデザイン




各分野で学んだデザインスキルを用いて
社会的な課題に応用します。多くの人たちと一緒に
問題を発見・分析し、協働して解決方法を提案する
総合的・実践的なスキルを身につけます。

Fashion Design

ファッションデザイン




1級衣料管理士の資格取得に沿ったカリキュラムで、
衣服の製作・販売、素材の評価・開発、
品質管理・染色加工等、被服に関するトータルな技術と
知識を身につけることができます。

Information and Visual Design

情報・視覚デザイン




ICT技術をデザインに活かしながら
情報を整理・編集し、発信するための情報デザイン
および視覚的な手段で効果的に相手に伝わるための
スキルを磨くビジュアルデザインを学びます。

環境デザイン学部のポイント

Point 1
カリキュラムはコース制ではなく、
それぞれのデザイン領域は興味に応じて自由に履修可能。

Point 2
幅広く学びな がら、少しずつ自分の興味・関心を
絞り込むレイ トスペシャライゼーションに対応。

Point 3
複数の領域を組み合わせて学ぶことで提案力や表現力がつき、
オリジナルのスキルを修得。将来の可能性が広がる。

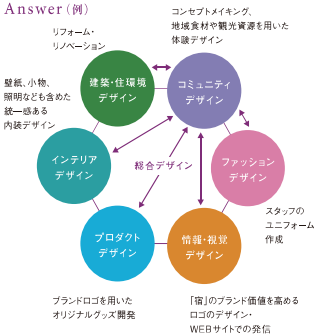
「総合デザイン」の課題にチャレンジ

Question:

豊富な海の幸に恵まれた漁港。
その海辺に面した一軒の
「温泉宿」を題材として、
新たな観光客を呼び寄せるための
施策を考えてみましょう。

「総合デザイン」の考え方　たとえば、ある一軒の「温泉宿」にもっと客を呼びたいという課題。建物をお洒落に建て替えるほどの資金はありません。「総合デザイン」は、チーム協働で取り組みます。この土地の魅力や宿を営む人々の思いなど多くの人と話し合い、インテリア、小物、制服など、様々なデザインを組み合わせて提案し、さらにWEBなどを通じてその魅力を発信するところまで、総合的にプロデュースすることを目指します。

Answer（例）



TOPICS

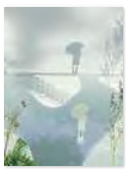
「PBL型 社会連携プロジェクト」

2年生・4年生の時に分野を横断して社会の課題に取り組む社会連携プロジェクト科目を設けています。授業で培ったデザイン力を実社会で実践できる場があるのも本学の特長のひとつです。



「デザイン基礎演習」

自分で考えた形・イメージについて、まずはスケッチを中心とした2次元で表現し、図面や模型を作成するために必要となる3次元のデザインを検討できるところまで手を動かしながら修得。デザイン未経験の方でも安心して取り組める内容になっています。



アドミッション・ポリシー

環境デザイン学部は、アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境デザイン、コミュニティなどの分野に興味を持ち、デザインに対して意欲的に取り組み、創造社会において活躍できるデザインスキルとデザインマインドを身につけた人材の育成を目指しています。したがって、高等学校で十分な基礎学力を身につけていることに加え、多様な視点からデザイン力を磨き、実践する意欲と行動力のある人を求めます。

求める人物像

- アパレル・ファッション、プロダクト・インテリア、建築・住環境、コミュニティなどの分野に関心を持っている人
- デザイン、作品制作、実験等に興味がある人
- 好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動でき、多様な文化・社会背景をもつ人々とコミュニケーションを図れる態度を身につけられる人
- 身につけた専門性を生かして、地域・社会の中にある課題解決に向けて取り組もうとする意欲のある人

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ﾅﾝﾊﾞ ﾏｻﾉﾘ 難波　雅紀 ＜令和3年4月＞		文学修士		実践女子大学学長 （令和3.4～令和7.3） 実践女子大学短期大学部学長 （令和3.4～令和7.3）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授	ｱﾝｻﾞｲ ﾄｼﾉﾘ 安齋　利典 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		実践入門セミナー	○	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （令和5年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.3	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							デザイン基礎演習a		1前	4	2							
							プロダクトデザイン概論	○	1前	2	1							
							基礎造形論		1後	2	1							
							プロダクトデザイン論	○	2前	2	1							
							プロダクトデザイン演習a	○	2後	2	1							
							プロダクトデザイン演習b	○	3後	2	1							
							デザインマネジメントa		3前	2	1							
							デザインマネジメントb		4前	2	1							
							ビジュアルデザインa		2前	2	1							
							総合設計演習		4前	2	1							
2	基（主専）	教授	ｵｵｶﾜ ﾄﾓｺ 大川　知子 ＜令和7年4月＞		博士 （経営学）		実践入門セミナー	○	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成25年4月）	○				5日	
							衣文化論		1前	2	1							
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.2	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							ファッションビジネスの世界		1後	2	1							
							ファッションビジネス論		2前	2	1							
							ファッションビジネス演習		4前	2	1							
							アパレル生産		2後	2	1							
							マーケティング論		3後	2	1							
							消費科学		4前	2	1							
							環境デザインプロジェクトb	○	2前	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
3	基（主専）	教授	ｻﾄｳ ﾀｹｼ 佐藤　健 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		くらしの人間工学		1前・後	4	2	実践女子大学生活科学部教授（平成19年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							身体運動の科学ａ		1前	2	1							
							身体運動の科学ｂ		1後	2	1							
							スポーツ応用科学実習		1前・後	2	2							
							実践教養講座ｃ※		1後	0.3	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.1	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							基礎演習b		1前	2	1							
							人体生理学		1後	2	1							
							人体生理学実験【隔年】		2後	2	1							
							人間工学		2前	2	1							
							人間工学実験【隔年】		2後	2	1							
							ユニバーサルデザイン論		3後	2	1							
							情報デザイン論		1前	2	1							
							感性科学		3前	2	1							
4	基（主専）	教授	ｼｵﾊﾞﾗ ﾐﾕｷ 塩原　みゆき ＜令和7年4月＞		博士（学術）		実践入門セミナー	○	1前	2	1	実践女子大学生活科学部教授（令和4年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.1	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							基礎演習c		1後	2	1							
							テキスタイル管理学		2前	2	1							
							テキスタイル管理実験		2後	2	1							
							染色加工学		3前	2	1							
							生活環境科学		3後	2	1							
							衣料管理実習		3後	1	1							
							消費生活学		2前	2	1							
							環境デザインプロジェクトａ	○	2前	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
5	基（主専）	教授	ﾀﾁﾊﾞﾅ ﾋﾛｼ 橘　弘志 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		生活環境の科学※		1前	0.2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成14年4月）	○				5日	
							実践教養講座ｇ		1前	2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.3	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							住居学		1前	2	1							
							住居デザイン論		1後	2	1							
							福祉住環境論		2後	2	1							
							生活空間計画		3前	2	1							
							設計製図基礎	○	1後	4	2							
							生活空間設計製図２	○	3前	2	1							
							建築構造		1後	2	1							
							建築法規		4前	2	1							
							環境デザイン特論a		1前	2	1							
6	基（主専）	教授	ﾅｲﾄｳ ﾏｻﾄｼ 内藤　将俊 ＜令和7年4月＞		修士 （工学）		実践入門セミナー	○	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （令和3年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.1	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							デザイン基礎演習b		1前	4	2							
							住環境デザイン論		2前	2	1							
							建築デザイン論		3後	2	1							
							生活空間設計製図１	○	2後	4	2							
							建築・インテリア構法		2前	2	1							
							構法・構造演習		3前	2	1							
							総合設計演習		4前	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
7	基（主専）	教授 （副学長）	マキ　キワム 槙　　究 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		生活環境の科学※		1前	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成7年4月）	○				5日	
							実践教養講座ｂ		1休	2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.3	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							色彩学		1後	2	1							
							色彩設計演習ａ		2後	2	1							
							色彩設計演習ｂ		2後	2	1							
							環境心理学		2前	2	1							
							マーケティングリサーチ		3後	2	1							
							光環境デザイン		3前	2	1							
							建築概論	○	1前	2	1							
							生活環境工学		1前	2	1							
							環境デザインプロジェクトａ	○	2前	2	1							
							環境デザイン特論ｂ		1後	2	1							
8	基（主専）	准教授	ｲｯｼｷ　ﾋﾛﾀｶ(ﾋﾛﾀｶ) 一色　ヒロタカ（博貴） ＜令和7年4月＞		修士※ （工学）		実践プロジェクトｃ		2前	2	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （令和6年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.3	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							空間造形基礎		2前	4	2							
							生活空間設計製図３		3後	2	1							
							コミュニティデザイン論ａ	○	2後	2	1							
							コミュニティデザイン論ｂ		3後	2	1							
							環境デザインプロジェクトｂ	○	2前	2	1							
							ワークショップ演習		1後	2	1							
							コミュニティデザイン演習	○	3前	2	1							

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
9	基（主専）	准教授	ｶﾄｳｷﾞ ﾋﾃﾞｱｷ 加藤木　秀章 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		くらしの化学※		1後	1.2	2	実践女子大学 生活科学部 准教授 （平成30年4月）	○				5日	
							生活環境の科学※		1前	0.2	1							
							実践教養講座ｃ※		1後	0.3	1							
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.1	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							基礎演習a		1前	2	1							
							統計の基礎		1後	2	1							
							マテリアル・デザイン		1前	2	1							
							繊維高分子材料学		1後	2	1							
							繊維高分子材料実験		2前	2	1							
							テキスタイル材料学		2後	2	1							
							テキスタイル材料実験		3前	2	1							
							機能材料学		3後	2	1							
10	基（主専）	准教授	ﾀｷｻﾞﾜ ｱｲ 滝澤　愛 ＜令和7年4月＞		学士（家政）		生活環境の科学※		1前	0.2	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （令和5年4月）	○				5日	
							環境デザイン学入門※	○	1前	0.2	1							
							環境デザイン学演習	○	2後	2	1							
							環境デザイン学セミナー	○	3通	2	1							
							卒業研究	○	4通	6	1							
							アパレル製作基礎演習		1後	2	1							
							アパレル製作基礎		2前	2	1							
							アパレル製作実習	○	2前	2	1							
							ファッションデザイン論	○	1前	2	1							
							ファッションドローイング	○	1後	2	1							
							ファッションデザイン演習2	○	3後	2	1							
11	その他	教授	ｱﾜﾂﾞ ｼｭﾝｼﾞ 粟津　俊二 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		短期インターンシップ		3休	1	1	実践女子大学 人間社会学部 教授 （平成16年4月）						
							長期インターンシップ		3休	2	1							
							海外短期インターンシップ		1休	1	1							
							海外長期インターンシップ		1休	2	1							
							ボランティアプロジェクトａ		1休	1	1							
							ボランティアプロジェクトｂ		1休	1	1							
12	その他	教授	ｲｸﾞﾁ ﾏﾐ 井口　眞美 ＜令和9年4月＞		教育学修士		保育学		3前・後	4	2	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成24年4月）						
13	その他	教授	ｲｹﾀﾞ（ｲｲｲﾂﾞﾐ）ﾐｴｺ 池田（飯泉）三枝子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		実践教養講座ｂ		1休	2	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成11年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
14	その他	教授	ｲﾁｶﾞ ﾕｳｺ 市毛　祐子 ＜令和8年4月＞		家政学士		家庭科教育法（１） 家庭科教育法（２） 家庭科教育法（３） 教育実習Ａ 教育実習Ｂ 教職実践演習（中・高） 教職研究ｄ		2前 2後 3前 4前 4前 4後 2後	2 2 2 5 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 大学教職センター 教授 （令和3年4月）						
15	その他	教授	ｲﾅｶﾞｷ ｼﾝｲﾁ 稲垣　伸一 ＜令和7年9月＞		文学修士		実践教養講座ｈ※		1後	0.4	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成18年4月）						
16	その他	教授	ｳｴﾉ(ｺﾝﾉ)ｴｲｺ 上野（今野）英子 ＜令和7年9月＞		博士 （文学）		日本の古典文学		1後	2	1	実践女子大学 文芸資料研究所 教授 （昭和59年4月）						
17	その他	教授	ｵﾎ ﾕｳｺ 於保　祐子 ＜令和7年4月＞		博士 （医学）		Global Studies d※ 身体の科学 実践教養講座ｉ※ 栄養学 育児学		1後 1前 1後 1後 3後	1 2 0.3 2 2	1 1 1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成28年4月）						
18	その他	教授	ｶｼﾜｻﾞｷ ﾋﾃﾞｺ 柏崎　秀子 ＜令和8年4月＞		文学修士※		発達・学習理論 特別支援教育論 介護支援基礎論 介護等体験 教職研究ｂ		2前 2後 2後 3通 2前	2 1 1 1 4	1 1 1 1 2	実践女子大学 大学教職センター 教授 （平成16年4月）						
19	その他	教授	ｶﾄﾞﾓﾄ ﾉﾌﾞﾃﾙ 角本　伸晃 ＜令和7年9月＞		経済学博士		数学的思考※		1後	0.7	1	実践女子大学 人間社会学部 教授 （平成28年4月）						
20	その他	教授	ｻｲﾄｳ ﾋﾛｼ 齋藤　洋 ＜令和7年4月＞		博士 （工学）		データサイエンス入門 情報リテラシー基礎 情報リテラシー応用ｃ 実践教養講座ｅ		1後 1前 1前 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 大学教育研究センター 特任教授 （令和5年4月）						
21	その他	教授	ｻｻｷ ｹﾏﾙ 佐々木　渓円 ＜令和7年9月＞		博士 （生物環境調整学）		実践教養講座ｃ※ 実践教養講座ｉ※		1後 1後	0.3 0.1	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成30年4月）						
22	その他	教授	ｻｻｷ ﾏﾘ 佐々木　真理 ＜令和7年9月＞		文学修士		実践教養講座ｈ※		1後	0.4	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成16年4月）						
23	その他	教授	ｻﾄｳ ｻﾁｺ 佐藤　幸子 ＜令和7年9月＞		博士 （食物栄養学）		実践教養講座ｉ※ 食物学		1後 3前	0.2 2	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成25年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
24	その他	教授	ｼｲﾊﾗ ﾉﾌﾞﾋﾛ 椎原　伸博 ＜令和7年9月＞		芸術学修士		実践プロジェクトｃ 実践教養講座ｈ※		2休 1後	2 0.5	1 1	実践女子大学 文学部 教授 （平成14年4月）						
25	その他	教授	ｼｵｶﾜ ﾋﾛｻﾄ 塩川　宏郷 ＜令和7年9月＞		博士 （医学）		実践教養講座ｃ※		1後	0.3	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成30年4月）						
26	その他	教授	ｼﾏｻﾞｷ ｱｶﾈ 島崎　あかね ＜令和7年4月＞		博士 （環境共生学）		身体運動の科学ａ 身体運動の科学ｂ 基礎スポーツ実習ａ 基礎スポーツ実習ｂ 健康体力科学演習 アダプテッドスポーツ		1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成28年4月）						
27	その他	教授	ｼﾓﾔﾏ ﾊｼﾞﾒ 下山　肇 ＜令和8年4月＞		学士 （造形）		実践プロジェクトｂ		2前	2	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成23年4月）						
28	その他	教授	ｼｭﾆｯｹﾙ,ｼﾞｪｲｺﾌﾞ Schmicmel,Jacob ＜令和7年4月＞		Master of Arts（米国）		Integrated English a Global Studies b		1前・後 1前・後	1 4	1 2	実践女子大学 言語文化教育研究センター 教授 （平成28年4月）						
29	その他	教授	ｼﾗｵ ﾐｶ 白尾　美佳 ＜令和7年9月＞		医学博士		実践教養講座ｃ※ 実践教養講座ｉ※		1後 1後	0.3 0.1	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成25年4月）						
30	その他	教授	ｽｷﾞﾔﾏ ﾔｽﾏｻ 杉山　靖正 ＜令和7年4月＞		博士 （農業）		くらしの化学※ 実践教養講座ｉ※		1前 1後	0.4 0.3	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成30年4月）						
31	その他	教授	ｾｲﾀﾞ ﾅﾂﾖ 清田　夏代 ＜令和7年4月＞		博士 （教育学）		Global Studies e 女性教育とジェンダー※ 教育制度 教職研究ｃ		1前 1前・後 2前 2後	2 2 2 2	1 2 1 1	実践女子大学 大学教職センター 教授 （平成28年4月）						
32	その他	教授	ﾀｶﾊｼ ｹｲｺ 高橋　桂子 ＜令和7年4月＞		博士 （社会科学）		ライフデザイン 金融リテラシー入門 数学的思考※ 家庭経営学 生活経済学		3前 1後 1後 1後 1前	2 2 0.7 2 2	1 1 1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成27年4月）						
33	その他	教授	ﾀｶﾊｼ ﾋﾛｷ 高橋　裕樹 ＜令和7年4月＞		修士 （経営学）		実践キャリアプランニング キャリアデザイン グローバル・キャリアデザイン 実践プロジェクトａ		2前 3前 3後 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 大学教育研究センター 特任教授 （令和3年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
34	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ｱｷﾉﾌﾞ 竹内　光悦 ＜令和7年4月＞		博士（理学）		統計的思考		1前	2	1	実践女子大学 人間社会学部 教授 （平成16年4月）						
35	その他	教授	ﾀｹｳﾁ ｶｽﾞﾖｼ 武内　一良 ＜令和7年4月＞		博士（観光学）		実践教養講座ｄ※		1前	0.2	1	実践女子大学 国際学部 教授 （令和6年4月）						
36	その他	教授	ﾅｶﾑﾗ ｱｷｵ 中村　彰男 ＜令和7年4月＞		博士（医学）		くらしの化学※ 実践教養講座ｉ※		1前 1後	0.4 0.3	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成30年4月）						
37	その他	教授	ﾅｶﾔﾏ ﾄﾓｶｽﾞ 中山　誠一 ＜令和7年4月＞		博士（教育学）		Integrated English a Global Studies a 海外語学研修ａ 海外語学研修ｂ 海外語学研修ｃ 海外語学研修ｄ 海外語学研修ｅ 海外語学研修ｆ 海外語学研修ｇ 海外語学研修ｈ		1前・後 1前・後 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休	1 4 2 2 2 2 1 1 1 1	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 言語文化教育研究センター 教授 （平成26年4月）						
38	その他	教授	ﾅﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 奈良　一寛 ＜令和7年9月＞		博士（農学）		実践教養講座ｉ※		1後	0.3	1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成28年4月）						
39	その他	教授（学長）	ﾅﾝﾊﾞ ﾏｻﾉﾘ 難波　雅紀 〈令和7年4月〉		文学修士		実践教養講座ｄ※		1前	0.2	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成9年4月）						
40	その他	教授	ﾆｲﾑﾗ ﾉﾘｱｷ 新村　紀昭 〈令和8年4月〉		文学士		教職研究ａ 教職研究ｅ		2前 3後	2 2	1 1	実践女子大学 大学教育研究センター　特任教授 （令和6年4月）						
41	その他	教授（副学長）	ﾋﾛｲ(ﾋﾛｶﾜ)ﾀﾂﾞｺ 広井（廣川）多鶴子 ＜令和7年4月＞		教育学修士		実践教養講座ｄ※		1前	0.7	1	実践女子大学 人間社会学部 教授 （平成16年4月）						
42	その他	教授	ﾌｶｻﾞﾜ ｱｷﾋｻ 深澤　晶久 ＜令和7年4月＞		法学士		キャリアデザイン グローバル・キャリアデザイン キャリア開発実践論 国際理解とキャリア形成 女性とキャリア形成 キャリア・ショーケース 実践プロジェクトａ 実践プロジェクトｃ		3前 3後 3通 2前 2前 2前 1前 2前	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 文学部 教授 （平成30年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
43	その他	教授	ﾌﾞﾗｯｸ,ﾖｰｶﾞﾝ Bulach, Juergen ＜令和7年4月＞		教育学修士		ドイツ語１ａ ドイツ語１ｂ ドイツ語２ａ ドイツ語２ｂ		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 言語文化教育研究センター 教授 （平成14年4月）						
44	その他	教授	ﾌﾞﾙﾅ,ﾙｶｰｼｭ Bruna, Lukas ＜令和7年9月＞		博士（文学）		実践教養講座ｈ※		1後	0.4	1	実践女子大学 文学部 教授 （平成28年4月）						
45	その他	教授	ﾔﾏｻﾞｷ ﾀｹｼ 山崎　壮 ＜令和7年9月＞		薬学博士		Global Studies d※ くらしの化学※ 実践教養講座ｉ※		1後 1後 1後	1 2 0.3	1 2 1	実践女子大学 生活科学部 教授 （平成24年4月）						
46	その他	准教授	ｴﾄﾞﾜｰｽﾞ,ﾏｲｹﾙ・ｱﾝｿﾆｰ Michael Anthony Edwards ＜令和7年4月＞		MA in TESOL（米国）		Global Studies c Global Studies d		1後 1前	2 2	1 1	実践女子大学 国際学部 准教授 （令和6年4月）						
47	その他	准教授	ｵｵｻﾜ(ﾐﾔｹ)ﾄﾓｺ 大澤（三宅）朋子 ＜令和7年9月＞		博士（社会福祉学）		実践教養講座ｃ※		1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （平成29年4月）						
48	その他	准教授	ｵﾘﾞ ﾘｮｳｺ 織田　涼子 ＜令和7年4月＞		博士（美術）		実践教養講座ｂ		1休	2	1	実践女子大学 文学部 准教授 （平成24年4月）						
49	その他	准教授	ｸﾗﾓﾁ ﾊｼﾞﾒ 倉持　一 ＜令和7年9月＞		博士（経営学）		実践教養講座ｃ※		1後	0.4	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （令和3年4月）						
50	その他	准教授	ﾂﾂｲ ﾊﾙｶ 筒井　晴香 ＜令和7年9月＞		博士（学術）		情報スキル基礎		1後	1	1	実践女子大学 人間社会学部 准教授 （令和6年4月）						
51	その他	准教授	ﾅﾗ ﾉﾘｺ 奈良　典子 ＜令和7年9月＞		修士（教育学）		実践教養講座ｉ※		1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （平成31年4月）						
52	その他	准教授	ﾊｼﾂﾞﾒ ｱｷｺ 橋詰　秋子 ＜令和7年4月＞		博士（図書館・情報学）		オープン講座ａ※		1前	1	1	実践女子大学 図書館学課程 准教授 （令和6年4月）						
53	その他	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡辺　敏 ＜令和7年9月＞		修士（教育学）		数学的思考		1後	2	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 （平成31年4月）						
54	その他	講師	ｶｻﾊﾗ ﾘｮｳﾀ 笠原　良太 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		家族関係学		2前	2	1	実践女子大学 生活科学部 講師 （令和5年4月）						
55	その他	講師	ｶｼﾏ(ｽｽﾞｷ)ﾁﾎ 鹿島（鈴木）千穂 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		メディア論 オープン講座ａ※ クォーターオープン講座ｃ		1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	実践女子大学 文学部 講師 （令和6年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
56	その他	講師	ｶﾅﾂ ｹﾝ 金津　謙 ＜令和7年4月＞		修士 （法学）		日本国憲法		1前・後	6	3	実践女子大学 人間社会学部 講師 （平成21年4月）						
57	その他	講師	ｶﾜｲ ﾉﾌﾞｱｷ 河井　延晃 ＜令和7年9月＞		修士 （学際情報学）		メディア論		1後	2	1	実践女子大学 生活科学部 講師 （平成21年4月）						
58	その他	講師	ｸﾎﾞ（ﾌｸﾔ）ﾀｶｺ 久保（福家）貴子 ＜令和7年4月＞		文学修士		女性教育とジェンダー※ 実践教養講座ｄ※		1前・後 1前	2 0.7	2 1	実践女子大学 下田歌子記念女性総合研究所 講師 （平成30年4月）						
59	その他	講師	ｺｳﾔﾏ ｼｽﾞｶ 神山　静香 〈令和7年9月〉		博士 （法学）		実践教養講座ｈ※		1後	0.3	1	実践女子大学 人間社会学部 講師 （平成30年4月）						
60	その他	講師	ﾀﾅｶ ｱｷﾗ 田中　瑛 ＜令和7年9月＞		博士 （社会情報学）		情報スキル基礎		1後	1	1	実践女子大学 人間社会学部 講師 （令和6年4月）						
61	その他	講師	ﾊﾞﾘｰｽ,ｷﾝｾﾗ Valise,Kinsella ＜令和7年4月＞		修士 （応用言語学）		Effective Speaking Active Reading Active Listening Global Studies g		1前・後 1前 1後 1前・後	2 1 1 4	2 1 1 2	実践女子大学 言語文化教育研究センター 講師 （令和4年4月）						
62	その他	講師	ﾔﾅｷﾞﾀﾞ ﾘｮｳｺﾞ 柳田　亮吾 〈令和7年4月〉		博士 （言語文化学）		実践教養講座ｄ※		1前	0.2	1	実践女子大学 文学部 講師 （令和3年4月）						
63	その他	助教	ｵｶﾞﾜ ﾕｶ 小川　ゆか ＜令和7年4月＞		博士 （被服環境学）		生活環境の科学※ 衣料学 衣料学演習		1前 2後 2後	0.1 2 2	1 1 1	実践女子大学 生活科学部 助教 （令和5年4月）						
64	その他	講師	ｱｲｶﾜ(ｼﾝﾀ)ｴﾐ 相川（新田）愛美 ＜令和7年4月＞		Ph.D. （History） （インド）		地域研究ｂ		1前	2	1	学校法人木下学園カナン国際教育学院 学生部部長 （平成28年2月）						
65	その他	講師	ｱｲﾊﾗ ｶﾂﾕｷ 合原　勝之 ＜令和7年4月＞		芸術学士		生活とデザイン		1前	2	1	ｱｲﾊﾗ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ･ｵﾌｨｽ株式会社 代表取締役社長 （昭和60年10月）						
66	その他	講師	ｱｵｷ ｼﾞｭﾝｺ 青木　淳子 ＜令和7年9月＞		博士 （学際情報学）		衣文化論		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
67	その他	講師	ｱｷﾔﾏ(ｺﾐﾔ)ﾁｴ 秋山（小宮）千恵 ＜令和7年4月＞		修士 （史学）		西洋史		1前	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成17年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
68	その他	講師	ｱｻﾊﾗ ﾌｻｵ 浅原　房夫 ＜令和7年4月＞		修士（哲学）		情報リテラシー基礎		1前	1	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成12年4月）						
69	その他	講師	ｱﾍﾞ ｷﾐｺ 阿部　貴美子 ＜令和7年4月＞		Doctor of Philosophy（英国）		女性の健康		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
70	その他	講師	ｱﾍﾞ ﾃﾂﾘ 阿部　哲理 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		心の健康		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						
71	その他	講師	ｱﾍﾞ ﾑﾂｺ 阿部　睦子 ＜令和9年9月＞		教育学修士		家庭科教育法（４）		3後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
72	その他	講師	ｱﾗｵ(ｲﾜｸﾏ)ﾐﾖ 荒尾（岩熊）美代 ＜令和7年4月＞		博士（学術）		食文化論		1前・後	6	3	昭和女子大学 国際文化研究所 客員研究員 （平成16年4月）						
73	その他	講師	ｱﾙｶﾞ(ｷｼ)ｱｷｺ 有賀（岸）暁子 ＜令和7年4月＞		学士（国文学）		健康運動実習ａ		1前・後	2	2	実践女子大学 非常勤講師 （平成29年4月）						
74	その他	講師	ｲｲｽﾞﾐ(ﾄｸﾅｶﾞ)ｴﾐｺ 飯泉（徳永）恵美子 ＜令和7年4月＞		法学士		Global Studies i Global Studies j		1前 1後	2 2	1 1	有限会社ジェックス 代表取締役社長 （平成10年5月）						
75	その他	講師	ｲｲﾉ ﾄﾓｺ 飯野　智子 ＜令和7年4月＞		修士（社会学）		ジェンダー論入門 女性の歴史 日本のポップカルチャー		1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成13年4月）						
76	その他	講師	ｲｲﾓﾘ ﾓﾄｱｷ 飯盛　元章 ＜令和7年9月＞		博士（哲学）		現代の思想		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						
77	その他	講師	ｲｹﾀﾞ ﾉﾘﾏｻ 池田　徳正 ＜令和7年9月＞		修士（学術情報学）		情報リテラシー応用ｃ		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成25年9月）						
78	その他	講師	ｲｼｶﾜ ﾊﾙﾕｷ 石川　遥至 ＜令和9年9月＞		博士（文学）		教育相談		3後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
79	その他	講師	ｲｽﾃｯｷ ｼﾞﾊﾝｷﾞﾙ Istek Cihangir ＜令和7年4月＞		博士（工学）		社会とデザイン		1前・後	4	2	大阪大学 客員教授 （令和4年4月）						
80	その他	講師	ｲｽﾞﾐ ﾄｼﾛｳ 泉　敏郎 ＜令和7年4月＞		修士（体育科学）		基礎スポーツ実習ａ		1前・後	2	2	帝京平成大学 人文社会学部 准教授 （平成29年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
81	その他	講師	ｲｿｻﾞｷ ｱｹﾐ 磯崎　明美 〈令和8年4月〉		家政学修士		ファッションデザイン演習1 被服実習b		3前 2前	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （令和4年4月）						
82	その他	講師	ｲﾁｶﾜ(ﾊﾅﾀﾞ)ｶｵﾙ 市川（花田）薫 ＜令和7年4月＞		博士 （農学）		生活環境の科学		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						
83	その他	講師	ｲﾁｹﾞ ﾖｳｺ 市毛　洋子 ＜令和7年4月＞		Master's degree in TESOL(米国)		Integrated English b Active Reading Active Listening CEFR B1		1前・後 1前・後 1前 1前・後	1 3 2 4	1 3 2 4	実践女子大学 非常勤講師 （平成18年9月）						
84	その他	講師	ｲﾄｳ ｱﾔｶ 伊藤　綾香 ＜令和7年4月＞		博士 （政策・メディア）		情報リテラシー応用a		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成30年9月）						
85	その他	講師	ｲﾉｾ ﾀｹﾉﾘ 猪瀬　武則 ＜令和7年4月＞		博士 （教育学）		日本の経済		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成29年4月）						
86	その他	講師	ｲﾏｲ ﾔｽﾊﾙ 今井　康晴 ＜令和7年4月＞		修士※ （教育学）		教育学		1前	2	1	東京未来大学 こども心理学部 准教授 （平成27年4月）						
87	その他	講師	ｲﾜｶﾞﾐ ﾐｷ 石上　美紀 ＜令和7年4月＞		家政学修士		ファッションの世界 ファッション文化論		1前 3前	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
88	その他	講師	ｳｴﾆｼ ﾄﾓｺ 上西　朋子 ＜令和7年4月＞		修士 （生活科学）		情報スキル基礎		1前・後	3	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成27年4月）						
89	その他	講師	ｳｼﾞｲｴ ﾖｼﾐ 氏家　祥美 〈令和9年9月〉		修士 （社会科学）		ライフデザイン		3後	2	1	一般社団法人キャリア35 理事 （平成30年4月）						
90	その他	講師	ｳｼﾞｶﾜ ﾏｻﾉﾘ 氏川　雅典 ＜令和7年4月＞		修士※ （社会学）		社会学入門		1前	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （平成28年9月）						
81	その他	講師	ｴｼﾞﾘ ﾔｽｼ 江尻　靖 〈令和8年9月〉		学士 （文学）		立体裁断 アパレルＣＡＤ a アパレルＣＡＤ b		2後 2後 3前	2 2 2	1 1 1	株式会社スペッチオ （平成18年8月）						
92	その他	講師	ｴﾁｺﾞ ｹｲｺ 越後　敬子 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		日本の古典文学		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成16年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
93	その他	講師	ｴﾄｳ ｻｴ 江藤　双恵 ＜令和7年4月＞		修士※ （国際学）		国際社会とジェンダー 地域研究ａ		1前 1後	4 2	2 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
94	その他	講師	ｵｵｸﾗ ｷｮｳｽｹ 大倉　恭輔 ＜令和7年4月＞		文学修士		サブカルチャー論		1前	2	1	実践女子大学短期大学部 准教授 （平成26年4月）						
95	その他	講師	ｵｵｻﾜ ﾀｶﾌﾐ 大澤　隆文 ＜令和7年4月＞		博士 （農学）		地球と環境の科学		1前	2	1	環境省 九州地方環境事務所 野生生物課長 （平成19年4月）						
96	その他	講師	ｵｵﾏﾁ ﾘｮｳ 大厩　諒 ＜令和7年9月＞		博士 （哲学）		社会思想入門		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成30年4月）						
97	その他	講師	ｵｶﾀﾞ ﾋﾄｼ 岡田　斉 ＜令和7年4月＞		文学修士※		心理学入門		1前・後	6	3	文教大学 人間科学部 教授 （平成11年4月）						
98	その他	講師	ｵｶﾍﾞ ﾋﾃﾞｵ 岡部　英男 ＜令和7年4月＞		文学修士※		倫理学入門 生命と環境の倫理		1前 1後	4 4	2 2	東京音楽大学 音楽学部 准教授 （平成3年4月）						
99	その他	講師	ｵｶﾑﾗ ﾀﾏﾎ 岡村　珠穂 ＜令和8年9月＞		建築学修士		建築施工		2後	2	1	昭和建設株式会社 （平成7年4月）						
100	その他	講師	ｵｶﾞﾜ ｹｲｺ 小川　敬子 〈令和8年9月〉		修士 （保健学）		看護学		2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成27年4月）						
101	その他	講師	ｵｶﾞﾜ ﾀｶﾕｷ 小川　貴之 ＜令和9年4月＞		修士 （政策・メディア）		デザイン史		3前	2	1	小川貴之建築研究室・一級建築士事務所 代表 （平成30年4月）						
102	その他	講師	ｵｸﾞﾘ ｺｳﾀ 小栗　宏太 ＜令和7年9月＞		Master of Arts in Political Science（米国）		文化人類学入門		1後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						
103	その他	講師	ｶｻﾊﾗ ｸﾆｺ 笠原　邦子 ＜令和7年4月＞		短期大学卒業		情報スキル基礎		1前	1	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成15年4月）						
104	その他	講師	ｶｽﾞｳｪﾙ ｲｱﾝ ﾏｲｹﾙ Caswell,Ian Michael ＜令和7年4月＞		Master of Arts（英国）		Integrated English b Effective Writing		1前・後 1後	1 1	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成24年4月）						
105	その他	講師	ｶﾆｴ ﾉﾘｺ 蟹江　教子 ＜令和8年9月＞		博士 （社会科学）		女性とキャリア形成		2後	2	1	宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 （平成24年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
106	その他	講師	ｶﾜﾀﾞ ﾐﾎ 河田　美保 ＜令和7年4月＞		修士 （体育学）		健康運動実習ａ 基礎スポーツ実習ｃ ヘルスプロモーション実践実習ａ ヘルスプロモーション実践実習ｂ		1前・後 1前・後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成19年4月）						
107	その他	講師	ｶﾝﾀﾞ ｴﾐｺ 神田　恵美子 ＜令和8年9月＞		博士 （教育学）		教育方法・技術論（ＩＣＴ活用含む）		2後	2	1	立教大学 大学教育開発・支援センター 助教 （令和4年4月）						
108	その他	講師	ｷﾉｼﾀ ｼｮｳｺ 木下　頌子 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		現代の思想		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
109	その他	講師	ｷﾐｽﾞ(ﾖｼｻﾞﾜ)ﾁｻﾄ 木水（吉澤）千里 ＜令和7年4月＞		doctorat （フランス）		映像文化論		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
110	その他	講師	ｸｽﾐ ｷﾖｼ 楠見　清 ＜令和7年9月＞		哲学学士		サブカルチャー論		1後	2	1	東京都立大学 システムデザイン学部 准教授 （平成20年4月）						
111	その他	講師	ｸﾎﾞﾃﾞﾗ ﾉﾘｴ 久保寺　紀江 ＜令和7年4月＞		博士 （美術史学）		美術の世界		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成23年4月）						
112	その他	講師	ｸﾏｶﾞｲ ｼｹﾞｿﾞｳ 熊谷　滋三 ＜令和7年4月＞		文学修士※		東洋史		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成8年4月）						
113	その他	講師	ｸﾏﾀ ﾕｳﾏ 熊田　勇真 〈令和7年4月〉		学士 （芸術）		情報リテラシー応用ｂ		1前・後	8	4	株式会社 メルカリ （平成29年11月）						
114	その他	講師	ｸﾘﾀ ﾄﾓｺ 栗田　智子 ＜令和8年9月＞		M.A. in TESOL（米国）		実践プロジェクトｃ		2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和6年4月）						
115	その他	講師	ｸﾘﾊﾗ ｻｶﾐ 栗原　栄美 ＜令和9年9月＞		学士 （文芸学）		ビジネスのスキルとマナー		3後	4	2	CARREL社会保険労務士事務所 代表 （平成22年3月）						
116	その他	講師	ｺｳ ｳﾝｽｸ 高　恩淑 ＜令和7年4月＞		博士 （言語文化）		コリア語１ａ コリア語１ｂ コリア語２ａ コリア語２ｂ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	獨協大学 国際教養学部 特任教授 （令和2年4月）						
117	その他	講師	ｺｳﾂﾞﾏ ｱﾕﾑ 上妻　歩夢 ＜令和7年4月＞		修士 （体育科学）		基礎スポーツ実習ａ		1前・後	2	2	公益財団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 （令和5年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
118	その他	講師	ｺｳﾉ ﾔｽﾅﾘ 河野　康成 ＜令和7年4月＞		社会学修士 ※		情報リテラシー応用ｃ 統計的思考		1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
119	その他	講師	ｺｻﾞｷ ﾐｷ 小﨑　美希 ＜令和9年9月＞		博士 （工学）		住環境・設備学		3後	2	1	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授 （平成27年3月）						
120	その他	講師	ｺｽﾀﾞ ｹﾝ 小須田　健 ＜令和7年4月＞		博士 （哲学）		哲学入門		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成30年4月）						
121	その他	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾏﾁｺ 小林　真知子 ＜令和7年4月＞		学術博士		西洋の文学		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成元年4月）						
122	その他	講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷｺ 小林　幸子 ＜令和7年4月＞		博士 （芸術学）		音楽の世界		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （令和2年4月）						
123	その他	講師	ｺﾒﾀﾞ ﾋﾃﾞﾂｸﾞ 米田　英嗣 ＜令和7年9月＞		博士 （教育学）		心理学入門		1後	2	1	青山学院大学 教育人間科学部 准教授 （平成30年4月）						
124	その他	講師	ｺﾔﾏ ﾄｼｶｽﾞ 小山　利一 〈令和9年9月〉		教育学士		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		3後	2	1	東京都東部学校経営支援センター アドバイザー （令和3年4月）						
125	その他	講師	ｺﾚﾑﾗ ﾅｵﾋｻ 惟村　直公 ＜令和7年9月＞		農学博士		情報スキル基礎		1後	2	2	東京農業大学 教職・学術情報課程 准教授 （平成19年4月）						
126	その他	講師	ｻｲ ｷﾞｮｳｸﾞﾝ 蔡　暁軍 ＜令和7年4月＞		修士※ （文学）		中国語１ａ 中国語１ｂ 中国語２ａ 中国語２ｂ		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 非常勤講師 （平成12年4月）						
127	その他	講師	ｻｲﾄｳ ﾀｶｼ 斎藤　孝 ＜令和7年4月＞		法学修士		日本国憲法 法学入門 日本の政治		1前・後 1後 1前	4 2 4	2 1 2	実践女子大学 非常勤講師 （平成4年4月）						
128	その他	講師	ｻｲﾄｳ ﾋﾛﾌﾐ 齋藤　宏文 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		科学技術と人間		1前・後	4	2	九州工業大学 教養教育院人文社会系 准教授 （令和4年4月）						
129	その他	講師	ｻｲﾄｳ ﾖｼﾕｷ 齋藤　宜之 ＜令和7年9月＞		博士 （哲学）		社会思想入門		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
130	その他	講師	ｻｻｷ ｼﾓﾝ 佐々木　志門 〈令和9年9月〉		修士 （工学）		ユーザーエクスペリエンス		3後	2	1	日本アイ・ビー・エム株式会社 （平成25年10月）						
131	その他	講師	ｻｻﾉ ｴﾂｺ 笹野　悦子 ＜令和7年4月＞		修士※ （社会学）		ジェンダー論入門		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （平成23年4月）						
132	その他	講師	ｻﾄｳ ｴﾐ 佐藤　恵美 ＜令和7年4月＞		博士 （心理学）		心の健康		1前・後	4	2	東京富士大学 経営学部 准教授 （平成21年4月）						
133	その他	講師	ｼﾉﾀﾞ ﾏﾘｺ 篠田　真理子 ＜令和7年4月＞		修士 （学術）		バイオの世界		1前・後	4	2	恵泉女学園大学 人間社会学部 准教授 （平成17年4月）						
134	その他	講師	ｼﾊﾞﾀ ｴｲｷ 柴田　英喜 〈令和8年9月〉		工学士		デザイン思考		2後	2	1	日本アイ・ビー・エム株式会社 （平成4年4月）						
135	その他	講師	ｼﾐｽﾞ ﾔﾖｲ 清水　弥生 ＜令和7年4月＞		修士 （法律学）		日常生活と法		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （平成25年4月）						
136	その他	講師	ｼﾗｶﾜ(ﾀﾆﾑﾗ)ﾘｴ 白川（谷村）理恵 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		Global Studies h フランス語１ａ フランス語１ｂ		1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （令和4年9月）						
137	その他	講師	ｼﾗﾍﾞ ﾌﾞﾝﾒｲ 調　文明 ＜令和7年4月＞		修士※ （文学）		映像文化論		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和2年4月）						
138	その他	講師	ｼﾞﾝﾉ ｲｸﾔ 神野　郁也 ＜令和8年9月＞		芸術学修士		生活空間設計製図２ 建築ＣＡＤ	○	3前 2後	2 4	1 2	神野郁也アーキテクツ一般建築士事務所 代表 （平成10年10月）						
139	その他	講師	ｽｶﾞﾇﾏ ﾀｶｼ 菅沼　崇 ＜令和7年4月＞		修士※ （教育学）		心理学入門 人間関係の心理学		1前 1前・後	2 8	1 4	相模女子大学 人間社会学部 教授 （平成16年4月）						
140	その他	講師	ｽｶﾞﾊﾗ ｱﾂｼ 菅原　淳史 ＜令和7年4月＞		修士 （人間科学）		情報スキル基礎 情報リテラシー応用ｂ 情報リテラシー応用ｃ		1前・後 1前・後 1後	2 4 2	2 2 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成21年4月）						
141	その他	講師	ｽｷﾞﾔﾏ ﾊﾙ 杉山　春 ＜令和7年4月＞		文学士		実践教養講座ｆ		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和2年4月）						
142	その他	講師	ｽｽﾞｶﾜ ｷﾖﾐ 鈴川　清美 ＜令和7年4月＞		修士 （体育）		身体運動の科学ａ 身体運動の科学ｂ 健康運動実習ａ 健康運動実習ｂ		1前 1後 1後 1前	2 2 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成30年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
143	その他	講師	ｽｽﾞｷ ｱﾂﾋﾛ 鈴木　淳弘 ＜令和7年4月＞		修士 （国際学）		情報スキル基礎		1前	1	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成20年4月）						
144	その他	講師	ｽｽﾞｷ ﾀｶｼ 鈴木　卓 ＜令和7年4月＞		博士 （応用言語学）		Effective Writing Effective Speaking Active Listening Global Studies c		1前 1前・後 1後 1前	1 2 1 2	1 2 1 1	清泉女子大学 文学部 教授 （平成21年4月）						
145	その他	講師	ｽﾔﾏ ﾄﾓﾋﾛ 須山　智裕 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		文学とジェンダー		1前	2	1	慶応義塾大学大学院 文学研究科 助教 （令和4年4月）						
146	その他	講師	ﾀｶﾉ ｸﾐｺ 高野　公三子 〈令和9年9月〉		修士 （社会デザイン学）		ファッション企画論※		3後	1	1	株式会社パルコ （平成4年4月）						
147	その他	講師	ﾀｶﾊｼ ｻﾁｺ 高橋　佐智子 ＜令和8年4月＞		修士 （生活科学）		伝統衣服実習 被服実習a		3前 2前	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （令和5年4月）						
148	その他	講師	ﾀｶﾏｻ ｱﾔｺ 賞雅　技子 ＜令和9年4月＞		文学士		道徳教育指導論		3前	2	1	東京家政大学附属女子中学校 校長 （令和3年4月）						
149	その他	講師	ﾀｶﾔ ﾅｵｷ 高谷　直樹 ＜令和7年4月＞		学士 （工学）		情報スキル基礎		1前	2	2	アマゾン・ウェブ・サービス合同会社 事業開発マネージャー （令和4年3月）						
150	その他	講師	ﾀｹﾊﾞﾔｼ ｶｽﾞﾋｺ 竹林　和彦 ＜令和7年4月＞		修士※ （教育学）		地理学		1前・後	4	2	学校法人 早稲田実業高等学校 教諭 （平成27年4月）						
151	その他	講師	ﾀﾅｶ(ﾌｼﾞﾜﾗ)ｱﾐ 田中（藤原）亜美 ＜令和7年4月＞		修士 （文学）		ドイツ語１ａ ドイツ語１ｂ ドイツ語２ａ ドイツ語２ｂ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成23年4月）						
152	その他	講師	ﾁｱ ｽｳ ｱｲ 謝　淑愛 ＜令和7年4月＞		Mastor of Education(Bisiness Management) （マレーシア）		Global Studies e Global Studies f		1前 1前・後	2 4	1 2	城西短期大学 ビジネス総合学科 助教 （平成28年4月）						
153	その他	講師	ﾁｮｳ ﾒｲﾖｳ 張　名揚 ＜令和7年9月＞		博士 （文学）		東洋思想入門		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
154	その他	講師	ﾂｼﾞﾓﾄ ｲｻ 辻本　衣佐 ＜令和7年9月＞		修士※ （法学）		法学入門		1後	2	1	明治大学 兼任講師 （平成12年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
155	その他	講師	ﾂﾁﾔ ﾖｳｽｹ 土屋　陽介 ＜令和7年4月＞		博士（工学）		情報リテラシー基礎 情報リテラシー応用ｂ 情報リテラシー応用ｃ		1前 1後 1後	1 4 2	1 2 1	東京通信大学 情報マネジメント学部 准教授 （平成30年4月）						
156	その他	講師	ﾃﾗﾓﾄ ﾐﾅｺ ﾃﾗﾓﾄ(ﾔﾏﾉｳﾁ) ﾐﾅｺ 寺本（山内）美奈子 ＜令和7年4月＞		修士（造形）		生活とデザイン		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成22年4月）						
157	その他	講師	ﾄｸﾁ ﾏｻﾖ 徳地　昌代 ＜令和7年4月＞		学士（体育学）		基礎スポーツ実習ｄ		1前・後	4	4	東京都立南多摩中等教育学校 指導教諭 （平成27年4月）						
158	その他	講師	ﾄﾖｼﾏ ﾖｳｺ 豊島　陽子 ＜令和7年4月＞		理学博士		生命の科学		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
159	その他	講師	ﾅｶﾞｲ ﾄﾓｺ 永井　とも子 ＜令和8年4月＞		短期大学卒業		実践教養講座ａ		2前・後	8	4	NPO法人ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ儀礼文化教育研究所 理事長 （平成17年1月）						
160	その他	講師	ﾅｶｶﾞﾜ ﾘｴｺ 中川　理恵子 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		児童文学入門		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成27年4月）						
161	その他	講師	ﾅｶﾆｼ ﾀﾀﾞｼ 仲西　正 ＜令和9年9月＞		工学博士		生活材料学		3後	2	1	お茶の水女子大学 生活科学部人間・環境科学科 教授 （昭和63年4月）						
162	その他	講師	ﾅｶﾉ ﾊﾙｶ 中野　遙 ＜令和7年9月＞		博士（文学）		言語学入門		1後	2	1	上智大学 基盤教育センター 特任助教 （令和3年4月）						
163	その他	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾀｲﾁ 中村　太一 ＜令和7年4月＞		PhD Linguistics（英国）		Effective Writing		1前・後	2	2	専修大学 経営学部 教授 （平成15年4月）						
164	その他	講師	ﾅﾝﾌﾞ(ｱｶｲｼ)ｶｽﾞｶ 南部（赤石）和香 ＜令和7年9月＞		博士（商学）		国際経済の基礎		1後	2	1	青山学院大学 社会情報学部 准教授 （平成30年4月）						
165	その他	講師	ﾆｼﾉ ﾀｹｼ 西野　毅史 〈令和8年9月〉		修士（社会福祉学）		ビジュアルデザインｂ 情報デザイン演習		3前 2後	2 2	1 1	桜美林大学 芸術文化学群 特任講師 （令和5年4月）						
166	その他	講師	ﾆｼﾜｷ ﾄﾓｺ 西脇　智子 ＜令和7年4月＞		社会福祉学修士		オープン講座ｂ オープン講座ｃ クォーターオープン講座ａ クォーターオープン講座ｂ		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	4 4 2 2	2 2 2 2	実践女子大学短期大学部 准教授 （平成12年4年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
167	その他	講師	ﾇﾀﾊﾗ ｻﾄｼ 奴田原　論 ＜令和7年4月＞		修士※ （文学）		日本の近現代文学		1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成28年4月）						
168	その他	講師	ﾊｼﾓﾄ ﾉﾘﾕｷ 橋本　憲幸 ＜令和7年9月＞		博士 （教育学）		教育原理 教育課程論		1後 2前	2 1	1 1	山梨県立大学 国際政策学部 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科 准教授 （平成27年4月）						
169	その他	講師	ﾊﾀﾉ ﾄｼﾔ 畑農　鋭矢 ＜令和7年4月＞		博士 （経済学）		日本の経済 数学的思考※		1前 1後	2 0.6	1 1	明治大学 商学部 教授 （平成18年4月）						
170	その他	講師	ﾊﾏﾓﾘ ｱﾝﾅ 浜守　杏奈 ＜令和9年9月＞		博士 （生活科学）		調理学及び実習		3後	2	1	新渡戸文化短期大学 生活学科 講師 （平成31年4月）						
171	その他	講師	ﾊﾔｼ ﾀﾀﾞﾏｻ 林　忠正 〈令和8年4月〉		修士 （法学）		実践企業分析論 実践企業分析論演習		2前 2前	2 2	1 1	サイボウズ株式会社 取締役執行役員 （平成25年10月）						
172	その他	講師	ﾊﾔｼ ﾋﾃﾞｷ 林　秀紀 〈令和7年9月〉		博士 （学術）		材料加工演習 プロダクトＣＡＤ		1後 3前	2 2	1 1	桜美林大学 芸術文化学群 准教授 （令和2年4月）						
173	その他	講師	ﾊﾔﾀ(ｶﾜｶﾀ)ﾄﾓﾖ 早田（河方）朋代 ＜令和7年4月＞		修士 （スポーツ科学）		健康運動実習ｂ 基礎スポーツ実習ａ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	世田谷キッズチアリーディングクラブ 代表 （平成24年6月）						
174	その他	講師	ﾋﾗﾂｶ ﾘｴ 平塚　理恵 ＜令和7年9月＞		博士 （理学）		生命の科学		1後	2	1	東京慈恵会医科大学 医学部 准教授 （平成13年4月）						
175	その他	講師	ﾋﾗﾏﾂ ｹｲｲﾁﾛｳ 平松　恵一郎 ＜令和7年4月＞		修士 （経営管理学）		メディア論		1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成27年4月）						
176	その他	講師	ﾌｸﾀﾞ ｻﾁｵ 福田　幸夫 ＜令和7年4月＞		文学修士		社会保障論		1前	4	2	静岡福祉大学 社会福祉学部 教授 （平成31年4月）						
177	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ｱｷﾋﾛ 藤井　章博 ＜令和7年4月＞		博士 （情報工学）		情報リテラシー応用ｄ		1前・後	4	2	法政大学 理工学部 教授 （平成20年4月）						
178	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾀｶﾑﾈ 藤井　孝宗 ＜令和7年9月＞		修士※ （経済学）		国際経済の基礎		1後	2	1	高崎経済大学 経済学部 教授 （平成21年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
179	その他	講師	ﾌｼﾞｲ ﾖｳｺ 藤井　陽子 ＜令和7年4月＞		博士（文学）		フランス語１ａ フランス語１ｂ フランス語２ａ フランス語２ｂ		1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 非常勤講師 （平成23年4月）						
180	その他	講師	ﾌｼﾞﾑﾗ ｱｷｺ 藤村　明子 ＜令和8年9月＞		家政学修士		被服実習c		2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成15年4月）						
181	その他	講師	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏｻﾐﾁ 藤原　正道 ＜令和7年4月＞		教育学修士		言語学入門		1前	2	1	実践女子大学短期大学部 教授 （平成7年4月）						
182	その他	講師	ﾌﾙｶﾜ ﾘｮｳﾀ 古川　諒太 ＜令和7年4月＞		修士（文学）		日本の伝統文化		1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和4年4月）						
183	その他	講師	ﾎﾘ ﾄﾓﾋﾛ 堀　智博 ＜令和7年4月＞		博士（史学）		日本史		1前	4	2	東京都立大学 大学教育センター 特任助教 （令和2年10月）						
184	その他	講師	ﾏｽﾀﾞ ﾀｶﾕｷ 増田　貴之 ＜令和7年4月＞		修士（学術）		防災の科学		1前・後	4	2	東京学参株式会社 （平成25年1月）						
185	その他	講師	ﾏﾁﾀﾞ ﾀﾞｲｽｹ 町田　大輔 ＜令和7年9月＞		博士（保健学）		農業と食料		1後	4	2	群馬大学 共同教育学部家政教育講座 准教授 （令和3年10月）						
186	その他	講師	ﾏﾂｼﾀ ｹｲﾀ 松下　慶太 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		実践プロジェクトｂ		2前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和2年4月）						
187	その他	講師	ﾏﾂﾅﾐ ﾄﾓｺ 松並　知子 ＜令和7年4月＞		博士（言語文化学）		ジェンダーと心理		1前・後	4	2	武庫川女子大学 兼任講師 （平成24年4月）						
188	その他	講師	ﾏﾙｶﾜ ﾚｲｺ 丸川　玲子 ＜令和9年4月＞		建築学修士		材料力学		3前	2	1	株式会社 入江三宅設計事務所 常務取締役 （昭和57年4月）						
189	その他	講師	ﾏﾙﾀ ﾅｵﾐ 丸田　直美 ＜令和10年4月＞		博士（被服環境学）		被服衛生学		4前	2	1	共立女子大学 家政学部 教授 （平成23年4月）						
190	その他	講師	ﾐｵ ﾏｺﾄ 三尾　真琴 ＜令和7年9月＞		国際関係学修士※		教育原理		1後	2	1	帝京科学大学 総合教育センター 教授 （平成21年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
191	その他	講師	ﾐﾂﾀｹ ﾄﾓｺ 光武　智子 ＜令和7年4月＞		学士 （芸術学）		情報リテラシー応用ａ		1前・後	14	7	実践女子大学 非常勤講師 （平成28年4月）						
192	その他	講師	ﾐﾅﾐ ﾋﾃﾞｷ 南　英樹 ＜令和7年4月＞		体育学修士 ※		スポーツ文化論 健康運動実習ａ		1前・後 1前	4 1	2 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成18年4月）						
193	その他	講師	ﾐﾈｻｷ ﾋﾛｺ 嶺崎　寛子 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		地域研究ａ		1前	2	1	成蹊大学 文学部国際文化学科 准教授 （令和2年4月）						
194	その他	講師	ﾐﾔｶﾐ(ﾜｼｽﾞ)ｸﾆｺ 宮上（鷲頭）久仁子 ＜令和7年4月＞		Master of Arts in D. H. Lawrence and the Modern Age （英国）		Integrated English ｂ		1前・後	1	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成11年4月）						
195	その他	講師	ﾐﾔﾀｹ ｹｲｺ 宮武　恵子 〈令和9年9月〉		博士 （芸術学）		ファッション企画論※		3後	1	1	共立女子大学 家政学部 教授 （平成23年4月）						
196	その他	講師	ﾐﾔﾋﾗ ｹﾝｽｹ 宮平　健介 ＜令和7年4月＞		修士 （体育科学）		基礎スポーツ実習ａ 基礎スポーツ実習ｂ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	実践女子大学 非常勤講師 （令和4年4月）						
197	その他	講師	ﾑﾗｷ ｱｷﾗ 村木　晃 ＜令和9年4月＞		修士 （教育学）		生徒・進路指導論		3前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （平成31年4月）						
198	その他	講師	ﾓﾐﾔﾏ ﾒﾘﾀﾞ 籾山　メリダ ＜令和7年4月＞		Licenciado en Education Especialidad:Ciencias（ペルー）		スペイン語１ａ スペイン語１ｂ スペイン語２ａ スペイン語２ｂ		1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （令和6年4月）						
199	その他	講師	ﾓﾘ ﾀｶｵ 森　孝夫 ＜令和7年9月＞		文学修士		教職入門		1後	2	1	神奈川県立高浜高等学校 再任用教諭 （令和4年4月）						
200	その他	講師	ﾓﾘ ﾋﾛﾊﾙ 森　弘治 〈令和7年9月〉		Master of Fine Arts （米国） M.S.Vis.S. （米国）		情報リテラシー応用ｂ		1後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和6年9月）						
201	その他	講師	ﾓﾘ ﾋﾛﾕｷ 森　弘之 ＜令和7年4月＞		理学博士		宇宙の科学		1前	2	1	東京都立大学 理学部 教授 （平成21年4月）						
202	その他	講師	ﾓﾘﾔﾏ(ｱﾝﾄﾞｳ)ｱﾕﾐ 森山（安藤）あゆみ ＜令和7年9月＞		修士※ （政治学）		国際政治の基礎		1後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 （令和4年4月）						
203	その他	講師	ﾔｷﾞ ｶｽﾞﾕｷ 八木　一行 ＜令和7年9月＞		博士 （農学）		地球と環境の科学		1後	2	1	公益財団法人地球環境戦略研究機関 プログラムマネージャー （令和2年4月）						

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　員　の　氏　名　等

（環境デザイン学部環境デザイン学科）

調書番号	教員区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
204	その他	講師	ﾔｷﾞ ﾋﾛｵ 八木　浩雄 ＜令和7年4月＞		修士※ （人文学）		情報スキル基礎 教育学		1前 1前	4 2	4 1	武蔵野短期大学 幼児教育学科 准教授 （平成23年4月）						
205	その他	講師	ﾔﾏｵｶ ﾋﾄｼ 山岡　均 ＜令和7年4月＞		博士 （理学）		宇宙の科学		1前	2	1	国立天文台 天文情報センター 准教授 （平成28年4月）						
206	その他	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ﾃﾙﾔ 山口　照也 ＜令和8年4月＞		工学士		インテリアデザイン論 インテリアデザイン演習 インテリアコーディネート論 インテリアコーディネート演習		2前 2後 3前 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	株式会社アイム級建築士事務所 相談役 （令和元年9月）						
207	その他	講師	ﾔﾏﾔ ﾏﾅ 山谷　真名 ＜令和8年4月＞		修士 （家庭経営学）		女性とキャリア形成		2前	6	3	実践女子大学 非常勤講師 （平成18年4月）						
208	その他	講師	ﾕ ｻﾑｿﾝ 兪　三善 ＜令和7年4月＞		博士 （文学）		コリア語１ａ コリア語１ｂ コリア語２ａ コリア語２ｂ		1前 1後 2前 2後	4 4 2 2	4 4 2 2	実践女子大学 非常勤講師 （令和2年4月）						
209	その他	講師	ﾖｺﾀ ｼﾞｭﾝｺ 横田　順子 ＜令和7年4月＞		修士※ （文学）		児童文学入門 世界のファンタジー		1後 1前	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成12年4月）						
210	その他	講師	ﾖｼﾊﾗ ﾏﾅﾌﾞ 吉原　学 〈令和7年4月〉		M.A.TESOL （米国）		Integrated English b Global Studies h		1前・後 1後	1 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 （令和6年4月）						
211	その他	講師	ﾖﾑﾗ ﾄﾓｷ 余村　朋樹 ＜令和7年9月＞		修士 （人間科学）		人間関係の心理学		1後	2	1	公益財団法人大原記念労働科学研究所 主任研究員兼グループ長 （平成24年4月）						
212	その他	講師	ﾘｭｳ ｿｴｲ 劉　素英 ＜令和7年4月＞		文学修士		中国語１ａ 中国語１ｂ 中国語２ａ 中国語２ｂ		1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 （平成2年4月）						
213	その他	講師	ﾜｶﾔﾏ ﾉﾎﾞﾙ 若山　昇 〈令和7年4月〉		修士※ （学術）		情報スキル基礎 情報リテラシー応用ｅ		1前 1前	2 2	2 1	帝京大学法学部 教授 （平成18年4月）						
214	その他	講師	ﾜﾅﾐ ｻﾄﾐ 和波　里翠 ＜令和7年9月＞		学士 （芸術学）		情報リテラシー応用ｅ		1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 （令和3年4月）						
215	その他	講師	ﾜﾗｼﾅ ﾁｴ 藁科　智恵 ＜令和7年4月＞		博士 （学術）		世界の宗教		1前・後	4	2	日本大学 国際関係学部 助教 （令和2年4月）						

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	人	3 人	1 人	2 人	6 人	
	修　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	修　士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	学　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	1 人	人	3 人	1 人	2 人	7 人	
	修　士	人	人	1 人	1 人	人	人	人	2 人	
	学　士	人	人	人	1 人	人	人	人	1 人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。
5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。